大正八年六月三十日第三種郵便物認可
大正十一年三月十日發行（毎月一回一日發行）

臺灣時報

三月號

EAST ASIATIC ECONOMIC INVESTIGATION BUREAU
APR 10 1922
SOUTH MANCHURIA RAILWAY CO. LIMITED

斯の人今や亡し
時報（臺灣時事）
征番私記の樺山伯
嘉南大圳一班
戰前後の獨逸糖業
支那の木材貿易
林野整理事業
社會事業に就て
臺灣の畜牛保健組合
交趾支那の糖業
マニラ所見
長江感慨ぼつ〳〵

（土木局出陳ポスター）

臺灣時報發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎臺灣時報發行の趣旨

政事、時事、農事、工事、商事、學術技藝、統計等の報道評論特に臺灣に於ける統治狀態及び諸般の情況並に南支南洋に關する事項を周知せしむる爲め臺灣時報を發行す（發行規定第一條）

◎臺灣時報發行所役員

△評議員長　賀來佐賀太郎

△評議員（以下イロハ順）

池田常吉　池田幸甚　石坂莊作　市來半次郎　今井周三郎　新元鹿之助　西川利藤太　醫學博士 堀內次雄　宮島元治　宮地近思　陳鴻鳴　陳中和　李景盛　林熊徵　林獻堂　林烈堂　林鶴壽　李延禧　大竹勝一郎

農學博士 大島金太郎　大越大藏　奥田電榮　大川盛行　大賀基作　渡部英太郎　川崎卓吉　片山秀太郎　川崎軍治　川中子安次郎　簡朗山　簡阿牛　顏雲年　菅野善三郎　吉田平吾　吉岡荒造　楊吉臣　醫學博士 高木友枝

△編纂委員

高田元治郎　高田富藏　工學博士 高橋辰次郎　立川連　田村武七　田村藤四郎　法學博士 谷野格　高山仰　瀧田淳吉　常吉德壽　津田毅一　津久井誠一郎　永田準之輔　中村啓次郎　內藤正太郎　武藤針五郎　野呂寧　草鹿砥祐吉　山移定政　松岡富雄　牧山清砂　藤野幹　稻留喜之助　小松吉久　吳昌才　辜顯榮　古賀三千人　黃欣　吳汝祥　黃春帆　枝德二　江口貞三郎　江崎眞隆　鄭拱辰　石井光次郎　生駒高常　服部武彥　法水了禪

鄭神寶　赤石定藏　赤司初太郎　後宮信太郎　相賀照鄉　阿部湊　麻生誠之　荒卷鐵之助　淺田知定　青池諭　近江時五郎　佐藤勁　坂本素魯哉　佐々木紀綱　齋藤愛二　橋瀨軍之佐　佐藤小次郎　皿谷旗次　蔡蓮舫　木村匡　木村久太郎　許延光　北村吉之助　三村三平　三好德三郎　下瀨謙太郎　徐杰夫　森俊六郎　平山寅次郎　平山午介　末松偕一郎　角源泉　鈴木重臣　諏訪證次郎　農學博士 豐田勝藏　東鄉實　宮田松彥　奥秋雅則

△常務員

和田一次　鎌田正威　橫光吉規　東忠藏　淺野安吉　赤松寅七　水越幸一　三浦碌郎　島田彌市　本山文平

深川繁治　古山榮三郎　田阪千助　堤一馬　岡本佃　中瀨拙夫　中村壽太郎　宇都宗一　前田稔靖　稻與平三郎

編輯係　鷹取田一郎
同　高橋惇
同　拓大雄
同　中野順三郎
同　小森德治
同　秋澤次郎
囑託　池田壯太郎
同　蜂谷彬

囑託　大槻綱彥
同　池田忠吉
同　橫尾善夫
同　眞倉民治
同　志田潔之
同　杉山秀
庶務及會計係　伊藤悟之助

大正十一年三月八日印刷（每月一回）
大正十一年三月十日發行（一日發行）
（定價一冊郵稅共金三十錢）
（廣告料一頁金二十圓）

發行所　臺灣總督府內　臺灣時報發行所
振替貯金口座臺灣第二〇七〇番
電話總督府內第八九番

編輯兼發行人　臺北市龍匣口百四十番戶　中野順三郎

印刷人　臺北市撫臺街二丁目四十番戶　澤田照基

印刷所　臺北撫臺街二丁目百四十六番戶　臺北印刷株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大阪市高麗橋

株式會社 三十四銀行

資本金五千萬圓

各地支店　東京、京橋（東京）、京都、神戸、兵庫、尼崎、尼崎東、西宮、姫路、廣島
德島、阿波池田、奈良、伊丹、傳法、臺南、高雄、（大阪市内）南、
天滿、雜喉場、堀江、日本橋、九條、朝日橋

本行之特色　銀行一般の業務の外擔保附社債信託法に依り信託事業を兼營す
事業資金部を置き工業資金の供給を爲す
外國爲替は香港上海銀行の代理店として最も便宜に取扱を爲す

臺北支店　臺北市城内府前街二丁目
（電話三四、五六、二一九五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報

三月號目次

大正十一年、第三十二號

■口繪▼臺灣總督時代の樺山伯▼樺山總督の烏來社頭目引見記念

■斯の人今や亡し（卷頭辭）……一

■時報▼獻穀田地鎭祭▼臺灣敎育令の公布▼芝山巖祭典▼山縣公遙弔式▼樺山伯遙弔式▼馬來ボルネオ博覽會へ本島出品▼ジョ元帥に記念碑寫眞贈呈▼ポスター展覽會▼高等商業の南支南洋研究會……二―五

■征蕃私記に現はれたる樺山伯の事蹟……木村匡 六

■林野整理事業一班……野呂寧 二三

■社會事業に就て……佐藤正俊 二八

■Nippongo wo hattatu saseru Romaji……Nogakuhakusi Nakazawa-Ryodi 三九

■樺山伯の臺灣視察―牡丹社征討以前の―（朝比奈正二氏談）……四八

■臺灣の畜牛保健組合に就て……鳩野政雄 五三

■嘉南大圳一班……枝德二 六一

■世界の砂糖產額と戰前後の獨逸糖業……田原天南 六五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■支那に於ける木材貿易……永山止米郎　七五
■交趾支那の糖業的價値……眞室幸教　九六
■布哇の教育及人種問題と日本人……智念昌永譯　一一〇
■世界經濟と獨逸の復舊……後藤改平譯　一一五
■非常な雄辯家で研究心の強かった樺山伯（可行子）……一一九
□□□□□□□□□□□□□□
■島情▼金融概況▼臺灣商況……一二〇
■ポスター展覽會を觀る（ケー）……一二八
■マニラ所見―娯樂的監獄と殘忍な闘鶏……田澤震五　一二九
■長江感慨ぼつり／＼……ＧＳ生　一三三
■南支南洋其他海外重要記事……官房調査課　一三九
■詞苑……一四八
■雑報……一五〇
□□□□□□□□□□□□□□
■臺灣日誌▼人事消息▼任命▼寄贈書目……一五二
■漢文▼林野整理事業一班（地理課長野呂寧）……一五五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

問屋業
販賣業
代理業

三井物産株式會社臺灣支店

電話 長 四〇三番
　　　　二〇四番
　　　　五七五番
　　　　六〇〇番

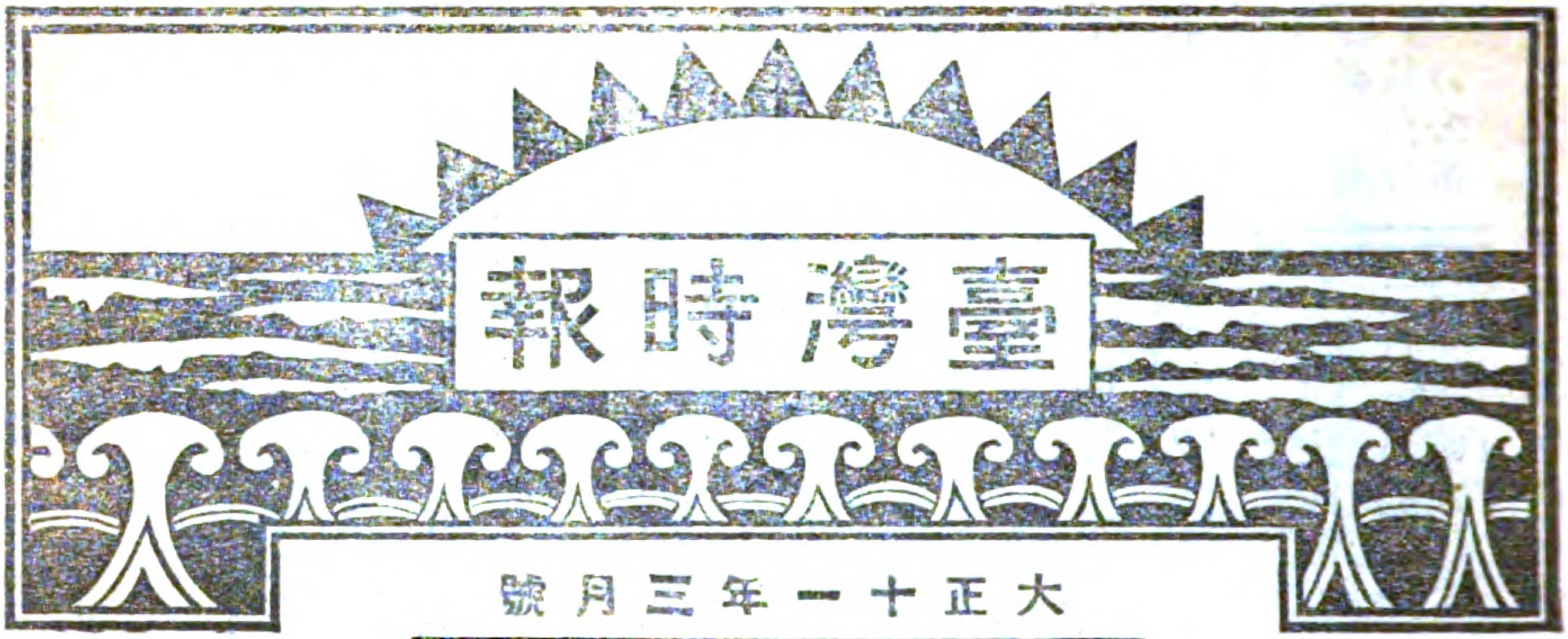
臺灣總督時代の樺山伯

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

樺山總督の烏來社蕃人引見紀念（前列中央椅子に倚れるは樺山大將、向つて其左は水野長官）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



斯の人今や亡し

樺山伯は南洲型の人物にして、居然たる明治大正の一英傑たり。其の文勳武功に就ては擧世之を知る。伯が帝國の初めて炎南の地を領し、其の統治の成敗、尙ほ未だ逆睹すべからざるの時、特に選はられて臺灣總督の印綬を帶びしもの洵に故ありと謂ふべし。

伯の臺灣に總督たりしは、僅かに一箇年に過ぎず。然れども、伯や初代の總督として草創の績を擧げられし外、尙ほ改隷以前に南荒を踏査せられ、加ふるに歷代の總督は、今日多く皆な黃土に歸したるに拘はらず、伯は頽齡八十歲を超えて氣力益々健に、臺灣の援助者、南方の研究家として獨り存せられし等の深緣あり。是れ本島官民が二十餘年來、伯に對し追憶思慕を禁じ得ざりし所以にして、又た仰いで以て臺灣に對する先覺者となし、其の唯一の理解者と爲せし所以なり。然るに斯の人今や亡し。吾人は伯の爲に、本島の爲に洵に痛惜哀悼を禁ずるを得ず。

今や世界大戰の影響は東西を風靡し、思想界の潮流頗る險惡を極め、南賓桃源の地、亦た晏如たるを許さゞらんとす。此時此際、伯の如き有力なる臺灣諒解者を失ひたるは、其の國家の大損失たるは勿論、本島としての損害、亦た決して尠しと謂ふべからざる也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時報

献穀田地鎮祭

新甞祭献穀の事は本島に於ては未だ其例なかりしが今年以後本島よりも献穀することに決定せられ其の最初の光榮ある献穀田として臺北州下七星郡士林庄字員山仔脚の水田約一分を選まれ一月三十日高田臺北州知事を初め田阪内務部長、丸井總督府社寺課長、館七星郡守其他關係州郡職員、士林庄有志及公學校職員生徒等參列、現場に於て最と嚴肅に地鎮祭を執行したり同所は芝山巖の右側山麓に近き清淨境にして献穀田は竹垣を以て圍まれ其の四隅には「新甞祭献穀田、臺北州」の九字を記されたる木標あり尚ほ三月上旬頃田植祭を、又た收穫時に拔穗祭を孰れも執行せられ、收穫米は一時州農會の倉庫に貯藏したる上献上の手續に及ぶべしと。

臺灣教育令の公布

本誌前號豫報の如く臺灣教育令は愈々二月一日勅令第二十號を以て新たに公布せられたり全文二十七條より成り舊法の内地人臺灣人の教育を全然區別せるに比して本令は内臺人の共學を原則とし尚ほ内地と同一の學制を敷きて學校間の聯絡を圖りたるを改正の要點となす而して其の改正の理由は舊法の實施日尚ほ淺きに拘はらず爾後本島の實情は制度人情の進歩變遷頓に著るしきものあり時勢の進運に鑑みたるに因る其の詳細の論評は本令施行の期日と共に次號に於て之を掲載すべき豫定なり。

芝山巖祭典

本島改隷當初に於ける遭難學務官僚六氏竝に亡教育者百六十九氏の靈を祭り併せて前例に遵ひ既往一年間に於ける殉職教育者二十氏合祀の典を修むる爲め二月一日午前一時より芝山巖に於て臺灣教育會長代理末松内務局長を初め重なる官民竝に遺族等百數十名參會の上壯嚴なる祭式を舉行せり當日齋主の祭詞に次で末松局長の教育會長祭文の代讀あり上記參列者の外に臺北市内外及芝山巖附近各學校職員生徒多數の參拜ありたるが祭祀料及供物の寄贈亦頗る多く式典盛大を極めたり。

山縣公遙弔式

故山縣公の葬儀が國葬により帝都の中樞日北谷公園に執行せられたる二月九日の午前十時より公の遙弔式は臺北書

院街陸軍偕行社に於て在臺北官民により最と壯嚴に執行されたり定刻參列諸氏の著席と共に神式に依る修祓降神供饌等あり次で齋主の祝詞あるや、田總督代理下村文書課長、福田軍司令官、賀來總務長官代理末松局長、佐藤參謀長、外國領事代表米領事ヒチコク氏、文官總代菅野檢察官長、武官總代大川司令官、民間總代高木友枝博士、山口縣人會總代八道經理部長等順次玉串を捧げて拜禮を爲し十一時式を終りたり當日は參拜者頗る多く近時稀に觀るの盛儀にして、田總督、福田軍司令官、外國領事其他より供物花輪等の靈前に供へられたるも見受けたり、尙は同日新竹、臺中、臺南、高雄に於ても各州知事を初め官民發起にて故公の爲め何れも盛んなる遙弔式を擧行したり。

樺山伯遙弔式

臺灣に於ける初代の總督として最も深き緣故を本島に有せられし樞密院顧問官正二位勳一等功二級伯爵樺山資紀氏は一昨年腦溢血に罹り靜養中食道癌の氣味あり今春激烈なる寒氣の爲め流行性感冒を併發し二月八日終に八十六歲を以て薨去せられ同日生前の勳功に依り從一位大勳位宣下の御沙汰を拜したるが此の報臺灣に達するや官民齊しく痛惜の意を表し二月十三日故伯爵の葬儀の青山齋場に執行さるゝの日午後四時より臺北陸軍偕行社に於て壯嚴なる遙弔式を擧行したり當日式場正面の祭壇には故人の寫眞を安置し神式により修祓献饌及祝詞の儀を行ひ次で田總督代理、福田軍司令官、賀來總務長官代理、佐藤參謀長を初め文官總代菅野檢察官長武官總代大川司令官、福興海軍大佐、平定記念會代表木村匡氏、鹿兒島縣人會代表新元鐵道部長の順に依り玉串を捧げて拜禮し同五時式を終りて退散したり當日の參會者三百餘名、皆な是れ官民の重立ちたるものにして頗る盛會を極めたり。

馬來ボルネオ博へ本島出品

英國皇太子殿下本邦御訪問の途次新嘉坡御寄港を機とし海峽殖民地政廳主催にて三月三十一日より四月八日迄同地に於て馬來ボルネオ博覽會を開催せらるゝ筈にして是れ恰も我が對南洋貿易進展上絕好の機會なりとて南洋協會新嘉坡商品陳列館長より臺灣總督府に對し出品の勸誘あり督府當局に於ては刻下沈衰せる本島對南洋貿易の振興及び利源開發上特殊の關係に鑑み右の勸誘を至當なりと認め愈々出品するに決したる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が該出品物は本島に於ける代表的のもの、みを選定し各州に於て取纏めの上殖産局に送付し三月中基隆出帆の便船にて全部發送の豫定にして其の品目は茶、酒、樟腦、石炭、帽子其他全島五州の物産に係り目下殖産局に於て取集め中なるが尚ほ此外會場内に喫茶店を設け低廉なる喫茶料を以て一般の需に應に尚ほ烏龍茶包種茶を五百人分丈け相當有力者間に配布して之を紹介する計劃にして其の經營は商品陳列館之に當ることに内定せりと。

ジョ元帥に記念碑寫眞贈呈

ジョッフル元帥は嚢に東宮殿下の佛國御訪問あらせられたるに對し奉り其の答禮使として來朝今や我國朝野の歡迎を受けられつゝあるが元帥は先年清佛戰爭の際佛軍提督の下に一尉官として臺灣に駐屯せられたれば這回來朝の途次臺灣に立寄りて基隆クールベー濱に佛國戰歿將士の記念碑に詣で親しく舊戰友の靈を祀るべしと傳へられしに日程の繰合せ付かず寄港せられざりしは本島官民の一般に遺憾とする所にして元帥の臺灣海峽通過に際しては田總督より無線電にて敬意を表したるに元帥より答禮に添えて「本官が曾て駐在したる基隆に寄港する能はず同地に閣下を御訪問致す能はざるを遺憾とす」る旨の答電ありたることは本誌前號所報の如くなるが田總督は深く其の意を諒せられ元帥の旅情を慰すると同時に憑弔の資料たらしむる爲め此程臺北州知事の提出に係る敍上「戰歿佛國將士記念碑」の寫眞六葉を元帥に致したりと、之に接したる元帥の感果して如何。

ポスター展覽會

本誌前號所報の如く舊臘總督府に於て平和記念博覽會に於ける東洋協會の東亞事情紹介の計劃を援助する爲め府内各部局並に各官衙に通達し同時に各銀行會社に依賴し尚ほ一般に懸賞募集を爲したるポスター作製の件は其後臺灣宣傳の趣旨に就き一般の諒解を得、期日前後各方面より送附し來るもの意外に多く總計二百六十八枚の内、懸賞募集に係るもの六十三枚、官廳側提出のもの百八十九枚、民間諸會社其他提出のもの十六枚を算したるを以て去月十六日懸賞募集に係る分に就き審査會を開き一等乃至三等、等外佳作等を決定したる上、同十九日總督府二階內廊下に二百五十餘枚を陳列してポスター展覽會を開き一般の縱覽を許可したるに當日雨天なりしに拘はらず觀覽者意外に多く午前午後に亘りて其の數三千餘人に上り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

非常の盛況を呈したり尚ほ觀覽者一人一票を限り各自に佳作と認むるもの十點づゝを投票せしめたるが是亦た中々の好況なりき概して本會はポスター品評以外に臺灣宣傳の鼓吹に就ても亦た幾分裨益する所ありしは疑ひなきものゝ如し尚ほ右ポスターは全部荷造の上二月二十八日の便船にて發送の手順なりと聞けり。

高等商業の南支南洋研究會

總督府高等商業學校在學生並に卒業生の有志者、同校職員及び校外有志者は此程高商を中心とする「南支南洋研究會」を組織せんとして著々設立準備進行中の由なるが其の趣旨は國運膨脹の趨勢に鑑み國力增進の要に促されて海外發展に留意奮勵するに在るや勿論なるが今や南支南洋の經營は實行の時期にして調査の時期に非ることは世人の提唱せる所なるに拘はらず其の準備に發現するもの極めて少なく徒らに其の聲のみ大にして實行の之に伴はざるは畢竟南支南洋の事情の未だ社會に徹底せざるが爲め企業家をして爾く躊躇逡巡せしむる所以にして苟も言語人情を異にし風俗習慣を同じうせざる不知の異域に在りて事業を經營せんとせば先づ其の眞相を究めざるべからず即ち調査研究は實行の基礎なれば其の基礎なくして實行の安全を望むべからず朝には總督府の調査課あり野には既に南洋協會等のあるありて斯界の調査研究に盡瘁せるを見る本會も亦此の實行期に臨んで尚ほ諄々之を社會に紹介し我が經濟的發展の誘導機關となり以て國利民福の增進に貢献せんとすといふに在りて其の事業の重なるものは、研究報告、懸賞論文募集、參考資料の蒐集、雜誌の發行、年鑑の刊行、講演會、旅行、展覽會、參考圖書目錄の編纂、其他南支南洋の經濟研究に關し必要と認むる事項等なりと、切に同會の爲に其の健全なる發達を希望す。

東洋協會支部へ金銀杯褒賜

東洋協會臺灣支部に於ては先年總督府圖書館の開設に際し協會支部の藏書三千九百十二部を寄附したる廉を以て當時賞勳局より銀杯一組を賞賜されたるが其後復た同支部の所藏に係る故伊藤公爵の揮毫に係る大額面一點を總督府博物館へ寄附したる廉を以て今回賞勳局より金杯一個を賞賜されたり右額面は例の「際會風雲」云々の七絶にして故公爵が桂總督時代に本島を巡視せられたる折、淡水館に於ける歡迎宴の席上痛飲淋漓として毫を揮はれたるものにして本島の爲には洵に得難き歷史的記念品なりといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

征蕃私記に現はれたる樺山伯の事蹟

臺灣商工銀行頭取　木村匡

一　水野前長官の自記「征蕃私記」

樺山伯の薨去は國家の爲特に本島の爲め洵に痛惜を禁ずることが出來ぬ。それに就て臺灣時報誌より、總督時代の伯の事蹟に就て執筆を依頼されたが、自分は當時祕書官としては誠に短期であつたので、伯の逸事等に就ては特に記すべきやうな資料を有つて居らぬ。然るに玆に「征蕃私記」なる一部の書物がある。之は水野前長官が明治十二年、東京小石川小日向茗荷谷町の其の住居に於て、水野氏自ら筆を執つて明治七年の征臺前後の事を記述したものである。此の記述を見ると、樺山伯が明治七年以前に於て臺灣を視察された事情を知ることが出來るので、自分は此書物の中から夫れに關係ある事蹟を摘記し、以て當年の伯を偲ぶの資料に供せんとするのである。

此の「征蕃私記」は美濃白紙寫本で、元亨利貞の四冊から成り、本文は水野氏が當時の記録に據りて編次し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又た自身の實歴や、人の談話をも加へたもので、其文章は半ば雅文體で今日から見ると洵に古めかしいものであるが征臺の記述としては最も信ずべきものと思はれる。

二　水野氏の北蕃視察

自分の摘記は先づ水野氏の北蕃視察から始まる。私記は曰く、

却て說く余は明治四年辛未七月清國留學の命を受け各地巡遊の後香港に遊學なしける央、更に清國視察を命ぜられ副島大臣より臺灣の實況探索いたす可き旨達せられければ四月（本文筆者曰、四月は四年の誤寫ならん）の末香港より汽船に搭し淡水港にぞ安著なしぬ該船投錨の後英領事館の一吏璉人ヒテソン氏來りて昨天は貴國の一旅客陸路を臺灣府に赴きたりと告げしかば其姓名を尋ねけるに之なむ別人にあらずして我親友黑岡季備君の蕃情探偵の爲め上海より既に此港を經て島の南部に旅行されしものにてありにければ余は竊に思惟らく南部の視察既に其人あれば其蹟に接して臺灣府へ行きぬるは却て詮なきことなり。さらば此處より北部の蕃情を探り知らばやとて淡水在留印度阿片商カマ、ヒテソン及一支那人と同行を計り五月の某日船を傭して淡水河を遡り艋舺より上陸トクハルに向て發程し村路阡陌の間を經過し枋橋頭に達しぬ（艋舺枋橋頭の南地頗る繁榮の地なり）此より河水を西に涉り河岸に沿ふて南行し又河を涉ること兩度日暮トクハンに達せり（略）

琉球藩民被害事件のありしは四年十一月の事で、生還者の福州から送り還されたのが翌五年六月のことで、夫れから騷ぎ出したのであるから、本文水野氏が副島外務大臣の命を受けたのは、此の事件の未だ世間に公表されざる以前のことゝ思はれる。

三　樺山伯の北蕃視察

それから明治六年十一月に軍艦春日が臺灣近海を測量することになり、當時海軍省通譯たりし水野氏が

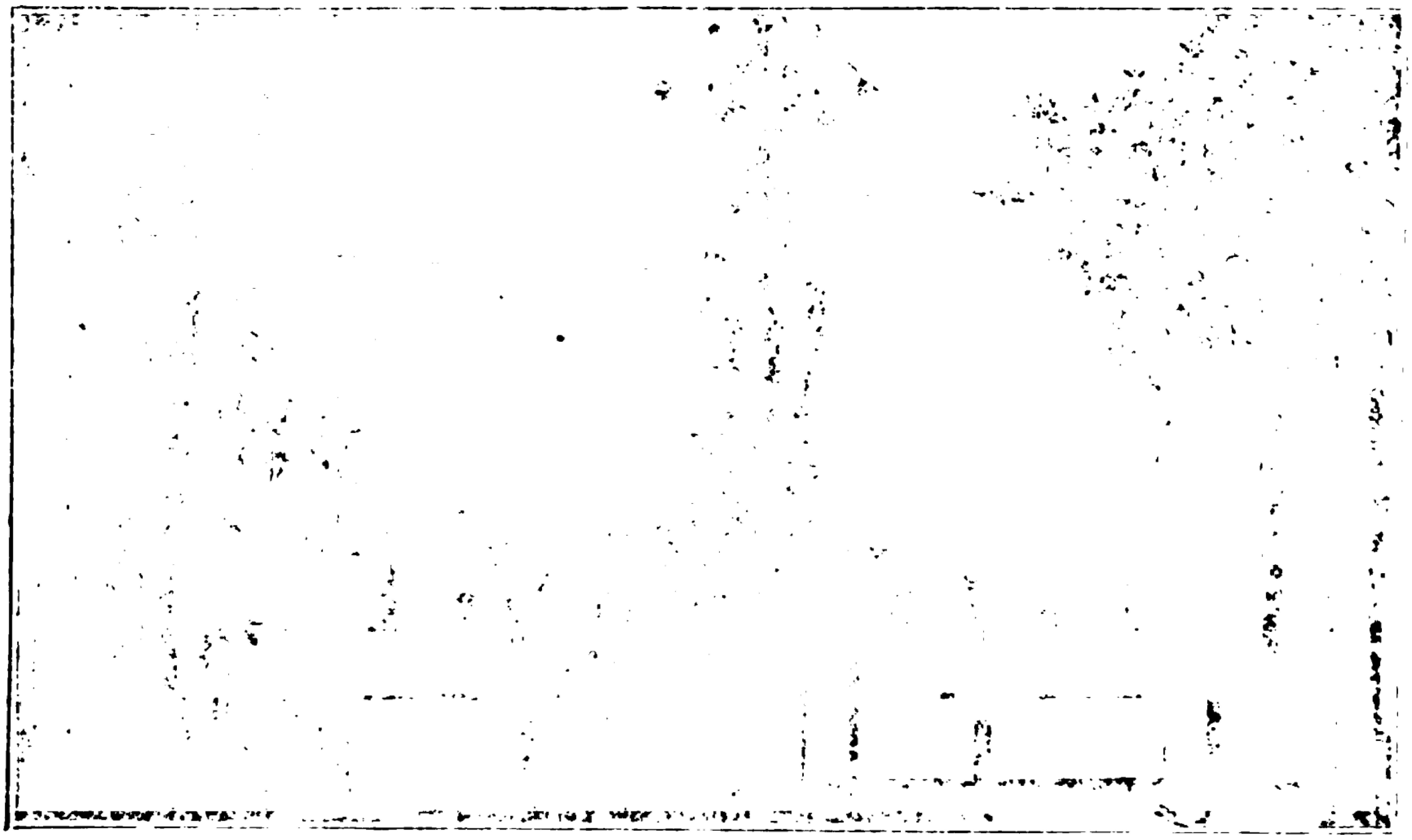
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夫れに乘組んで出發したのであるが、夫れより前、上海から來た樺山伯は同年九月、淡水から小舟に乘つて、沿岸を航して蘇澳の蕃地を視察したやうに記されてある。此事は水野氏が樺山伯の談話を聞いて書いたものと思はれる。征蕃私記の記する處左の如し。

扨副島大臣は其年六月に歸朝ありて程もなく征韓の論議二三大臣と協はざるが爲め冠を朝門に掛られたれば臺灣處分の事も前議と稍變易せしところあれども到底執行せで止む可き事ならざれば同年十一月軍艦春日艦を支那海に遣りて臺灣近海を測量し生蕃の動靜を偵知せしめられたりき當時余は海軍の末班に列したれば春日艦乘組の命を受けて再び東京を發航す此時實に十一月十一日なり是より先き臺灣視察の爲め上海より發行なせし樺山、成富、兒玉諸氏の一行は九月の中旬淡水港より蘇澳に到らむとて風待ちをなし蜚甲南風澳下に繫泊するとき其處の熟蕃十餘人は小舟に打乘り來りて彼等の村落に來遊あれと請ければ頓て村内に入るに其四面叢刺竹を植ゑて籬落となし石を疊みて屏墻となし門戸の鎖鑰甚嚴重なり(畧)視察の一行は其小舟に搭し蘇澳に向つて開行し砂礫の海濱に上陸し路を蘇澳街前より左に取り小砂川を渉る此時遙に生蕃女の來るを見るに頭髪は腦後より額上に圓く纒ひ兩頬に花紋を剳靑し額には八卦畫の如きものを黥せり夫れより山間の大坡村に到る村の四圍は石塊混交の土壁を築き嚴しく生蕃の來襲を警備す此村内の女工は米苞用の蓆を織り麻布を衣衫に製する等なり此時譯官は蕃女に告げて曰く汝四日内に内山に入り酋長を誘ひ來る可しとて繩四條を結び之を與へたれは怪みて其結繩は何の標なるやと問ひにけれは是は四日内の約束なりと所謂結繩の古風猶此地に存するもの歟此より内山に入るに各武器を携へ斥候を出し互に相呼ひて漸次進行す此邊の路傍に破壁あるを見る是前年支那人の居住せしことあれとも生蕃は已の領地を蠶食せらるゝを惡み嫌ひ彼の子女を虐殺なしたれば遂に支那人は其家を棄てゝ逃歸りたりと言へり却説前日生蕃女に約せしところの生蕃二

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十餘人は大坡村に出て來りけれとも彼等は此處に長く滯在するを欲せざるにより譯官は視察の一行を促して山後に到らしむ此に於て熟蕃を傭ひ生豚二頭燒酎布匹等を運搬せしめ熟蕃會長は衆に先たちて荊棘を薙き倒し魚串して登山す實に懸崖絕壁人をして股栗せしむるも生蕃は輕捷猿の如く其行步疾速なるは人をして大に驚嘆せしめたり此山中猪鹿甚多く又大木木藤の蔓生するも棄て顧みす半ば腐朽に属せり漸くにして「トアピー」に到れは生蕃九人出て迎按す視察一行は其遠路の勞を慰め燒酎を與へたりしに衆蕃皆大椀を舉げて滿酌す又手づから酒杯を抱て



樺山伯遙弔式祭壇

會長に勸むれば會長は成富氏の左肩を懷き竝口して之を飲む是一杯酒をも相分て飲むの意にて蕃人懇信を表する禮節なりと聞けり此時蕃童等に雜貨を投與せしに小刀手巾の精粗を論せず自己の意に適せしものは之を取り適せざれば貴品と雖も辭して取らず其寡欲なる事は眞に神仙に似たり生蕃は平日網袋中に鐵鍋鹿皮を貯へ雨天には鹿皮を雨衣となし猪鹿を獵捕すれば到處に之を炙蒸し食用となし連日家に歸ることなしと言へり視察は兼て齎し來るところの燒酎一甕生豚一頭を與へて之を屠殺せしむるに彼等は大に喜び燒酎を滿酌し醉に乘して鼓刀先づ豚喉を刺

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し四肢兩耳一尾を去り火に炙り皮を剝き肉を寸斷して鹽水に浸し之を分食す其殘肉は鹿皮に包み之を貯へて他日の食用となせり此時又山後より生蕃來聚し其數十七人に至れり酋長はハヤウエ其妻をサカエンと呼ひ今日までに支那人十一人を殺害せし勇者なりと蓋し生蕃の慣習たるや人を殺すこと多き者は勇者なり勇者は衆蕃推尊して酋長となすの風あり此日生熟兩蕃は互に飲酒和樂の際何故か遽に口角相爭ひ其末火器刀鎗を手にし和睦の席乍ち鬪戰の場と變せむとせしに日本人は其中間に入り手様にて之を勸解し漸く兩蕃戰器を棄て猶舌戰すること少時にして事終に和し又再び談笑嘻々たるこそ不可思議なりき此夜は生蕃と共に地上に蓆して露臥し翌早生蕃は視察の船に到らむと欲するも支那領地を經過するを畏るれば山後より搭船せむと相約して視察一行は此處を去り歸途蘇澳を過るとき果して支那人數十人鏢刀を提け來りたれば殊更に大呼して生蕃は既に歸山せりと欺きたり彼等大に失望の色あり抑支那人と生蕃と水火相和せず氷炭相容れざる事は概ね斯くの如し歸船後頓て酋長ヤウエ並にサアユム、ソシイ、シイヤ、ピーボー、サニム、ヒシユ、アホクの八人は南風澳山後に來りたれば小舟を遣り彼等を迎ふ生蕃は善く險阻を跋涉すれども未だ曾て乘船せしことなき故か船少しく動搖すれば皆眩暈し第一に嗜める酒すら咽喉を下らざるこそ笑止の至りなれ此近方は人口至て稀疎にして酋長の說に依ればユーガレヒリキ社に人口三百ウーラク社に人口四百ありて其總稱をヲカウ社と呼ひ其他東北一帶の山中に住するものは其人口僅に一千餘なりといふ。

四　英國領事に旅行劵下付斡旋方の依賴

それから征臺事件の風雲が愈々切迫した明治七年の三月（征臺軍の日本出發は七年の四月下旬、西鄕都督の恒春著は同五月二十二日、牡丹社進擊は同六月一日なり）樺山水野の兩氏は牡丹社探知の爲め打狗から該地へ行くことになり、英國領事に依賴して旅行劵を清國官憲から貰つて出かけたことがある。其の記事は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

左掲の通りである。此旅行券は清政府の發給したもので、其中に日本領事に代つて旅行券を附與する旨の記載がある。

却説余は樺山氏と共に南部蕃地に到り牡丹蕃社の景況を探知せばやとて明治七年の三月十五日日本軍艦春日艦の乘組を離れ打狗港に上陸し英國領事館に到り領事グレゴリー氏に面會なして內地旅行の手續を承合せ其旅行免狀を臺灣府廳より交送ありたき旨を述べたりしに該官は快く之を承諾せられければ一通の依賴書を寫して領事衙門へ差出せり其文に曰く。

肅陳拙者儀陸軍少佐樺山資紀と共に日本帝國軍艦春日號に搭し此地に渡航候は臺灣島中遊歷致度目的に候然るに當港には未だ我領事官の派出無之に付貴下の御周旋を以て清國政府より旅行免狀送付相成候樣可然御取計有之度右及御依賴候也。

明治七年三月十五日　　日本海軍省水野遵

英國領事館に於て領事グレゴリー貴下

斯くて英領事は旅行免狀二通に左の回答書を差添へ余の旅寓へ送られたり其譯文に曰く。

本月十五日附來信の旨に應じ臺灣府憲の捺印せる旅行免狀二葉及御送付候右手數料一葉に付銀一元幸便御回致有之度候也。

一千八百七十四年三月十八日　　英國領事館にてグレゴリー

水野　遵貴下

（旅行免狀略す）

五　樺山水野兩氏の南蕃視察

兩氏は右の旅行券を貰つて打狗を立ち、沿岸の地を視察して瑯璚即ち恒春附近に至り、引き返して打狗

に歸著した。此の行は明治七年の三月二十二日に出發して四月八日に歸著したので、丁度二週日を費して居る。其の記事は左の通りである。

又在港（本文筆者曰、港は打狗港なり）英商テイト社員ハルディ氏の紹介により車城の土豪盛明號に面會なして南部旅行の事を商議し且二十二日に至りて漸く案内者並船等の雇入整ひたれば其翌早打狗の港門より船を漕ぎ出しぬ折節逆風にて小舟は大浪に飄蕩されて航客も殆ど眩暈する程になりぬれども幸にして午後は風勢稍穏かになり申の下刻に東港の河口に到著したり。さらば船中の疲勞を慰めむと河岸の村市中をそゞろ歩行して鶏菓子など買求め船に再び歸り來りし頃春月依々と波間に生じ遠近の沙嘴に水禽の相呼ぶあるありて海島の風景寂しくも又面白し頓て晩餐を畢りしかば余等は大工（ダーコン）よ（大工とは船頭の事なり）此地に絃歌を解するものやあると戯にければ彼は唯々應へて船を立去りしが暫くして一少女を背にし琵琶一面を携へ來れり是れ即ち此地の校書にて姓は鄭字は軟南と呼べる婦人にて待りければ大工（ダーコン）の餘りに匆卒がしさに驚きたり。されど斯の如き絶海孤島にも亦此風流的の韻事あるは意外に興ある事に思ひ待れば何か一曲を聽まほしと望みたり其時鄭校書は徐に琵琶を掻き鳴して唱へ出しぬる歌曲の妙にして又何となく哀れに聽へければ物の哀を知らざる水夫すら時ならぬ雨に袂を潤しけるこそ悲しけれ其翌日もまた便風を得ざれども強て船を出して南方に航し枋寮に達して林源勝といへる雜貨商店の一房を借請け投宿しぬ此地駐在の武辨道標千總郭占鰲巡司王懋切來訪せり抑此枋寮の地たるや清國政府管轄地の南端にして此より以南は蕃害を畏れて通行する人なければ道路全く通せず化外蕃民の住地とこそなりにけれ故に千總巡司等を此處に駐在防守せしめり二十六日に至れども風勢未だ靜ならざれば樺山氏と共に郭千總王巡司を訪ひ歸路土廟に賽し土人の演劇を廟前に一見す（支那人の神前に劇を演するは我邦の神樂と同し）觀衆の中に伽羅堂蕃女十數名ありければ余は彼等を招集し蕃歌二節を唱奏せしめ別に臨み燒酎一甕を賞與し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

經歷せしめり其風俗等は北部の蕃女と大同小異なれば茲に煩を省きて筆記を略しぬ二十七日順風を得たれば午後二時瑯嶠灣に到着し枋寮より同行せしところの林得勝の家に一泊し翌早社寮の頭人張光清の家に到る瑯嶠より社寮には其距離僅に三十町餘なれど土人は生蕃の襲來を畏れ鳥銃弓箭を携へたる二人の若者をして余輩を護送せしめたりき二十九日十時頃張光清林得勝を嚮導として頭後を經て日暮多柔房に到る此地は臺島南端の岬角にて海水灣形を作り船舶を停泊すべきの便あるに似たれども如何にせん南風激烈にして海岸に樹木絶えて生育せざる程なれば風帆船の難破は此邊に最も多しと言へり此夜土人呉某の家に泊す主人は四十歲許の貧農にて矮小の茅屋に棲めり赤貧如洗家無擔石とは是等の景況を指稱せしもの歟然れども主人は愛しくも海外の遊客を饗應なさむとて小家猪一頭を屠りて余等の晩餐に供したりき此時傀仔角（コアルア）の大耳生蕃を見る此處より生蕃地に行かまほしけれども頭人等の生蕃を畏れて案内することを喜ばざれば詮方なく蕃地行の念を思ひ止みぬ三十日の朝呉姓の家を出立するに臨み銀圓二枚を與へて昨夕の厚意に酬ひ馬鞍山を越え再び頭後に出て張光旺の家に一泊し三十一日午後八時社寮に歸着し三十一日車城に移寓し林氏の家族に是迄の厚意を謝し酬勞銀を與へなどし再び船に搭じ北走風港に寄泊し林讃の家にて炎熱を忍びて午餐を整へ戸外に出づるに土人の噪ぎ回れる樣大方ならざれば何事やあると路傍の人に尋ねにければ昨夜社不栗社（シャフリー）の生蕃二人を擒にせり今にも彼蕃社より生蕃どもの討出復讐なすやも計られざれば斯く嚴戒候と答へける然らば余輩も其囚蕃を一見なさばやとて案内者を前に立て一個の人家に入り見れば兩囚の中一人は社不栗社（シャフリー）の酋長とて其名をアルジと呼ひ他の一人は二十五六歲の壯者なり風港の土人どもは殘忍非道にも兩足に長七尺の木械を嵌め一房中に蕃囚を嚴鎖せり其囚は余等の到るを見て別に怪しめる色もなく沈靜默坐其死を待てるもの丶如く見え其哀心察せられて甚哀れなりき。されど土人どもは決して之を斬殺せず和議成れば必ず蕃社へ放還するの意なり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と言へり此港より再び船を艤せ北行二里餘又逆風に妨げられ終夜伽羅堂地方に漂泊し三日の日晩枋寮に於て船を棄て早走東港に到り其地の官吏王從義に轎子雇入の周旋を依賴なせしに其寛漫なる事實に驚く可く午前十一時より午後五時までの時間を費して漸く二坐の轎子を雇入たりされど最早暮景に迫りて出立なすべきに便ならざれば其夜は村中の耶蘇敎會の禮拜堂中に一泊しぬ。總て此近方四五里の地は大竹を産する地方なれば家も柱も悉く竹ならざるはなく就中禮拜堂などは頗る清潔にて支那内地に於て絶えて見ざるところなり四日早王從義を訪ひ轎子雇入の厚意を謝し五香州鳥鼠州莖焦脚など言へる村落を打過ぎ正午鳳山縣城に到達し又旗東といへる地より小船を賃して午後三時打狗港の舊寓日耳曼人ハルマン氏の樓房に歸著せり。

六　兩氏の臺南淡水間陸行並に支那兵戰鬪の實況視察

今度は樺山水野兩氏が臺南から淡水へ陸行したことで、其の途中、彰化附近で支那官兵の義民討伐の實況を視察した話がある。其際兩氏が義民廖某の居を訪ふた邊りは宛然水滸傳でも讀むやうで、如何に樺山伯の膽の大なりしかを知るに足りる。それに就て征蕃私記は次の如く語る。

臺灣南部の探偵も粗其の事を了りければ臺灣府に至り英領事グレゴリー氏を訪ひ該官の案内にて府城を遊覽なし三日間府内に逗留の後樺山氏と共に淡水まで陸行をなさむとて二座の轎子を賃して四月十日府城大北門を出て柴頭湊園湊尾を過ぎ嘉義縣城外の一旅房に投宿しぬ。總て此の近方の地は平坦にて米甘蔗芋等を耕作すること殊に夥しく我邦へ年々輸入するところの臺灣砂糖は多く此邊と鳳山縣下の出産なりと言へり。又敀港西湊と言へるは繁華の小海市にして支那内地より航來の船舶輻湊せり。聞く此の兩港の中央に水沙連東螺といへる二の大河流あり。一夜雨すれば山水必ず暴漲すと。余等も一日間川止めの難に出逢たり。臺灣府志に依れば水沙連より時々沙金を産出すと見えたり然れ共實際は其の探査甚だ寡しと聞けり。初め余等の府城(臺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

南じこど）を出る時此の頃彰化縣下に叛民蜂起して支那官兵の出征中なれば淡水までの通路擁塞の憂あらむも計られずとグレゴリー氏は語られしかば余等は竊に思惟らく支那兵鬪戰の手際は一度も目視せしことなければ是こそ願ふても得がたき好機會なり。急ぎ馳せ上り其の戰狀を見んものをと告別もそこ／＼になし發程後第四日の晡時に彰化縣城に到著一旗亭に宿を求めて長途の勞足を憩めける程に既に隣房には兵卒數十人屯宿してあり。扨は叛民征討の兵士ならむ其の戰地の遠近を聽かまほしと旗亭の主人を呼び戰爭のある地方は何方なるやと尋ねけるに此の城より三里東方に當れる廖有富と呼ばる處なりと答へり。頓て鷄聲の曉を告げにければ轎夫を喚起し旗亭を立出て顧一顧するに通衢の人家には五彩の旌旗を樹列し壯丁義勇などいへる文字を標章せる戎服を穿てる豚尾兵の充滿してありければ今天こそは面白き活劇を觀る可しと喜びて田間の小逕を東方に二里様も行進せし頃暗に思惟らく最早砲聲の聞ゆべき筈なるに音沙汰も無きは不審なりと猶東方に進行せしに支那兵の隻影だも見るなければ餘りの奇怪さに路傍の農夫に廖有富とは何れの地方なるやと問ひければ彼は左方を指してあれ見られよ前面一團の竹林こそ貴問の家なりと答へければ轎子を急がせ那處に到りて其の景狀を熟視すれば一箇の石門ありて周圍四町餘もありぬる小城廓の如き擴大の家屋なれば守門者に打ち向ひ廖有富は那邊に在るやと尋ねたれば暫時にして人品骨格卑賤ならざる支那人の內堂より出來りて余等に向ひ揖一揖し貴客の問はるゝ處の廖有富とは地名にあらず即ち拙者の賤名なり。よくこそ枉駕ありたりとて中堂に招し入れ頓て賓主の坐定まりければ余は先づ口を開き本日貴地に來れるは餘の儀にあらず昨夜彰化縣に於て人に傳聞せしには當地方に支那官兵本陣し既に叛民と接杖する趣なれば夫を一見なさばやと遠路を厭はず罷り越したりと語りければ廖某之に答へて曰く其の叛民とは即ち拙者並此の一鄉內の者にて明日は支那兵の攻擊を受くべきなれば村內の者は明日の一戰に雌雄を決す可き心構なり。これ見られよとて隣房に案

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

内しければ其の房中には馬上銃並に製鉛塊等夥しく貯藏しありて武備中々嚴重なり。最此の銃鉛は淡水外商の密賣せしものと察せられたり。暫くして午餐の設け出來ければ中堂にて支那風上等の料理を以て余等を饗しぬ此の時例の鐵面皮にて別に辭退もなさず。其の席に坐を占め酒杯數回の後主人は突然と余等に義兄弟の約を結び賜り度しと希望なしにければ、余は何の爲めに一面識の外人に向ひ結交を乞はるゝやと詰りければ其の御不審は左もありぬ可き事なれ共今貴客に折り入りて願事あり夫は他にあらず。此度支那官兵の來征は其の實拙者の罪戻に非ず。全く清官の不道より此の大事を惹起し其の因由は清官の租稅を苛く收斂なせし云々なれば希くは府憲に其の事情を報道して拙者の寃枉を雪ぎ賜はり度し若し此の願ひ完成せずば拙郷中に貴駕を駐められ閤村の民兵を指揮し無道の官兵を防禦の軍略を授けられたし拙者は今より貴客を仰ぎ統領とも盟主とも尊戴いたす可しと顔色を變じて強請なしたれば余等は扨こそ難事の出來れりと心中暗に鬼胎を懐きしも、さあらぬ體にもてなして余輩は海外萬里の旅客なれば汝と義兄弟となるも甚だ詮なきことなれば其の請求には應じ難しと辭退をなしにければ彼等は直に余等を目して支那政府の間諜なりと疑ひしにや其の接遇頓に不穩の狀を現はしたり。此に於て余等も始めて悔悟の念を生じ平穩にて此の場を逃れ出づべき隙を窺ひ廖某並列坐の者に別を告げ匆々に其の門を出で轎子を急がせて梨府頭と云へる僻村に投宿しぬ。其の夜村中の者共我旅房に集來せしかば余等は廖有富は如何なるものなるやと尋ねしに彼等は直に答へて廖某は義民なり我等も廖某を戴きて頭目となすと言ひたりき。是に由りて之を觀れば廖某は嶋を負ひて支那政府の政令を遵奉せざる土豪とも視做し難し其の後廖仕強なる者瑯璠軍營に密書を帶び來りて我が兵と氣息を相通じ支那兵を表裏より挾擊せむ事を乞へり。其の密書中に廖氏敗滅の顛末を詳記したれば玆に其の全文を掲げて後日參考の便に供しぬ。(略)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯くして其の夜も無事に打ち過ぎぬれば其翌早天に打立轎子を急がせて淡水に向ひ去りぬ。此度雇來りし轎夫どもは一日間に兩回づゝ轎を路傍に棄置き烟館に立入り鴉片烟を吃すること殆んど我が邦雲助の居酒を嗜めると一般なれども其の身體を害すると時間を費すの多きは甚だ恐る可きことなり。又轎夫の吃烟する間は村落中の病者轎子の周圍に麕集し眼病疝氣の嫌ひなく余等に治療を乞ひければ行李中の藥袋より紫金錠沸騰散等を取出し之を與へて其の困難を辛くして免れたり。又攝生法を問はるゝ時には眼病には屢々冷水にて洗へ疝氣には燒酎を一切用ふべからずと世間普通のことを大醫氣取りにて指諭せしも旅中の一奇話なり。抑々土人の余等を認めて醫員となせる所以は時々歐米耶蘇敎會の醫員巡村して施療と傳道を兼帶になすものあれば人種の黄白を辨せず西洋服を穿てる人は悉く醫者なりと見誤りて治療を乞ひしものぞかし。

七　兩氏水陸二方面より牡丹社に向ふ

今度は愈々牡丹社征伐が切迫したので、水野氏は淡水より船にて、樺山氏は陸行にて、兩氏打狗にて落合ひ、それより目的地に向つたといふ話である。本文中「石門戰」云々の士官某の話は征討前の小せり合ひと思はる。又た二十四日とあるは五月のことなるべきは前後の關係によりて知らる。其の記事次の如し。

卻說余は先頃樺山氏と共に臺灣島の南部より陸路を淡水に到達なしてより英國領事衙門内ビテソン氏の房内に寄寓してありけるに此頃湊内何となく物騷しく日本の軍兵は臺灣島の東部を占領せり或は昨天青海原邊に旭旗の軍艦を見掛けたるなど漁夫市人輩いと囂々と罵り合へるを耳底に挾むこと屢々なれど何方も口穢い賤民の常なれば必ず市虎の類ならむと聽流し聊か念頭に掛けざりしが或日の朝房主は余に打ち向ひ近今清國官吏の竊に左港日本人の居動を探偵なす風說あれば些の戒心を加へられたしと忠告なしにければ今日に限りて奇怪の事を聽くものやされば我廟議既に征蕃出軍に決し清國政府へ何等の照會ありしならむと獨り心中に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此先の方向は如何なして可ならむやと默坐沈異の折柄戸外に剝喙の聲聞えて案内乞ふものあり。頓て家僕の書翰一封を齎し來るを見れば在淡水英國領事館日本客水野遵と名記してあり。取り敢へず其の緘を折解し讀一讀すれば是即ち征蕃參軍赤松少將よりの公信にて新水需用のため日進艦は今天鷄籠(基隆)に寄港せり。汝にも疾く戰地瑯璚へ馳せ上る可し云々と嚴に達せられければ其の翌早東明の頃淡水を打立山路十里餘を飛ぶ如く馳せ行き鷄籠港に到れば時既に遲し軍艦は昨夜拔錨して其帆影だも見えざりけり。されば詮方なく再び淡水に歸著せしに折もよし飛脚船海龍號の出帆に間に合ひたれば傭僕黃慶發を具して直樣乘船海路二晝夜にして打狗湊に來り兼て相識なる日耳曼人ハルマン氏の家を訪ひにければ此處には余に先だちて陸路を淡水より馳せ上られし樺山其の他の人々恰も到著せられてありければ互に握手別後の恙なきを悅び其の翌早支那小船を雇入れ食糧等の用意稍整ひしかば順風を待て瑯璚灣に舦航せむものをと其の夜は各團坐して酒など打ち飲み今日に至れども我兵の生蕃と接鋒せし風說なきこそ余輩の僥倖なれ若し接鋒に及びなば此回新渡の諸士に先鞭を一著せらる可きは勿論、加旃數月間西馳東奔櫛風沐雨の勞力も空しく十日の菊六日の菖蒲となりぬべきに嗚呼いまだ開戰なきこそ時にとりての好造化、哀れ軍神も照護あれかしなど、打ち興じ勇み〳〵てありける程に我邦語もて此邊に水路案内者やあると事問ふ人の門外に音信れければ何人の此の夜中に來ませしならむ兎も角も門內に招ぎ入るこそ宜しからむと門扉を啓き、とく視ればこれなむ孟春艦の士官某士にて瑯璚灣より只今航著せり且又昨日は石門に於て生蕃と接鋒我が兵大勝利なり其の要は云々と披露せられしかばそを聽く每に余輩は惟其戰期に後れたりしを悔ひ恨めるのみなりき。此の上は一刻も躊躇なし居る可きにあらざれば二十四日の早朝船を出し午後四時頃社寮灣に到達、頭人張光淸の一房を賃し之を視察一行の假營となし都督本營の命を領して生蕃招降の事を專ら負擔したりき。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

八　牡丹社の大進撃

愈々牡丹社大進撃が決定された、それは明治七年の六月二日である。其の軍勢は、風港から向ふものと、石門から進撃するものと、竹社口から向つたものとの三方面であつた。それで風港口の方は迂廻するので一日早く出發したのであるが、樺山伯や水野氏は此方面に向つたことは次の記事によつて分明する。石門方面は可なりの激戰であつたが風港方面も山の峻嶮なのと炎熱とで隨分苦んだやうである。戰況の記事は省略する。

明治七年五月三十日瑯嶠牙營に於て都督參軍各隊の將校軍議の上彌〻六月二日を以て牡丹社大進撃の日と決定なしたれば先づ風港口より進撃の軍勢には司令官谷少將を始めとして樺山少佐其他士官數十名十九大隊三小隊徵集兵三小隊臼砲一門夫卒百五十人とし石門口進撃の軍勢には佐久間參謀を始めとして徵集兵二小隊十九大隊一小隊海兵五十名四斤半砲一門臼砲一門夫卒六十五人なり。又竹社口進撃の軍勢には司令官赤松少將を始めとして福島參謀近衞士官四名信號士官一組徵集兵一小隊十九大隊一小隊砲一門夫卒八十人三道進撃の惣勢合はせて一千三百餘人とす。十九大隊三小隊カットリング砲一門山砲三門を留めて本營護衞兵と定められたりき。

斯くて諸道の攻口へ打向ふ軍勢の中、風港口進撃の軍勢は衆兵に先だつ一日卽ち六月一日午後一時雨を侵して瑯嶠本營より風港さして出陣せり（略）此日余は池田大尉佐良少尉と共に軍隊に先んして風港に至り土人黄文良、薫任全、葉宇六、廖興順の四名を雇入れて嚮導となし地理等を聽糺ひ其夜は土人の陋屋中にありて瞬時の睡眠をなしたるのみ。（略）

九　會長の饗宴に西鄕都督生蕃踏舞を踊る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯くて牡丹社征伐も日本軍の大勝を以て終り、今迄支那官兵の怯懦を笑ひ居りし生蕃共は全く日本軍人の武威に懾伏するに至つた。そこでテランソの大酋長が一日西鄕都督を懇請したのであるが、其の酒宴で西鄕從道さんが生蕃と一緒に蹈舞を踊つて彼等の大喝采を博したといふ話がある。如何にも小西鄕の面目を睹るやうである。但し之は樺山氏には關係なきも話の詰末として付加する、其の記事は次の通りである。

八月某日周勝東大酋長より西鄕都督に申し出でけるには我が蕃酋長等は辱なくも都督閣下の愛撫を蒙ること實に厚くして我が蕃社も既に大日本皇帝陛下の臣民となれる上は胸間に昔日の如く彼我の別を狹むこと聊なし。仰ぎ冀くは我等の微衷を推察せられ社内へ一度大駕を枉げ玉へかしと只管懇請に及びしかば都督は快く其の請を允し某日を期して龜山の本營を發駕なる可きに決定なしにければ僚屬は其の用意にこそ取り掛りたれ程も無く發駕の當日になりにければ余は通譯兼帶にて隨員の一部に加はり徒步猴洞を經て羊腸たる山間の樵逕を行くこと暫時にして轎夫共は都督の乘轎を頓に舁き止み進み得ざりければ、こは何事の出來せしやと疾く馳せて其の場に到りしに、そは他事にあらず都督の乘轎は路傍の巖角に遮障せられて寸步も步み得ず轎夫共痛く困じてありにければ嚮導の蕃人を叱咤して道左の樹枝を伐拂はせ辛くして轎子を通過せしめたりき。抑此の轎子は尋常支那風竹籠製のものにあらずして車城人の祭式に用ひるところの粗大なる木造の轎子にて其の祭式の當日には觀世音佛の木像を轎内に安置し熟蕃の村々を舁ぎ廻り其の樣恰も我が東京にて神田山王の祭禮に舁き出す神輿と一般のものなり。然るに此回の蕃地行きに都督の乘用に供す可き轎子なければ車城の頭人に申し付け彼の神輿樣の大轎子を調達せしめ早速の用に充て一廉の周旋をなしたる心地にて罷りたるに忽ち這樣の不都合を惹起したりしかば之に關與せし人々は面目を失ひたりき。是より進行里餘にして正午小麻里社イサの家に到達す。偶酋長の長男腫物を患ひ手甲腫脹して其の形瓜の如し。され共蕃地には醫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

者も薬も無ければ愚かにも青草を貼付し置けるのみなり都督隨行の軍醫某之を刺略し去れば膿血夥しく流れ出て宿患頓に癒えたり。其の時四方に環視する蕃人共は世に醫術あるを始めて知り各〻黒き舌を吐きて驚嘆せり(因に同蕃人の舌の黒きは日常檳榔子を吃するの故なり)酉長イサの家居は長さ五間幅二間半の矮屋にて四壁は木板にて圍み出入口は僅かに一人の出入をなし得るに過ぎず。總て生熟兩蕃の住屋は房中暗眼空氣の流通甚だ惡しくして熱帶地方の家居に適當せざるは言を待たず。されど窓戸多く清涼なる家屋を築造せざるの原因玆に二あり。其の一因は蕃人の住家は宛も城廓の如く各人割據の風習なれば夜中に敵兵又は野獸の襲來を防禦する要あると又毎年颶風の候には家屋高大なれば吹き倒さるゝの虞あればなり。其の屋外に方十間計の極めて平坦なる地ありて又其の外邊に丸木にて柵を結び水牛三頭を牧養したれば其の傍に糞穢等堆積して小丘形をなせり。さて此の糞穢の極熱の日光に照射さるゝ時は酸臭を帶びたる一種の惡氣を蒸發すべければ蕃地旅行の節は一陣の酸氣鼻孔を穿ち來れば必ず林外に蕃人の住家あるを知れり。此の時酉長は數塊の乾餅を捧げ來りて都督の一行を饗せり。抑生蕃人の乾餅を多く貯蓄するものは獵獸或は採薪のために山奥深く奔走する時には乾餅をもて食糧となすの慣習なれば平居も乾餅をもて饑に充つること多しと言へり。(略)

都督一行は此の地を東に去り暫くにして一座の山頂に登れば始めて東方に蒼々たる太平洋を眺望するを得たり。又山頂を東に下りて山麓の一溪水を渉り小林を經過すれば稍平坦なる稻田に出て半里餘にして樹木鬱蒼たる山道あり。之を左方に登ること二町餘にして深林中に家屋三軒あり。是れ即ち十八番社の大酉長トーキトクの住家なり。臺灣南部を主宰する大王殿下の宮殿とも言ふ可きものなれ共其の築造の粗笨なるは實に人を驚かせり。此の時酉長叔甥は恭しく都督を門外に迎へ座定まるの後烟草、椰檳等を出したりしも我等一行の内一人として之を吃し得るものなし。程もなく蚊蟀社酉長等十人程來集しければ日暮晩餐の饗膳あり。其

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の景狀は支那製の木卓を戸外に設け豕肉の鹽汁鹿の干肉鳳梨薩摩芋飯などの大井に堆く盛れるを卓上に陳列なし芋醸の燒酎を大きなる飯椀に溢るゝ計りに酌み來り賓客に薦むることいと酷なりき。今日の來賓には隨分屈指の鯨飲家もありしなれど中々生蕃の酒量に敵す可きに非ず。されば今日の大饗應は實に蕃人畢生の力を盡せしものにて其の懇情は甚だ愛す可きも酒を強く薦めらるゝには實以て困却なりと人々の私語せしもおかし。此の饗宴既に酣にして主賓とも玉山將に頽れんとするとき酋長は蕃歌一節を其の調子おかしく唱へ了り都督の安寧を祝賀せり。諸蕃之に相和し又數回を唱ふ。其の聲嘯くが如く訴ふるが如く日本人の耳孔には些の感動をも生せざりき。又其の音調は野にして文ならず。今其の一例を擧ぐれば。

可飲酒　可飲酒　美　人　來　美　人　美　也　須・飲　酒

カンヌバ、　カンヌバ、　ダアーボランライ……　ネギタホラン……　カンヌバ、……

など言へる歌にて滿座の男女相唱和し打喜ぶ有樣は殊に興あることに覺えたり。去る程に諸酋長は都督を始め隨行諸將士に强請し日本の歌を一節唱へ聞かせてとて止まざりければ我が將士は賴子の雲耶山耶の詩より角力甚九などを大聲にて嘯かれたり。此に至りて賓主とも既に十二分の醉興に入り異境遠征中の酒宴とも覺えざるの快樂とこそ思はれにき。此の時恰も好し、月東方の山嶺よりさし昇り樹色蒼然深山幽邃の夜景殊に凄寥として日間炎熱の苦惱を頓に忘るゝ程なれば生蕃共は此の月下に於て踏舞をいたし臺覽に入る可しとて催しけり。都督は酋長の所望に應じ蕃人と打混じ歌聲に隨ひ足竝を揃へ横に飛びたれば人々は拍掌して一時は笑ひ止まざりき。抑生蕃の踏舞たるや甚だ奇なるものにて數十人互に甲人の左手を乙人の左掌にて握り一大圓形を作り歌節につれて一踞一跳足竝を揃へ左方左方へと環行するのみなり。我が邦京都の盆踊りを數珠繋ぎになしたると同じ。蓋し此の夜の宴會に都督の蕃人と共に踏舞せられしは甚だ蕃人の欽服する所とな

りて一層睦親の情をぞ増したりき。

斯くて八月より九、十月にかけて軍隊人夫の中に熱病が流行し、死者亦た頗る多かつたが其の内に北京に於ける談判進捗して、我は償金を徴して撤兵することになり、十一月十三日勅命にて撤兵を命せられ、十二月二日西郷都督は清國官憲に軍營圖其他を引渡して同三日軍艦高砂號で引上げ、征蕃事件は茲に局を結んだのである。

樺山伯は是より前、谷少將と共に戰況具申の爲に内地に歸つたことは西郷都督から大隈蕃地事務局長官に宛てた書中に明記されてあるので、其の月日は不明であるが、撤兵前既に臺灣を去られたのである。之は征蕃私記中には無いが特に爰に附記する。

林野整理事業一班

内務局地理課長　野呂　寧

一　林野整理事業の趣旨

臺灣の土地に關する權利は、土地調査及林野調査の二大事業の完了に依りて確定せられ、其民有地は精細なる調査測量を經て最完全に土地各筆の境界面積を測定して各人の權利を査定し、土地臺帳及地圖に登錄せられ、尙別に登記法に依て法院の臺帳に登記せられて、權利の保證を得る事になつて居るのであるが、官有地に就ては田・畑・建物敷地・養魚地等の外、山林原野は其一部分が登錄せられて居るのみで、大部分の林野は未だ實測を終らないのである。而して此官有地に就ては、土地調査及林野調査の査定の確定に依りて何等疑

なき官有地たる事を決定せられたのであるが、夫等の土地の上には多年の慣行に依り、最寄の人民が平穏に安全に何等の故障なく使用收益し來つた深き緣故を有するものがある。勿論業主權を認むる丈けの證據なき處から官有地と査定せられたのであるが、去りとて全く其緣故を沒却する譯にも行かぬ林野がある。之に對しては、林野調査の際特に保管林として保管を許可し、少許の保管料を徵して其使用收益を認めて來たのである。又無斷開墾は、法の禁ずる處であり、夫ゝ取締を行はれて居るが、林野調査の査定以前より古く永く引續き開墾耕作し又は造林して、紛爭や又何等の故障なく使用收益し來つた緣故地もある。是等緣故關係を其儘にして置く事は、林野行政上種々の支障あるのみでなく、取締上にも種々の面倒を起し、又產業開發上土地の完全なる利用を妨げ、徒らに掠奪的農林業の弊を生じ、土地の改良發達を望む事が出來ないこと、なり、土地愛護の念なく只目前の收得をあせるの結果となる。且又た夫等の土地を利用して官業を起し、又は大規模の事業を經營する場合に於て種々の紛議を起し、少なからぬ支障を來すのは從來屢々經驗する處で、速に實地の整理を遂げ、總ての緣故關係を一掃して官有地の完全を期すると共に、人民をして不確實なる緣故關係より確定せる業主權の取得に移り、其永久の確實なる財產を安定せしめて、其土地の上に充分の保護を與へて利用を完全ならしむる事とするは、土地の生產を增殖し、國土の保存を計る上に於て、最喫緊の事とする。此趣旨に依りて計畫せられたるものが卽ち林野整理事業である。

林野整理の眼目は、官有林野の整理であつて、主として產業の確定振作にある。林野の利用を完全ならしめ其愛護撫育に依て永久に土地の利益を增進するにある。目前の利益に囚はれて土地の壽命を縮めるような亂暴な使用を止め國土の保存を必要とするにある。夫故に現に久しく使用收益して居る林野は、其緣故者に拂下げて之を自己のものとして大切に之を取扱はしめ、一方には夫等人民の財產を安定して生活の基礎を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

固むると共に、國は夫に依て產業の振興を招徠したいのである。勝手に山野を開拓して一時的利益の爲に急傾斜地を畑にして、芭蕉を栽ゑ甘蔗を作るなどの不都合を制して之に造林を奨め、國土の保安を圖り、水害の防止を努め、只其開墾適地に限り田とし又畑として定地耕を勧めるのである。現狀に放棄すれば林野は遂に荒寥たる廢頽せる有様となり、國土を荒廢し、土砂を流亡し、田園を埋め、水害を盛ならしめ、折角巨費を抛ちて造成しつゝある河川整理の事業をも破壞するに至るのを恐れるので、一日も忽にすることの出來ない重要なる事業と認めるのである。

懸賞ポスター第三等（文化の種播き）

二 區分調査

併しながら官有の林野の總てを擧げて之を緣故者に拂下ぐる事は、尙更に危險であり、又國家の事業を阻害するものであるから、先以て全般の林野に就て、官に於て當然保有すべきものと、之を民有に移すも差支なきものとを區分するの必要がある。依て林野整理の第一著手として、官有として存置すべきものと、否らざるもの、卽ち要存置林野と不要存置林野との區分を定むる事となつて居る。之を區分調査と名けて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

區分調査とは、前述の要存置林野卽ち官に保有を要する林野と、不要存置林野卽ち民有に移すを可なりとする林野とを區別する作業であつて、實地に就き精細に踏査を行ひ、凡そ次の標準に從て、區分するのである。

要存置林野として官有地として存續し、拂下を許さない林野は、第一國防其他軍事上必要なる土地、第二水源涵養・土砂扞止等の目的の爲め、森林令に依り保安林籍に編されて居る土地、竝に將來保安林籍に編入の必要ありと認むる土地、第三國が林業を經營するに必要なる土地卽ち殖產局や專賣局の造林地域の類、第四の見本林又は保護林として學術上特に存置の必要ある森林卽ち原生林の林相を呈して居るもの、或は種々珍奇の樹木を生じ居るもの、如き類、第五河川に沿ひたる急傾斜地にして護岸上必要とする林野、又は交通不便なる山岳等地形位置の關係上民營に不適當なりと認むる林野、第六道路・鐵道・公共埤圳・其他の營造物を保護するに必要なる林野、第七共同墓地又は獸屍埋却場等に使用され居る土地にして一私人の所有に歸せしむべからざる土地、第八河川整理又は鐵道敷設等の關係上或は官に於て或は公益の爲特に存置の必要を認むる林野等であつて、其他の官有林野は卽ち不要存置林野とし、此部分の內現に保管林となつて居るものは其保管者に、又た林野調査の査定發表以前より久しく開墾又は造林を行ひ、善意を以て何等の故障なく平穩無事に使用收益を繼續して居る土地は其使用收益者に、拂下を行ふのである。

區分調査に當りては、要存置林野と不要存置林野の境界に、其要所〱に頭部を赤く塗つた、區分標と書いた木杭を打込みて之を標示するのである。

三　處分調査

區分調査が濟むと次に處分調査を施行するので、之は調査員が不要存置林野に就て、保管林の保管者又は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

林野調査々定發表以前より久しき間何等の故障なく使用收益して居た縁故者よりの拂下出願に依り、其境界を實査し、縁故關係を精査して概況圖及必要の書類を作製し、次に測量員が概況圖を案內として精細なる測量を行ひて完全なる地圖を調製し面積を算定し、之に依て拂下處理の書類を作製し、其土地臺帳登錄地は拂下人每に分割其他の異動處分の、又其未登錄地は土地臺帳及地圖に登錄の、手續を運ぶのである。

而して此處分調査は、保管林又は縁故關係の調査が中々面倒であつて、先以て境界を正し、其相續關係や其他に就て嚴密に拂下出願人の資格を審査し、苟も誤なきを期し、紛議を殘さぬ樣になす等大いに手數を要する。而して此拂下處分はもと〳〵完全なる縁故者に拂下ぐるのであるから、少しにても紛爭のある樣な、卽ち縁故の不確實のものには絕對に拂下を許さないことになつて居るのである。

四　拂下處理

此林野整理は國土の保全、產業の振興と、個人財產の安定卽ち愛民の主旨より來て居るのであるから、其拂下を受けたものは、其權利を尊重して其利益を充分に發揮すべく永遠の計を立て、有益に安全に土地を利用する事に努め、地勢に應じて造林又は開墾を行ふ事を主眼とせねばならぬと共に、調査に際し拂下價格の低廉を希望する等より、急に立木の伐採を行ふか如きは最も戒めねばならぬのである。拂下價格の査定は、地味の良否、交通の便否等、土地其もの、實價に重きを置き、立木の如きは出願者の丹精に出でたるものは、全く之を計算外に置くのであるから、寧ろ其存在が拂下の縁故を確むる標準として有利であつて、其伐採に依て保管林の保管條件に抵觸する爲、却て保管權を取消され、又は他の縁故關係を否認せらるゝのみならず、官林盜伐の制裁を受くるの危險を伴ふものである。又急に開墾を行ふて縁故關係を附け樣とするのは、之も亦誤れるの甚しきもので、斯の如きは忽ちに其實際を調査せられて、却て無斷開墾の廉に依り法の制裁を受

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

くる事となるのである。

拂下價格は其緣故關係を尊重し、愛民の主旨に出てたる處から、普通の豫約開墾の拂下價格より低廉であつて、普通賣買實價より開墾造林等に要せし費用を控除した殘額の二分一內外を標準とせられて居るから、至て低廉である。眞に特別の恩典と云ふべきである。

五　林野整理事業の現況

林野整理事業の實際は、前述の通りであつて、其事業は大正四年度から實施せられて、既に元臺中・嘉義・新竹・桃園の四廳と臺東・花蓮港兩廳下を完了し、區分調査は、其上に臺北州下の全部と元南投廳管內を了し、目下臺南州下の元臺南廳管內に著手し、本年六月中に之を終結し、七月より高雄州下に移り、十二年の半頃には完了の豫定であつて、處分調査は、臺北州下の大部分を終り、目下元南投廳下を調査中にて、本年三月中に之を終了し、四月より臺北州の殘部である基隆郡の內、元頂双溪支廳管內と元宜蘭廳管內に著手し、十一年度中に完了し、明十二年度に入りて臺南州下の殘部、元臺南廳管內に進み、夫より高雄州下に及ぼす豫定で、大正十三年度の始に全部の實地調査を終る見込であつて、其拂下處分は、實地調査の內部整理に相當の日子を要するが爲め、大體處分調査の實地調査完了後、一箇年位の內に終結する事になつて居るので、大正十三年度を以て林野整理の全事業を終結する豫定である。（終）

社會事業に就て（承前）

佐藤正俊

（ロ）窮民救助　本島に於ける窮民救助の制度も內地に於ける制度と同一であつて、全然消極的のものであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る、不具癈疾の者とか老弱の者とか、又は重病の者であるとか、然かも獨身であつて他に頼る邊なき所謂無告の民を救助して單に其の生命を維持せしむるに足る丈の手段を講ずる許りであつて、更に進んで其の者の前途を保護してやるとか云ふ樣な事は考へて居ないのである、而して救助規程なるものが、各行政廳に對して必ず窮民救助を行ふべしと命じたのでもなければ、行政廳でも其の時の都合で一文も豫算に救助費を計上せぬのもある、尤も各地方公共團體を通じて然うであると云ふのでない、街庄に依り又州によつては隨分多額の救助費を計上せる向もあるのである、本島には前號に記述した如く各州に慈惠院があつて何れも多くの救助費を持つて窮民救助を行ふて居るから、公共團體の費用で救助しなくとも甚だしき不都合はない樣である、特に如何なる窮民を慈惠院に送り如何なる貧民は公費で救助すると云ふ如く、兩者の救助に何等の區別がないのみならず、內地の如く救助を受けた結果、選擧權の有無に關係する事もないから、兩者の費用は合して同樣に救助に用ゐらるゝのである、故に慈惠院の費用のみで不足の場合はどうしても公共團體の費用を煩はさなければなら

（殖產局出陳ポスター 二百萬の夏帽子も此の纖手より）

ないのであるから、幾分にても公共團體の經費に救助費を計上する事は至當とするのである。

前號に述べた慈惠院の經營なり又窮民救助なりは其の局に當る人が最も能く此の種の事業に對し理解して居る事を要するので、最も溫き同情を以て取扱ふべきである、往々にして何等の同情なき事務的取扱を爲し甚だしきに至つては冷酷なる處置を爲すが如き、若は情實に因つて左右せらるゝが如き弊風に陷つてはならないのである、是等の救助に關して改正改善を要すべき點も無くはないが、そは次の機會に讓る事とする。

（八）罹災救助　罹災救助に關しても内地と略ぼ同樣の制度である、以前より律令の規程に依つて各地方費區に於て罹災救助基金として蓄積したるものが即ち今日各州に於て管理する州罹災救助基金及臺東花蓮港兩廳の分に屬し、總督が管理する廳地方費罹災救助基金であつて、別表示す如く各州平均約五十萬圓内外になつて居る、此の基金より生ずる收入を以て救助費に充てゝ居るのである、此の救助の目的は言ふ迄もなく、水火風震其他凶荒等の場合に於ける救濟であつて一般的の救助ではない、即ち、變災の爲めに一時的に困厄の狀態に陷つた者に極めて小額宛ではあるが、食料費、被服費、治療費、小屋掛費、避難所費、就業費などを給與して、出來得る限り變災以前の狀態に回復せしむるの趣旨であつて、罹災者を永久に罹災救助基金で救助するのではない、それ故、一定の日時を經過しても尙は救助を繼續する事を必要とする者に對しては、更に他の方法を講せなければならないので、最早や罹災救助の問題ではなくなるのである。

罹災救助に關して注意を要する事は、此の救助を必要とする場合は何れも緊急の場合であるから、其の救助の實を擧ぐるには最も迅速に處置しなければならない事である、故に成るべく下級行政廳に十分の權限を委ねて、出來得べくんば、或る程度の豫算等まで配付して置いて、愈々と云ふ場合に十分に敏活に活動し得る樣に常に心掛くべきである、又基金の運用等に就ても大いに考慮を要するものがある、現在の規定では就業

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

費の如きも罹災者一戸に對して五圓以内の資料費又は器具費を給與し得るに過ぎないが、これでは餘りに小額で不充分の憾があるから、一定の條件を具備した希望者に對しては、尙一步進んで生業資本若は生産資金の如き費用をも貸し與へ、破壞せられたる罹災民の生活を保護してやるべきであると考へらるゝ、尙は基金の一定の範圍を限つて利用せしむる事も内地と同樣の程度に利用し得るに至つたならば、相互に頗る便宜とするのであるが、然しこれは基金が相當の高に蓄積せられある事を要するので、本島に於ては今俄かに斯かる事を望むのは少しく無理の觀があるが、今より十分心掛くべき事に屬すると思ふ、現在に於ける各州の基金は、是れを少なくとも今の倍額まで增殖せしむるの必要ある事は言ふまでもなき事である、又變災のあまり少しとせざる本島に於ては、進んで各市街庄も各自の罹災救助基金を蓄積する事最も緊要と信ずるのである、是等は財政の許す限りに於て各の計畫を樹つべきである。

（ニ）行旅病人及行旅死亡人取扱　行旅病人及行旅死亡人取扱に關する規則は内地の行旅病人及行旅死亡人取扱法をそのまゝ臺灣に施行したものであるが、内地と遠隔の地に在るといふ處から遺留金品の處分や、死亡人に對する揭示公告の期間が内地より永く定められてあるのと、費用の制限額が幾分違ふ位のものであつて、其の取扱方に於ては大體に於て内地と同樣であると云ふてもよいのである、唯これが取扱に就て注意すべき事は、この規程の根本精神が那邊に在るかをよく理解し、苟くも冷酷な取扱をなさぬ樣に且つ敏速に處置すべきである、これは啻に行旅病人の場合のみに限られた事でなく、所謂人類相愛に基礎を置ける社會事業の根本觀念である。

（ホ）軍事救護　軍事救護法に定められたる救護の範圍は、傷病兵、其の家族若は遺族、又は下士兵卒の家族若は遺族であつて、今迄述べ來りたる救貧事業が一般的普遍的であるのに比しこれは軍人といふ特殊の階

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

級を對照としたる部分的一部的の救貧事業である、而して其の取扱は內地と全然同様であるから內容を論ずる事はこゝには省略する事とする。

以上は政府及公の設備に依る救貧事業と目すべきものであつて、この外にも公共團體が主體となつて行つて居る社會事業が一つ二つ無いでは無いが、取り立てゝ論ずる程のものでもないから、その分は次の機會に讓ることゝする。

以上述べ來つた各種の救貧的施設の狀況を統計的に示せば次の如きものてある。

□慈惠院□

大正十年

名稱	資産總額	一箇年の經費	救養者數 院內	救養者數 院外	救養者數 計	救護に要する費用 衣食費	救護に要する費用 救養其他の救養雜費	救護に要する費用 計	救養區域
	円	円				円	円	円	
臺北仁濟院	九四五、五八四・八三〇	四二、三〇〇・八六〇	四七	二五三	三〇〇	院內 二、四二六 院外 一三、〇五五	一〇、九七三	二六、四五五	臺北州一圓 新竹州一圓
臺中慈惠院	一二〇、九六六・一八一	一〇、三八四・四〇〇	二〇	五〇	七〇	院內 一、四八〇 院外 一、八〇〇	三、五二四	六、八七四	臺中州一圓
嘉義慈惠院	八一、〇九五・一五〇	一五、三三一・〇〇〇	二五	三五	六〇	院內 一、八四二 院外 一、六八〇	四、〇四五	七、五六七	臺南州の內六郡(舊嘉義廳管內)
臺南慈惠院	五四九、二九二・一二九	四一、七六九・三六九	八五	九〇	一七五	院內 六、二七〇 院外 四、三三〇	一四、〇七三	二四、六八三	臺南州の內一市四郡 高雄州の內澎湖郡を除きたる全部 臺東花蓮港廳一圓
澎湖普濟院	五八、三一九・九七七	三、五九〇・九一〇	—	六〇	六〇	院內 — 院外 一、〇八〇	七九一	一、八七一	高雄州の內澎湖郡
計	一、七六八、二二八・二六五	一二三、九六六・六七九	一七七	四八八	六六五	院內 一二、〇一七 院外 二一、九四五	三三、一九六	六七、一四八	

（備考）（一）本表は大正十年度豫算に據る　（二）資産總額中土地建物の分は現在の實價を見積り計算す

□窮民救助施行調□ 大正九年度

		臺北州	臺中州	計
前年より越高	男	一九	五	二四
	女	四〇	一一	五一
新救助	男	一二	三	一五
	女	二二	一	二三
廢停	男	六	ー	六
	女	一四	ー	一四
死亡	男	三	四	七
	女	四	二	六
年末現在	男	二二	四	二六
	女	四四	一〇	五四
右に要したる費用		一、九八七円	五一〇円	二、四九七円

□羅災救助基金□ 大正九年度末現在

州廳名	預金	有價證券價格	土地 甲數	土地 價格	建物 坪數	建物 價格	基金合計
臺北州	内 二一八、六三三・七八四	ー	甲 四三・七七九六	円 二五〇、七九二・六七〇	ー	ー	円 四六九、四二六・四五四
新竹州	二七八、二〇六・〇〇〇	一〇五、七八五・〇〇〇	一・四五二四	三一、四〇五・四〇〇	坪 一六三・七五	一、六三七・五〇〇	四一七、〇三三・九〇〇
臺中州	三四四、三八二・二八〇	一四〇、七一五・〇〇〇	二四・七三八一	五八、九〇〇・四四〇	一〇六・〇〇	八〇・〇〇〇	五四四、〇七七・七二〇
臺南州	三五二、二三七・六〇〇	三三一、六七九・〇〇〇	二三・八二二七	四六、六四二・九八〇	ー	ー	六二〇、二五六・五八〇
高雄州	二七三、三八四・六三〇	九二、二二五・〇〇〇	三一・九〇九九	三五八、五三〇・九七〇	九三・三二	一二・〇〇〇	七二四、一五二・六〇〇
計	一、四七七、六九四・二九四	五七八、一〇〇・〇〇〇	一二五・七〇二七	七一七、八七三・四六〇	三六二・〇七	一、七二九・五〇〇	二、七七五、三九七・二五四
廳地方費	二九三、五二〇・三一〇	ー	ー	ー	ー	ー	二九三、五二〇・三一〇
合計	一、七七一、二一四・六〇四	五七八、一〇〇・〇〇〇	一二五・七〇二七	七一七、八七三・四六〇	三六二・〇七	一、七二九・五〇〇	三、〇六八、九一七・五六四

□行旅病人及行旅死亡人救護取扱數□ 大正九年

州廳名	行旅病人 内地人	行旅病人 本島人	行旅死亡人 内地人	行旅死亡人 本島人	大正十年度同上豫算
臺北州	四六	五	四 △二	九七 △一	一、二〇〇
新竹州	ー	ー	ー	一三	一二五
臺中州	一九	二	一	二六	二、七四〇
臺南州	二九	八	ー	六四	九、七二五
高雄州	二	ー	一	一八	一、三四五
臺東廳	ー	ー	ー	ー	ー
花蓮港廳	八	一三	△三	一 △三	二、三四六
計	一〇四	一八	六 △五	一七九 △四	ー

（備考） △印を付せるは行旅病人として救護中死亡したるものとす

（へ）私營社會事業　本島の私營社會事業は主に救貧事業に屬するもので、資産經費等は到底官公營のものには及ばないが、小さいながらも各所に散在して居つて、其の地方地方に適應せる社會事業を行つて居る、全島に於ける斯業一般の狀況から見れば私的施設必ずしも公的施設に劣つて居るとも言はれぬが、多くは個人の出資又は篤志者の寄附金に依りて經營せらるゝものであるから、種々の事情の爲めに經營意の如くならず、折角の事業も振ぬものが多い樣に思はるゝ。公私會社事業は其の性質上各一長一短があるから、相互に相補ふことに依りて能く其の目的を達成することを得るのである、殊に總ての社會事業を悉く國家又は公共團體の力に依つて經營せんとする事は、到底不可能の事であるばかりでなく、事業の性質により民間の經營を適當とするものも尠くないのであるから、將來益々私營の社會事業の發達を希望しなければならぬのである、（此の事は後に詳述するが）此の點から考へて見ても、私營社會事業であつて、相當の效果を擧げて居るものに對しては、成るべく國家又は公共團體より補助助成をして彌々其の健全なる發達を期せなければならぬと信ずる、昨年十月天長の佳節に方りて恩賜財團より多くの私營社會事業に對して獎勵助成金を下附せられたるは此の意味に外ならぬ事と察せらるゝのである。今全島私營社會事業の內重なるものに就き其の概要を示せば次の通りである。

囗私設社會事業調囗

大正十年中

名稱	所在地	事業種類	設立年月日	事業の要領 院內	事業の要領 院外	職員數	經費	資產	代表者氏名
護國十善會附屬寄宿舍並宿泊所	臺北市新起街一丁目	寄宿、宿泊、施療、救護	大正二、三、三	寄宿 五、四二七二　宿泊 一、四六八（創立以來延人員）　現在 二八		一四	円 二、四九九	円 五、八六六三	小山祐全
林本源博愛醫院	同大稻埕建成街三丁目五八	施療救護	明治四二、一一、三	入院 七、五二八	外來患者 五二、九五二	一五	二八、〇一八	四八、〇〇〇	林嵩壽

一八、九七四	一、九二〇	七	在學者	三三	—	大正 六、六、二三	盲唖教育	同西門外街二丁目四	臺北盲唖學校	木村謹吾
四〇、八六六	二一、六五五	八	入舍 退舍 現在	一四 一二 四〇	—	明治 四三、一二、一六	感化	臺北州七星郡內湖庄後山坡	財團法人 臺北成德學院	佐々木芳照
—	一二〇	一	院外救護	一	—	大正 二、一〇、三〇	孤兒貧兒救護	臺北市大直字劍潭	臺灣佛教孤兒院	天田一眞 外一名
六七、二五六	六、〇一五	三七	舊保護 新保護 解除 現在	二三一 九七 七九 四九	一時保護 五九四	大正 四、七、一五	免囚保護	臺灣總督府法務部內	財團法人 臺灣三成協會	和田一次
三八、〇九五	七、六〇五	七		—	—	大正 四、一二、一七	慈善救濟	臺灣總督府內	同 大正救濟會	賀來佐賀太郎
一六六、六一一	二七、二八五	七		—	—	大正元、一一、三〇	同	同	同 明治救濟會	同人
一九二、九九一	一五、八三五	七		—	—	明治 四一、二、一一	博愛慈善	臺北州七星郡北投庄	同 臺灣婦人慈善會	高木ミナ
四〇六	一、八一五	五		一四七	—	明治 [illegible]	補習教育	同基隆郡基隆街	基隆夜學校	石坂莊作
七〇四、七二三	二八、八七五	八		—	—	大正元、一〇、二	警察官傷病者救療	臺灣總督府內	財團法人 臺灣救濟團	豐田勝藏
—	一五〇	九		—	—	明治 三〇、四、一四	說教教化	臺北州宜蘭街乾門	宜蘭講局	李克[illegible]
一、四五〇	一、二四七	七	八年中施米額 円 一、一九四・三〇	—	—	明治 三一、一二、三〇	救貧	同坤門一四	樂施社	同人
三五	四〇	七	八年中施棺代 円 四三・四〇	—	—	明治 三一、一、一〇	施棺	同	施棺社	同人
七六〇	一一	二九		—	—	大正 八、七、一二	學資補給	同土名戰門	財團法人 獎學會	生野猪六
■以上臺北州										
二、九二〇	—	五		—	七年度 一二〇	明治 三三、六、一五	救貧	新竹州苗栗郡三座厝庄	覺世堂施濟會	邱海華

■以上新竹州									
一八、二四八	二〇、六二八	—	六八	九三	明治二九	施藥救護	臺中州彰化街西門	彰化基督教醫院	ダヴイデランスバロ
三九八	四一四	三	—	救濟者三八三	明治四三、一〇、一	救貧施藥	同鹿港街	鹿港博濟社	蔣猪母
■以上臺中州									
九六〇	九六〇	二	一三	—	大正七、一二、一五	施療	臺南州臺南市西門町四丁目五九	日宗施療院	丸井智選
一五	三八	一	—	外來一〇	大正六、六、三	同	同市末廣町一丁目	遍照施療所	北之内龍光
■以上臺南州									
一、三四一	—	二	—	—	明治十八年頃	無料宿泊	高雄州鳳山郡火房口六五	濟善堂	林靜觀
一九、六二四	一、九〇〇	四	二〇	三	安政五、不詳月	孤兒收容	同高雄街苓雅寮	天主教孤兒救養所	トリビオトバル
一三、九七五	—	—	—	—	明治四〇、一、	備荒貯蓄	同澎湖郡役所	勤儉貯蓄組合	澎湖郡守
五二、六三〇	三九四	四	—	—	大正八、一〇、三	同	同	財團法人澎湖窮民救濟會	同
■以上高雄州									

（備考）本表中には二三の防貧的施設と見らるべきものもあれど便宜の爲め掲載する事とせり

II 防貧事業

防貧事業と云ふ事は、貧窮に陷らんとする危險線に立つて居る者を擁護して悲境より救ひ出す事であつて、既に窮迫の境遇に在る者を救濟する救貧事業よりも、寧ろ現今に於ては切實緊要なる事であるばかりでなく、社會事業の根本眞髓とも言ふべきものであると信ぜらるゝ。救貧事業と言ひ、防貧事業と言ひ均しく貧困者を對象として居るものであるが、一はその精神的竝に物質的生活方面を改善向上せしめて、普通生活線まで若くはそれ以上に引き擧げんとする積極的事業であるが、一は生活の維持、即ち生活を支へて行く丈けの消

極的の仕事であるとするのが、一般に認められて居る所である、それであるから、或る一部の人々に依つて言はるゝ如く、防貧事業•救貧事業を生活改善事業、生活維持事業と稱する方適當なるが如くであるが、乍然單に生活改善とか生活維持とか言ふ時は、防貧救貧以外の事項即ち社會政策の範圍に屬する多くのものをも包含して居るので、事業の範圍が全然一致しない點もあるから、茲には舊來の通り防貧事業、救貧事業と云ふ用語に從ひ、只雙方に共通する事業の如き、又防貧事業として性質上入るべきものに就ては、必ずしも舊來の例に依らないのである。從來の所謂救濟事業なるものは、今日の所謂生活維持方面のみの消極的若くは恩惠的純道德的の仕事である事は既述の通りであるが、如此ものは最早今日の時勢に順應せざる事も明な事である、困厄の奥底に陷つた人間を救濟するの必要なる事は昔も今も何等異なる所はないが、今日に於ては寧ろ貧困のどん底に陷る以前に於て、陷らしめざる様な手段を講じ保護を加ふると云ふ積極的に一歩進んだる豫防事業をすると云ふ事はより必要であるのである、此の豫防的事業が完全に行はれたならば、救貧事業の如きその必要なきに至るのである、乍然此の防貧事業を徹底的に行はんとせば非常に困難なる種々の事情を伴ふので、是れが爲めには現在の產業組織に一大改造を加ふるの要もあらうし、利益分配制の如きも、より合理的に公平に行はるゝ様に改めなければならない、又教育的方面にしても、その制度をより徹底的により普遍的に改善して、せめて初等教育丈けでも、不就學の徒なきに至らしめなければならない、其他一般的制度にしても又特殊的なる事柄にしても、十分根本的に改造なり改善を加ふるの必要なるもの多々あるのであるが、是等の改變は勿論急激に行ふ事を得ざるものであると同時に、行ふべからざるものであるから、漸次に實行せらるゝ事を期せなければならないのであるが、言はゞ是等の問題の多くは、吾々の實際上取扱はんとする社會事業と云ふ範圍を超えた廣汎な社會政策上の問題であつて此の方で解決すべきものである、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こで差當り吾々の任務としては、出來得る限りの勢力を盡して、特殊の施設を爲すなり、或は公私の機關の活動に依るなりして、社會の缺陷を矯補し、以て貧困者を尠なからしめ、進んでは一般の福祉を增進する事に努めなければならないのである、內地に於ても救貧的事業すら未だ整備しないのであるから、防貧的施設の如き況んや不十分なる事は言ふまでもなき事で、漸く最近に至りて二三の防貧的政策の法制の施行を見續いて種々なる計畫を爲されつゝあるの狀況であつて、吾臺灣に於ては救貧的施設の內地に比して稍や優れるの觀あるに比し、防貧的施設に至つてはそれと反對の觀あるは誠に遺憾とするのである、是れより立法に行政に更に一段の努力を以て防貧的施設を實施せなければならぬと信ずる。（未完）

（正誤）前稿五の「（イ）救貧事業」は「I 救貧事業（イ）慈惠院」の誤に付訂正す。

▼州廳別蕃人教育實況

（大正十年十月現在）　內外情報

▼昨年十月中の蕃人教育實況を見るに全島の在籍兒童の總數は目下休業中のものを除きて男八百九十五人、女三百十五人、合計一千二百十人なるが其日々出席平均數を擧ぐれば男七百十六人五歩六厘女二百三十八人九歩五厘、計九百四十五人五歩一厘となり卽ち在籍兒童百人に對して七十八人一歩四厘强の出席平均を示すは蕃人として寧ろ好成績とも見るべきか

▼今州廳別に在籍生徒數に順じて之れを列記するに左の如し。（但し臺南州には無し）

廳別	在籍	出席平均
花蓮港廳	三二四人	二二八・一四人
高雄州	三〇七	二九一・六六
臺北州	二一七	一六三・四二
臺東廳	一三三人	一〇三・一八人
新竹州	一一九	八二・七四
臺中州	一一〇	七六・二八

Nippongo wo hattatu saseru Rômazi.

Nôgakuhakusi Nakazawa Ryôdi

I Wareware no Rômaziron no Syui

(1.) Nippongo wo ippanni Rômazi de kaku Rieki

(a.) Ippan Kyôiku no Keizai

(b.) Nippongo no tadasii Hattatu

(c.) Zituyô

(d.) Nippongo no sekaiteki Hatten

(2.) Rômazi-Hantairon in taisite no Okotae

(A.) Rômazi de nakutemo:—

(a.) Kanzi wo herasite tukaeba yoi to iu Ron

(b.) Kana bakari de Kokugo wo kake to iu Ron

(c.) Atarasiku Zi wo tukure to iu Ron

(B.) Sina-mozi wo sutete Rômazi wo tukaeba:—

(d.) Tyû, Kô, Zin, Gi nado no Sisô ya Tokugisin ga nakunaru to iu Ron

(e.) Mukasi kara no hurui Kakimono ga wakaranaku nari mata Mukasi no Bunmei tono Renraku ga torenaku naru to iu Ron

(f.) Sina to onazi Mozi de aru Rieki wo usinau to iu Ron

(g.) Onazi On de tigau Imi no Kotoba ga wakaranaku naru to iu Ron

(h.) Rômazibun wa yominikui to iu Ron

II Nippon ni okeru Rômazi

(1.) Rekisi

(2.) Romazi no Kakikata no Syurui

(a.) Hebon-siki

(b.) Nipponsiki

(c.) Hebon-siki to Nippon-siki tono Hikaku

III. Taiwan ni okeru Rômazi

(a.) Taiwango no Rômazi

(b.) Wareware no Taiwan ni okeru Undo

IV Musubi

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

I Wareware no Rômaziron no Syui

Tyôsyû-seibatu no toki Tokugawa-gata wa Yoroi kabuto de Tyôsyû ni mukatta to iu noni, Tyôsyû no Hô dewa Zyuban to Momohiki de Ikusa ni dete, Yoroi-kabuto no Rentyû ga sanzan nayamasareta to iu Koto wo watakusi wa zissai sono Ikusa ni Yoroi-kabuto de dekaketa watakusi no Titi kara yoku kita Koto de aru.

Sate wareware ga mainiti yatte oru koto de, kono Yoroi-kabuto no yôna koto ga ari wa sinaika, mosi attanara hayaku ano omoi Yoroi-kabuto wo nugisutete Zyuban to Momohiki ni naranakereba naranai-dewa arimasenka? Senzo denrai no Yoroi-kabuto wo nugisuteru no wa tyotto Samurai no Omoomosisa wo kidutukerareta yôna Ki ga suru desyô, sikasi Yoroi-kabuto wo nugu no ga iyada to itte Ikusa ni makete wa sikata ga arimasen.

Wareware ga mainiti tukatte oru Sina-mozi wa kono Yoroi kabuto dewa arimasumaika? "Syôgakkô wa oroka Tyûgakkô wo sotugyôsite mo rokuni Tegami mo kakenai" to wa Hito ga yoku iu Kotoba desu. Kôinhû de aru Wake wa mudukasii Sinamozi no Okage daro to omowareru no desu. Yoroi-kabuto no Mekata ni osarete rokuni Ikusa no dekinai koto to nite wa orimasumaika?

Konna koto dewa Kyôso no hagesii Sekai ni tatte iku noni donnanika Son wo minakereba naranai. Sore wo sukûni wa Rômazi de hudan no Kotoba wo kakeba yoi to iu no ga wareware no iihatte oru tokoro desu.

Kore kara sukosi wareware ga Rômazi wo iiharu Wake wo nobete mimasyô.

Kotowatte okimasu ga Mozi to Kotoba to wo gottyani sinai yoni site kangaete kudasai.

(1.) Nippongo wo ippanni Rômazi de kaku Rieki.

(a.) Ippan-Kyôiku no Keizai. Wagakuni dewa Kokugo wo Sinamozi de kaku koto ni site oru tameni Kokugo no Kyôiku ni taihen takusan no Zikan wo tukatte sikamo sono Kônô ga agaranai, sunawati mae nimo itta tôri Syogakko wa oroka Tyûga-

kkô wo sotugyo sitemo Tegami hitotu rokuni wa kakenai to iu Koto ni naru. Ima aru Senpai ga sirabeta tokoro ni yoruto "Doitu no Syôgakko no Kodomo ga 6 no Kotogara wo manabu aidani wagakuni no Kodomo wa 1 no Kotogara sika naraenai" to iu koto de aru, tumari Mozi wo narau noni yokei Zikan wo torareru to iu node aru.

Kono Kotogara wo Sekai no Kyôsôba no nakani tatte Kuni no Tikara no Hattatu ni ookii Sawari to naru koto de atte, wareware Kokumin wa misutete oku Wake niwa ikanai node aru. Kore wo sukuu noga Rômazi wo tukau mottomo ookii Mokuteki de arimasu.

(b.) Nippongo no tadasii Hattatu. Wareware wa Sinamozi wo tukatte oru ga tameni, Kokugo ga omoni Me de miru Kotoba ni natte, hontôno Nippongo sunawati Kuti de ii, Mimi de kiku Nippongo ga hattatu sinai. Zissai Denwa, Denpo wo hizime, Kôgi nari Enzetu nari de Imi ga akiraka de nai Baai ya Matigai, Yukitigai nado no ooi no wa maeni itta. Me de miru Mozi wo tayorini suru Kuse ga tuite oru kara kuru koto no Syôko no hitotu de aru. Rômazi wo tukaeba kaku Kotoba to iu Kotoba to ga heikôsite iku kara onazi On de tigatta Imi no Kotoba nado wa seiri sarete, Nippongo ga hontôno Hattatu wo togete, maeni itta yôna Hutugô ga nakunaru.

(c.) Zituyô. Mata Zituyô no ue kara itte mo Rômazi wa Mozi no Katati ga kantan de aru koto wa motiron de atte, Enzetu no Hikki nado niwa zituni ha-yaku ikusi, mata Insatu ni Rainotaipu ya, Zimu ni Taipuraitâ nado iroirono benrina mono ga tukaeru node aru.

(d.) Nippongo no sekaiteki Hatten: Sinamozi ya Kana wo tukatte oru aida wa kaita Nippongo ga Yoroppazin wa motiron no koto Sinazin nimo wakaranai, motiron Rômazi de Nippongo wo kaitemo Nippongo wo siranai mono niwa wakaru hazu wa nai ga tonikaku manabi yasuku naru to iu koto wa Zizitu de aru, mata Insatu mo Gwaikoku de ziyûni dekirukara Nippongo ga Sekai ni hiromari yasuku naru node aru.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(2.) Romazi-Hantairon ni taisite no Okotae

Konniti dewa taitei no Hito wa Romazi wo hutuni tukau koto ni hantai wa sarenai ga, tokitosite wa hantai suru Hito ga aru. Kore wa wareware no Syui wo matigatte kangaeraretari matawa Kangae no tarinai Giron bakari de aru, ima sono omona mono wo agete miru to:

(A.) Romazi de nakutemo: (a.) Sinamozi wo herasite tukaeba yoi to iu Ron. Kore wa hotondo Zikkô no dekinai Ron de atte, mata yosi dekita to sitemo sono Kônô wa Taka no sireta mono de aru.

(b.) Kana bakari de Kokugo wo kake to iu Ron Kotoba dori ni kaku node aru kara Kana bakari de motiron kakeru, sikasi nagara Kana no Seisitu to site Itigo-itigo no naka no Kana ga umaku matomatte mienai, Rômazi no Ho wa minasan ga Eigo ya Doitugo de Gosyôti no tôri matomatta Katati ni natte nareruto Hitome de mieru yoni naru, mata Nippon kagiri no Mozi de aru ga tame Nippongo no Sekai-hatten ni Tikara wo soenai bakari dewa naku kaette Hutugô de aru.

(c.) Atarasiku Zi wo tukuru to iu Ron Kono Ron wa Mukasi kara aru ga nakanaka mudukasii, mata dekitemo Nippon kagiri no mono de aru to iu koto wa Kana to onazi de aru.

(B.) Sinamozi wo sutete Rômazi wo tukaeba: (d.) Tyû, Kô, Zin, Gi nado no Sisô ya. Tokugisin ga nakunaru to iu Ron. Korewa Sisô ya Tokugisin ya Kotoba to sorera no Keisiki ni suginai Mozi to wo mazekozc ni sita Ron de aru. Sinamozi wo yametemo korera no Sisô ya Tokugisin ga Wadurai wo ukenai koto wa waga Kuni ni Sinamozi ga haitte kuru mae kara korera no Tokugisin nari Sisô nari ga atta node ari, mata mekura no Hito, Mozi wo siranai Hito nimo Korera no Tokugisin nari Siso ga aru nowo mite mo wakaru. Kore wa tyôdo hazimeni nobeta Yoroi-kabuto wo Gunpuku ni kikaete mo nao Busidô no Tamasii ga aru no to onazi Wake de aru.

(e.) Mukasi kara no hurui Kakimono ga wakaranaku nari mata Mukasi no Bunmei tono Renraku ga torenakunaru to iu Ron
Kore wa wareware no Setu wo Sinamozi Zenpairon to matigaete ora-

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

reru node atte, wareware wa Mukasi no Kakimono ni tuite Senmonka mata wa tokuni sonohô ni Syumi wo motareru Hito no Kenkyû wa daizina Koto to omotte oru node atte, tada mainiti tukau Mozi wo Rômazi ni siyô to iu node aru.

(f.) Sina to onazi Mozi de aru Rieki wo usinau to iu Ron Nipponzin no uti hatasite nannin Sina to Kwankei wo motu darôka? Sono sukunai Hitobito no tameni ookuno Nipponzin ga Sinamozi wo Otukiai de narau Hituyô ga aru darôka? Omakeni, tikagoro Sinazisin mo Sinamozi no Huben wo kanzite atarasii Mozi wo tukuridasite Syôgakko no Tokuhon no naka ni irete oru iu Koto desu.

(g.) Onazi On de tigau Imi no Kotoba ga wakaranaku naru to iu Ron. Kore wa Sinamozi no Okage de dekita Nippongo de atte, Romazi ni suruto sizen konna Kotoba wa aratamaru yoni naru node kaette Nippongo ga tadasii Hattatu wo togeru yôni naru.

(h.) Rômazibun wa yominikui to iu Ron Oyoso dokono Kuni no Mozi demo Keiko sinaide yoku yomu to iu koto wa dekinai hazu da, yominarereba tayasuku yomeru yôni naru.

II Nippon ni okeru Romazi

1. Rekisi

Waga Nippon ni Romazi ga hazimete haitta nowa 1548 nen (Tenmon 17 n.) ni Jesuits-Ha no Senkyôsi St. Francisco Xavier (San-Huransisuko Sabie) ga Kagosima ni kite Yasokyô wo tutaeta toki kara hazimatta node atte, 1591 n. (Tensyô 19. n.) niwa Hizen, Katusa de Kirisuto no Den wo Rômazi de syuppansi, 1583 n. (Bunroku 2 n.) niwa Rômazi ni naosita Heikemonogatari wo Katusa de syuppansite orimasu. Sono noti Kirisuto-kyo ga tomerarete kara kono Rômazi no koto mo ittoki nakagire ni natta node arimasu.

Hoei no Koro niwa Arai-Hakuseki ga, mata Kwansei no koro niwa Honda-Tosiaki ga Rômazi no Hituyo wo toite orimasu, sôdakeredomo amari Hito no Tyûi wo hikanakatta.

Meidi ni natte sono 2 nen no 5 gt. Nanbu-Yosihisa ga Rômazi wo torimotiite Nippongo wo kake to iu Iken wo tokino Daigakuno-ka-

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

mi Yamanouti-Yôdô-kô ni sasidasita node aru. Meidi 6 nen ni Nisi-Syu ga "Seiyômozi de Kokugo wo Kaku no Ron" wo ooyake ni site Rômazi wo torimotiiru koto no isoganeba naranai koto wo toita. Meidi 7 n. ni Kubota-Yuduru ga Hirosima no Sihangakkô de Rômazi wo Syo-gakko de osieru koto wo môsidasita noni taisite Monbusyô wa "Hirosima-Sihan no Huzoku-Syôgakkô ni kagiri kore wo osieru koto wo yurusita."

Meidi 18 n. ni natte Rômazi-Kwai to iu mono ga dekita, kono Kwai no omona Hito wa Toyama-Syôiti, Yatabe-Ryôkiti, Terao-Tôru, Yamakawa-Kenzirô Udi nado de atta. 18 nen 6 gt. ni Rômazi-Zassi ga dekita. Onazi Tosi ni Tanakadate-Aikitu Udi wa Gozyûon-Tudurizi-Ho wo happyosarete, kore wo "Nipponsiki Tudurizi-Hô" to naduketa. Onazi Tosi no 11 gt. Toyama, Yamakawa, Chambalein, Kanda, Yatabe Udi nado ga atumatte Rômazi tudurikata wo kenkyusi, 19 nen ni Romazi-itiranhyô wo hakkôsita. 20 nen niwa Tôkyô Kôgei Hakurankwai no Syupppin no Huda ni Sinamozi to narabete Sinamono no Na, Dekitatokoro, Syuppinnin no Namene nado wo Rômazi de kaita. 22 nen niwa Monbusyô ga Syôgakkô-yô no Rômazi-Kakedu wo tukutta.

Romazikwai no Zassi wa 25 nen made tuduita ga itizi nakagire ni natta, Meidi 38 nen ni natte Romazikwai ga mata okotte Rômaji to iu Zassi ga dekita, 43 nen ni "Rômaji" kara hanarete Tanakadate, Tamaru ryôhakusi no Nakama no "Rômazi Sinbun" ga deki, 44 nen 7 gt. kara "Rômazi Sekai" ni natte imani oyonde oru node aru.

Kono aida ni hôbôno Syogakkô de Romazi wo osieta Keiken ga happyo sarete oru.

Kore ga Nippon ni okeru Rômazi no ooyoso de aru.

(2.) Romazi Kakikata no Syurui.

(a.) Hebon (Hepburn) siki Tudurikata Hebon-siki to iu nowa Hepburn Udi ga Eigo wo mototo site Nippongo wo kaite Wa-ei-zibiki wo tukutta noga hazimari de dekita Tudurikata de atte Eigo-Hon'i no Tudurikata de aru.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(b.) Nippon siki Tudurikata

Nipponsiki Tudurikata to iu nowa mattaku Nipongo Hon'i no Tudurikata de aru.

Ima kono hutatu no Tudurikata wo Hyô ni site simeseba tugi no tori de aru.

Nipponsiki

Gôzyuon | Tumaru On

	ア A a	イ I i	ウ U u	エ E e	オ O o	-ya	-yu	-yo	wa
K k	カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko	キャ kya	キュ kyu	キョ kyo	クヮ kwa
S s	サ sa	シ si	ス su	セ se	ソ so	シャ sya	シュ syu	ショ syo	—
T t	タ ta	チ ti	ツ tu	テ te	ト to	チャ tya	チュ syu	チョ tyo	—
N n	ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no	ニャ nya	ニュ nyu	ニョ nyo	—
H h	ハ ha	ヒ hi	フ hu	ヘ he	ホ ho	ヒャ hya	ヒュ hyu	ヒョ hyo	—
M m	マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo	ミャ mya	ミュ myu	ミョ myo	—
Y y	ヤ ya	イ i	ユ yu	エ e	ヨ yo	—	—	—	—
R r	ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro	リャ rya	リュ ryu	リョ ryo	—
W w	ワ wa	ヰ wi	ウ u	ヱ we	ヲ wo	—	—	—	—
G g	ガ ga	ギ gi	グ gu	ゲ ge	ゴ go	ギャ gya	ギュ gyu	ギョ gyo	グヮ gwa
Z z	ザ za	ジ zi	ズ zu	ゼ ze	ゾ zo	ジャ zya	ジュ zyu	ジョ zyo	—
D d	ダ da	ヂ di	ヅ du	デ de	ド do	ヂャ dya	ヂュ dyu	ヂョ dyo	—
B b	バ ba	ビ bi	ブ bu	ベ be	ボ bo	ビャ bya	ビュ byu	ビョ byo	—
P p	パ pa	ピ pi	プ pu	ペ pe	ポ po	ピャ pya	ピュ pyu	ピョ pyo	—

Hebonsiki no hukisokuna tokoro dake wo simesu, ato wa Nippon siki to onazi

サ sa	シ shi	ス su	セ se	ソ so	シャ sha	シュ shu	ショ sho
タ ta	チ chi	ツ tsu	テ te	ト to	チャ cha	チュ chu	チョ cho
ハ ha	ヒ hi	フ fu	ヘ he	ホ ho	ヒャ hya	ヒュ hyu	ヒョ hyo
ザ za	ジ ji	ズ zu	ゼ ze	ゾ zo	ジャ ja	ジュ ju	ジョ jo
ダ da	ヂ ji	ヅ zu	デ de	ド do	ヂャ ja	ヂュ ju	ヂョ jo

Digitized by Google · Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(c.) Hebon siki to Nippon siki tono Hikaku. Mae nimo itta tori Hebon-siki wa Igirisu, Amerikazin Hon'i de atte Kipponsiki wa Nipponzin Hon'i de aru. Soredakara Nipponsiki niwa tugino 5 no sugureta Ten ga aru.

(1) Nippongo no Seisitu ni yoku tekisite oru.

(2) Ippan no Nipponzin ni wakariyasui.

(3) Syôgakkô no Seito ni osieyasui.

(4) Nippon oyobi Nippongo Hon'i dato iu Ten de Nipponzin ga kore wo toriireyô to iu Zikaku wo unagasu koto ga ookii.

(5) Nipponsik Tudurikata wa Sekai no dono kokugo ni Katayotte oru to iu kotoga naku, dokono Kuni no Hito demo nikayotta Hatuon ga dekiru.

III Taiwan ni okeru Rômazi.

(a.) Taiwango no Rômazi. Taiwan niwa yohodo huroku kara Romazi ga haitte kite ite, Orandazin ga Taiwan ni otta koro kara Seibango wo Rômazi de ka'te Seiban ni osieta node, Seiban to Sinazintoga Toti no Ukewatasi ni tuite Syômon nado kaite ottarasiku, ima Taihoku no Hakubutukwan ni sorera no mono ga narande oru, sono nakade itiban hurui mono ga 1740 nen (Kenryu 5 nen) de aru. Sore kara noti Yasokyô no Senkyôsi ga Taiwango ya hobono Seibango de Yasokyô Kwankei no Hon wo Rômazi de arawasite oru node atte, ima Taiwan, Takao nado de wa Taiwango-Rômazi no Sinbun made dasite oru. Aru Hito no Hanasi ni yoruto Taiwan de Rômazi no yomeru mono ga 5 mannin kara oru to iu koto de aru. Gwaikoku Senkyôsi no tukutta Rômazi no Hon wa nakanaka takusan atte, watakusi no atumeta mono demo 50 Syurui gurai aru. Baiburu, Sanbika nado wo hazime to site Rongo, Sanzikyo, Tiri, Sanzitu nado nakanaka iroiro no mono ga aru. Sore yue Yasokyôkwai—Gwaikokuzin no yatte oru—ni yuku Taiwanzin wa Sinamozi dewa totemo keiko no dekinai koto wo yasuyasu to osierarete oru node aru.

(b.) Wareware no Taiwan ni okeru Undô. Nipponzin ga Taiwan ni otte Rômazi no Undo wo yatta nowa kore made kikanakatta ga Taisyo 8 nen 2 gt. kara Taihoku-Rômazikwai to iu mono

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ga dekite Nipponsiki Rômazi wo hiromeru tameni Onazi Tosi no 8 gt kara Zassi wo hakkôsite ori, ima Kwaiin ga 200 nin bakari aru. Mata kono hoka ni Heitô no Syogakko dewa Kwagai ni Rômazi wo naratte oru mono ga 60 nin amari aru.

IV Musubi

(1) Seisonkyôsô no hagesii kono Yononaka de Yoroi-kabuto no yona omokurusii Sinamozi no kawarini tukaiyoi Rômazi wo tukatte Nakami no Gakumon wo susumenakereba naranai.

(2) Nippon de hudan tukau Kotoba wo Rômazi de kaku tosite sore ga sugu tayasuku okonawareru mono dewa nai, sorezore Yôi wo sinakereba naranai, sorede Kono Ron wo yomu Kata ni Rômazi no Kenkyu wo site itadakitai to omou.

(3) Tokuni Taiwan ni wa maeni nobeta yôni Rômazi no Yomeru Taiwanzin ga 5 mannin mo oru no de aru kara Taiwanzin ni Nippongo wo hirometari mata Taiwanzin to iriirono Kwankei no aru Hito wa Kana-maziribun wo sutete Rômazi wo tukawareru koto wo osusumesuru.

Nao kuwasiku Romazi ni tuite kenkyu saretai kata wa Rigaku hakusi Tawaru-Takuro: Romazi-kokuzi- Ron wo Oyomi kudasareba yoku-wakarimasu.

Umek.sa

Aa, Syôgakkô ni okeru Kanzi no Omoni ! Kanzi wo yamete Rômazi ni sitara,

Gimukyôiku wa 2-nen gurai wa midikaku sareru darô.

Rômazi wa Gwaikoku no Mozi da to iute Kegirai wo suru Hito ga aru. Keredomo Kanzi mo motowa Gwaikokn no Mozi dewa naika ?

Sikamo Kanzi wa Sina dake no Mozi da ga, Rômazi wa Sekai kyôtûno Mozi de aru.

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樺山伯の臺灣視察

—牡丹社征討以前の—

朝比奈正二氏談

明治七年の臺灣征伐は、元と牡丹社蕃人が沖繩島民を殺害したるに因るは、世人の普く知る所であるが、此の事件に關して最初副島公使が北京に派遣せられて談判を開いたのが明治六年の三月であつて、それが不調になつた結果、廟議遂に征臺に決して臺灣蕃地事務局を長崎に置き、西鄕中將に事務都督の勅諭を下されたのが翌七年の四月五日である、其の間正さに一年有餘を空過して居るが、政府が其間、征臺の準備を怠らなかつたことは、彼のエドワード、ハツス氏の征臺記事に此間の事情を記して。

日本政府に於て此間の準備を祕密に附したるは、一に內治の政略にも出でしと雖も、全く外國の干渉を避むるの方策に由れるに在り、故に一時該事件は放棄せられし如くなるも、其實然るにあらずして、着々として內外の措置に準備するを怠らざりき（伊能嘉矩氏臺灣志）

とある如く內治外交の爲に其の準備を祕密に付して居たと言ひ得るのである。而して其の祕密の準備の中には、當年一陸軍少佐たりし膽斗の如き我が薩南の豪傑樺山資紀伯の志士的活躍が、帝都から長崎・臺灣・香港等を舞臺として、頗る勇敢に行はれ、爲に士氣奮興し、鋒戰に從した、といふ事蹟が其の一つを爲してあるにも拘はらず、隱れたる事實として今日世人の知覺に惜然不明確なるは洵に遺憾に堪へざる次第である。

伯や今春、八十歲を以て圓滿な永き眠りに就かれたが、曾ては海軍擴張の爲に議政壇上に三百の議員を叱咤し、日清戰役に際しては艦隊に令して白旗を棄てゝ死戰を覺悟せしめたるが如く、當年征臺事件に就ても意氣豪壯當るべからざるの勢があつた。初め副島公使の問責に對して尙ほ未た何等の解決を得ざるの前、伯は早く既に當局を鞭撻して、軍事偵察の爲に親しく臺灣の蕃地視察の途に上つたのである。

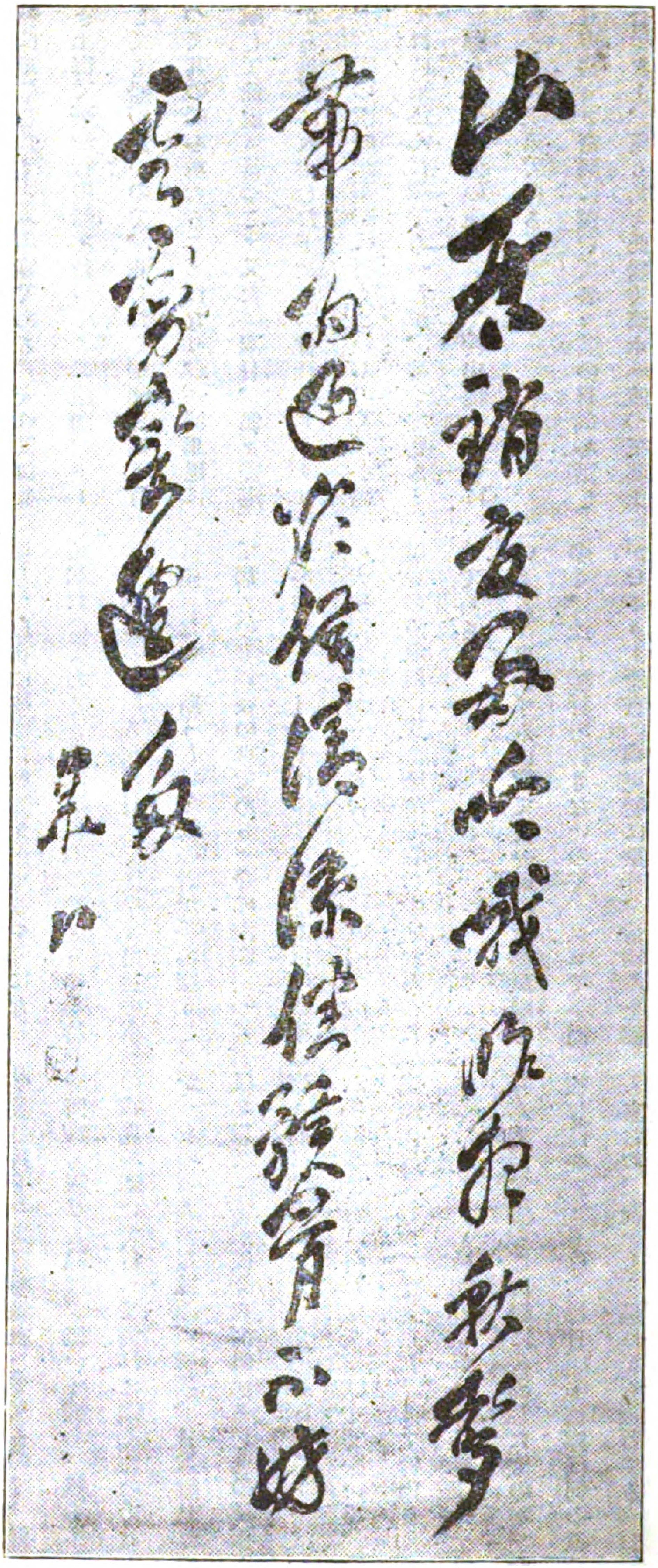
時恰も明治六年の四五月の頃であつたと思ふ、伯は奮然として「東京に居ては彼是れ五月蠅くて仕事の邪魔になるから、俺アもう出かける」と言つて橫濱に引き上げ次で長崎に至り、其處から春日艦に乘つて、遙々と臺灣南端の車城に上陸して、牡丹社に通ずべき附近の地勢や、軍隊の上陸地などを篤と視察したのである、當時一行は樺山伯の外に少尉相良長綱、通譯水野遵、同城島主幹などいふ人々であつた。一應偵察が濟むと伯は香港に引き上げたが、伯は尙ほ時々香港と臺灣との間を往復して、臺南、打狗、鳳山等を具さに視察し、用兵上の準備に資せんとしたのである。

斯くて伯は半歲以上も香港に在りて臺灣間を往復して居たので無論臺灣の事情は東京其他へ電報などで、知照し一日千秋で戰機の來るのを待つて居られたことゝ思ふ、斯うして居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る內に北京談判は爽くに破裂し蕃地は淸國の政權の及ばざる化外の地といふに決し、隨て蕃地の占領は勝手次第といふことになつたに拘はらず、廟議は尙ほ未だ主戰、非戰の二派に分れて決せないので、樺山伯はもどかしくて堪らず、翌七年二月の末つ方香港を立つて臺灣へ出かけたのであるが其の船が福州の馬尾に寄港した時、偶然私共の隨伴した兒玉利國氏の渡臺一行と遭遇して、其處で相合して大冒險を行つたのである。が、其前に私共の隨伴した兒玉利國氏の一行に就いて一寸御話したい。

兒玉利國氏は當時海軍少佐であつたが、臺灣征討の事が明治七年の二月に至つて略々內定した頃、兎に角臺灣へ行くことになり、田中綱常、成富淸風、池田周平、牧野などいふ何れも利かぬ氣の人間達と共に出發することゝなつた。當時私は鹿兒島に在りて姻戚の某軍人に世話になつて居たが、兒玉氏に勸誘せらるゝ儘、進んで此行に加はり、一此行の爲に會計庶務の事に當ることゝなつた。そして當時は勿論臺灣直航の船などは無かつたので、長崎から上海に渡り、其所から更に臺灣に渡る豫定で、一同長崎を船出して上海に着いたの



樺山伯の書（朝比奈氏所藏）

が二月十二日であつた。何れも日本商人の支那視察といふ名義で、それには商號が要るといふので「朝陽號」といふ假號を設けた譯であつたが、夫れが後年臺灣領有後、私一箇の商號に頂戴したといふ因縁である。夫れは扨置き上海で臺灣行の船を待つこと二週間、ドーしても船が無いので、止むなく福州馬尾に行つて其の船を求むることになり、一同馬尾に航して此處に待つこと又た一週日、偶々香港から馬尾に入港したドグラス會社のアメリカ十六番の汽船が臺灣に行くといふので、一同それに乘込んだ譯であつたが、乘つて見ると豈圖らんや前述の通り其所で樺山伯の一行に會合した次第である。

双方共マア奇遇に驚いて各々其の目的を話し合つた上、兎も角も此船で淡水へ渡つて其上で臨機應變の處置を執らうといふことになつたソコで淡水に著いたのが三月の初旬、其處にメキシコ人のヒーターといふ男が臺灣人を女房にして一家を構へ、戎克船の幾艘と貸家などを所有して可なりの生活を營んで居たが、其家の貸家を一軒借りて樺山伯初め一同それに這入り、自炊をやつて居たのである。尤も此一行は何れも非常に澤山の軍資金を所持して自在に縱横に行動が出來るやうになつて居たのである。其處で戰機の熟するのを待つて居たのであるが、日本では中々出兵の事に至らない。斯うして多勢の者が手を空うして居るのも無益の事である。今の内に一つ蕃地を占領しやう、夫れには花蓮港附近の蕃萊の大平原が好からうといふことになつて薩南健兒の意氣既に東部臺灣を呑むの概があつたのである。

いよ／＼出發するに就ては一同の行李が頗る多く、迚も陸行を許さないので、ソコで一同がヒーター所有の戎克船に乘り、荷物を全部積み込み、ヒーターも一行に加はつて四月二日に淡水を出發した。然るに戎克船の沿岸航行とて基隆まで來るのに二週間も費したやうな次第であつた。然るに基隆で思ひ掛けずも日本の日進艦が征臺軍を乘せて碇泊して居るのに會つた。一同の喜びは何とも譬へやうが無かつた。樺山伯は早速其の艦長に面會して一行と荷物とを乘せて呉れと頼んだが、何分多數の兵士や武器を満載して居るので、最早や何物も載せる餘地が無いと言ふ。然らば此の戎克を牽いて行つて呉れと頼んだのであるが、其の夜非常な風雨の折柄、日進艦長は手紙を以て「當艦は今夜出帆するが此の風雨に漆き船は迚も出來ないから御斷りする」といふ手紙を兵曹に持たせて投げ文で置いて、日進艦は出て行つて仕舞つた。サア樺山さんの怒つたこと／＼怒髮天を衝いた。「實にケシからん事だ、然しこれ程に苦心したものを、今彼等に先んぜられては日頃の偵察は何の役にも立たぬ、俺アもう是れから陸行する。お前等は蕃地占領でも何でもやれ」と非常な凄まじい意氣込で御自身達のトランクなどは置きつ放しで、金の這入つた手提革包を一つ持つた切り、身一つで暴風雨の中を基隆から陸行

して行つて仕舞つた。其時樺山さんと同行したのは相良、水野、牧野の三人であつた。當時臺灣の交通不便は言ふ迄も無かつたが、樺山伯は幾たびか經驗があつたので目的地まで達すべき確信が充分にあつたことゝ信ずる。否な確信が有つても無くても伯はソンな事に頓着する人では無い。兵は謀の密なるを尊ぶといふが伯は謀の巧拙などは眼中に無い。一意奮進して貫徹せざれば止まないといふ人である。伯の此行は無論臺灣の西部を縱行して車城に向つたのであるが、其時の模樣は私共には知る由も無かつた。其後、征臺軍が凱歌を擧げて歸國することになり、樺山伯も東京に歸られた時、私は一日伯を御訪ねしたら、伯は「朝比奈、お前もよく命が有つたナア」と言はれた、そして伯が基隆で置きつ放しにされた大トランクを屆けて上げたら、コンナ物をよくマア保管して吳れた、迚も戻らうとは思はなかつた、と言はれたことがあつた。が私は夫れ迄は基隆でお別れした切り一切伯の動靜を知ることを得なかつたのである。無論伯は當時車城に到達した上、西鄕都督の征臺軍に參加して偉功を奏したことは世人の知る所でありませう。私共は唯々伯の膽力と意氣の壯なるに驚くの外は無いのである。

私が最初述べた所の、征臺前祕密の準備として伯が當年長崎・臺灣・香港等を舞臺として頗る勇敢に活躍したる隱れたる事蹟といふたのは卽ち右に擧げた所のものである。標題に似合はず內容の少ないやうなのは私の言葉の足らないので、讀者は言外に伯の雄心毅魂を想察せらるれば誠に幸ひである。

尙ほ話の結末として、基隆で樺山伯に別れた後の私共の徑路を申すと、兒玉氏を初め成富、池田、田中、城島、夫れた私とピーターが、例の戎克船で首尾克く蘇澳に著き、其所で英語の話せる熟蕃を伴ひ、夫れから花蓮港に上陸し、蘇某といふ臺灣人で蕃婦を妻とする男を賴りて、蕃莱の平原を占領する目的で、色々と蕃人などを懷柔したりして居たが、其內に病人は出來る、後續の人は來らず、殊に蕃社の中には兇惡な臺灣人が混じて居て、頻りに蕃人を唆かして私共の所持せる大金を奪はんとし、今日殺されるか明日殺されるかと夜の目も落々と合はぬやうな次第で迚も衆寡敵せず、占領の目的も遂せられないので、終に一同命からぐ\引上げて、淡水から故國に戻つたやうな次第で、此方の一行は樺山伯の赫々たる偉勳に比して誠に秋風落莫の有樣であつたのは何共殘念に堪へなかつたが、併し日本國として征討の武を輝かしたことは、私共の共に大いに歡喜を禁ずる能はざりし次第であつたのである。

偶々伯の薨去に當り、當年を追懷して感慨禁ずること能はず嗚呼がましくも自分の知れる範圍で、伯の隱れたる事蹟の一端を擧げた次第である。(屯山)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

調査研究

臺灣の畜牛保健組合に就て

鳩野政雄

一 緒言

畜牛は本島に於ける農業勞力の資源として、必須缺くべからざるものなるが故に、之れが消長は一般産業に大なる影響あるばかりでなく、直接農民の利福に關係する處亦多大なるものがある、故に之れが改良增殖を圖り個體の能力增進に努め、同時に衞生上の施設を完からしめ不慮の損害を輕減しなければならぬことは茲に贅言を要しない畜牛保健組合は是れ等の目的を完ふすべく重大なる使命を帶びて生れ出たのである。

二 由來と沿革

畜牛保健組合の由來と沿革を記するには、本島に於ける牛疫と、明治三十四年度に行はれたる農牛保護のことを述ぶる必要がある。

本島に於ける牛疫は領有前已に存在し、殆んど常在病の觀を呈し、一地方終熄すれば一地方に流行し、時に大慘害を逞ふし、多大の國費と熱心なる防疫員の努力も容易に效を奏せず、何時根滅するや計り難く、當時を回顧すれば實に慄然たるものがある、故に本島に於ける畜產上の計畫としては、牛疫を一日も早く根滅せしむることが最も緊要なる條件であつた。

牛疫が斯く多年暴威を逞ふせし原因は、一にして足らないが其主なるものは、

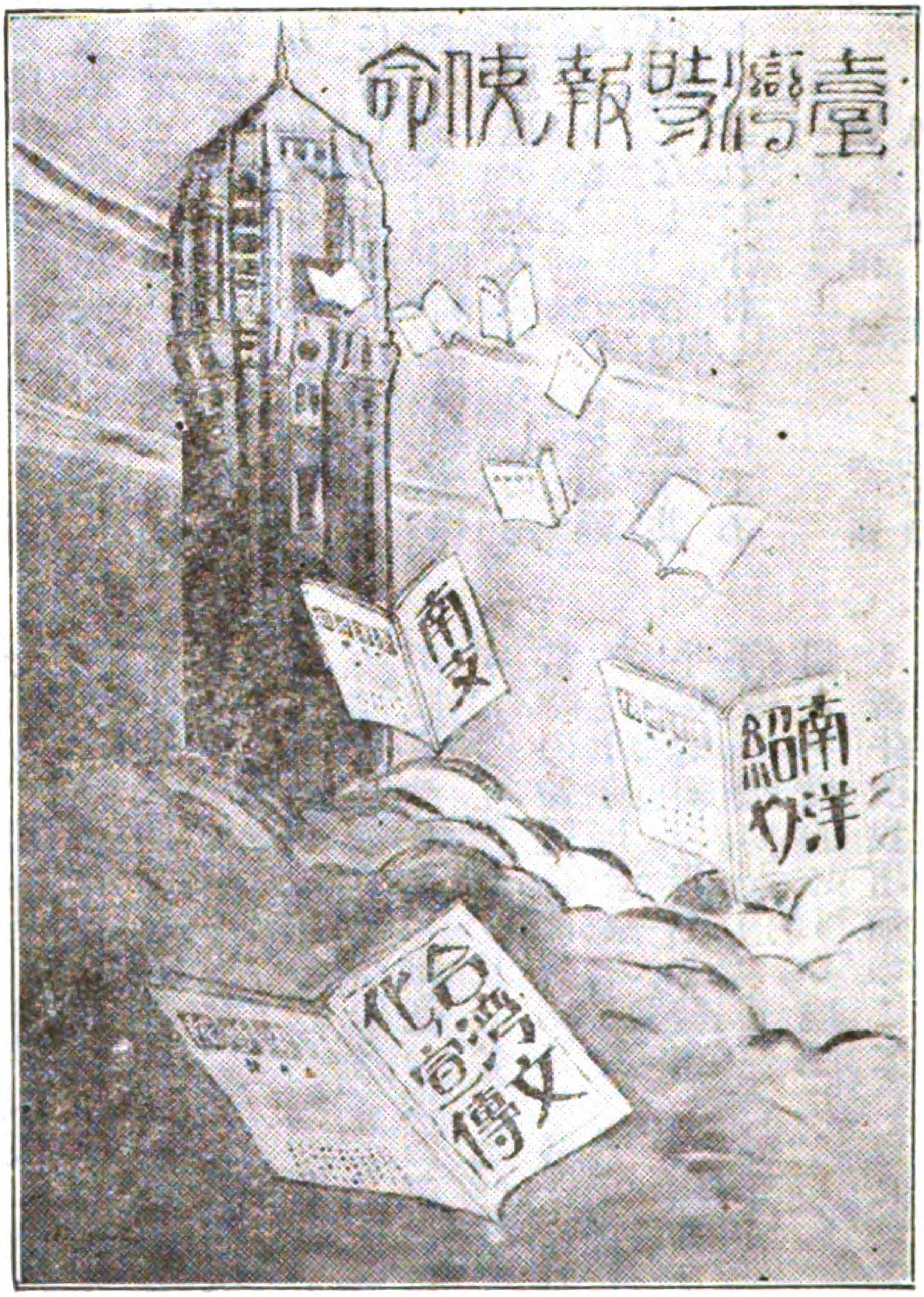
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一、獸畜衛生機關の缺如せること。

本島には約四十三萬頭の畜牛百二十萬頭の豚、十萬頭の山羊とを飼養するに拘らず、全く獸醫の開業せるものなきは畜産保護上の一大缺陷であるばかりでなく、獸疫豫防上にも亦甚しく不利不便であつた。

二、自衛自防の念慮なく獸疫を隱蔽するもの多きこと。

獸疫豫防上最も緊要なるは、畜主自ら防衛の法を講じ附近に獸疫發生し若くは發生の徵ある場合は、時機を誤らず自防自衛の手段方法を竭し苟も遺算なからしむることである然るに自衛自防の念慮なき本島人は、消毒・交通遮斷等の煩を厭ひ、極力病獸を隱蔽し、其死期の近くに當り漸く屆出をなすか或は全然屆出を爲さず死體を叢中に放棄し、若くは原野に密かに埋却する等あり、甚しきは牛疫に罹りたる畜牛を廉價に買收し、自己の邸宅に牽入れ萬一に其治癒するを僥倖せんとするものすらあり、其行爲の愚昧なる眞に呆るゝの外なく、斯る狀態にて牛疫の根滅せざるは固より當然と謂はなければならぬ。



臺灣時報出陳ポスター

以上の如き缺陷や獸疫豫防難を排除する爲め、獸醫の普及を計り畜主の自衛心を向上せしめ、且つ獸

疫に依る損害救濟の途を講じ、隱蔽、密埋却等の弊を矯め、各方面から牛疫根滅の大目的を達せんとするかのが畜牛保健組合當面の問題であつた。

明治三十四年度に於ける農牛保護と言ふのは、南部一帶牛疫大流行の爲め多數の役牛を失ひ、農耕に支障を來し、本島の一大產業として將に勃興せんとせる糖業にも少からず影響を及ぼした、其れで總督府は牛疫の流行せざる地方より役牛を購入し牛疫の爲め役牛を失ひ、農耕難に苦しめる農民に附與して救濟することゝなつたのである、其際督府は農業保護の擧を意義あらしめ、其恩惠を永久的ならしめんには之れを個人に附與するよりも、一の組合を組織せしめ其れに附與するを得策となし、各地に農牛共濟組合なるものを組織せしめ其れに下付したのである。其數は

嘉義廳	三二頭	鹽水港廳	六二頭
臺南廳	六〇頭	鳳山廳	一三六頭
阿緱廳	一〇〇頭	蕃薯藔廳	九〇頭
計	四八〇頭		

であつた、當時の農牛共濟組合は一支廳を區域とし、畜牛の頭數に依り一定の組合費を徵收し、組合員の畜牛が獸疫其他の事項に依り斃死し、資力乏しくして補充難を訴へ、爲に耕作上支障ある場合之に畜牛を貸與し、或は畜牛購入資金を貸與する等の事を行ひ、組合員は各自獸疫に對する自衞自防の途を講じ、病牛は速に屆出づることを規約に定め、救濟と牛疫豫防とを兼たる機關となり、其成績大いに見るべきものがあつた、是が畜牛保健組合の前身とも云ふべきものである。

其後、斗六廳に牛疫豫防組合、臺中廳に畜牛保健組合が設置せられ、獸疫の豫防制遏に貢献する所少からず、益々此種組合の效果を認めらるゝ樣になつたが、當時の各組合は規約等も區々に亘り何等人格を有せず、活動上遺憾の點多かりしに付督府は大正元年畜牛保健組合規則を發布し、組合を法人となし畜牛の病疫の豫防制遏、其他の衞生及畜牛の改良發達を圖るを目的とする機關たらしめたのである、然れども畜牛改良增殖のことは既に農會にて實施し來りつゝあつたので、直に之れを組合に移管するのは却て不利を招く虞ありたれば、其の事は依然農會事業に据置き、組合專ら衞生的方面に全力を注ぐことゝなつた、規則發布後設置せし組合は左の通りである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

組合名	設立年月
臺中廳畜牛保健組合	大正二年一月
嘉義廳畜牛保健組合	大正二年一月
阿緱廳畜牛保健組合	大正二年一月
臺北廳畜牛保健組合	大正二年二月
新竹廳畜牛保健組合	大正四年二月
南投廳畜牛保健組合	大正五年二月
臺南廳畜牛保健組合	大正六年三月

組合の區域は廳の行政區域に依ることは規則の定むる處

大正九年制度改正の結果、同年八月限り舊組合を解散し、九月左の如く新組合の設立を見、舊組合財產・事業等は總て新組合にて繼承することゝなつたので、從來組合の設置なかりし舊宜蘭・桃園・澎湖・三廳下をも包擁することゝなり、今では主として蕃人部落たる臺東・花蓮港の二廳に組合の設置がないだけである。

組合名	組合區域
臺北州畜牛保健組合	臺北州一圓
新竹州畜牛保健組合	新竹州一圓
臺中州畜牛保健組合	臺中州一圓
臺南州畜牛保健組合	臺南州一圓
高雄州畜牛保健組合	高雄州一圓

三　組合の特質

臺灣畜牛保健組合規則中

第三條　組合は知事又は廳長の具申に依り總督之れを設置す

組合の區域は州又は廳の區域に依る

國及公共團を除くの外組合の區域内に於ける畜牛の所有者は總て組合員さす但し所有者組合の區域内に在らざるさきは管理者を以て組合員さす

と定めありて組合の區域内にて畜牛を所有するものは悉く組合員たる義務あることゝ。

第六條　畜牛が組合區域内に於て獸疫に罹り撲殺せられ又は斃死したるさきは組合は其所有者又は管理者に救濟金を交付すべし

前項の救濟金は豫め其率を定め臺灣總督の認可を受くべし。

と規定し組合に救濟の義務を負はしめたること等は內地に於ける此種類似組合と大に其趣を異にし本島畜牛保健組合の一の特質とも見るべきである。

四　各組合の畜牛數及組合員數

各組合內に於ける畜牛數及組合員數は左の如くである。

組合名	畜牛數 水牛	畜牛數 黃牛	畜牛數 其他	畜牛數 計	組合員數
臺北州畜牛保健組合	三三、六〇四	七二五	四九五	三四、八二四	一九、六七五
新竹州畜牛保健組合	三二、八六九	二三、六一三	七	五六、四八九	二八、六二二

臺中州畜牛保健組合	五三、四〇〇	二一、七九〇	—	七五、一九〇	四八、九四三
臺南州畜牛保健組合	八〇、七八二	四三、四七四	七三四	一二四、九九〇	七八、二八六
高雄州畜牛保建組合	八一、三八四	一九、一七五	六〇六	一〇一、一六五	四三、六四六
合計	二六二、〇〇九	一〇八、六九三	一、九〇六	三九二、六〇八	二一六、九六七

（大正十年三月末日現在）

五　組合の經費

畜牛保健組合の經費は組合員の所有する畜牛に賦課徴收するのであるが、其率は各組合區々にして廳組合時代には畜牛一頭に付最低十錢、最高三十錢であつたが現今では左の通りになつて居る。

州名	定期賦課金	臨時賦課金
臺北	五十錢	五十錢
新竹	四十五錢	四十五錢
臺中	四十錢	四十錢
臺南	三十錢	三十錢
高雄	三十錢	二十錢

定期には每年四月一日の畜牛現在數に依り調定し、或期日を定め賦課徴收し、臨時は定期組合費調定後新に飼養事實の發生したるものに對し其都度、賦課徴收するのである。

次に各組合經費の總額を見るに左の通りである。

州名	經費（十年度豫算）
臺北	二七、八一八圓
新竹	四〇、四四九圓
臺中	四四、五九〇圓
臺南	八四、五二〇圓
高雄	四一、〇五三圓

六　組合事業の概況

（イ）診療　各組合は必要の地に診療所を設け、藥品及治療用器具を備へ、獸醫を配置して組合員の求めに應じ無料にて畜牛の疾病を診療して居る、本事業は之に依り。直接斃死・癈疾等の數を減じて組合員の利益を計り、間接には其地方に多發する疾病の種類を知り、飼養管理の改善其他衛生上必要なる施設をなすの資料を得、又一面には傳染病、早期發見の動機となる等、組合の事業中重要なる事項であるが、事業開始の當初は組合員の知識低級にして此機關を利用する念慮に乏しく、治療を乞ふもの少く甚だ遺憾に感せしが、組合の幹部及技術員の不斷の努力と宣傳に依り、逐年診療數增加の傾向あるは喜ぶべき現象である、又各組合に於ても經費の許す限り診療所の增設に努めて居る。

各組合に於ける診療所及技術員の數は、左の通りである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

組合名	診療所數	配置人員
臺北州畜牛保健組合	一四	一五
新竹州畜牛保健組合	一六	一八
臺中州畜牛保健組合	一四	一五
臺南州畜牛保健組合	一六	二〇
高雄州畜牛保健組合	一〇	一一
計	七〇	七九

(ロ)牛の疥癬治療　牛の疥癬治療も亦た診療事業の一部なるが、疥癬は本島各地に擴がり、之れが爲め畜牛個體の營養を損じ發育を阻害するばかりでなく、冬期に於て犢の斃死する原因も、亦多く疥癬に依る等其被害甚しく畜産上忽諸に付すべからざるものである、其れで督府は各畜牛保健組合をして左記方法に依り之れが絶滅策を企畫せしめ大に其效果を收めて居る。

一、疥癬に罹り居る畜牛を飼養する組合員は之れを組合に屆出しむる方法を講ずること。

二、前項の屆出のみに依らず畜牛保健組合に於て隨時疥癬に罹り居る畜牛の調査を行ふこと。

三、疥癬に罹り居る畜牛に對しては畜牛保健組合に於て全治する迄治療を行ふこと。

(ハ)牛籍整理と移動取締　畜牛は實に組合の目的物であつて、組合費の負擔も亦畜牛であるからして、牛籍の整否は組合事業の全般に關係する所重大である、其れ故に各組合は規約中に、

組合員は畜牛の生産、斃死、賣買、交換及讓渡等一切の異動を組合に申告する旨

規定し之れが整理に努めて居る、何分にも移動の頻繁なる畜牛であるからして、事業開始の當初は、非常に困難であつたが、年月を經るに從ひ組合員の自覺と職員の努力と相俟て今や殆んど完全の域に達して居る、是れは實に本島畜産施設上の一の誇りである。

次に元阿緱廳(今の高雄州)組合にては、獸疫殊に牛疫の蔓延は畜牛移動取締の不備に原因する場合多しとなし、之れが取締に大いに力を注いで居る、其方法は移動すべき日・場所・區域を定め、其區域に於ける畜牛の移動は悉く同一場所に於て一定の日に限り許可することゝし、獸醫及職員立會の上移動せんとする牛の健康調査を遂げ、證明書を交付し、且つ畜牛に耳標を付し、移動許可の畜牛なることを明確ならしむることにして居る、此方法は傳染病牛の移動を防ぎ、牛疫の豫防上大なる效果があつたやうである、今日も尙繼續して居る元南投廳組合(今の臺中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

州組合の一部）にては、日や場所に制限を設けず、且つ耳標も付けないが、移動せんとする畜牛は組合獸醫の檢診を受け、健康證明書交付を受けて後、移動すること〻なつて居る。

（ニ）畜牛健康調査衞生講話　畜牛保健組合の獸醫は各受持區域があり、月額旅費の支給を受け、事情の許す限り常に自己の受持區域内を巡視し、畜牛の衞生狀態を視察し、飼養管理の指導をなしつゝあるが、其れ以外組合は農閑期を利用し、全畜牛に就き牛籍簿と照合して健康調査を施行して居る其結果種々の病牛を發見し、牛疫流行中の如きは輕症牛疫を發見して豫防制遏を敏活ならしめ、大事に至らざりし等多大の效果を收めたのである。

又組合は健康調査と同時或は組合員集合の機會を利用し、時には特に組合員を集め、畜牛衞生上必要なる注意事項、獸疫豫防上の心得、其他飼養管理改善等に就き講話を實施して居る。

（ホ）畜牛の去勢術施行　本島では役牛は悉く去勢を行ふ慣習であるが、在來の術式は聊か亂暴にて爲に危險を伴ひ、癒合の如きも多くの日數を要するので、同一程度の畜牛でも去勢を了へたものは幾分高價に取引せらるゝのが例である、其れで組合は組合員の求めに應じ無料にて、去勢を行ふことにしたのである、所が組合獸醫の新式法に依る去勢は在來式に比し危險が無いばかりでなく、癒合期が非常に早いので、大いに賞讃を博し、爲に獸醫に對する信頼の念を高め診療事業等にも好影響を及ぼしたのである。

（ヘ）救濟金交付　獸疫に罹り斃死又は撲殺せられたる、畜牛の所有者即ち組合員に救濟金を交付することは、法の命する所であるが其率は左の通りである。

區分	交付率
一、畜牛が牛疫感染の疑ある爲撲殺せられたるとき	評價額の十分の八
二、畜牛が獸疫に罹り撲殺せられたるとき	評價額の十分の五
三、畜牛が獸疫に罹り斃死したるとき	評價額の十分の三

此率は各組合同一であるが、地方に依り畜牛の價格に多少の差があり、且つ組合の財政的關係もありて、其最高限度は左の如く相違して居る。

組合名	超過し得さる最高金額		
	第一項の場合	第二項の場合	第三項の場合
臺北州畜牛保健組合	九〇円	六〇円	三五円

新竹州畜牛保健組合	九五	六〇	三五
臺中州畜牛保健組合	八〇	五〇	三〇
臺南州畜牛保健組合	一〇〇	六五	四〇
高雄州畜牛保健組合	八〇	五〇	三〇

次に大正二年度より大正八年度に至る七箇年間救濟金交付の狀況は左の通りである。

救濟金交付頭數及金額（自大正二年至大正八年）

組合名	頭數	金額
臺北廳畜牛保健組合	一三六	二、一〇七・七〇〇
新竹廳畜牛保健組合	三七八	三、七二一・〇〇〇
臺中廳畜牛保健組合	六三九	一三、四六五・一〇〇
南投廳畜牛保健組合	—	—
嘉義廳畜牛保健組合	三、〇九六	四〇、九三七・二五〇
臺南廳畜牛保健組合	四三八	九、〇三〇・八九〇
阿緱廳畜牛保健組合	三、〇六一	一二、五二三・二八〇
計	七、七四八	八一、七七五・一八〇

臺北は主として野獸疫結核、新竹は氣腫疽、臺中は氣腫疽と牛疫、嘉義臺南阿緱は牛疫である

七　結　尾

前に述べたやうに多年本島に猛威を逞ふし、產業上大なる脅威として心膽を寒からしめたる牛疫は、今や全く根滅に歸し、官民共に愁眉を開くに至つたのは抑も誰の働に依るが、其れは固より官民一致の努力に依ることは勿論であるけれども、畜牛保健組合が自治的機關として活動せし效果の顯著なることは、特筆大書すべき事績であると信ずる。

獸醫の普及、牛籍の整理、診療事業、救濟事業等、悉く是れ牛疫防遏上の有力なる手段であつて、是れありしが爲め本島の牛疫を根滅することが出來たのである、故に畜牛保健組合は、本島牛疫根滅の殊勳者と謂ふも敢て過言でない。

畜牛の大敵たる牛疫撲滅を當面の大目的として奮進せし、畜牛保健組合は今や其效を奏し、目的の大半は達し得たけれども、氣腫疽•炭疽•野獸疫•疥癬等の小敵は今尙ほ隨所に出沒し、畜牛界の平和を攪亂しつゝある、小敵たりとも侮らず益〻奮勵努力して畜牛界の安全を計らねばならぬ。

牛疫の根滅せし今日、尙ほ畜牛保健組合存立の必要あるやを疑ふものがある樣であるが、自分としては畜牛が本島產業上絕對に必要なる以上は、之が保護機關も亦絕對に必要と信ずる。

然しながら大敵を亡したる畜牛保健組合は、其陣容や作戰計畫に一變革を要するは勿論である、元來畜產の發達を企つるには、改良增殖方面の積極的施

設と之れが保護をなすべき消極的計畫と兩々相俟つて併進し、始めて其目的を達し得べく、此兩方面は恰も車の兩輪の如く相離るゝことの出來ないものである。

故に此際畜牛保健組合規則第一條に規定せる改良增殖の方面も組合にて實行しては如何との意見を有するものもある、之は牛疫の全滅せし今日、機宜に適したる說として、賛意を表するに躊躇しない、然れども本島の畜產の內には農家の副業として最も適切有望なる、而も需要の旺盛にして地方經濟上の、重要地位を占めて居る豚のあることを忘れてはならぬ、今若し前說のやうに畜牛に就て積極消極共に畜牛保健組合にて經營することにせんか豚は依然農會にて經營しなければならぬ、斯くては同じ人の手にて同じ樣な仕組で爲し得る事業を、二樣の機關に依りて經營することゝなり、非常な不利不便を感ずるのである、其れで自分としては畜牛保健組合を總ての家畜を網羅する畜產組合に革め、畜產に關する施設は擧げて畜產組合に於て經營施行せしむるを最も機宜に適したる方策と思ふ、而して組合の區域は郡を單位とするを可とする、何故なれば州を區域とするときは餘りに區域擴大に失し地方に依り組合員の希望や意思が相反する樣なことがないとも限らない、若し此種組合が或地方を犧牲にして或地方にのみ力を注ぐ(獸疫豫防のことは別である)樣なことがあつては、眞の自治的組合の性質を沒却することゝなるのである、組合は組合員の受くる利益を平等ならしむる、と云ふことを理想としなければならぬ、畜牛に就て一例を言へば、高雄州の恒春郡の如き生產地と、澎湖郡の如き地方とは、組合員の希望や意思に大に異る點があるに相違ない、斯る地方を一區域となし、同じ規約の下に置くは無理である、組合は組合員の組合であることを徹底せしむるには利害の相反する大地域を包擁することは考へものである、此故に自分は郡を一區域とすることを主張したい、而して州下各組合を組合員とする聯合組合、即ち上級組合を組織し、郡組合の指導及大區域を利便とする事業(例之救濟事業の如き)を此上級組合に於て施行することゝしたならば殆んど理想に近い組合となり本島畜產界に貢獻する處、蓋し大なるものであらうと信ずる。

今や乳肉に皮革に毛織物に所謂文化的日常生活品

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の大半は畜産物であつて、畜産品の需要は日に月に増進するのである、吾々畜産關係者はあらゆる方面から畜産の發達に就て研究もし努力もしなければならぬ、是れ自分が畜牛保健組合を紹介する序に之が改善に就き一箇の私見を付加へた譯である。

嘉南大圳一斑

公共埤圳嘉南大圳組合管理者　枝　德　二

一

嘉南大圳……舊名官佃溪埤圳……は我臺南州下に於て一大水利事業を經營するものであるが其の設計の大なる、規模の壯なる、工費の巨額なる地域の廣汎なる、本島は勿論、東洋にも未だ其の比を見ない大事業で、世人は本事業と、彼の日月潭の發電工事を併稱して本島の二大姉妹事業と云つて居るのである。

由來臺南州……舊嘉義廳、臺南廳管內には、本島第一の廣濶なる大平野を包擁せるにも拘はらず、灌漑排水の不良より、農耕地としての加工改善の法十分達成せられずして、所謂看天田、若しくは劣等の蔗園として耕作し來つたのである。然るに耕作上の不便、生産の減少、地方の退耗等、蓋し之れより甚しきはなく、國家經濟上の損失は實に尠くないので此の情勢を看取せられた我が督府に於ては（大正六年三月嘉義臺南兩廳下に亙り調査員を特派して鋭意取調へをなさしめられた結果）當時の臺南廳六甲支廳管內の官佃溪の河身を閉塞して一大貯水池を築造し、灌漑工事を行ふに於ては優に本島南部の生産を劇增し、國利民福之れより大なるはなしとの見込が立つたので同年十一月初めて此の埤圳計畫案の作製に著手せられ、同時に極めて詳細なる經濟上の利害得喪等を査覈計究せられ、其の翌七年十月事業費四千二百萬圓を投して面積十五萬甲歩に渉る大面積に灌漑するの計畫を遂行することに決せられたのであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。此の擧旣に民意に叶ひ、地方農民又は人民總代の名を以て其の速成を督府に嘆願する又一方督府に於ては念には念を入れ、企畫協調萬遺憾なきを期して甚大の努力を傾注せられたことは識者の齊しく認むる處で、愈決定を見るまでの經緯と曲折とは決して尋常一樣ではなかつたのである。

事業費四千二百萬圓を以て六箇年繼續事業となし臺南州管内に於て現在旱魃、排水不良等に苦みつゝある看天田、蔗園其の他の土地十五萬甲步に亘り灌漑及排水の設備を施し水稻、甘蔗其の他の農作物の增收を圖るに在りて區域内土地には三年一回即ち夏季一回水稻作、甘蔗作、雜作の輪換作法を採らしむる方法であるから本島空前の大工事として世人の耳目を聳動したのも又所以なしとせずである。

嘉南大圳工事用堀鑿機作業狀況

二

此の事業の效果として關係地方一帶の地方俄かに增進し生產力旺盛となり、殊に米糖の增收を來し以て組合員各自の利益を增進するのであるから、即ち本島の富源開發で文化事業の建設と云つても過言ではないと信ずるのである。

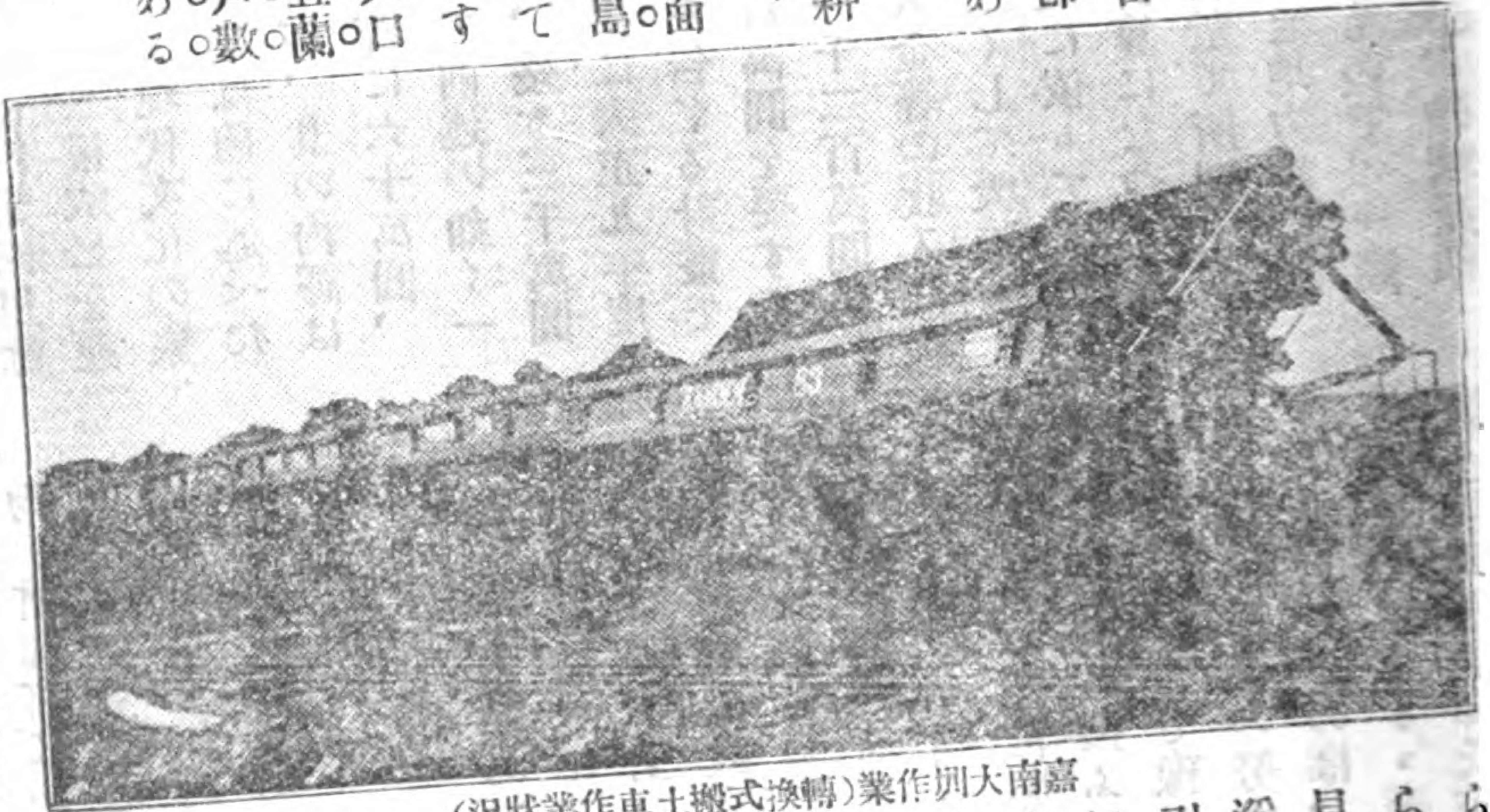
如斯效果を見るのであるから、我が政府に於ても地方改良、富源開發上最も緊切なる事業と認められ、愈ゝ大正九年七月臨時帝國議會の協贊を得て、國庫より一千二百萬圓を補助せらるることに決せられたのである。以上抒べた如く本事業は當初我が督府に於て計畫、調査、設計せられたのであるが元來事業其のもの、目的が灌漑區域内の關係住民の利益增進を主眼とするのであり且つ又其の工費の大部分は關係地方民即ち斯の水

利を受くべき土地の業主、典主、佃戸及該土地を原料採取區域とせる製糖業者の負擔であるから之れが工事は其の地方民自ら經營するのが正當であり尚ほ其の上便宜も鮮くないと云ふので官營の方針であつたのを一變して民營即ち本組合の經營に一任せられたのである。

統計の示す處に依れば臺灣全島の耕地全面積は約七十五萬甲步であるが、本組合の經營に屬する灌漑豫定耕地面積は十五萬甲步であるから、實に全島耕地の五分の一に相當するのであつて臺南州下の大部分を占め其の間散在する街庄の數四十五其の戸數約十萬人口約四十萬を包擁し假りに之れを舊宜蘭廳の耕地全面積に比すれば約五倍戸數人口に於て約三倍に相當するのである實に廣大な面積である。

三

此の本島空前の事業たる嘉南大圳工事の概要は恐らく何人も知らんと欲する處であらう依つて左に其の大體を述べて見よう、其の水源は曾文溪と濁水溪の二大溪を以てし、曾文溪水の引用については、臺南州曾文郡内に於ける官佃溪を閉塞して一大貯水池を築造し、最大流量一千八百立方秒尺、延長一里餘に亘る隧道及暗渠により鳥山嶺を貫き、曾文溪の上流より溪水を導きて官佃溪流域に於ける雨水と共に貯水し、以て必要に應じて流出給水するの方法を採り、又濁水溪に就ては、臺南州斗六郡莿桐庄、新庄附近に於て同溪護岸に取入口を設け溪水を直接田園に引用給水するの設計である。而して曾文溪水を貯溜する貯水池滿水面積は一億平方尺で、最大貯水量は五十五億立方尺、堰堤の高さ百七十尺、堰堤頂部の延長六百五十間であるから宛然一大湖水の感がある。



嘉南大圳作業（轉換式搬土車作業狀況）

又圳路は幹線延長二十七里餘、支線延長に至りては實に二百三十九里餘で排水路の延長は四十四里餘である。是等工事は皆最近科學の精華と權威とを運用して築造するもので最も進歩したる現代文化の象徵である。而して本事業に要する費用は前に述べた樣に四千二百萬圓を要するのであるが、其の內譯は工事費に三千七百二十七萬圓、調査費に六十萬圓、事務費に四百十三萬圓である、而して前述の如く一千二百萬圓は政府の補助を仰ぐから、殘り三千萬圓を組合員が負擔する次第である。工事は大正九年度より始めて大正十四年度を以て完了を告ぐる計畫であるが、此の六箇年間に乃ち四千二百萬圓を要するのである。又政府から補助せらるゝ一千二百萬圓の外に特別賦課金、雜收入金、銀行借入金等の收入に俟ちて埤圳新設費等を支出するので斯くして大正十五年度より特別賦課普通水租等の收入に依りて大正二十四年度に至り負債の償還を終る計算になつてゐる。倘しそれ本事業が今後五箇年後に於て所期の工事を完成するに至つたならば其の生産と地力並に地方經濟に及ぼす影響とは、實に至大なもので、一箇年米産額の增加は四十二萬石以上に及び、砂糖産額に於ても其の增收百七十萬擔以上に達し、各種生産物の增加實に一箇年二千萬圓以上に達するのである。然かも地價の騰貴に至つては約一億二千萬圓以上を算し、如何に本島富力の增進、地方經濟の發展に至大の關係あるかは、更に余の喋々を要せない處である。

四

以上本事業の沿革及工事の概要と其の效果に就いて略述し來りたるが、余は本事業の成立前臺南廳長として、本務上の關係からして本事業計畫上に參與し來り次いて成立後に於ては大正九年九月一日より臺南州知事として本組合の副管理者の職に就いた結果事業の運營進行等部分的には詳知してゐたが、昨年十月に至り圖らずも山形氏の後を襲ふて專任管理者に職就し、世間注視の焦點である此の嘉南大圳の大業を雙肩に擔ふことゝなつた。此の上は只一意專心萬難を排して豫定の計畫に基いて完成を期すべく夙夜孜々渾身の努力を捧げつゝあるのである。終りに一言したいのは、斯界の權威者として盛名を中外に馳せて居らるゝ大同電氣株式會社の技術監督工學博士佐野藤次郎氏が特に我が請いを容れ內地より態

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

々舊臘來臺せられて、十餘日に亘りて熱心且つ精細に計畫竝工事一切を實地に就いて視察調査せられた結果大體に於て最初の設計を動かす必要更に無く唯同博士の意見に依り或設計の一部に多少の變更を爲す事にしたのであるが、同博士に依り、多大の安神を得たのみならず、事業遂行上鮮からざる參考と利益を得たことを感謝してゐるのである。

（了）

世界の砂糖產額と戰前後の獨逸糖業

田原天南

一　緒言

世界的沈衰狀態にある糖業の前途は如何であらうか、我臺灣の糖界も、世界的波動の影響を受けて頗る不振に陷れり、大小の製糖業者は其の恢復に苦心して居るが、今日の所未だ復活の曙光を認めない、最近華府會議の狀況觀察を兼ねて糖業をも視察して歸朝したる政友會總務で、臺灣製糖の重役たる山本悌二郎氏の說によれば、米國の糖界も悲況のドン底にあり、一封度二仙の安値を示し居る由なるも、千九百二十二年の玖瑪新糖は三百萬噸を製出するに過ぎず、英米其他の消費高四百五十萬噸に對し多大の不足を告ぐる結果は、先行活況を呈する見込充分なりと、玖瑪糖況の恢復は、直ちに我臺灣糖業に好影響を與うるもので、臺灣糖の福音曙光と云ふべきである、今私は近著の獨逸新聞や雜誌の糖業紀事を綜合して、「世界砂糖の收穫高と戰後の獨逸糖業」を草し聊か我糖業家の參考に供したいと思ふ。

二　世界產糖高

世界の糖界は、甜菜糖と、甘蔗糖の二種に分かれるが、戰後の狀態を見るに、甜菜糖の產額は增加しつゝあるに反して、甘蔗糖の收穫は著しき減少を示して居る、今千九百十九年乃至二十年以來の世界產糖

額を表示すれば左の如し。（單位百萬ツエントネル）

（一）歐洲甜菜糖

	一九二一—二二	一九二〇—二一	一九一九—二〇
獨逸	二六・〇〇	三三・三五	一四・七九
墺國	〇・四〇	〇・二八	〇・二〇
チエック、スラバック	三二・一三	二三・七〇	九・八二
洪牙利	〇・六〇	〇・九八	〇・一八
波蘭	四・四八	四・〇〇	二・八〇
佛國	五・六五	六・四三	三・四六
白耳義	五・六〇	五・〇一	二・九三
和蘭	六・七一	六・三二	四・七五
其他	一五・四七	一五・二八	一三・六〇
計	七七・〇四	七三・九四	五一・三三

本表に據れば、今年の營業年度に於ける産糖額は、前二年に比し若干の増加で、前年に對し三、一〇、前々年に對し二四・七一の割合に當り、殊に獨逸は増加國として第一に位し、歐州第二の産糖國となつたチエック、スラバック國の増加は比較的大ならず、斯く歐州の産糖額が増加しても、需要に伴はないので、矢張り他の甘蔗糖國から輸入を仰がざるを得ないのである。

（二）米國の甜菜糖

	一九二一—二二	一九二〇—二一	一九一九—二〇
北米合衆國	一八・〇〇	一九・二九	一三・〇六
加奈陀	〇・四六	〇・六九	〇・三三

米國の甜菜糖は年々著しく増加して居るが、本年は稍や減少した、加奈陀も同樣である。

（三）歐州の甘蔗糖

	一九二一—二二	一九二〇—二一	一九一九—二〇
西班牙	〇・一〇	〇・一四	〇・一二

（四）米國の甘蔗糖

	一九二一—二二	一九二〇—二一	一九一九—二〇
合衆國	二一・三三	二一・九九	二〇・七六
西印度（含玖瑪）	六〇・一〇	七八・〇九	七四・八五
英領西印度	二・九一	三・一三	三・八二
佛領西印度	〇・八〇	一・〇〇	〇・八九
サン、ドミンゴ（含ハイチー）	五・〇六	三・八八	三・六二
中米	二・九四	三・七〇	二・五四
南米	一七・六六	一九・七四	一八・七八
計	一一〇・八九	一三一・五四	一三五・二六

此表に據れば米國の甘蔗糖は、前二年に比し著しき減額で、即ち二〇、八四、乃至一四、五七の減少であるが、此の多大なる減額は、世界糖況の上に重大の影響を與うる事は勿論で、砂糖先高の見込確實と見ざるを得ない、殊に減額の最も大なる玖瑪に於ては、生産過剩、糖價暴落の結果、今や生産費にも足りない事となり、痛く其の栽培を縮小した爲め本年の收穫は前二年に比し實に一七、九九乃至一四、七五の減少となつたのである。歐州に於ける甜菜糖の増額は

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

甘蔗糖の市況を下落せしめた一原因を爲して居り、此の增額は今後も同一の傾向を維持して甘蔗糖と競爭し得るや否やは不明であるが、然し歐州糖の增額に到底世界の需用に應ずるに足らないので、米國に於ける甘蔗糖の大減收によつて一層世界に於ける砂糖の缺乏を來し、遠からず糖況の恢復を見るであらう。茲に注意すべきは、世界に於ける甘蔗糖の第一位なる玖瑪で、同島の糖業は世界の謎と稱せられ過去の實例によれば、非常の增收と計算された年が却つて著しい減收の事あり、減收と計算された年が意外にも增額の事あり、本年度の收穫は前二年に比し著しき減額であるが、それは果して實際に近いものであるか否やは今の所正確の判斷に苦しむけれども、兎に角前二年に對し少なからぬ減收である事は爭ふべからざる事實と看做して可なるべく、從つて砂糖の供給足らず、糖價の騰貴すべきは必然の勢であらう。更に亞細亞に於ける甘蔗糖の收穫を見るに

(五)亞細亞の甘蔗糖

英領東印度	四四·〇〇	四七·三〇	六〇·九六
瓜哇	三一·〇〇	三一·〇〇	二六·七二
臺灣及日本	八·五〇	六·八四	五·六七
比律賓	五·〇〇	五·六	四·一九
計	八八·五〇	九〇·九三	九七·五六

亞細亞の甘蔗糖も前二年に比し、少なからざる減收で、前年に對し二、四二、前々年に對し九、〇六であるが、而かも猶ほ糖價の不振に苦しんで居る、是れは玖瑪其他米國糖の生產過剩と投賣暴落の影響を受けた爲めであるが、今や玖瑪其他の甘蔗糖大減收で、糖價の恢復確實とすれば、亞細亞の甘蔗糖も之に釣り上げられて騰貴する事は疑のない所であらう。次に

(六)阿弗利加の甘蔗糖

埃及	一·五〇	一·六〇	一·七三
マウリチウス及	四·〇〇	四·六〇	四·七一
ナタール	三·〇〇	二·八〇	二·八六
其他	一·五〇	一·九〇	一·四二
計	一〇·〇〇	一〇·八〇	一〇·七二

阿弗利加の甘蔗糖は、斯くの如く最近三年を通じて、其の收穫に何等の增減がなかつた。

以上の結果を綜合すれば、左の事實を得べきである。

甜菜糖收穫	一九二一—二二	一九二〇—二一	一九一九—二〇
歐洲	七七·〇四	七二·九四	五二·八二

米國	一八·四六	二〇·〇八	一三·三九
計	九九·五〇	九四·〇二	六九·七二
甘蔗糖收穫			
歐洲(西班牙)	〇·一〇	〇·一四	〇·一三
亞米利加	一二〇·六九	一三一·五三	一二九·二六
亞細亞	八八·五〇	九〇·九三	九七·五六
阿弗利加	一〇·〇〇	一〇·八〇	一〇·七二
濠洲	六·四〇	四·七〇	四·四五
計	二二五·六九	二三八·一〇	二三八·一二
世界の砂糖收穫			
甜菜糖	九九·五〇	九四·〇二	六九·七二
甘蔗糖	二二五·六九	二三八·一〇	二三八·一〇
計	三二五·一九	三三二·一二	三〇七·八四

要するに世界の本年砂糖收穫は一昨年に比し七百三十六萬ツェントネルの増收なりしも、昨年に比すれば二千九十三萬ツェントネルの大減收であるから、本年の砂糖は供給に應ずるに足らず、缺乏の結果は糖價の騰貴、糖況の恢復を來すこと疑ひなきものと確信する。

三　戰前十年間の世界產糖額

最近三年の世界に於ける砂糖產額は前述の如くであるが、私は參考の爲め戰前十年間に於ける重なる製糖國の產額を表示する、戰爭中は交戰各國とも正確なる統計を缺き且つ收穫も一時の變調に屬するから之を除く。(單位瓲)

(一)甜菜糖

國	一九〇四—一九〇五	一九〇五—一九〇六	一九〇六—一九〇七	一九〇七—一九〇八	一九〇八—一九〇九
獨逸(精製糖)	一、四四四、八九四	二、一六〇、六九三	二、〇一七、八四二	一、九二四、八九八	一、八七三、二九九
墺洪(精製糖)	七九〇、六四九	一、三四二、八八二	一、二九四、〇九八	一、三六九、三三二	一、三四〇、九八六
佛國(精製糖)	五六二、七三六	九八四、六七二	六八二、八五二	六五六、八三二	七二三、〇八二
露國	一、二四六、〇七七	一、〇四一、一〇五	一、三九一、三四九	一、三八三、六〇三	一、一七七、三四九
白耳義(精製糖)	一五四、九六八	二九七、二九〇	二五九、三八九	二〇九、八一七	二三三、一五三
和蘭	一二四、五五一	一八六、九〇九	一六四、五〇八	一五八、九三四	一九四、九九二
丁抹	四四、一二七	六四、九七〇	六六、二一六	五三、六六〇	六六、二九五
瑞典	八四、〇六八	一二三、四〇四	一六三、三九六	一二一、四四六	一三六、一二〇
羅馬尼	一九、八六三	二八、五八六	二九、〇九七	二〇、九六六	二四、九四二
伊太利	七八、六八一	九六、九一六	一〇六、六八二	一三六、九六六	一六五、三一二
西班牙(含甘蔗糖)	一〇〇、九二一	九七、七八二	九七、二三四	一二一、〇六五	一三三、四〇〇
北米合衆國	二一七、九八八	二一九、三七三	二六三、五〇六	四三八、一五三	四二〇、〇四七

國	一九〇九—一九一〇	一九一〇—一九一一	一九一一—一九一二	一九一二—一九一三	一九一三—一九一四
獨逸(精製糖)	一、八三三、六六七	二、五三〇、八八二	一、四四七、九五一	二、四三五、六九四	二、四四四、二八三
墺洪(精製糖)	一、二八二、三三一	一、五六五、六四九	一、〇五五、一〇七	一、七〇九、五二二	一、五一四、三五三
佛國(精製糖)	七三三、九〇二	六五〇、四九四	四六五、三五五	八三六、九二七	六七七、七〇〇
露國	一、〇六六、一九七	一、八九一、四四九	一、八九〇、八三三	一、三七六、五一五	一、五二九、三一七
白耳義(精製糖)	二四九、九四二	二九六、三八九	二二一、六九〇	二七〇、二三六	二〇四、九六四
和蘭	一八〇、九九四	一九九、三五五	二四〇、七七〇	二八六、四六九	二〇九、六三八
丁抹	六三、七六〇	一〇〇、五一〇	一二四、〇〇〇	一九三、〇〇〇	一四一、四〇〇
瑞典	一二六、二七一	一七三、九八一	一三七、三七六	一三一、九六二	一三七、三〇〇
羅馬尼	二七、六九八	五〇、〇〇三	三三、九八〇	三四、七五八	三七、四一三
伊太利	一一〇、七九五	一七三、一八四	一七一、〇〇〇	二〇三、八〇六	三〇四、三六四
西班牙(含甘蔗糖)	一〇七、六〇〇	九一、三六五	一一三、〇〇〇	一六七、九七九	一七八、三〇七
北米合衆國	三八五、八五一	四六四、二〇七	四六二、二一六	五四三、一四七	六二七、四九六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（二）甘蔗糖

	明治三十六年期	四十年期	大正元年期	五年期	六年期	七年期	八年期	九年期	十年期	十一年期（豫想）
北米合衆國	二三八、二五六	三六五、一九二	三四七、〇一四	二四六、五七七	三六七、一八一	三七五、四四六	三三五、九九二	三二一、六六六	三二六、八五二	一四七、一九二
比律賓	一一三、六四六	一二九、七七八	一二〇、二九七	一五一、七二二	一二三、三八〇	一二七、四四九	一四九、一八〇	一九〇、七〇一	一五六、二〇一	二二〇、〇〇〇
布哇	三八六、六六五	三九〇、〇〇九	三九八、七六四	四七三、二六七	四八四、九八四	四六九、九五二	五一三、六八七	五三一、四八〇	四八八、二三三	五五〇、八二九
玖瑪	一、二〇二、三八一	一、二六七、三七四	一、四八六、〇四八	九九八、九四一	一、五六八、三九五	一、八四四、八〇七	一、九〇五、七〇四	一、八九五、九八四	二、四二八、五五七	二、六九七、七三二
ポルトリコ	一四七、三三〇	二二八、一九四	二二三、一一〇	二〇三、〇〇〇	二四八、六七五	三二三、六二〇	二九九、四五五	三二〇、〇〇〇	三六〇、三五三	三二六、〇〇〇
墨西其	一〇七、〇三八	一〇七、五二九	一〇九、二四九	一三三、二八九	一四三、一七九	一四七、九〇五	一六一、六〇二	一五一、七三五	一四八、六七一	一三〇、〇〇〇
アルゼンチン	一三〇、〇九一	一三七、〇九一	一八八、六一八	一三三、四二七	一六一、六八八	一三七、三三二	一四八、五九二	一八〇、〇九一	一四七、二四八	一四九、三二二
秘露	一六六、九八	一六〇、〇〇六	一六一、二〇〇	一三五、三〇〇	一五七、三〇〇	一五四、七三〇	一五一、二九八	一五六、三二六	一四二、九〇三	一四六、〇〇〇
巴西	一八七、八二三	二二七、七四七	二六四、九四九	二三九、〇〇〇	二四八、〇〇〇	二五三、〇〇〇	六七、〇〇〇	二三六、〇〇〇	二〇四、〇〇〇	二〇三、六九四
埃及	六六九、八六七	五五、七三六	六二、四五八	四三、八七〇	三四、八三五	五二、五二五	五七、〇九四	五七、八七九	七九、四二〇	六七、〇〇〇
ナタール	一九、六四七	二七、〇三〇	二一、三一六	二四、六二三	三二、五〇六	七八、七三四	八二、〇〇〇	七二、三四一	八二、五八九	八八、七二四
マウリチウス	二一七、六四六	一四〇、二〇八	二〇四、五〇二	一八四、四三八	一八四、七五一	二〇一、三九四	二二三、八五五	一六九、四九九	二六四、七六六	二四一、九九〇
英領印度	二、三〇三、七九一	一、七五三、二一七	二、二四〇、六七三	二、〇七八、七三一	一、九〇二、九四一	二、一六一、三二八	二、二五六、三七四	二、四九〇、四一六	二、五九〇、四一六	二、九一一、七〇〇
濠洲聯邦	一六七、三三一	一七六、〇〇五	二〇八、八七二	二二〇、九六六	一六八、七五八	一五一、七九〇	二二四、九七四	一九三、六五二	一八一、一六三	二五〇、〇〇〇
ヒヂー群島	六〇、九七五	四六、九六六	四二、五七一	六九、四三〇	六七、一九八	七〇、〇四八	六九、八九八	七三、七九〇	六九、九六七	―
ジャマイカ	一九、二一一	二一、二六八	三二、三一四	二八、九三七	二四、三八五	一九、三二九	二六、七二二	二六、八四五	―	―
トリニダット	二一、九五八	三八、八三二	六三、九八五	五一、三七五	四九、七一八	五三、八二一	五二、七八五	四一、三七一	四一、九五	四七、三五〇
バルバドス	六七、七〇〇	五三、四四一	一七、〇三〇	三八、六四一	三六、九三六	一八、五八八	四一、〇四七	二七、一九八	二九、一八一	三五、〇〇〇
英領ギイネヤ	一二四、六一七	一三三、六八八	一三三、二四〇	一〇八、二〇五	一三二、三四四	一六一、一七三	一〇八、二四〇	一〇〇、八八四	八三、五六四	一〇一、七二五
其他英領	三六、一二七	三三、九五一	二八、六六七	三一、二五〇	二六、二六七	二三、三〇八	二八、五三九	二三、四四一	二一、〇九八	二四、〇〇〇
佛領殖民地	一〇〇、〇一三	八六、二〇九	一一六、七五一	一三五、三九八	一三〇、一〇六	一〇六、〇四一	一一七、五六六	一四〇、七〇〇	一二〇、五六六	一二五、六八〇
スリナム	一〇、九六五	一〇、七九〇	三三、六五五	一二、九一〇	一二、九三六	一〇、九三三	一一、〇一五	一四、二〇七	九、六五四	一四、〇〇〇
爪哇	一、〇九九、〇四三	一、〇三九、一七八	九九〇、七〇四	一、二〇三、七三二	一、二五六、〇四四	一、三三四、一〇五	一、三六三、六七八	一、四七五、七八〇	一、三五一、六七三	一、二四九、二〇〇
臺灣（單位千斤）	五〇、六八〇	一〇六、四六一	二九二、六四五	五三五、一〇七	七六三、四九〇	九七六、五五八	四八六、三五六	三七〇、九六八	四二二、六八五	五二二、九〇九

四　戰前の獨逸糖業

世界に於ける甜菜糖の三大主產地は獨逸、墺供、露國であるが、墺露とも世界戰の結果、國內に革命が起り、政體が動搖し、經濟組織が破壞されて、製糖業も全然衰頽し、殊に墺國はチエックと供牙利とが獨立した爲めに、今や產糖國の地位を失ひ、戰後の甜菜主產地としては獨り獨逸が存在する事となり、戰前に比すれば植付面積と云ひ、甜菜の收穫、砂糖の產額と云ひ頗る減少せりと雖も猶は第一位を占めて居る、私は戰時及戰後の糖業を述ぶるに先ち、戰前の獨逸糖業を略記する。

懸賞ポスター一等外

甜菜糖業は、言ふ迄もなく獨逸化學者の發明に係り、千七百四十七年伯林で有名な化學者マルクグラーフ氏が甜菜根から甘蔗糖に等しき砂糖を製造し得る事を發見したが、時機未だ到らず、マルクグラーフ氏の貴重な發見も其儘閑却せられ約五十年間も實用に供されなかつたが、フリエドリヒ、カール、アハルド氏は之を遺憾として、技術上の研究を爲し、苦心慘憺の結果、始めて下シレジエン州なる氏の所有地クーネルンに獨逸最先の甜菜糖工場が創設されたのである、千八百九年には六年間研究の餘に成りたる氏の「歐州に於ける甜菜糖製造法」なる名著がライプチヒ市の書林から發行され、世界の糖界に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一大革命を來たしたのである、爾來同業は歐州各國に勃興し、更に他の大陸にも傳播し、殆んど甘蔗糖と競爭の勢を呈したが、我臺灣糖業が領臺當時僅かに八九千萬斤に過ぎざりしもの、今日は五億萬斤以上に達し、猶は駸々進歩しつゝある實況と斯くの如き奇蹟的發達には、當時の臺灣當局者が如何に苦心せしかを思ひ、更に獨逸甜菜糖業の發達史を讀み、其の苦心努力の跡を認めるのである。今私は戰前に於ける獨逸糖業の發達狀況を略表にして示す。

	工場數	消費甜菜（一千キロ噸）	粗糖産額（一千キロ噸）	一ヘクタールの甜菜收穫（ドッペルツェントネル）	甜菜歩留（百分率）
一八三六—三七	一二二	二六、三四六	一、四〇八	一七・二九	五・六五
一八四〇—四一	一四五	二四一、四八六	一四、二〇五	一七・〇〇	五・八八
一八五〇—五一	一八四	七、八三二、六五	五三、三四九	一五・八〇	七・二五
一八六〇—六一	二四七	一、四一七、七〇二	一二六、四六六	二一・八〇	八・六二
一八七〇—七一	三〇四	三、〇五〇、七四五	一八六、四四八	二一・六〇	八・六二
一八七五—七六	三三二	四、一六一、二八四	三五八、〇四八	二一・六二	八・六〇
一八八〇—八一	三三三	六、三二二、二〇三	五七七、〇〇〇	二一・〇六	九・〇四
一八八四—八五	四〇八	一〇、四〇二、六八八	一、一四六、七四〇	九・〇七	一〇・〇二
一八八五—八六	三九九	七、〇七〇、三一六	八三八、一〇五	八・四四	一一・八五
一八八六—八七	四〇一	八、三〇六、六九二	一、〇二三、七三四	八・一六	一二・一二
一八八七—八八	三九一	六、九六三、九八〇	九八八、八六八	七・二六	一二・七七
一八八八—八九	三九六	七、八九六、一八三	九九〇、八九〇	七・九七	一三・五五
一八八九—九〇	四〇一	九、八二二、六三五	一、二六一、五五五	七・七九	一二・八四
一八九〇—九一	四〇六	一〇、六二三、三一九	一、三三六、二二一	七・九五	一二・五四
一八九一—九二	四〇三	九、四八八、〇〇二	一、一九八、〇二五	七・九二	一二・六二
一八九二—九三	四〇一	九、八二一、九三九	一、二三〇、八五五	七・九七	一二・五四
一八九三—九四	四〇五	一〇、六四四、三五一	一、三六六、〇〇一	七・七九	一二・八三
一八九四—九五	四〇九	一四、五二一、〇二九	一、八二七、九七三	七・九四	一三・九八
一八九五—九六	三九七	一一、六七二、八一〇	一、六三七、〇六七	七・一四	一四・〇二
一八九六—九七	三九九	一三、七二一、六〇一	一、八二一、二二三	七・五三	一三・二七
一八九七—九八	四〇二	一三、六九七、八九一	一、八四四、〇〇〇	七・四三	一三・四六
一八九八—九九	四〇二	一二、一五〇、六四二	一、七二二、四二九	七・〇五	一四・一七
一八九九—一九〇〇	三九九	一三、四三九、三〇一	一、七九八、四七八	六・九二	一四・四三
一九〇〇—〇一	三九五	一五、二五〇、九〇八	一、九七九、一一八	六・七〇	一四・八六
一九〇一—〇二	三九五	一六、〇一二、八六六	二、三〇二、四四六	六・九六	一四・三七
一九〇二—〇三	三九三	一一、二七〇、九七七	一、七八九、〇七〇	六・三〇	一五・八七
一九〇三—〇四	三八四	一二、六七七、〇二九	一、九二二、一二六	六・三〇	一五・一五
一九〇四—〇五	三七四	一〇、〇〇七、三三二	一、六〇六、四三七	六・二七	一五・九四
一九〇五—〇六	三七六	一五、七三三、四七八	二、四〇〇、〇七一	六・五五	一五・三六
一九〇六—〇七	三六九	一四、一八六、五三六	二、二四二、〇四六	六・六六	一五・八〇
一九〇七—〇八	三六五	一三、四八二、七二〇	二、一六八、七三一	六・二〇	一五・八六
一九〇八—〇九	三六八	一一、八〇九、一八二	二、〇七九、三三二	五・六八	一七・六二
一九〇九—一〇	三五六	一二、八九二、〇〇六	二、〇二七、一九七	六・三三	一五・八〇

▼一九一〇—一一以後別種の統計を掲ぐれば

	製糖場數	消費甜菜	植付面積（ヘクタール）	一ヘクターの收穫（ドッペルツェントネル）	粗糖	糖蜜	十二時間の作業消費
一九一〇—一一	三五四	一五、七四八、九八一噸	四七七、九〇九	三三〇	二、五九一、二九六噸	三二八、〇五八噸	三九噸
一九一一—一二	三四二	九、〇六〇、九七六	四〇四、七四〇	一八〇	一、四〇七、七八一	三〇二、一六四	三八
一九一二—一三	三四一	一六、六四四、三三七	五四七、八二九	三〇四	二、六三三、三六二	三八〇、八六八	三二

斯くの如く獨逸の甜菜糖業は逐年發達して、開戰當時は二百六十三萬噸餘の粗糖を製造するに至つたが、世界戰は獨逸の何物をも犧牲と爲し、糖業も多大の打撃を被むり、今や國内の消費にも足らず、國民は缺乏と暴騰とに苦しみつゝあり、今昔の感に堪へないのである。

五　戰中戰後の獨逸糖業

戰中戰後の糖業が著しく退歩した事は説明を待たない、私は茲に二三の統計を掲げ、其の減額を數字によつて表示する。

（イ）植付面積（單位ヘクタール）

年次	植付面積	前年に對する增減	一九一三—一四年に對する增減	百分率
一九一三—一四	五三二、八四三	（一）一四、七八二	—	—
一九一四—一五	五四六、七三六	（十）一三、八九三	（十）一三、八九三	（十）二·六
一九一五—一六	三六四、四三二	（一）一八二、三〇四	（一）一六八、四一一	（一）三一·六
一九一六—一七	四〇〇、二四一	（十）三五、八〇九	（一）一三二、六〇二	（一）二四·九
一九一七—一八	三八四、五七一	（一）一五、六七〇	（一）一四八、二七二	（一）二七·八
一九一八—一九	三六六、五〇五	（一）一八、〇六六	（一）一六六、三三八	（一）三一·二
一九一九—二〇	二五八、〇〇九	（一）一〇八、四九六	（一）二七四、八三四	（一）五一·六

植付面積の減少は當然甜菜の減少となるので、獨逸政府は千百十九年三月十九日の命令により甜菜の買上値段を三マルクより四マルクに引上げたが（開戰以來砂糖は政府の管理となつた）一向其の效能はなかつた、其の原因は、厩肥及人造肥料が缺乏且つ騰貴せると、次に戰前甜菜栽培に經驗ある露國及波蘭の出稼農夫を使用し來りたるに、それが開戰と同時に最早使用するを得ず、勞銀が暴騰し、耕作時間が短縮されて、甜菜栽培は農家に取り利益が薄い、彼等は寧ろ勞少なくして利多き穀物や野菜類（人參、球葱、家畜飼草）を栽培した爲め植付面積甜菜收穫の減少を來たしたのである、加之に風雨時を得ず、或は旱害、或は多雨、或は嚴寒あり、減收に與かつて力があつた、製糖場中には戰爭の末年甜菜から砂糖を製造せず、是れから直接に汁液を搾取し、麵包用ジヤムの代用品を製造したので、是れ亦砂糖減收の理由となつた。

（ロ）消費甜菜（單位ドッペルツェントネル）

年次	消費甜菜	前年に對する增減	一九一三—一四年に對する增減	百分率
一九一三—一四	一六九、九九九、七八六	（十）二、九七七、四一六	—	—
一九一四—一五	一六〇、二四五、一七九	（一）九、七五四、六〇七	（一）九、七五四、六〇七	（一）五·八
一九一五—一六	九六、八五一、〇七六	（一）六三、三九四、一〇三	（一）七三、一四八、七一〇	（一）四三·二
一九一六—一七	九六、〇〇七、七七〇	（一）八四三、三〇六	（一）七三、九九二、〇一六	（一）四三·五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九一七—一八	九二、三九七、三六八	(一)三〇、四〇八、三六二	(一)七七、一〇〇、三九八	(一)四五・五
一九一八—一九	八七、〇九〇、一〇五	(一)五、三〇九、二六三	(一)八二、三〇九、六八一	(一)四八・六
一九一九—二〇	四七、九六三、四八一	(一)三九、一二七、六二四	(一)一二一、四三七、三〇五	(一)七一・七

一九一八—一九年以來の減收は、ウエルサイユ條約の結果、領土の割譲も一の原因を爲して居る、此の割譲により同年度は甜菜の減收七六、五一二、六五八ドッペルツエントネル、翌年の減收は二八、五五〇、一七七ドッペルツエントネルであつた。

甜菜栽培の方法は開戰以來何等の變更もない、製糖工場自身が、其の所有田園や借地に耕作するもあり、又は甜菜栽培組合や個人の義務甜菜、特約甜菜もある。

（ハ）粗糖產額（單位ドッペルツエントネル）

	粗糖產額	前年に對する増減	一九一三—一四年に對する増減	百分率
一九一三—一四	二七、一五八、七〇一	(十)九六、四三二	—	—
一九一四—一五	二五、一〇一、〇一六	(一)二、〇五七、六八五	(一)二、〇五七、六八五	(一)七・六
一九一五—一六	一五、一五三、一六四	(一)九、九四七、八五二	(一)一二、〇〇五、五三七	(一)四四・二
一九一六—一七	一六、五七九、二九七	(十)一、四二六、一三三	(一)一〇、五七九、四〇四	(一)四二・六
一九一七—一八	一五、四一〇、六一五	(一)一、一六八、六八二	(一)一一、七四八、〇八六	(一)四三・五
一九一八—一九	一三、二七七、一四二	(一)二、一三三、四七三	(一)一三、八八一、五五九	(一)五一・二
一九一九—二〇	七、〇一八、九九八	(一)六、二五八、一八四	(一)二〇、一三九、七四三	(一)七四・二

砂糖の減額は實に表示の如く多大であるが、此中領土割譲による減收を差引けば一九一八—一九年度の總產額は一一、七六六、七六五ドッペルツエントネルとなり、翌一九一九—二〇年の減收は四七四七八〇七ドッペルツエントネル卽ち四〇、三パーセントとなる。一九一九—二〇年度の粗糖產額は四〇、三パーセントの減少なるに、消費の甜菜は三七、一パーセントの減少で、其間符合せざる如きも、是れは甜菜一ドッペルツエントネルに對する步留りが前年の一五、四六キロから一四、八一キロに減じた結果で、其の原因は非常の大寒であつたのと、作業が種々の原因によつて長引き（運輸機關の不充分、石炭の缺乏等）千九百二十年一月に七十六工場、二月に二十工場、三月に二工場が猶は原料甜菜を有し居り、此の作業延長の爲め甜菜の步留が著しく減じたのであつた。

（二）製糖工場

製糖場は粗糖工場、精製糖工場、糖蜜より精製工場の三種に區別すべく、開戰以來前述の原因で、總べて減少して居る、製糖上の技術は此間何等の變化もなく、又發明もなかつた。（一九一九—二〇年度）（單位ドッペルツエントネル）

(a)粗糖工場

	工場數	原料甜菜	粗糖產額
ケーニーグスベルグ及ステッチン	八	一、七六四、一八八	二二〇、七六八
オッペルン	七	九五三、四八六	九九、九八四
ブレステウ	六六	八、〇一一、一四〇	八九六、九一六
ブランデンブルグ	八	一、五七七、三三九	二三六、二四〇
メクレンブルグ	八	一、三八〇、二六九	一六一、八〇五
ハンノーウェル	六四	一〇、五三〇、五五八	一、五九四、五五四
ミュンステル及カッセル	五	五五五、九〇〇	五六、三二六
デュッセルドルフ及ケルン	七	一、七三一、三五一	一一五、七四〇
チューリンケン。ドレステン。ライプチヒ	七	一、〇七八、一八六	一四一、一八〇
マークデブルグ	九六	一七、四一三、五五〇	二、三四二、三〇一
ニュルンベルグ。ウイルツブルグ。スツッツガルト。カルスルーへ。ダルムスタット	一三	三、〇六六、一九四	三二一、三六三
計	二三〇	四七、九六二、四八一	六、一七二、九八八

(b) 精製糖工場

	工場數	原料糖	精製糖產額
ステッチン。シュレスウイヒホルスタイン。ハンノーウェル。ミュンステル	九	一、二六四、四九七	一、一〇八、八二六
デュッセルドルフ及ケルン	五	六九六、七六九	五九一、七四〇
マークデブルグ	七	二、四二二、一七九	二、一九四、七〇〇
ドレスデン。ライプチヒ及イルツブルグ	四	五一八、〇二九	四六一、五六五
計	二五	四、九〇〇、四七四	四、三五六、九一二

(c) 糖蜜より精製工場

	工場數	原料糖	產出物額
ハンノーウェル。マークデブルグ。チューリンゲン	三	六〇三、七四〇	五六三、四八六
計	三	六〇三、七四〇	五六三、四八六
總計	二六八	—	—

六 獨逸の砂糖貿易

獨逸は世界甜菜糖國の首位で、戰前は盛に外國へ輸出し千九百十三年に於ける輸出高は百十一萬七十三噸二億六千百八十八萬六千麻克の巨額に對し、之に對する外國糖の輸入は微々言ふに足らなかつた卽ち輸出額と金額とは左の如し。

	數量(噸)	金額(一千マルク)
結晶糖	三九〇、四五五	九九、九九〇
棒砂糖等粉糖	七三、八九四	二一、三七一
メリス糖	四四、六二一	一一、二二一
塊糖	三一、八一三	八、六七五
精製糖	一九、一六四	五、二八九
パン糖	二四、〇〇二	七、一五〇
粗糖	五三七、一三五	一〇八、三〇〇

戰後は此の狀態急轉激變して、俄然輸入國となつた、千九百十九年＝二十年の統計によれば各種糖の輸入は、甜菜糖中消費糖六十四萬五千九十六ドッペルツエントネル、粗糖五萬二千百三十八ドッペルツエントネル甘蔗糖は粗糖消費糖を合せて十九萬七千五十四ドッペルツエントネル糖蜜類三萬六千六百九十三ドッペルツエントネルの巨額に達し、之に反して輸出は甜菜糖中粗糖三萬五千八十二ドッペルツエ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ントネル。消費糖一萬二千七百三十ドッペルツエントネル、糖蜜類五百七十二ドッペルツエントネルに過ぎない、今重なる輸入國と其の數額とを表示すれば左の如くである。（一九一九—二〇年統計 單位ドッペルツエントネル）

	(a)甜菜糖			甘蔗糖	
	粗糖	消費糖	糖蜜類	粗糖	消費糖
ダンチヒ	二〇、三三二	一、八六〇	九〇〇	—	—
ザール地方	二〇四	五七三	—	—	—
白耳義	九一九	三一、〇〇〇	一七、八八九	—	五、六〇一
丁抹	—	一五、一三〇	一、三〇七	—	六四七
英國	一	九七二	五四三	—	三、八四三
和蘭	二九八	一七三、九四五	一二九	—	四三、二五四
墺洪	二八、五三八	八九、七四三	二、二四八	—	—
チェック	五八	二九九、五二三	六一六	—	—
西波蘭	一、七七二	三一、三八四	五、八七三	—	—
英領印度	—	—	—	三、七五五	一、三七三
蘭領印度	—	—	二二四	二、六二八	七一、三二八
加奈陀	—	四、〇一六	—	—	一〇、八八五
玖瑪	—	—	三六	一、六三九	一八、五四一
米國	一三	二三、〇一九	二、六五六	九八	二七、二〇一

此の獨逸に於ける砂糖貿易狀態は今後も尙は繼續するであらう。

七 獨逸の糖價

砂糖の供給不足の爲め糖價の騰貴は殆んど底止する所がない、戰前の小賣相場は一封度僅に二十乃至二十五布（ペンニヒ）なりしもの今日は一廝克、二廝克に騰貴し、而かも其の分量は一人一箇月の定量一封二分の一となり、更に半封度に減らされ、若し政府の食劵なしで買へば一封度十廝克十二廝克の高價である、政府は理想的の食物調節をして、其の配給に苦心して居るが、當分救濟の見込がないらしい。戰前の大産糖國が今日は國内の消費にも足らぬとは今昔の感に堪へないのである。

支那に於ける木材貿易

營林所嘉義出張所長　永山止米郎

（要旨）　支那は俗に人口四億、面積に於ては日本の約十六倍に當る廣大なる國柄なるも、統計の徵すべきものなく、其實情概ね明ならず。木材の產地は分て鴨綠江及黑龍江の流域を含める東支那の森林と福建廣東及廣西の諸州より貴州雲南等に跨れる所謂南支那

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

森林の二つと爲すことを得。東支那の森林は純然たる原生林にして其代表的林木は紅松なり五葉松の一種とす。次は杉松にして唐檜及樅の類なり。之に反して南支那の森林は人造林頗る多く廣葉杉を以て其代表的林木とす。合せて其年産額は約五百萬石を超ゆるものと信ぜらる。戰前即大正二年度の統計に由れば、支那の輸入材は約百六十萬石、輸出高は約五十五萬石、差引輸入超過額百五萬石に當る。輸入材中約八割は軟材にして、硬木類は約二割見當とす。軟材の仕出先は殆ど日本及合衆國の二箇國にして約九割五分を占む。其分量殆ど甲乙なく頗る相似たり。日本材は北海道産のエゾマツ及トドマツ類最も多く、米國産のものはドグラスファー及栂(ヘムロック)等なり。輸入港としては上海第一位を占め、天津・大連・漢口等是に次ぐ、硬木の輸出先は南洋の諸國、濠洲等最も多く、何れも香港を仲繼港とす。日本は第二位にして北海道産栓楢ヤチダモ及桂等の種類とす。輸入港は上海第一位を占め、漢口之に次ぐ、輸出材として有名なるは鴨綠江材及廣東杉の二を出です。前者は安東を輸出港とし後者は福建及廣東の各港より輸出せらる。臺灣・香港・澳門及朝鮮行等のもの最も多し。要するに支那は森林に乏しく、既に木材の一大輸入國なるのみならず、今後鐵道の發達利源の開拓に伴ひ、益々其輸入高を激增すべし。對岸貿易に付ては稿を更めて之を論述せん。

一　森林の概況

(甲)概説　露西亞を除き面積に於ても人口に於ても世界第一と稱せられ而して又世界最古の文明國の一なりし支那は近代に赴くに從ひ益々頽勢に傾き、殊に最近に於ける政治の腐敗人心の不統一とは殆ど端倪すべからざるものあり、僅かに國家の外形を具ふるのみ、固より精細なる統計の徴すべきものなく人口の如きも調査したる者により一億人以上の相違あり、俗に四億と稱せらるゝも政治家年鑑によれば約三億二千萬人と爲せり、面積三、九一三、五六〇方哩即ち臺灣朝鮮及樺太等を含める所謂大日本の約十六倍に當る、内森林面積は約六億一千四百餘萬町歩、全地積に比し約六〇%に當るものとせらる、然れども克く其の實情を知るに至らば其數量は更に著しく減少すべく、殊に荒涼たる黄煙萬丈の大砂漠乃至は禿山到る處に起伏し僅かに點々灌木狀の森林を存ずるのみ、一部朝鮮及東西比利亞に接する地方竝に雲南・貴州・湖南等其他佛領印度支那に接する方面には廣大なる森林ありと稱せらるゝも其實情概ね明かならず。

□森林面積

所有別＼數量	面積	百分率	備考
國有林	千町歩 三二八	〇・〇五%	中華民國第三年支那統計年鑑による
公有林	六〇六、八九一	九八・六四	
私有林	三、〇〇五	一・三一	
計	六一四、三三二	一〇〇	

大體に於ては木材の產地を分て(一)東支那の森林(二)南支那の森林の二地方と爲すことを得。

(乙)東支那の森林

第一、森林の概況　東支那の森林は其地形により黑龍江流域森林及鴨綠江流域森林の二と爲すことを得、南滿洲に於ては松花江牡丹江及豆滿江上流一帶の長白山麓並に鴨綠江上流の一圓、北滿に於ては東清鐵道東部線の海林地方及吉林省三姓地方を其尤なるものとし、蒙古に至つては渺茫千里草原と砂丘との連續のみ、唯興安嶺陰山山脈中には往々見るべき森林なきにあらざるも未踏査の地域多く其詳細は得て知るに由なし、約三百餘種の林木を有すと稱せらるゝも普通なるものは二十餘種に過ぎず、大體に於て針葉樹四〇%、濶葉樹六〇%、就中テウセンマツ最も多く針葉樹林の約半を占む、樅唐檜類は約三割、其他は極めて少し、濶葉樹中には楢・槲・椴(シナ)木・楡・栟及白楊等の類最も多し。

□東支那の森林

地方別 / 數量	面積	立木蓄積高	平均一町歩當り蓄積	備考
鴨綠江流域	六六八、〇〇〇町歩	三四七、六〇〇、〇〇〇石	五二〇石	鴨綠江流域を除ける以下三地方の森林は大體にて黑龍江流域の森林と見做すことを得、興安嶺森林の事情は明ならず
松花江、牡丹江及豆滿江、上流地方	一、九六四、〇〇〇	一、三一五、五〇九、〇〇〇	六七〇	
東支鐵道東部沿線地方	二、四三五、〇〇〇	九二四、六九六、〇〇〇	三八〇	
三姓地方	六、二九一、〇〇〇	二、六一八、六〇三、〇〇〇	四九五	

第二、鴨綠江流域の森林　鴨綠江は源を長白山に發し初め南に流れ長白縣より西北に灣流し帽兒山に至り更に西南に流るゝこと一百里、途中渾江を併せ大東溝に於て海に注ぐ、延長二百餘里、遼河と共に南滿洲に於ける二大河と稱せらる、其の流域は一般に山嶽に富み耕地少く產物としては山繭・雜穀・石炭等を算すれども木材を以て主とせり上流長白山は又白頭山とも稱し海拔一萬餘尺、四季雪を戴き常に白色を呈す、而して所謂長白山脈なるものゝ東北に走りては豆滿江及松花江上流の分水嶺となり、西に走るものは鴨綠江及松花江の分水嶺となる、之を老龍崗と云ふ。

鴨綠江本流域中、森林として有名なるは本流にては八道溝、十九道溝、二十二道溝及二十三道溝等にして、支流渾江にては哈泥河、回頭溝、三岔子及羅圈溝、又た老龍崗上にては湯河及濛江なり、平坦なる高原にして千古斧鉞の入らざる原生林とす、其の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

他何れの地にも多少の森林存せざるなく、本支流域を合して約百十萬町歩、蓄積約四億二千萬石、針葉樹其大部分を占め濶葉樹林は極めて少し。

鴨綠江森林一般の林相は下方は無立木地又は散生地にして次に濶葉樹、相亞で針濶混淆林となり、漸次上方に進むに從つて針葉樹の增加を示し、最後に針葉樹八分、濶葉樹二分の混淆林となる、針葉樹は一般に樹幹大にして老木少からざるも落葉松のみは大木少く目迴り直徑八寸乃至一尺位のもの最も多し、其純林は各地に乏しからずして冬季は恰も竹林を望むが如く虎狼喜んで其中に棲息せり、以下貿易上重要なる林木に付其綱要を說明すべし。

(イ)紅松　學名 Pinus. Koriensis

紅松は鴨綠江森林中最も主要なる林木の一にして五葉松の類とす、幹皮は赤灰色を呈し杉松と共に混生するを普通とす、周圍十三尺高さ八十尺に達するものあり、材質良好にして木理亦甚だ美なり、外觀白色に微紅を帶ぶ、廣く建築用材に適し且柔軟にして工作を施し易く、質合衆國產ホワイトパイン (Pinus Strobus)或は我姬子松と相似たり、器具材及棺材にも賞用せられ殊に戶障子天井板椽板等に用ゐて最も適當せり、俗に鴨綠江材と稱せらるゝもの、代表的林木にして鴨綠江地方に於ける全生產額の約半數以上を占む。

(ロ)杉　松

杉松とは魚鱗松・白松・沙松等の總稱なり、其量頗る多く廣く建築材、指物用材、箱材等として使用せらる、木材貿易の上に於ては此三者は通常區別せらるゝことなく杉松てふ名稱の下に取引せらる、紅松と共に鴨綠江材中の代表的林木とす、唐檜及樅の種類なるを以て其品位前者に劣る。

魚鱗松＝唐　檜 (Picea hondoensis.)
白　松＝樅　類 (Abies Veitchii.)
沙　松＝黃檜類 (Picea Polita.)

(ハ)黃花松　學名 Larix leptolepis.

落葉松は喬木の落葉針葉樹にして鴨綠江上流に於ける主要なる林木の一とす、夏季は鬱蒼たる森林を爲して晝尙暗く、冬季は恰も密生せる竹林を望むが如し、其大なるものは周圍十尺高さ百餘尺に達するものあり、邊材は灰白色心材は稍ゝ褐色を帶ぶ最重く質强硬、耐久力に富み特に濕氣に對しては保存力强く外觀亦美なるを以て家屋建築用、橋梁・船艦・電

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

柱・帆柱・枕木・器具類及棺材等に適當す、又柱・椽板・天井板等の種目は日本產樅材に酷似し亦好評あり、從來北支那地方に於ては宮殿・神社・佛閣等の建築材及上流人士の棺材に使用せられ、其價格は紅松より數等上位にあり、然れども其用途は紅松に比し頗る狹隘なるを以て產出量の如何によりては材價の變動甚だしく鴨綠江材中最も不安定なるものと稱せらる。

以上は何れも針葉樹のみにして所謂軟材と稱せらるゝものなるも硬材の產出高亦少なからず、主なるもの左の如し。

水曲柳＝佛 (Fraxinus Sieboldiana)
楡　木＝楡 (Ulmus campestris)
樺　木＝樺木 (Betula Bhojpattra)
胡桃楸＝鬼胡桃 (Juglans Sieboldiana)
刺　楸＝栓 (Acanthopanax ricinifolium)
柞　木＝楢類

所謂鴨綠江材と稱せらるゝものは秋より冬に掛けて伐採し降雪を利用して之を谷川に運び、次で七八月の候、鴨綠江を流筏して安東縣に陸揚げせらる、安東は即鴨綠江材の中心市場にして又た其呑吐口たり、日支合辦の鴨綠江采木公司によりて經營せらる、平均產出額は約百三十萬石見當とす。

□鴨綠江材輸出高（安東）

輸出先／年度	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年
	連	連	連	連	連	連	連	連
天津	三〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	五八〇,九三二	二六,七一九	三五五,〇〇〇	二〇,〇〇〇
山東諸港	三〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	四三六,四四七	二〇五,五八九	二四一,〇〇〇	二一五,〇〇〇
營口	三六,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	二一,四三二	二,九九九	三二,一〇〇	一五,〇〇〇
錦州	三五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二,五八六	一,四三五	六,一〇〇	五,〇〇〇
大連旅順	四〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一六,六五〇	九,九〇一	五八,八〇〇	一五〇,〇〇〇
朝鮮方面	五〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇	一三,〇〇〇	一七,〇六五	八,七三五	九六,〇〇〇	八〇,〇〇〇
安東	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	四五一,二六〇	一一〇,四六八	四八六,〇〇〇	四〇七,五六八
奉天	二,〇〇〇	五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,五七六	一一,五五二	二五,五〇〇	三〇,〇〇〇
上海	—	八,〇〇〇	三,〇〇〇	五,〇〇〇	六,一一八	一,九六五	一五五,〇〇〇	四五,〇〇〇
満州一帯	一二八,〇〇〇	一五七,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	八四,〇〇〇	五九,五一五	四五,八二五	五三,〇〇〇	一四〇,〇〇〇
旅順	—	—	—	—	—	一七,三二一	五五五,〇〇〇	五七八,〇〇〇
青島	—	—	—	—	—	二,四二一	三六,二二五	八,五〇〇
日本	—	—	—	—	—	—	—	七,〇〇〇
計	一,〇〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	九五〇,〇〇〇	七三一,〇〇〇	一,五五七,六三七	九九八,一〇四	一,九三七,一三三	一,七六六,〇六八

備考（一）木材の大小に拘はらず八尺物一本を一連と云ふ連半と云へは十二尺物三連物と云へは二十四尺の長さを有する木材を意味す通例三連以下の木材多し一連の平均材積は約一石見當なり（二）本表は製材の輸出高を含まず粗材のみの統計とす

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鴨綠江は毎年十二月初旬氷結し翌年三月中旬解氷す、卽ち十一月中旬より三月中旬迄は所謂結氷期にして全然水上の交通を缺く、之を以て春季解氷前後に於ける。木材の相場は夏秋著筏季に比し少くとも一割以上の高價なるを常とす、今主要材たる紅松及杉松に就き安東市場に於ける平均相場を擧ぐれば左の如し。

□鴨綠江材價格の變遷（一寸の價）

年度＼樹種	紅松 千五百寸	紅松 二千寸	紅松 二千五百寸	杉松 千五百寸	杉松 二千寸	杉松 二千五百寸
一九一一	兩 〇・〇一四九	兩 〇・〇一六六	兩 〇・〇一七六	兩 〇・〇一〇三	兩 〇・〇一六六	兩 〇・〇一二三
一九一二	〇・〇一五〇	〇・〇一六九	〇・〇一七九	〇・〇一〇五	〇・〇一一八	〇・〇一二五
一九一三	〇・〇一九一	〇・〇二二五	〇・〇二三七	〇・〇一三四	〇・〇一五一	〇・〇一六〇
一九一四	〇・〇二〇八	〇・〇二三四	〇・〇二四七	〇・〇一四五	〇・〇一六三	〇・〇一七一
一九一五	〇・〇一四八	〇・〇一六六	〇・〇一七一	〇・〇一〇一	〇・〇一一四	〇・〇一二〇
一九一六（自一月至九月）	〇・〇一七〇	〇・〇二〇〇	〇・〇二三〇	〇・〇一二〇	〇・〇一四〇	〇・〇一五五

備考（一）表中「寸」とあるは鴨綠江地方の慣習によりて八尺もの十一本（之を一杆と云ふ）の斷面積合計にして全材積を平方寸によりて表はせるものなり而して寸とは一寸角長さ八尺物一本と云ふの義なり（二）兩は價格の單位にして年により著しく其相場に變動あり（各貨幣平均相場の比較參照）

鴨綠江材の取引には注意を要すべきもの種々あり、就中重要なるは木稅及貨幣制度の二とす。

木稅とは木材の取引せらるゝ際、木材代金の外に買主より木稅局に納付する稅金を指し、一に山價と稱せらる、稅金と言はんよりも寧ろ山元立木代金の意味にして原木に對してのみ納付するを要し、製材品に對しては其必要なし、從量稅なり、其稅率は稅則に依り一定せりと雖も實際に於ては該稅率と一致せざる場合多し、便宜上之を從價稅に換算するときは紅松は從價約七分、杉松は約八分五厘、落葉松は約一割に當るものと稱せらる。

支那は輸出稅の制度を有し殆ど總ての貨物に對して賦課せらる、一に海關稅と云ふ、必ずしも外國に輸出する場合にのみ課稅せらるゝものにあらず、輸出先が支那內地の場合と雖も亦等しく賦課せらる、製材及杣角に對する稅率は從價五分にして板類は一千方尺（厚さ二吋以內）に付海關兩七十錢なり。

木材の取引には鎭平銀を用ふ、鎭平にて秤りたる十匁の銀（純分約千分の九百四五十）を一兩と云ふ、兩は單に貨幣の單位たるに止まり兩たる外形を有する貨幣なし、通常使用せらるゝは馬蹄銀と稱せらるゝ銀塊にして五十兩乃至五十五兩の價格を有す、貨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

幣制度の統一なく本位貨及補助貨等の區別なき支那は何れも皆其實價を以て通用するが故に自國內に於ても貨幣の種類の異るに從ひ常に其間に相場の變動あり、金貨國との關係に至つては金銀比價の變動如何によりて著しく動搖す。

□各貨幣平均相場の比較（北洋銀百元に對し）

年度＼貨幣別	小洋銀	金票	鎮平銀	摘要
一九〇九	一〇六・八三元	八一・四三円	六七・七五兩	北洋銀はメキシカンダラーと其相場大差なし我答圓銀と相似たり
一九一〇	一〇九・七八	八五・六七	六七・七五	
一九一一	一一一・八四	八八・六四	六九・九〇	
一九一二	一一三・一七	九二・一五	六九・二〇	
一九一三	一一七・〇七	九六・七三	六八・四九	
一九一四	一一四・八五	八八・〇九	六八・〇〇	
一九一五	一一七・一三	七九・〇七	六七・九八	
一九一六	一一七・八〇	九二・一三	六七・八二	
一九一七	一二六・八一	一二三・九一	六七・九一	

（備考）鎮平銀百兩に對し他地方に於ける各種銀兩の比價は左の如し

天津行平銀	一〇〇・九四〇兩	芝罘曹平銀	一〇一・二九八兩
北京公法銀	一〇一・二五〇	上海規平銀	一〇九・七〇〇
同　市平銀	一〇一・八九〇	廠平銀	九七・〇八七
奉天元寶銀	一〇一・五二七	海關兩	九二・一六四

鴨綠江材の販路として第一に數ふべきは天津を中心とせる渤海灣沿岸の諸港とし北は大連營口及錦州より南は龍口・芝罘・威海衞・靑島の諸港にして就中天津は其背後に北京の大市場を控へ其範圍頗る廣大なるが故に毎年鴨綠江材の三割乃至四割を輸入す天津に次ぐは芝罘・營口及靑島等なりしも近年鐵路朝鮮に輸送せらるゝもの頗る多く少くとも年平均二十五萬石以上に達すべしと云へり、上海市場は最近の開拓に係ると雖も是亦相當の販路を維持し得べきものゝ如し。

第三、黑龍江流域の森林　黑龍江は其上流に於て松花江と嫩江とに分る、其の流域は吉林省より黑龍江省に渉り鴨綠江流域の森林に幾數倍せる大森林ありとは夙に唱導せらるゝところなるも未だ詳細なる調査を爲したるものなし、長白山脈の南、鴨綠江流域に向背せる地方を假りに黑龍江流域に屬する地帶と見做すことを得ば豆滿江流域の森林も亦松花江及牡丹江流域地方の森林と共に黑龍江流域に於ける森林の一部を形成すべく、是等江流の上流地帶は概ね鬱蒼たる美林を以て蔽はれ古來人跡極めて稀なり、又其北方には牡丹嶺・長廣弋嶺一帶の連山あり之が南面或

は西面は松花江の支流流域に屬し、其北西或は東面は牡丹江の發源地にして世に所謂南滿の美林と稱せらるゝは主として是等の江流或は其支流の水源地帶内にあるものを云ふ、其面積約百九十六萬町歩、立木蓄積高約十三億石、恰も朝鮮半島に於ける立木の總蓄積高と相似たり、就中松花江流域に屬するものは全森林面積の約七〇%、蓄積に於ても亦七〇%强に當り、豆滿江流域に屬するものは面積に於て約一〇%、材積に於ては約八%、牡丹江流域に屬するものは面積に於て約一七%、材積に於ては二〇%强を占む、卽ち松花江系に屬する森林は蓄積最豐富にして著しく優位にあり、之に反し豆滿江系のものは廣袤蓄積共に甚大ならず、然りと雖も該地方は土地比較的に開け人口亦稠密なれば森林の價値に至りては容易に輕視すべきにあらず、更に牡丹江方面の森林は從來搬出の關係良好ならざりしを以て嘗て斧鉞の入らざる原生狀の森林頗る多く松花江方面に於けるものよりも却て美林に富むと稱せらる、殊に森林は概ね大集團狀に密生し木材の搬出及輸送の途にして講せられんか將來大に期待し得べきものなりと云ふ。

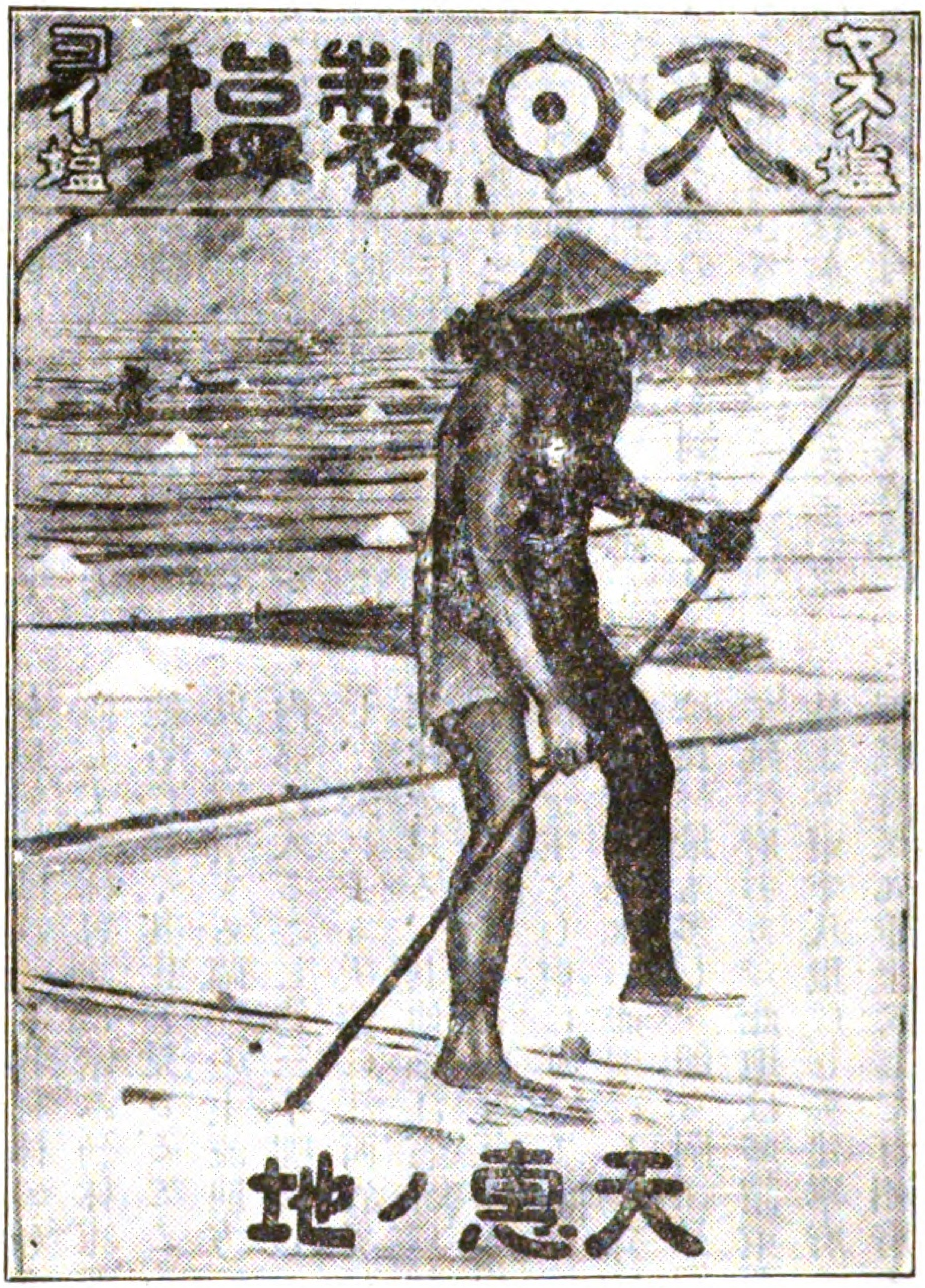
林木に概して鴨綠江流域に於けるものと大差なく、針葉樹林にては朝鮮五葉・唐檜・樅・落葉松及一位等最も多く、就中朝鮮五葉(紅松)は約其半を占め杉松(樅唐檜等)之に次げり、濶葉樹林にては檞木(シナノキ)・水楢・槲・楓楡・白楊・樺類及黃蘗等最も多し、而して針葉樹林は約六億石、濶葉樹林は約七億石、計十三億石に達するものとせられ、針葉樹林と濶葉樹林とは其蓄積殆んど相伴せり。

次に北滿地方に於ける所謂北滿材なるものにつき其概要を說明せんに、南滿洲にては單に北滿材と稱するも長春にては松花江上流より吉林に出廻るものを吉林材と稱し東滿鐵道によりハルビンに出廻るものを所謂北滿材とし兩者相區別せり、產地に於ける出廻り高は需要の多少によること勿論なるも、多季降雪を利用して谷川に運び次で管流更に筏流して市場に搬出するものなるを以て降雪量の多少並に河流の狀況等に應じ著しき相違あり、大體に於て吉林材の產出高は約五萬石を出でず、内三〇%は松花江を下りて伯都訥方面に流下され、一〇%は吉林の消費、結局六〇%のものが長春地方に搬出せらるゝものなりと云ふ、所謂北滿材の年產額は約四萬石、内

二五%は東清鐵道の沿線にて又一五%はハルピンにて消費せられ南滿洲地方に搬出せらるゝものは結局六〇%見當なりと云ふ、要するに北滿材の總量は吉林材とハルピン地方より南下する所謂北滿材とを合せ多くも十萬石を出でず、此外鴨綠江の流域地方より陸運及水運により奉天に流下さるゝもの約三四萬石あり、近時松花江流域の森林に對しては日支合辨の形式或は其の他の方法にて伐木會社の計劃せらるゝもの漸く多からんとす、遠からず其產出量を激增すべきことゝ蓋し疑ながるべし。

(丙)南支那の森林

南方の森林は安徽・浙江の兩省界より起り遠く湖南及貴州界に連なる山脈内にあり、而して該山脈の北面は安徽・江西・湖南・貴州の四省にして其南面は浙江・福建・廣西の諸省なり、木材の搬出は地勢の關係、運搬の便否により又分れて南北東の三方面となる、而して其南方に出づるものは主として福州材にして閩江によりて搬出せられ福州を以て市場とす、之に反して北方に向ふものは其運路湖南貴州及江西の諸省に散在するも結局長江によりて搬出せられ漢口を主要なる市場となし、其他江西省の一部は九江蕪湖等を市場と爲す、終りに東方に出づるものは專ら安徽省材にして錢塘江により浙江省の杭州に搬出せらる、長江を流下する木材は多くは漢口に



專賣局出陳ポスター

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

於ける木材の集散地たる漢陽及鸚鵡州等に陸揚せられ漢鎮一帶を始め楊子江一圓及遠く上海に供給す、其數量は極めて不明なるも一九〇一—一〇年に至る十箇年間に漢口稅關を通じて輸出せられし數量は年平均棺材約三十萬本、杉丸太約五十萬本なりしと云ふ、木材は其產地に依り區別し東湖及西湖と稱す、西湖は一名廣木又は苗木等と稱し長大なるもの多く時には周四尺長八十尺に達するものあり品質亦從て良好なりとす、湖南の奥地及貴州境の地方より洪江を經て沅江を下り洞庭湖に出て遂に江を下るものにして著荷迄には約一箇年半を要すと稱せらる、東湖は湖南奥地より益陽に出て洞庭湖を經て江に出づるものにして約半箇年にて漢口迄到著すべしと云ふ、伐木は年々奥地に進みつゝあるもの、如く到底今日以上の生產量を續くること能はざるべし。

福建及廣東の木材は主として杉木（Cunninghamia Sinensis）と稱せらる我廣葉杉なり、何れも皆人造林にして徑四五寸長さ二間內外のもの最も多く、末徑一尺以上のものに至つては極めて稀なり、其年產額に付ては統計の徴すべきものなく漠然として其眞相を知るに由なしと雖も、通常福州產のもの丈けにても約五百萬兩に近しと稱せらる、福建省は支那の南部にあり山岳到る處に起伏し農耕を施し得るの地極めて少し、內地は多く鬱蒼たる杉木卽ち廣葉杉の森林を以て掩はれ恰も我杉林の如き美觀を呈す、住民は概して愛林思想に富み殖林事業の發達せること蓋し他省に多く其比を見さるところなり、森林は省の中央を縱貫する閩江の上流地方に多く、福州より北內部に入ること約三十哩にして始めて森林を散見し、夫れより次第に江西省界に進むに從ひ廣大なる美林を見る、其他浙江省界に於ても樹林少なからずと云ふ、要するに福建江西の兩省界を爲すところの山脈を主とし東に延ひて浙江省界に達する一帶の連山は所謂杉木の產地にして殊に福建省に屬する方面は良材最も多し、卽ち閩江を遡ること約六十里にして延平府あり、此地は所謂東西兩溪の合流點にして是より東十八里にして建寧府あり西四十五里にして邵庭府又九十里にして汀州府あり、此等の諸府は良材の產地を以て天下に鳴る、左に在福州林總領事の報告を掲錄して其の大要を髣髴せん。

福建省殊に閩江流域に於ける杉松材は福州に集散輸出品の大宗にして第一革命前後より自治を自覺せ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る農民は盛に造林植樹の方法を講究するに至れり、又近年茶況不振の結果、茶樹栽培の不利を悟り茶園を掘り起して杉を仕立つるもの亦尠からず、現に福州に集散する杉材は是等殖林に基くもの多しと云ふ、通常地主と植林者とは別人にして植林者は地主より區域を定めて所要の山地を借入れ、相當年間互に伐採せざるを約し樹木が豫定の年齢に達し伐採販賣するに際し山主三植林者七の割合を以て分配せらる、即ち部分林の制度なり、杉は挿苗に依り植林するも松は植樹の例なし主として天然生のものにして樹齢五、六十乃至百年を經たるもの、みなり、多くは製板用として地方的に消費せられ杉材の如く丸太の儘輸出せらる、もの殆ど稀なり。

杉及松を伐採して産地より福州に搬出する商人を山客と稱し、北方に輸出する商賈を總括して北客と稱し、南方に輸出するものを南客と總稱す、而して山客と南北客との仲間に福州木商公幫ありて集散市場の中樞機關となり居れり、而して南北客及木商公幫は通常松材の取扱を爲さず專ら杉材のみを取扱へり。

杉及松は毎年陰暦三月より八月迄の間即ち最も能く樹皮の剝かる、季節に於て伐採し溪流に搬出せられ亞で流筏す、筏の單位を連と稱す、連とは材木の大小に拘はらず普通幅八尺八寸長一丈六尺に排列したるものなり、而して四連を連結したるものを一排と稱し其の連を構成する杉材の本數を底と稱す、故に杉材九本を以て一連を形作るものを九底一連と稱し十五本を以て構成するものを十五底一連と稱す、故に後者は其材小にして前者の如く底數少きものは其材大なり、而して筏の編成は二十四連即六排を聯結するによりて始めて完成す、之を杉材の一廠と稱す、建寧府を起點として福州に到達するには通常七八日間にて足れりと雖も減水期には十五日乃至二十日を要すと言ふ。

一九一九年即大正八年度中杉材の福州に集散したる數量は大凡そ大溪杉千餘廠、小溪杉一千廠と推定せらる、大溪杉は一廠平均二千六百元、小溪杉は一廠一千元位なり、而して各幫の取扱ひたる金高は總括して銀三百七十萬元前後なりと言ふ。

最近四箇年間に於ける海關經由輸出高は大略左の如し。

口福州木材輸出高

種別＼年度	一九一六年（大正五年）	一九一七年（大正六年）	一九一八年（大正七年）	一九一九年（大正八年）
木材、木	二、一五〇	一、〇二〇	四、四七三	三、三二三
板、平六尺	六七〇、一五四	六七七、六七二	八四〇、六四四	二、〇六九、〇四三
石油箱等、板箱	一八六、七一九	九四、五六七	一、〇〇七、三一四	一、三九一、〇八四
杉木、本	四八九、三三二	四四七、九六七	二五一、九一〇	九七九、四八四
板、平方尺	二七六、四六九	二、六八九、七八七	四、九七七、六八八	二、四八三、三五三
杉木、本	八、四六八、七〇三	七、七六三、二〇六	八、四八七、二〇三	九、六二八、五五七

（備考）常關經由輸出高は明ならず南海關經由輸出價格は大正五年一、四九三、五六四兩同六年一、四一八、九〇八兩同七年一、六二四、九一八兩なり

杉材は主に建築材として丸太の儘輸出せられ製板輸出は殆どなし、臺灣に於ても福州杉は日本杉に比し比較的廉價なるを以て其輸入高少なからず、松材も亦製箱の適材として臺灣・上海・天津方面に向て板の儘輸出せらる、近時臺灣に於ける炭礦業の發達に連れ坑木として輸出せらるゝもの亦尠なからす。

廣東省は人口比較的稠密なるを以て急傾斜にして耕作に堪へざる地域を除くの外は山岳地方と雖も概ね開墾せられざるはなく、殊に殖林思想に至つては到底福建省の比にあらず、森林地帶とも稱すべきは東江及北江沿岸の地方なりと雖も一も森林として見るに足るべきものなし、南支那に於ける森林地として福建省に次ぐは蓋し廣西省なるべし、森林面積林相及產出額等に付ては遂に其詳細を知るに由なしと雖も左に廣東總領事館の調書を基礎として其大要を記述すべし。

廣西省には松・杉・樅及樟木等最も多く、就中杉及樟木の二種を大宗とす、杉及松の類は柳洲府平樂府及桂林府等の一帶に產し、一部は角材或は厚板と爲し又は丸太の儘にて桂江に沿ひ梧洲に搬出せらる、他の一部は融江を下り潯洲を經て共に廣東市場に輸送せらる、所謂廣東材なるもの即是なり、尙ほ此外南寧府下伶俐山地方より松及杉材等を產出するも何れも皆細丸太類にして伶俐河を流下し、更に之を筏流して南寧に下し、亞で各地に分配せらる。

柳洲地方に於ける伐木事業は殆ど苗族及猺族の獨占に歸し、長年月に涉る濫伐の結果は其產出額著しく減少せり、目下伐木しつゝあるは多くは融江の上流なる貴洲省古洲方面にして融江を下し筏流して西江に流下す、內一部は南寧地方に搬出せらるゝも多くは廣東に輸送せらる樟木は我樟に似て堅硬且美麗

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なるを以て支那人の嗜好に適し建築用材を始めとし指物材及器具材等として其用途頗る廣汎なり、主に佛領安南の省界地方に產し龍洲を經て西江により廣東佛山地方に輸出せらる、近時安南人によりて殖林せられつゝある樒木は其造林比較的繁盛にして殊に輪伐期極めて短く植付後十年前後にて伐採し得るが故に將來柳洲の杉木と相對し最も有望なるべしと云へり、此外廣西には有名なる樟樹の產額少なからず、要するに木材は廣西省に於ける最も重要なる輸出品の一にして何れも西江の本支流により筏流して梧洲に下し更に廣東地方に輸送せらる、然れども森林の亂伐は日に益甚だしく現に西江本流沿岸の如き行く處として山岳相連亘せるも亦一として樹木の鬱蒼たるもののあるを見ず、加之從來最も豐富なりと稱せられたりし柳洲地方の杉林すら既に概ね斫り盡され、今や漸次北の方貴洲省內に侵入しつゝありと云ふ、森林國としての廣西省亦知るべきのみ。

（丁）木材の年產高

斯く支那に於ける木材の產出量に付ては精確なる記錄の徵すべきものなく其調査極めて困難なり、唯一の手懸りともすべきは稅關通過の木材を標準とし是によりて其大體を推測するものなるも是亦到底正鵠を期すべからず、由來支那の稅關には英國人によりて主宰さるゝ海關なるものと支那固有の方式によれる舊關（或は常關）との二種あり、前者は其調査全然近代式のものにして詳細を極むと雖も支那內地の或港より他の內地港に移動するもの所謂沿岸貿易の木材に對しては一部汽船積を除くの外多くは戎克船によりて輸送せらるゝ此戎克貿易によるものは通常海關を經由せずして支那人によりて管理せらるゝ舊關を通過する組織なり、然るに此舊關は賄賂其他の方法にて輸出入材の數量及品質等を變更すること殆ど吾人の豫想外にして從て亦精細なる統計を缺く、之によつて其產出量を檢出せんとするが如きは殆ど不可能に近しと云ふべし、左記木材積出高表によれば一九〇四年に於て支那の各港より內外に輸出せる木材は約二百七十四萬兩なるに十年目の一九一三年には其倍額以上即約六百三十二萬兩の多きに達せり、固より其間に幾分生產量を增加したること勿論ならんも本數量の增加は要するに海運業の發達に伴ひ次第に戎克貿易の量を減じて汽船積による輸送の激增換言すれば精細なる統計を爲しつゝある海關通過の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

數量に激變を生じたる結果なること苟も支那貿易の事情に通ずるものゝ等しく首肯するところなるべし、玆に安東を積出港とせる鴨綠江材の例を引照せんに、一九一三年に於ける輸出高は約七十三萬連、之を當時の平均相場約二兩四分によりて其總價格を算出するときは約百七十五萬兩に達す、然るに當時の稅關統計(左記木材積出表)は約百十二萬兩にして約五割六分以上の相違あり、況んや一九一三年は鴨綠江地方にては稀有の凶年なりと稱せらる、之を平年の產出量(一九一〇—一七年平均)約百二十八萬連に對比すれば更に七割四分を增加せざるべからず、支那に於ける木材の搬出法は何れの地方にても器械力を用ふることなく牛車或は水流を利用するものなるにより、年々の氣象殊に降雪又は降雨の量如何に依り著しく其產出高に變化あり、更に各積出港の如何により汽船を利用する程度に相違あるを以て單に安東の例を以て一概に是を論定すること能はずと雖も、實際の產出高は少くとも左記積出表の八割增以上即約一千一百萬兩を超ゆるものと信せらる、今鴨綠江材及南支那材の平均一石當り相場を約二兩見當とし其總材積を算出すれば約五百五十萬石に達す。

口木材積出高

年度／積出港	福州	漢口	安東	九龍	拱北	廣州	綏芬河	其他	合計
	千兩	千兩	千兩	千兩	千兩	千兩	千兩	千兩	千兩
一九〇四	[illegible]	九五一	—	六七三	三六九	[illegible]	—	七〇一	二,七六八
一九〇五	一,三二六	七七一	—	四二一	三九〇	一	—	一五八	四,一四三
一九〇六	七六六	九六二	—	四六八	一五五	六六	—	一六四	三,五九八
一九〇七	一,五九一	一,一二六	一〇八	四六八	二二二	一〇八	—	一〇六	四,六六八
一九〇八	一,〇二一	九〇一	二八五	五九三	一八四	一三三	五一九	五〇一	五,四七六
一九〇九	一,〇三三	六六八	六四二	四〇一	一六〇	一四七	一六五	四〇〇	五,四八三
一九一〇	一,四八〇	一,六五四	四六五	四一〇	一九〇	一三〇	一五六	二二八	四,七四三
一九一一	一,五七一	一,四五五	九六四	四一六	二三四	一一八	四四	一七一	四,九九五
一九一二	一,八四四	一,〇四九	八八八	四一六	一四三	九七	五一	二〇〇	四,七五九
一九一三	二,〇二七	一,九〇八	一,一三三	四九〇	二九四	一七六	一一三	二六〇	六,五一九
合計	一三,六六一	一一,五一一	四,八六〇	四,六六三	二,四〇八	九五八	八〇三	二,一八〇	四〇,〇七三

(備考) 本表の數量は外國行及自國內沿岸港行木材の全部を含む

二　木材貿易

支那貿易年報によれば一九〇四—一三年に至る十箇年間に輸入せる木材は平均約四百二十萬兩、就中軟材の輸入最も多く平均一二二、八四三、〇〇〇板呎(ボールドフィート)、即我が約百三萬石にして輸入全材積の約八一%、硬材の輸入高は平均約二十五萬石、即約一九%、合計百二十八萬石の多きに當る、大體に於て革命前迄の支那は鐵道の發達、貿易の伸張に伴ひ輸入額は漸

増の勢を示し、一九〇四年と一九〇七年との間に於ては既に二倍以上の數字を示せり、其後幾何もなくして清朝亡び一時小康を得たるに似たりしも、群雄互に覇を競ひ遂に歐洲の大戰に及び今尙南北互に相競合し混沌として遂に歸するところを知らず、支那の將來に對しては容易に之か推測を許さすと雖も、若し夫れ一旦順序整はゞ約四億の人口而して其面積に於ては露西亞を除き全世界に於て最大なる國柄なるのみならず世界最古の文明國と稱へらるゝ丈け人文の及ぶところ耕地に非すんは灌木林乃至は雜草の野に過きす、僅かに南支那の一部北滿露領に接せる地方を除くの外は殆んど森林として見るに足るべきものなきが故に支那の復興乃至は利源の開始に伴ひ之が建設に要する材料は其大部分は之を輸入に仰かざるべからず、一九〇四―一三年に至る十箇年間の統計によれば自國產材の積出總高は平均約四百萬兩、恰も輸入材の數量と相似たり、然れども本統計は通常舊關通過のものを含まざるを以て其數量は恐くは其倍額即八百萬兩以上ならん、無限の蓄積を有するが如く吹聽せらるゝ北滿地方の森林も其實情の暴露するに從ひ大凡そ其限界明かとなり、長江筋の木材に至つては原生林と稱すべきものは益々其蓄積を減少し、福建及廣東等の小丸太材に至つては悉く粗放なる人造林なるを以て到底今日以上の供給を續くることと能はざるべく、概して生產は著しく漸減に傾きつゝあるものゝ如し、結局支那は長く木材の一大輸入國ならんと信ぜらる。

□木材輸入高

年度		軟材	硬材	合計
一九〇四	數量	千立方呎 五三、〇三六	百石 一、九〇三	五三、〇三六 一、九〇三
	價格 千兩	一、九一六	一、〇四一	二、九五七
一九〇五	數量	九〇、六〇九	一、九三〇	九〇、六〇九 一、九三〇
	價格	二、三一四	八四〇	三、一五四
一九〇六	數量	一七〇、〇九九	三、〇九一	一七〇、〇九九 三、〇九一
	價格	四、〇三〇	一、三六七	五、三九七
一九〇七	數量	二三〇、二二一	三、二二六	二三〇、二二一 三、二二六
	價格	四、六九三	一、四二四	六、一一七
一九〇八	數量	一三一、〇二九	二、〇二二	一三一、〇二九 二、〇二二
	價格	三、三三七	一、四五四	四、七九一
一九〇九	數量	九一、九六二	二、一三七	九一、九六二 二、一三七
	價格	二、三二二	一、〇四一	三、三六三

年度				
一九一〇	數量	一五七、二四〇	二、一四二	一五七、二四〇 二、一四二
	價格	二、九五五	一、九七七	四、九一〇
一九一一	數量	九七、八七七	三、五二四	九七、八七七 三、五二四
	價格	二、四八九	一、五七五	四、〇六四
一九一二	數量	九七、一六四	二、〇九七	七七、一六四 二、〇九七
	價格	一、六八二	八八五	二、五六七
一九一三	數量	一五九、六〇五	二、七五三	一五九、六〇五 二、七五三
	價格	三、八八一	一、一六〇	五、〇四一
合計	數量	一、三三八、四二七	二四、七九五	一、三三八、四二七 二四、七九五
	價格	二九、一九八	一二、七五二	四一、九五〇
一九一七	數量	七七、九五六	二、八五六	七七、九五六 二、八五六
	價格	二、九一九	一、四八二	四、四〇一
一九一八	數量	一〇四、六八七	五、八六八	一〇四、六八七 五、八六九
	價格	五、六二五	二、四五二	八、〇七七
一九一九	數量	—	—	—
	價格	四、八五〇	一、九〇〇	六、七五〇

（備考）合計欄の數量中右側は軟材（單位一千板呎卽我約八石四斗）左側は硬材（單位一千石）とす

一九〇四―一三年の統計によれば平均年輸入額は約四百二十萬兩、内約八七％は日米兩國よりの輸入に係り殘り僅々一三％のものが西比利亞・朝鮮乃至は加奈陀地方より、又硬材としては南洋諸島及濠洲地方より輸入せらる、今木材貿易上最も重要なる軟材につき日米兩國の消長を比較せんに、軟材のみの數量に於ては此兩國よりの輸入高は全數量の約九五％を占め他は僅かに五％に過ぎず、而して或年は日本材の方多く或年は反對に米國材の方多く十箇年間の平均額に於ては

日本材輸入額　一、五九二、〇〇〇兩　此材積　六二、七九八、〇〇〇板呎（ボールドフイート）

米國材輸入額　一、三七四、〇〇〇兩　此材積　五五、九七〇、〇〇〇板呎

にして殆ど甲乙なし、唯日本よりの輸入材はイゾマツトドマツ等長四間以下の北海道材を主とせるに反し、米國材はドグラスフアー栂（ヘムロツク）等所謂オレゴンパインと稱せらるる長大材なるを以て、品質に於ても價格に於ても日本材に優れること勿論にして從て日本材の輸入高は其の價に於ては米國材と大差なきも其數量に於ては一割以上の增加に當れり。

□仕出先の別軟材輸入高

年度＼輸出國		日本	合衆國	西比利亞（陸路經由）	朝鮮	加奈陀	香港	其他	合計	純輸入
一九〇四	數量（千板呎）	一三、四一五	三五、四五五	—	—	五、二二九	—	一四二	二六	五五、〇六八	五三、五三五
	價格（千兩）	三六八	一、〇三七	—	—	九八	—	四	一六	一、五二〇	一、五二九

	一九〇五 數量	一九〇五 價格	一九〇六 數量	一九〇六 價格	一九〇七 數量	一九〇七 價格	一九〇八 數量	一九〇八 價格	一九〇九 數量	一九〇九 價格	一九一〇 數量	一九一〇 價格	一九一一 數量	一九一一 價格	一九一二 數量	一九一二 價格	一九一三 數量	一九一三 價格	合計 數量	合計 價格
	四三,三五一	八五五	八〇,〇五〇	一,八八五	二四三,二二八	二,八五五	七三,五五五	一,八八八	四五,五四五	一,〇二一	六六,五七八	一,三五一	四九,五〇二	一,二六五	五七,七〇四	七八六	七〇,五五五	一,五五七	六一七,九四八	一三,九二二
	五五,五六六	一,四三〇	八一,九六〇	二,〇八〇	七一,三九七	一,六八四	五〇,五五〇	一,二二三	四〇,一〇五	六〇一	六二,二九六	一,三九二	四四,九七五	一,一六一	三六,八〇七	八二一	七九,七二六	二,〇八六	五五九,七〇五	一三,七四五
	—	—	—	—	—	—	五〇四	七五	六七〇	二七二	二,五七六	九二	—	—	一,〇五五	二二	二,〇〇六	五八	六,八八六	四六〇
	—	—	六二	五五	六二	二	一,二五八	五一	二,五二六	五四	一,八六九	二四	二,二五四	五二	五一一	八	四,二四五	七七	[illegible]	[illegible]
	五三	一	—	—	五,五九〇	九七	一,七二二	四四	五一	三	—	—	一八	—	五	—	—	—	八,四四八	二四〇
	八	—	五二	一	二,五九三	五〇	四〇〇	九	一,〇〇三	三〇	七八	三	五九四	一六	五六八	五	四,四〇五	一五五	九,五五〇	二三六
	三三一	六	三四一	六	六九七	一八	五,一七三	八〇	一,一八〇	五八	一,七九三	四〇	五五八	一一	四八四	五	五一	八	八,六〇七	二三五
	四五七	三	七四二	五	—	—	—	—	六六七	一五	四,五五一	八二	一七六	二	四〇三	二七	—	—	五,二四六	一七
	六〇,六〇五	五,五一五	一四〇,二四七	四,〇五五	二三〇,八八八	四,七二一	一五一,七六七	五,五五五	九一,七八〇	二,五二七	一五七,六八九	二,六三二	九八,二〇七	五,五〇五	七八,六九三	一,七七〇	一六一,五七五	一,七三〇	一,二五五,〇六一	二五,五五八
	六〇,六〇五	五,五二四	一四〇,〇六五	四,〇三〇	二五〇,五二一	四,六五五	一三一,〇二五	五,五五七	九一,六六二	二,三二一	一五七,二四〇	五,六五一	九七,八七七	二,四六九	七七,一六二	一,六八三	一五五,六〇五	五,八八二	一,二二八,四二七	二九,一六八

（備考）千板呎は我約八石四斗に當る

輸入合計より再輸出を差引けるものを純輸入とす

最近に於ける輸入狀況は左の如し。

ロ最近に於ける軟材の輸入高

仕出先＼年度	一九一七年 數量（千板呎）	一九一七年 價格（兩）	一九一八年 數量（千板呎）	一九一八年 價格（兩）	一九一九年 數量（千板呎）	一九一九年 價格（兩）
米國	一七、二六四	七六八、二六八	一三、七四〇	五一〇、六六一	六九、一〇三	一、八八五、三〇一
日本	三六、九九四	一、四三八、五八七	六四、二八三	二、三三五、九七四	四二〇	二、七五〇、三〇〇
加奈陀	九、九九八	四六八、一九五	八、四四三	三三三、九七五	一三、四一五	七六五、〇二一
朝鮮	一一、〇九七	一九三、三六九	一三、八五五	一八五、六〇二	一七、一〇七	二八六、一九五
露國	五、〇六六	一〇〇、六五六	三七、三七七	一六七、一七六	一一、三〇八	四六六、二〇五
佛領印度支那	一六	四九六	二五	七六八	五六	二〇三五
澳門	一三八	三六、八九四	一〇四	三七、七七〇	七三	二八三三
比律賓	五一	二六、三三三	—	—	三九	一、五五一
香港	四二二	一三、三四六	六七	二四四六	七九	五〇八〇
計	七七、九五九	一、九一九、〇三二	一〇三、八九七	三、五六〇、四四一	二三五、二二四	四、六六七、六〇三

（備考）一千枚呎は約我八石四斗に當る

次に軟材の輸入港を檢するに上海最も多く平均輸入額は約百萬兩を超へ、材積に於ては約二十八萬石、全輸入量の約三三％を占む、此外湖南貴洲及雲南地方より流筏する所謂長江筋の木材、廣東及福建地方よりの南支那材及近時南方に向け漸次販路を擴張しつゝある鴨綠江材等の土産材は何れも皆本市場に顯はれざるはなし、就中南支那地方より移入せらるゝ木材は其數量最も多く年約二百萬兩、長江筋のもの約四、五十萬兩に上ると稱せらる上海は呉淞を去る、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

約十二哩黄浦江によりて揚子江と相通す、黄浦江は干潮面尙十五尺以上の深さを有し滿潮の際は二十四五尺以上に達す、開港以來年一年に順調なる發達を遂げ中部支那以北に於ける最も主要なる貿易港にして其輸出入總額は支那に於ける貿易總額の約半に近し、蓋し支那最大の貿易港たり、上海の商域は分ちて二つとす一は長江筋にして蘇杭州南京より遠く四川に及ぶ一帶の地域にして中部支那に於ける呑吐口たり、漢口は上海を去る約六百哩、揚子口の沿岸にありて物貨の集散地たり、漢口は恰も中央市場の用を爲し上海は其の仲繼港に當る、されば上海は漢口の發展と相待て益々發達すべき傾向を有するものなり、二は北支那一帶に渉る地域にして靑島・芝罘・天津・營口・大連・安東縣等直接又は間接に上海の支配を受けざるものなし、上海は其の人口約百萬と稱す、然れども水上生活を爲すもの時々二十萬以上に達し動搖常なく到底精確なる統計を得ること能はずと謂ふ。

上海に次ぐは天津にして軟材の平均輸入高は約七十五萬兩、此材積約二十七萬石、全輸入高の約二三%、此外鴨綠江材の輸入せらるゝもの平均約三十五萬兩、此價約百萬兩、桎木と稱せらるゝ南淸材其他を合せ約五十萬兩、少くとも合計百五十萬兩を下らさる土產材移入あり、天津は白河によりて渤海灣と相通し其背面には北京の大市場を控ゆ、支那に於ては上海に次ぐ最大貿易港の一とす。

斯く上海及天津は支那に於ける最も重要なる木材貿易港にして此兩者のみにて軟材輸入總額の約五六%を占む、之に次ぐは大連・漢口・靑島(膠洲)及營口(牛莊)等の諸港とす、概して輸入材は一般に長大なるを以て洋風の建築造船材其他廣く建築用材に使用せらる、近年北海道材は其の蓄積著しく漸減の傾あり、而して北米の諸國には殆ど無限の原生林を有す、顧みて頗る寒心に堪へざるものあり。

口輸入港別軟材輸入高(自一九〇四年至一九一三年平均)

輸入港＼數量	材積	價格	輸入港＼數量	材積	價格
上海	千立呎 四四、八二八	千兩 一、〇七〇	秦王島	千立呎 九八八	千兩 二六
天津	三一、九八〇	七六二	安東	二、三六七	三
大連	一八、七九二	四二四	寧波	七八	一九
漢口	一五、八八八	三一七	鎮江	[illegible]	一九
膠洲	八、二七七	一六一	芝罘	八六三	一九

牛荘	四、八七[illegible]	二六	廣東	六一五	一五
満洲里	一、四〇[illegible]	九二	宜昌	二〇一	二
南京	二、一三[illegible]	六〇	其他	一、八七一	四六
杭州	三二三	五七	計	一三、〇三三	三二五
長沙	三一〇	二七			

（備考） 或年度間統計の缺くるものありしも其年數を除き平均數を算出せり
一千板呎は我約八石四斗に當る

次に硬材の仕出先を檢するに一九〇四—一一三年に至る平均の輸入高は約百二十八萬兩、香港は第一位にして約五十一萬兩、全輸入額に比し約四〇%の多きを占む、由來香港は一小島にして森林なし、純然たる仲繼港なるを以て更に其の輸出先を檢するに、其の調査頗る困難なるも同港より輸出せらるゝものは多くはチーク、紫檀●黒檀●赤木(Redwood or Serayah)其他南洋產の硬木●濠洲產のジャラカリー及白檀等にして、是等の木材はボルネオ、比律賓及海峽殖民地等の諸港より一旦香港に仕向けられ更に臨時支那に輸入せらるゝものゝ如し。

香港に次ぐは日本にして約四十萬兩、全輸入額の約三三%を占む、北海道產栓●桃●楢及桂等其多數を占む、第三位に當るは新嘉坡にして其種類は香港より輸入せらるゝものと相似たり、安南より輸入せらるゝは主としてチークにして濠洲より來るものは西部濠洲產のジャラ最も多し、支那に於ける鐵道の建設には所謂列國の勢力範圍なるものあり、支那開拓の先驅たるべきものは第一鐵道の布設にあるべきこと合衆國其他新開國の發達史を讀むもの、等しく首肯するところなるが、茲に注目を要すべきは各勢力範圍の異るに從ひ之が建設に要する諸材料の全然其の輸入先を異にすることと是なり、單に一木材とのみ謂はんや器械類に於ても材料に於ても何れも皆然らざるはなし。列國均勢の分るゝ所決して等閑に付すべからざるなり。

□仕出先別硬材輸入高

年度		日本	香港	新嘉波	澳門	安南	濠洲	合衆國	其他	合計	純輸入
一九〇四	數量(百千呎)	一二三	六一三	八五八	六六	八	七	—	三四	一、〇〇一	一、〇〇三
	價格	一〇〇	四八八	三九八	一八	四	二	—	三三	一、〇三一	一、〇二一
一九〇五	數量	二二	四三	六七一	九六	三二	七〇	—	二五	一、〇〇二	一、〇〇〇
	價格	八一	二〇三	二二七	四四	七	一	—	四四	八二四	八二〇
一九〇六	數量	一、〇二二	八八八	二一六	三八	一〇二	三一	一	七	三、一〇〇	三、〇八一
	價格	三四三	三四六	三四六	一〇	三八	一四	一	一〇	一、一四一	一、一三八

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

	一九〇七 數量	一九〇七 價格	一九〇八 數量	一九〇八 價格	一九〇九 數量	一九〇九 價格	一九一〇 數量	一九一〇 價格	一九一一 數量	一九一一 價格	一九一二 數量	一九一二 價格	一九一三 數量	一九一三 價格	合計 數量	合計 價格
	七六七	五六一	三八八	六六二	九三八	三五四	八九八	九九三	一、九六七	七五七	九九〇	三〇二	一、三八三	三一八	八、五七三	四、一六七
	一、〇九五	六五一	九三九	五六八	七五六	三七七	九八六	六一二	八〇七	五一五	六〇五	五八三	九一五	五〇五	八、五〇四	五、一五三
	一、三二九	四五九	五五五	三〇七	六四七	二五六	一七	二〇〇	五五四	一三七	三三六	一三八	三二六	一六七	六、一〇九	三、五二七
	二〇	二九	四〇	一六	四八	三三	六八	五〇	七五	五七	三九	一五	五二	一一	五三八	二八〇
	九二	五四	五四	一〇	五八	一三	七七	三九	三四	一八	一五	六	一五	六	三五〇	一六五
	一〇	三	―	―	―	―	―	―	一〇七	八六	―	―	―	―	五九六	一六〇
	―	―	―	―	―	―	四〇	七一	七	二	―	―	―	―	三八	七三
	一五	一三	―	―	四〇	五三	六〇	三六	五五	五三	二	九	六〇	五八	五九七	二七五
	三、三二六	一、四五三	二、〇五五	一、三九七	二、一三二	一、〇三八	三、一三三	一、九七七	五、五三一	一、五三八	二、〇九七	八六八	二、七五二	一、一六〇	二四、八三三	一三、七八〇
	三、三二六	一、四五三	二、〇三一	一、三五五	二、一五七	一、〇三一	三、一三二	一、九七七	三、三二一	一、五七五	二、〇九七	八八五	三、七五二	一、一六〇	三四、九九五	一三、七五三

（備考）輸入合計より再輸出を差引けるものを純輸入とす

飜て更に輸入港を檢するに、軟材と同樣上海第一位を占め約四十二萬兩、全輸入高に比し三五%に達す、次は九龍の約二十八萬兩、即約二三%、同地には硬材の一大貯木場あり、又相當の工場を有し其の消費量少なからずと云ふ。

□輸入港別硬材輸入高（自一九〇四年至一九一三年平均）

輸入港	數量 材積（百石）	價格（千兩）
上海	八九九	四三二
九龍	五九三	二七五
膠洲	三四四	一三五
拱北	一〇四	五八
南京	二六二	五六
漢口	一〇七	四一
安東	一六三	四一
大連	五四	二六
杭洲	一三	三〇
天津	三三	一七
龍洲	四三	一五
寧波	二二	一三
廣洲	二七	一三
牛莊	一二	八
秦王島	一九	八
鎭江	一四	六
厦門	三	六
福洲	九	五
汕頭	二	五
其他	五六	二五
計	二、七六六	一、一九二

（備考）或年度間統計欠くるものありしも其年數を除き平均數を算出せり

最近に於ける輸入狀況は左の如し。

□最近に於ける硬材輸入高

仕出先＼年度	一九一七年 數量（石）	一九一七年 價格（兩）	一九一八年 數量（石）	一九一八年 價格（兩）	一九一九年 數量（石）	一九一九年 價格（兩）
日本	一五〇、六四八	六九二、六二八	二五九、五七三	一、〇〇九、九四五	一五五、五五八	六九三、三八六
香港	七四、七七〇	五八一、五五五	七一、七五五	九九六、九七〇	八五、三三五	九七六、四七五
新嘉坡殖民地等	五五、三五〇	一四三、七四九	五三、九八一	一五五、〇八五	五一、五四七	一五四、五一五
比律賓	一〇、九七一	八八、八七九	一七、三三三	八一、五五六	八、五八〇	三六、五七七

佛領印度支那	四,〇〇四	九,六三五	六,四四六	五,三〇六	四,一二五	一六,〇一二
澳門	一,三四六	七,〇〇八	五,三二五	四,〇〇〇	五,一一七	二一,二六
米國	三〇六	六,一二七	—	—	一,六七〇	六,八四四
朝鮮	六三四	一,六〇六	一,三三五	二,三〇〇	四二一	四,〇二四
暹羅	三二一	一,一二七	三四〇	六〇六	一,二二五	一八,〇三〇
露國太平洋岸	三〇	一六〇	三〇〇	三,四〇三	一,二〇六	七,三三六
佛國	一六	四〇	二三	四〇六	—	—
蘭領印度	一	三	二〇四	一,三〇七	三,三一七	一六,三二八
濠洲新西蘭土	—	—	—	—	四〇六	一,六四三
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

（備考）日本內には臺灣を濠洲中には新西蘭土を含む

以上軟硬兩木材の外枕木、坑木、桶材、ベニア材木摺及屋根板其他の小物にして、一九一三年度中輸入されたるもの約八十四萬兩あり。

□雜木材輸入高

輸出國＼年度	一九〇九	一九一〇	一九一一	一九一二	一九一三
日本	二五五	四〇七	一六〇	一七四	三二二
香港	二九六	三四九	三三八	一四八	二〇一
西比利亞	—	三	—	九四	七一
佛領印度支那	一五	四〇	三二	三〇	四三
朝鮮	五	六	九	三〇	一四
蘭領東印度	一〇	六	一四	三	一三
海峽殖民地	一六	一七	一五	二七	二二
其他	八二	四	一八	三〇	一四四
總計	六九八	八三三	五八六	六三六	八四八
再輸出	一	四	四	二	四
純輸入	六九七	八二九	五八二	六三四	八四四

（備考）（一）千兩を以て單位とす
（二）現に使用中の枕木は通常北海道產楢、佛、桂、栓及防腐せるオレゴンパイン濠洲產ジャラ及南洋產赤木等にして其寸法は六吋對九吋長八尺なり一哩の線路に對して年約三百丁の交換を要すべく六千哩の全鐵道に對しては約百八十萬本即約四十五石を要すべしと云ふ。

一九一四年上海市場に於ける各一千板呎即我約八石四斗に對する相場を示せば大要左の如し。

米國材	六—四二 兩
北海道材	三〇—五五
鴨綠江材杉松	三三
レッドウオッド	四〇—六〇
支那杉	九—三〇
日本枕木(6″×9″×8′)日貨	一・四〇 円
米松防腐材（ 同 ）同	二・八六

既に略述せるか如く支那に於ける木材の產地は北滿地方、長江筋竝に福建及廣東等所謂南淸地方の三と爲すことを得、而して長江筋のものは殆ど長江沿岸其他內地市場にて消費せらるるが故に事實輸出の能力を有するは北滿材中の鴨綠江材及南淸材の二を出です、從て材種は殆んど軟材のみにして紅松、杉松及杉木即廣葉杉の三者最も多く、臺灣・香港・澳門

及朝鮮行等のもの其多數を占む。

□木材輸出高（其一）

年度＼輸入國	日本	香港	澳門	朝鮮	其他	合計
一九〇四	千兩 二五一	千兩 七三六	千兩 三六一	千兩 —	千兩 四三	千兩 一、三九〇
一九〇五	三三一	五一三	三八一	—	二〇	一、一三五
一九〇六	二〇〇	五五三	二〇一	—	二七	九八三
一九〇七	二一〇	五七二	二四九	三	一	一、〇三五
一九〇八	三三二	五〇八	二〇四	一	三四九	一、三八四
一九〇九	五一四	五三一	二〇二	七〇	一九八	一、五一五
一九一〇	九四四	五七九	一九九	一〇六	七九	一、九九七
一九一一	七五三	五七九	二五三	一七六	八四	一、八四九
一九一二	一、三九九	五六〇	一五五	二七一	一六一	二、四四六
一九一三	一、一一二	六六一	三一七	三一六	一四九	二、九五五
合計	五、八二七	五、七九二	二、五二二	九四四	一、三〇一	一六、二八六

（備考）日本とあるは主として臺灣行のものとす

□木材輸出高（其二）

年度＼材積		軟材	硬材	合計
一九一七	數量	二七、一九三	三四九	二七、一九三 三四九
	價格（千兩）	一、〇〇〇	一六四	一、一六四
一九一八	數量	三二、九〇九	三二五	三二、九〇九 三二五
	價格（千兩）	一、三七四	一五四	一、五二八
一九一九	數量	—	—	—
	價格（千兩）	一、三五〇	不明	一、三五〇

（備考）軟材の數量は千板呎、即我約八石四斗を硬材は百石を以て單位とす

臺灣支那間に於ける木材貿易に付ては更に稿を改めて之を詳論すべし。

交趾支那の糖業的價値

眞室幸教

一　緒言

予往年物價勞銀貴くして甘蔗の單位收量少き玖瑪の砂糖生産費が、物價勞銀低くして甘蔗の單位收量多き爪哇砂糖生産費と徑庭なきを怪み其然る所以を研究して爪哇は人力の精を盡して（年々新植し蔗苗を更新し肥料を加へ灌漑をなし全部人耕の最も周約

なる耕作を爲す）低價の原料を得、玖瑪は極力天惠を利用して低價の原料を得つゝあることを知得した。如何樣に天惠を利用するかと云ふと斯樣である、低價の林野を手廣く所要地積の五倍買收開墾して甘蔗を栽植するのである、玖瑪に於ける林野の價は頗る低廉一佛町七弗五十仙より十五弗迄であるが、地味は非常に肥沃である、之を拓いて甘蔗を栽植するは肥料を加へずして一植五收七收を許し町當七八萬斤の收量を與ふ、玖瑪は斯の如く地代、肥料、蔗苗代及勞力賃を節約して低價の原料を生產して居るのである、予此方法を施行すべき

野を求め我が投資地たらしめんことを望む多年、大正七年偶三菱商事會社より西貢西北に糖業開始の可否調査を求められたることありたり、爾來專ら此方面の机上調査をなしたるに、略ぼ予の理想に近き土地なるやに思惟せらるゝにより、之れが實況を確めんと欲し、大正十年四月出發西貢に到り之が調査をなしたるに、非常に良好の狀態にあることを發見し、六月歸臺したり此行に於て最も困難したるは計數的材料の皆無なりしことである、該地の土人は甘蔗を栽植すれども耕作費及收量の計數を有せず、砂糖を製造すれども原料の受入、砂糖の生產に關する計數を有せざる故、是等は總て常方に於て算定せねばならぬ、短少なる調査期間內に之が算定をなし正確を期することは甚だ困難であるけれども、是等の計數なき限り適否の見込が立たないから、

懸賞ポスター等外

杜選ながら概略の算定により、計數を作り、愚見を開陳することにしたが、自己作製の材料を基礎とせること故、手前味噌が大分加はりて居ること、承知あり度し。

二　總　說

交趾支那は佛領印度支那六州の中最も西南に位する一州である、印度支那六州の中廣州灣は租借地、東京、安南、東浦寨、老撾の四州は保護國であるけれども、交趾支那丈は佛國の領土であるから、本國と同一の法律が施行せられて居て本國の一州並の資格を有して居る、乃で他の五州に於て認め得ない所の外國人の土地所有權、其他通商條約上の各種の特權を本州に於ては之を認め現に之を附與して居るそうである、之が大規模の栽培、採取、製造等の事業を經營せんとする外國の企業家に取りては一番都合の好い點である。

（一）位置及氣候　本州は北緯八度三十五分より十一度四十五分十秒、東經百二度六分四十二秒より百五度十三分二十秒に至る間に占位して居るから、暴風雨襲來の懸念がない、其氣候は純熱帶的で乾濕二季に分れて居て、甘蔗の收穫時期植付時期たる十一月乃至四月が乾燥季で、甘蔗生育時期たる五月乃至九月が雨季である、乾燥期の平均氣溫が攝氏二十七度、雨季の平均氣溫が攝氏二十七度四分であるから、蔗作上には申分のない氣候の樣である（臺灣南支は常に低溫の爲めに甘蔗の生育を阻害せられるけれども本州の氣溫は臺灣南支に比し平均攝氏の八度高いから其憂はない）が雨の分布如何によりては左樣斷ずる譯に行かぬから之を氣象表に尋ねて見ると十一月より四月に至る間の降雨總量が四〇五密米で、其月別平均が六十七密米、五月より十月に至る間の降雨量が一、八〇〇密米で、其月別平均が三〇〇密米で、而して雨の性質が叢雨的であるから先づ申分のない氣候である（臺灣南支では五六月若は六七月に於て當に數十日に亘る霖雨がありて甘蔗の生育を妨ぐ）

自一九〇二年至一九一二年　十一箇年平均氣象（西貢）

月次	平均氣溫 攝氏	平均最高氣溫 攝氏	平均最低氣溫 攝氏	降雨日數	雨量 密米
一月	二六・〇	三〇・〇	二〇・五	五	四〇
二月	二六・五	三一・五	二一・〇	三	五〇
三月	二八・五	三三・五	二三・五	三	一五
四月	三〇・〇	三三・五	二五・〇	六	九〇
五月	三〇・〇	三二・五	二六・五	一五	二三〇
六月	二八・〇	三一・五	二五・〇	二〇	三〇〇

七月	二七・〇	三一・〇	二四・〇	二	三九〇
八月	二七・〇	三〇・五	二三・五	一九	三〇〇
九月	二六・五	三〇・〇	二三・五	一九	三九〇
十月	二七・〇	三〇・〇	二三・〇	一九	二七〇
十一月	二六・〇	二九・五	二三・五	一〇	一〇〇
十二月	二六・〇	二八・〇	二一・〇	八	一一〇
合計平均	二七・五	三〇・八	二三・二	一四八	二二〇五

(二)廣表及地貌　本州の面積は五萬六千平方基米突(二一、八七五方哩)にして、佛領印度支那半島五州の中では最小の一州である、されど州内には大寧郡のバデン山(八八〇米突)邊和郡のシュシャン山(四八三米突)バリア郡のディン山(四八〇米突)を除けば山嶽と稱すべき程のものなく、東北州境附近に若干の丘陵を存する丈で、地表は一般に平坦廣濶で、海拔百米突以内の水潤に富で居る、低平地が全面積の大約八割を占めて居るから、農耕に適する地積が割合に多く、灌漑、排水、運輸交通の設備をなすにも至極容易である。

(三)農耕適地と耕地面積　本州の地積五百六十萬佛町の中、大約百四十萬佛町は農耕に適せざる沼澤(増水期に一米突半乃至二米突半浸水)山地等であるが、農耕適地面積は四百二十萬佛町に上るそうである、此中既墾の耕地面積は大約百九十萬佛町であるから、尚ほ二百三十萬佛町の未墾地がある、既墾地はメーコン河に沿へる中部の十一郡に多く、未墾地は西部及北東部の九郡に多い、二十郡に區畫せられたる各行政區域内の地積、農耕適地及耕田面積左の如し。

郡名	總面積(佛町)	農耕適地面積(佛町)	米田面積
Baria	五四、四〇〇	四八、四〇〇	一三、一七五
Bienhoa	五七七、五〇〇	四七七、五〇〇	三五、二三三
Giadienh	一七八、〇〇〇	一四八、〇〇〇	五八、七〇三
Thudamuat	二七九、二〇〇	二五三、二〇〇	一三、五一〇
Tayninh	六五一、五〇〇	五五一、五〇〇	三〇、五五一
Tanan	三八〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	五〇、六四三
Cholon	一〇六、九〇〇	一〇六、九〇〇	九三、〇六七
Mytho	二三六、五〇〇	一八六、五〇〇	一〇九、五七七
Cocong	五三、〇〇〇	五三、〇〇〇	四六、六二七
Chaudoc	二七五、〇〇〇	二〇五、〇〇〇	五九、〇〇〇
Longxuyen	二七〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	八〇、一〇三
Sadec	一五二、〇〇〇	一〇二、〇〇〇	七四、三六四
Veichlong	一三三、三〇〇	一三三、三〇〇	八九、七四〇
Bentri	一三六、四〇〇	一二六、四〇〇	九八、一九一
Travinh	一六九、〇〇〇	一六九、〇〇〇	一四一、六四〇
Cantho	二三〇、二〇〇	二三〇、二〇〇	一八九、七五七
Sctorang	二九三、九〇〇	二四三、九〇〇	一九八、四五八
Baclieu	七一〇、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	一〇三、〇〇〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Rachgia	五九六、〇〇〇	三九六、〇〇〇	一五四、七〇〇
Hatien	一七〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	一、四八五

備考　米田以外の既墾地の地方別面積は不明である。

(四)土質及地味　既墾の耕地面積の大約七割と、未墾地の一半は三大河の三稜州に屬して居るから、土質は壤土で、腐蝕土の含量多く地層が厚いから地味頗る豐沃である、耕地及未墾地の殘部の土質は埴土であるから、多年無肥料耕作を續行した耕地の地味は瘠薄の樣であるが、未墾地の方は殆んど全部森林に蔽はれて居て、地表には多量の腐蝕土が堆積して黒色層をなし居るから頗る豐沃の樣に見受けた。

(五)土地の區分及所有別　百九十餘萬佛町の耕地の中、百六十四萬佛町は米田で、他は雜作地である、未墾地の一半は水田に墾成せらるべく、他は畑地となるべし、而して其所有別は耕地の中米田二十一萬佛町と、雜作地七萬佛町は佛人の所有にして、米田百四十三萬佛町と雜作地二十餘萬佛町とは土人の所有、未墾地は殆んど全部國有地である。

本州は斯の如く廣大なる耕地及未墾地を有して居るから地價が低廉で、土地を得ることは割合に容易の樣である。地味豐沃なる此耕地若は未墾地を得て甘蔗を栽培すれば豐收を得ること蓋し疑なからん。

(六)人民及人口　本州に居住する民族は安南人、東蒲寨人、印度土人(モイカア等)支那人、歐洲人、他の東洋人である、其人口は本年のセンサスによると總計三、七九五、六一八人で、之を民族別にすると、安南人三、二七九、五二〇人東蒲寨人三二一、四〇一人支那人一七二、一九三人印度人約二〇、〇〇〇人其他は歐州人及他の東洋人である、此中に七十人の邦人が含まれて居る。

(七)住民の言語性質勤惰　印度支那政廳は佛蘭西語を國語と指定し、之が普及に努めて居るけれども、佛語を解するものはまだ少數で、大多數は各自國有の言語を使用して居るから、本州で事を作さんとするものは是非安南語を學ばなければならぬ、世人は一樣に安南人を無智懶惰の民だと貶すけれども、予は左樣でない樣に考へる、彼等は近代的教育を授けて居ないから無智であるけれども、性從順で正直、體力比較的强健で、農耕に勤勉して居る、老幼六人を一家族とする彼等は、一戸當り平均三、二佛町の耕地(二、七佛町は米田である)を耕作して年々八十餘擔の米收と、若干の雜作物を得て居る、此事實は如何に彼等が勤勉せるかを證するであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(八)勞銀及勞働價値　市街に於ける勞銀は、男一日四十仙乃至五十仙女一日二十仙内外なるも、村落に於ける農用勞銀は男一日二十五仙乃至三十仙、牛付人夫四十五仙乃至五十仙、兒女一日十五仙内外である、勞働價値は水田一佛町の鋤起が七日で、割把が二日と云ふ功程であるから、臺灣、南支の農民相當と見られる、彼等を雇用の際は日雇とせず、功程賃銀とすれば有効率が高いそうである。

(九)河川と水利　本州を貫流する主要なる河川をメーコン、ヴァイコ、トンナイの三とす、就中メーコン河最も重要である、本河は二流となり北方東蒲寨より南東に向つて本州の西南部を貫流し、多數の運河及水路により西南十二郡に水潤を與ふると同時に是等地方の主なる交通路を形成して居る、ヴァイコ河は二流となり、北方東蒲寨より來り本州の中部を南走(ヴァイコ、オリエンタル)若は東南走(ヴァイコ、オクシデンタル)し、其多數の運河及水路により大寧(タイニン)、東安(タナン)、提岸(ショロン)の三郡に水潤を與へつゝ是等地方の交通に便し、ドンナイ河は東安南より來りベー、西貢の二支流を合せつゝ本州の東部を貫流して邊和チユドモ、ジヤーテンの三郡に水潤を與ふると同時に、是等地方の交通に便せり、此外カイロン、オンドク、マイタン、ライ等の諸川ありて各其地方に水潤を與ふ、以て、本州の農耕地が如何に水潤に富み運輸交通の便多きかを知るべきである。

(一〇)交通(一)鐵道　本州内に於ける鐵道は(イ)西貢より安南のニアトランに至る南北縱貫鐵道の本州内にあるもの百餘基米突(ロ)西貢ホクモン間及西貢ミト間九〇基米突の輕軌道の二にして、前者は官設後者は私設なり、鐵道の延長短少なるは運輸交通の不便を語る様なれども、運賃不廉の鐵道の短少なるは本州に投資せんとする外國企業家に取りては却て好都合であるであらう。(二)道路　本州は良好の道(メタルドロード)路制石で堅めた道路多數を有す其延長は一等道路千五百七十四基米突、二等道路千六百基米突、合計三千百七十四基米突にして、此兩種道路は自動車の通行を許す、此外二千四百基米突の三等道路(ノンメタルドロード)(馬車牛車の通行を許す)と多數の四等道路を有せり、一、二、三等道路の大部分は中部北東部の七郡に開鑿せられ水路多き西南部には少許の開鑿あるのみなり。(三)水路　本州は北より南に或は東より西に本州を貫流する河川、河川と海洋、河川と河川間に縱横せる多

數の水路を有するが故に、其延長は相當大なる筈なれど、其哩程幾何だか判明しない、上掲の道路水路には多數の自動車、馬車、牛車、人力車、汽船、汽艇、舟筏が織るが如くに往來して居るから、鐵道がなくとも運輸交通上には何等不便はないそうである

（二）都市海口　西貢は本州の首府であると同時に本州唯一の貿易港であるから、市内には諸官衙、公所、兵營、銀行、會社、商館等の大建築物が整然と立並んで居る、本市の前面を流れて居る西貢河の河岸一帶が繫船所である、港灣としての設備は貧弱であるが、河岸に橫著けするから船の荷役は便利だそうである、本市人口は本年のセンサスによると八三、一三五人で此人口の大部分は安南人と支那人に占められ、歐洲人及支那人以外の居留外人の數は僅かに一萬内外だそうである。

本港は支那海に於ける二大商業中心地たる、香港新嘉坡の中間に位し、世界大通商路の路側に立ちて居るから、海外市場との交通は極めて便利である、本港と海外諸港との距離は、

新嘉坡六四八浬、盤谷五七二浬ボムベイ三、二一八浬、マルセーユ七、二一九浬、バタビヤ一、〇〇〇浬馬尼拉九〇六浬、香港九三四浬、上海一、七七九浬、橫濱二、四四二浬

で、バタヴイヤ、馬尼拉以外の諸港とは定期船の連絡がある、本港に寄港する定期船は佛國郵船のマルセーユ、橫濱線、大阪商船の基隆デリー線、チヤイナ、ネヴイゲーションの香港盤谷線の三で、本港を基點とする定期航路は、西貢、海防線と西貢盤谷線の二である、

本港は印度歐洲諸港に對しては爪哇と同距離にあるが、香港、馬尼拉、支那、日本の諸港に對しては爪哇に比し約千浬程近距離にあるのと、爪哇が世界大通商路の裏道にあるに對し本港は其路側に立ちて居るから、通商上便益の地位を占めて居る、更に爪哇の諸港は何れも遠淺で、航洋船は三四浬沖合に碇泊荷役せねばならぬけれども、本港は水深大にして二萬噸級の船舶を河岸を橫著けさすから、貨物の積卸は極めて容易である、本港には我が正金、華南兩銀行の支店、三井物産、鈴木商店の出張所、大阪商船、山下汽船の出張員が先驅となり、金融、運輸、貿易等の業務を開始して居るから起業するには至極好都合である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

提岸(ショロン)に西貢の三基米突南にある大市街で、本州の商業中心地である、本市は運河により西南各地の都市村落と連結せられ、運河及道路により西貢及東北各地と連結せられて居る、街路は稍狹隘であるが、其河岸には十二箇の精米所と多數の倉庫が立並んで居る、他の街衢には大小の商賈軒を連ね、百貨の取引殷盛を極む本年のセンサスによりて見ると、本市の人口は九三、九四九人で、其大部分は支那人である、西貢より輸出せらるゝ米、其他の貨物は全部本市で取引せられ、西貢に輸入せられたる百貨は總て本市に入り、然る後各地に分布せらるゝのである。

他の都市　前掲二市の外、東部にはバリヤ（人口三〇、〇〇〇）邊和(ベンホア)（人口二〇、〇〇〇）中部にはミト（人口二七、〇〇〇）南部にヴインロン（人口一五、〇〇〇）カントー、ルデック、シヤトック等の市街がある。

（一二）産業の狀況　本州に於ける諸產業中最も重要なるものは何かと尋ぬれば、それは米作業であると答へる、本州米田面積は百六十四萬佛町で、米の作付面積は年により百五十萬佛町より百六十餘萬佛町に上り米の產額が頗る多いから州內の消費を差引ても莫大な過剩が出來る、一九一五年から一九一九年に至る五箇年間の米の平均輸出年額が百十七萬七千三百三十三噸に達し、本州輸出品總價額の大約九割を占めて居ると云ふ有樣であるから、米作業が本州の產業中如何に重要なる地位を占めて居るかゞ推知せらるゝであらう、然るに本州の米田の大部分は雨期に於ける自然の灌漑を待て耕作するもの（約二〇パーセント）にあらざれば增水期に於て河川の水を引入れて耕作する（六二パーホント）一作田であるから（以上の外汎濫水の浸入を待て耕作するものが八パーセントある）作付面積の多い割合に收量が少い、今其收量如何と調べて見るとアトラス、スタチスチク（佛領印度支那政府の發刊）は一九一二—一三年の米の作付及收穫高を一、五〇四、〇〇〇佛町、一、九九三〇〇〇噸（籾(パデイ)）即一佛町當りの收量を一噸三二一（玄米として〇、九二四噸我六石四斗六升）と計上してある、又本州農務局の發表した一九一九—二〇年の作付及收穫高は一、六九一、六八四佛町二、一七五、四一六噸（籾）即一佛町當收量一噸二八と計上して居るが（米田總面積が一、六四〇、〇〇〇佛町であるから、一六九一、六八四佛町の作付は誤算であらう）共に收穫の見積りが過少の樣である、何故と云ふにアトラス、スタチスチクは一九一二年度に於ける州內消費

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

額を一、〇八〇、〇〇〇噸(食用九〇〇、〇〇〇噸、種子用一五〇、〇〇〇噸、酒精用三〇、〇〇〇噸)としてある(籾の計算なり)然るに州外輸出額が白米として一、一七七、三三三噸で、此籾の量が一、八九八、九二四噸(籾百に對する二號白米は六十二の割合となる)であるから生産額は此二者の合計二、九八八、九一四噸であらねばならぬ、之に最近の耕作面積一、五九一、六八四佛町に割宛れば一佛町當りの收量は約一噸八八となる、如何に少いとて此位の收量はあるであらう。

籾一噸八八(三一擔五)は二號白米一噸一六五六で、我八石一斗二升位である、之を我日本内地の十六石九斗一升及臺灣の十二石四斗二升に比すれば、前者の二分の一、後者の三分の二弱に過ぎない少量で、我臺灣の嘉義、臺南の看天田の收量位であるから、米田と云ふも其價値が甚だ少い樣であるが、是は地味が瘠薄と云ふのでなくして、耕作が粗放であるからであるが、併し今の所勞力の需給の關係上、耕作の周約を期することは一寸困難な樣である。

米田價格は上々田四〇〇弗以上、上田三〇〇弗、中田二〇〇―二五〇弗、下田一二〇―一五〇弗位の見當だらうな、小作料は上々田二〇擔内外、上田一五擔、中田一〇―一二擔、下田六七擔位と云ふことである。米田の租税は上々田二弗(一佛町當り以下同)上田一弗五十仙、中田一弗、中下田五十仙、下田二十五仙、下々田十仙である、而して籾一擔の價は二弗から二弗五十仙だらうであるから、米田の利廻は一割内外と云ふことである、小作人の耕作收入は如何であるかと見ると、中田一佛町の收量は籾三十一擔半であるから、此中より小作米と種籾十一擔を差引けば二十擔半殘る、之が勞銀及耕作收益としての小作人の所得である、籾一擔の價が二弗なれば四十一弗、二弗五十仙なれば五十一弗二十五仙の收入となる、之を我が内地や臺灣の小作人の耕作收入に對照すれば、四分の一乃至二分の一足らずである、本州に於ける最大重要の産業たる米作の所得が上掲の如き少額とすれば、米を競爭作物とする甘蔗の栽培には至極好都合である。

米作に亞で稍や見るべきものは、護謨の栽培業である、護謨栽培地の貸下面積は大約七萬餘佛町に達し、一時非常の勢を以て栽培をして居たが、歐洲大戰勃發の爲め、多數の佛人が歸國したので一頓挫を來して居る内、次で護謨の市價低落に遭遇したので、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

益不振となり、今では栽培を續行するものは殆んどなく、多くは既成林の手入をなす位であるさうな、既成林の面積は大約二萬佛町位で、其中採液樹齢に達せるものが約一萬五千佛町程あるさうである。

椰子、檳榔は州内到る處に少許づゝ栽培せられ居るが、栽培者が多いから、栽培面積は可なり多い樣であるけれども、七—八千噸のコプラが輸出せらるゝだけで、他は皆州内で消費せらるゝさうである、マンゴー、鳳梨、マンゴウスチン、バナナの如き果樹はジャーテン、ベンホア、チユドモ、タイニン方面に栽培せらる佛人經營のコーヒー園がチユドモ郡のロクニン、ホンカン、ベンホア郡三福及龍潭方面にあり、胡椒園がハチエン、ハリヤ兩郡にあるけれども、栽培面積尚ほ狹少、産額も僅少の樣である、此外玉蜀黍（シャドック、ロンセンを主とす）煙草、豆類、蕃薯、甘蔗（主としてジャーデン、チユドモ、タイニンにあり）等も栽培せられて居るけれども何れも其面積僅少であるから言ふに足らないが、獨り甘蔗は生育旺盛、作柄良好で多望の將來を有て居る樣に思はれた。

●牧畜　本州には家畜は相當飼養して居るけれども、牧畜專門で遣つて居るものはない樣である、州内にある家畜數は牛が十萬餘頭、水牛が二十六七萬頭、馬（爪哇馬の樣なもの）一萬二三千頭ださうである、是は役畜である、此外豚が七十餘萬頭、山羊が若干居る、是等の畜類は各地の農家に飼養せられて居る。

●●●精米業　農業以外の産業で價値あるものは堤岸に於ける、精米業である、精米業は最新式精米機を有する大規模のものである、精米所の數は十二箇で、其一晝夜の精米能力は五千二百噸（最小工場が二百噸最大工場は六百噸）である、是等精米所の有する倉庫は多數で、其收容力は精米五萬四千噸、籾四十八萬噸ださうである。

籾に對する精米步合　籾百擔に對する精米の出來步合は無碎白米四〇擔、一號碎米一五擔、二號碎米七擔、三號碎米四擔、糠九擔、籾殼二五擔ださうだが（爪哇に於ては籾百擔に對し玄米七百擔、又は籾百擔に對し混交白米六十三擔、糠七擔、籾殼三十擔の割合として居る）併し籾百に付二號精米六十二とするが例ださうな。

精米に關する精米所と依賴者の間の慣行取極は、（一）精白米と一號及二號碎米は依賴者の所得とす（一號碎米は二分の一粒以上のもの二號碎米は四分の一粒以上のもの其他は三號とす）（二）籾包裝の古袋は依賴者の所得とす（三）艀より籾陸揚倉入賃、及精米の倉出艀積賃は依賴者の負擔とす（四）碎米三號、糠及籾殼は精米所の處得とす（五）精米の倉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

入費用は精米所の負擔とす(十八)依賴者所得の精米及一、二號碎米を包裝する新麻袋は精米所の負擔とす

右の取極の下に精米する賃銀は籾一擔に付四十仙ださうである。

當地の米には長粒と圓粒がある、長粒は支那歐洲向で、圓粒は日本、爪哇向にすると云ふ、白米の等級は長粒でも圓粒でも何れも三等級である、而して一等米と云ふは、碎米二割乃至二割五分を混じたもの二等米は碎米四割を混じたもの、三等米は碎米五割を混じたものである、歐洲行は皆一等米、日本、爪哇、馬尼拉行は主として二等米、支那、香港行は二三等米ださうである。

精米所の名稱、資本、能力等左の如し。

精米所名	資本金額 弗	精米能力 噸	精米收容力 噸	籾收容力 噸
萬昌源(南隆)	三〇〇,〇〇〇	五〇〇	六,〇〇〇	四七,〇〇〇
怡昌	三〇〇,〇〇〇	四五〇	六,〇〇〇	五三,〇〇〇
義昌盛	三〇〇,〇〇〇	三五〇	三,〇〇〇	三三,〇〇〇
萬祐源(萬順源)	二三五,〇〇〇	四〇〇	五,〇〇〇	三八,〇〇〇
源豐盛(ユニオン)	四九〇,〇〇〇	二〇〇	二,五〇〇	三〇,〇〇〇
萬益源(南隆)	一五七,五〇〇	四五〇	二,五〇〇	一八,〇〇〇
南豐盛(オリエント)	六〇〇,〇〇〇	五〇〇	三,〇〇〇	四〇,〇〇〇
同和	九〇〇,〇〇〇	六〇〇	七,〇〇〇	七三,〇〇〇
萬豐源	五五〇,〇〇〇	四〇〇	六,〇〇〇	五〇,〇〇〇
萬德源	五〇〇,〇〇〇	三五〇	三,〇〇〇	二〇,〇〇〇
モサル	九〇〇,〇〇〇	五〇〇	五,〇〇〇	四〇,〇〇〇
デニーニ	九〇〇,〇〇〇	五〇〇	五,〇〇〇	四〇,〇〇〇

是等の精米所は多數の米仲買人の依賴を受け、西貢より輸出する米の殆んど全部を精白するのである で九百十五年以降の五箇年間に於ける西貢米の輸出量及輸出先は左の通りである。

仕向先	一九一五 噸	一九一六 噸	一九一七 噸	一九一八 噸	一九一九 噸
佛國	二二三,六六六	二四四,九八〇	一六四,八八〇	三六,二八二	七八,一九三
蘭印	一七八,五七三	一〇一,一〇〇	一二九,〇〇四	八〇,三六四	四八,二五〇
新嘉坡	一八六,二九五	一二一,〇七四	一六九,六三二	一二九,七五三	九四,二四九
比律賓	一〇五,九一九	一二九,九九五	一三一,九八四	一五九,九七三	二五,八九六
香港	三五〇,〇九九	六一五,四四三	五五三,三四九	六七〇,五四六	二七九,三一四
日本	—	二〇,〇〇〇	九六,三六八	三五四,四三六	一九八,六一四
其他	—	—	—	—	一四,三八四
計	一,〇四三,五〇二	一,二三二,五九二	一,二三九,二二七	一,四一三,三五四	七五四,〇〇〇

●製鹽、酒精● 此外バクリウ、バリヤ兩郡には鹽田があつて製鹽を行つて居る、鹽の平均產額は前者二萬三千五百噸、後者二萬千八百噸で、合計四萬五千三百噸である、州內の消費は平均四萬噸內外であるから、五六千噸の餘剩を見るさうな、西貢、堤岸其他

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の都市には酒精の蒸餾所があつて、燒酎を造つて居る、是等蒸餾所の原料米は十二三萬石に上るから、其蒸餾高は可なり多量の樣子なれども産額は不明である、鹽と酒は政府の專賣であるから、確實の産業と云へるが有利と云ふ程ではあるまい。

●●貿易業　本州の貿易は西貢及提岸に居住せる六十餘箇の支那商館(合股公司)と十三箇の佛人商館(會社及個人)と四箇の外國商館によりて取扱はれて居る、是等の商館によりて取扱はる丶主要なる貿易品の輸出入量左の如し。

輸出品

品名	數量	品名	數量
米	一、二五〇・〇〇〇噸	肉桂	二五〇噸
玉蜀黍	三〇・〇〇〇	護謨	三〇〇
胡椒	二・〇〇〇	魚油	?
皮革骨角	一・五〇〇	甲殼	?
鹽魚乾魚	三〇・〇〇〇	棉花	?
コプラ	八・〇〇〇		

輸入品

品名	數量	品名	數量
織物類	二八・〇〇〇噸	稍子製品	三・〇〇〇噸
石油類	二六・〇〇〇	金屬類	八・〇〇〇
麥及麥粉	一〇・〇〇〇	化學藥	二・〇〇〇
砂糖	六・〇〇〇	阿片	二〇〇
他食料品	一四・〇〇〇	建築材料	八・〇〇〇
紙及製品	四・〇〇〇	石炭及タール	一三・〇〇〇
金屬製品	五・六〇〇	油類	六八〇
酒及他飲料	ヘクトリーター 四二・〇〇〇	果實	九・〇〇〇
陶器	三・〇〇〇		

上掲の通りで輸出品は米である、米以外の物品が若干あるけれども、何れも少量で、全體を引括て僅かに米の十分の一位である、輸入品も生活程度が低いのと工業がないから、至極簡單であるが、是れ畢竟産業幼稚の結果である。

(一三)内國稅及關稅　(甲)内國稅

(一)　地租(イ)市街宅地租　は西貢、提岸は四等級に分ち、建敷一平方米突に付弗〇・〇〇五より弗〇・〇三七五を課し、郊外宅地は建敷一平方米突に付弗〇・〇〇二五建物なき分弗〇・〇〇〇二を課す、他の市街宅地は建敷一平方米突に付弗〇・〇〇〇一乃至弗〇・〇二を課す、此稅金額一九一三年度一一五・六一七弗・一九一四年度一一〇・四〇〇弗なりし。(ロ)　米田租　米田は六等に分ち一佛町に對し年稅二弗、一弗五十仙、一弗、五十仙、二十五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仙及十仙を課す、此税額一九一三年度一●八二七●九三四弗、一九一四年度、一●七九三●四〇〇弗。

（八） 雜作地租 雜作地は三等に分ち、一等地（ココア椰子、コーヒー、胡椒煙草、檳榔、鳳梨荳蔻他果樹栽培地）一佛町に付年税二弗七十六仙、二等地（落花生胡麻玉蜀黍番薯甘蔗蔬菜地）一佛町年税九十六仙、三等地（水棕梠栽培地）一佛町年税四十仙を課す、此税額一九一三年度三一九●二六五弗一九一四年度二一八●〇〇〇弗なりし。

（二） 舟筏税 船艙の積量、五十擔以上三百擔以内のもの積量毎一擔に付年税金四仙、積量五十擔未滿十一擔以上のもの每隻年税六十仙を課す、此税額一九一三年度に一六三●四七三弗、一九一四年度一五八●八〇〇弗なりし。

（三） 人頭税 十八歳より六十歳に至る安南人男子には一人に付年一弗の人頭税を課す（但し兵役に服せるもの及陸海軍に雇傭せるものは免除す）此税額一九一三年度六九九●三七六弗●一九一四年度六九五●六〇〇弗なりし。

（四） 營業免許税 營業狀態及規模に應じ最低八十仙乃至二弗より六十弗百五十弗最高四百弗の年税を課す。此税額一九一三年度二八六●二八六弗、一九一四年度二八七●八〇〇弗なりし。

（五） 亞細亞人居住許可及入國税 居住許可は一人に付二弗五十仙乃至五弗、入國税は一人に付十五弗（主として支那人）此收入額一九一三年度一●三五九●九三四弗、一九一四年度一●二二三●七〇〇弗なりし。

（六） 亞細亞人營業登錄税は其業態に應じ四〇〇弗二〇〇弗、一〇〇弗、五〇弗、二〇弗、一〇弗を課す。

（乙） 關税

（一）輸出税 印度支那の輸出税左の如し。

品名	單位	税額	品名	單位	税額
籾、カーゴ米	百基	〇・六六（註）	玄米	百基	〇・四二（註）
白米	同	〇・三三	碎米、糠	同	〇・〇四
赤砂糖	同	二・〇〇	白砂糖	同	五・〇〇
糖蜜、甘蔗	同	一・〇〇	實棉	同	二・〇〇
棉花	同	六・〇〇	象	一頭	五〇・〇〇
馬、水牛	一頭	二〇・〇〇	牛、黃牛	同	五・〇〇
豚	同	二・〇〇	仔豚	同	一・五〇
生魚	百基	一・〇〇	乾魚	百基	二・〇〇
乾蝦	同	一・五〇	鱶鰭	同	一・五〇
海草	同	一・五〇	魚脂、魚油	同	一・五〇
只蔻	同	一〇・〇〇	肉桂	同	三〇・〇〇

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

漆清	同	三九・〇〇	スチツクラック	同	一〇・〇〇
茴香油	同	二〇〇・〇〇	木炭	同	〇・二〇
檳榔	同	一・〇〇			

（一二）輸入税　佛領印度特定輸入税表は支那產貨物に對する特定税を規定し、其他は本國の輸入税表により課税するのである、處で此税表には一般税率と最低税率が規定せられてある、最惠國商品には最低税率を課することになつて居るが、我國の對佛條約は佛本國との條約であるから、植民地を含まぬことになつて居る爲め、我が生產品が佛領印度に輸入せらるゝ場合には、一般税率を適用せらるゝ爲め、英米其他の同品に比し五割高の税がかゝる（一般税率は最低税率に比し五割高なり）であるから現狀を改良せなければ我が商品は到底佛領印度には輸入が出來ないさうである、此輸入税表中より米糖に關するものを擧ぐれば左の如し。

品名	單位	税額（法）	品名	單位	税額（法）
籾	百基	三・〇〇	碎米	百基	六・〇〇
白米	同	八・〇〇	精糖	同	六・〇〇
麻袋及割籐	同	無税	粗糖	同	五・〇〇

（一四）通貨　佛領印度支那に於ける主要なる貨幣を、ピヤスターと稱する弗銀とす、此の弗銀は印度支那全土に流通し、物價の標準、計算の基礎をなせるものなり、此弗銀の量目は二十七瓦にして其品位九〇〇なるが故に、墨銀、香港弗、圓銀等と同價のものなり、弗銀の百分の一を單位とし、五十仙、二十仙、十仙銀貨及一仙銅貨とサペツク銅錢（五分一仙）の五種の補助貨ありて均しく流通せり、上揭硬貨の外。

印度支那銀行は銀塊弗銀を準備として百弗、二十弗、五弗、一弗の銀行劵を發行し佛領印度支那全土に流通せしむ（銀行劵には奉本國命六省共通と記しあり）本弗銀の佛貨に對する法定比價は戰前に於ては二法五十參なりしも、近時佛貨下落したる爲め本法定比價によらぬことにはなつた。

（一五）物價　は低廉である由なれど各種商品に付詳細に調べないから、全部を知ることが出來なかつたが籾一擔（六十八基我百十二斤）が二弗乃至五十仙、白米は西貢では五六弗するけれども、村落では三弗二三十仙から三弗、七八十仙（白米一擔は六十基七）である赤砂糖一擔七弗內外落花生一擔六弗、鹽百基四弗、石油一箱（二罐）七弗內外、燐寸一箱（六〇〇打）六十五弗刻煙草一基一弗八十仙、鷄一羽三十五仙より四十五仙、豚一基、五十仙、牛肉一基、四十仙と云ふが如くで此他は調査漏である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

布哇の教育及人種問題と日本人（中）

商業學校教諭　智念昌永　譯

五

布哇の教育生活に於ける有力なる一要素として布哇の教育制度の調査上忽諸に附すべからざるは外國語小學校とす。斯る小學校の設立されたるは東洋よりの移住民の過多なると、東洋人父兄が己が子弟に御國風の教育を施さんとする自然の結果に外ならず。是等の小學校は米國化を遲々たらしむるか又は阻止するの危險ありと認めらるゝに至りし數年前迄は是等外國語小學校の狀態を調査し又は之を改變せんと努むるが如き事絶えてなかりき。目下斯種小學校百八十五校教師四百八十九名生徒二萬二千人あれども多くは日本人小學校にして其生徒數二萬、其他は朝鮮人及支那人小學校とす。

今左に外國語小學校數其他を示さん

宗教別	校數	教員數	生徒數
日本人（基督教）	一〇	二三	六〇七
日本人佛教徒（曹洞宗）	一三	七	六〇〇
同上（淨土宗）	一八	五一	一、六〇〇
同上（眞宗本願寺派）	四二	一九五	七、二〇〇
何れの宗教にも屬せざる日本人	九〇	二一三	一〇、三八九
朝鮮人小學校	一〇	一三	八〇〇
支那人小學校	一二	二六	一、二五〇
計	一八五	四八九	二二、四四六

日本人小學校は從來最も注意せられ又酷評を受け來れり。斯種小學校は元來布哇在住の日本人基督教徒の創設したるものなるも、今日殆んど總て五宗派の佛教徒の經營に係るものとす。日本人小學校は其後漸次發展するに從ひ、面白からざる傾向を示し、殊に數年前米國主義に代るに日本主義を教ゆるものなりと痛烈に非難されたるが此非難にして確かに信ずべき節多かりしを以て遂に斯種學校の存立を默許する能はざるに至り。今日寧ろ苛酷なる地方的法律の掣肘を受け、曾つて日本人兒童は公立學校時代前後に日本人小學校に通ひしかども今日其日本人小學校

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にては(其他の外國語小學校も同様なるか)公立學校時間後一日一時間一週間六時間一年三十八週間を超えて開校することを禁せらるゝに至れり。

公正に言はんか斯種の學校は從來卓越せる事業を爲せると云ふべく、各學校區に於て地方民衆の中心物の觀あつて、今日布哇の校舍の全然不十分なる際敎育者は日本人小學校當局者に懇請し、外國語小學校を借りて公立小學校兒童を收容せざるべからざる有様なり。

前述の寧ろ不完全なる例證より以上に布哇の敎育問題の人種及び言語てふ要素を説明し得るものなし本問題は目下最も鋭敏なる形勢に際會す。

目下勢力不足に因る農業の大危機は本問題の將來に多少の不安を生ぜしむるものにして、二年前日本人農園勞働者のストライキは彼等の國民精神を發揚せしめ、人種爭鬪てふ危險を誘起するに至らるやとの不吉の豫測を抱かしめたるが、幸にストライキは中止されたるも至大の悲痛を殘せり布哇ば其農業危機を免れん爲め他人種の勞働者を求めつゝあるが、今や多くの日本人側に於て國民精神の再破裂を齎さんとしつゝあり。

經濟狀態には學校問題に影響することなし、但し之れが爲め外國語小學校は國民精神を維持する一主要分子なりしやの問題の當然起る場合を除く。遊び盛りの兒童は毫も人種的怨恨に關することなく若し之を知るとも大人の使嗾に依るのみ。多種多様の人種よりなる兒童は嬉々として群れ遊び居れるに反し父兄等は大平洋の空に集る雲を不安げに見つめつゝあり。

六

此事たるや總て米領たる布哇に對し陰鬱なる感を與ふるもの〻如く思はるゝも、布哇に於ても一般に斯る觀察をなすものなし。米國人餘多の問題、更に餘多の責任を負はせつゝあることを考ふる布哇島民は島内の多くの外國人は有能なる米國民に感化し得ずとは決して認めざる所なり。

第一各人種は速かに融合することは布哇に於て極めて明かなり事實にして此融合の結果新しき體型は發達し島民に現れ今や單に數年先きのみならず數世紀先を見越しつゝあり。此新き體型は卽ち多くの人種の混合せる結果なり。

曾てポリネシヤ人の生住し、極めて原始的の生

活を爲し居りし此寂莫として美しき群島、即ち布哇に今日人種混合の點に於て世界の最大研究所たり。此地にて東洋と西洋と會し、北部アメリカと西比利亞と對蹠と會し、又此所にて瑞典系とチユートン系と錯交し、アングロサクソン人とアジア人、馬來人とミクロネシヤ人と、スラブ人とスカンヂナウイヤ人と互に混合し、互に夫々感化しつゝあり。

布哇は久しく「大平洋の坩堝」と稱せられたれども、夫れにて意味充分ならず。布哇は外界の影響に依り混合さるべき各種の分子を投け込みたる坩堝なるのみならず、人間の努力及智惠に依りて米國市民と外國人とを混合せんと努むる研究所試驗場なり

最も混合し難きを日本人及朝鮮人とす。其他の人種は容易にポリネシヤン系と、相互に結婚し、好成績を示し居れり。人類に貢献せるは布哇人にして、布哇の文化よりも力強き文化に際會するに先ち姿を秘め、布哇の新しき市民に布哇人特有の從順と優雅の氣質を傳へたり。純粹の布哇人は漸次減少しつゝあるに反し他の血を混したる布哇人は益々增加し來り例へばコーカサス系布哇人、支那系布哇人、葡萄牙系布哇人の如き主として今日の青年男女市民を代表す。

布哇在住既に一代二代に亘れるも、他人種と快く混合せざりし例へば日本人の如き人種すら其風貌に變化を來しつゝあり。三代に當る日本人兒童は祖國より此地に初めて渡來せる祖父母よりも形狀大なるものゝ如く背高く四肢灣曲せず其の祖父母よりも圓みを持ちたる容貌及體重の大なる點は、布哇の變調なく、溫和なる氣候及び布哇の生活狀態の祖國よりも好良なることが移住民の子孫に及ぼしたる好結果を證明するものなり。

第二に新しき肉體的及び精神概念は移住民及び生れながらにして市民權を得たる小兒の生活を全然一變せしめつゝあり。之は異なれる人種と親く接觸せしむる周圍の經濟力の結果なると共に又一方肉體及び社會改良てふ根本的目的を以て企てらるゝ社會、敎育及び宗敎事業の結果なりとす。

面積又は人口の布哇の夫れに等しき合衆國州に於て外國人及其兒童の爲めに金と時をば費す事業に布哇の如く完全の組織を有するものありや否やは疑問にて元來公私立學校、敎會、租界安寧を計る多くの社會的組織、相互貯蓄組合、異人種間の聯合組合及

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

び主なる農業上の重要にして多額の費用を要する工業治安官廳―其他鞏固なる後援と賢明なる指導を有する各種事業は絶えず外國人に多くの影響を及ぼすものなり。

日本人、支那人、比律賓人、朝鮮人、ポートリコ人及其他を同一農園に使用せしむる經濟力又各都市に於て商業及び技術上前記各人種間の競爭を惹起する經濟力は、外國人及其子孫に共通語を教え、布哇に於ける總ての住民の共通運命を力說しつゝある文化力よりも、强く、將來の米國市民に影響を與ふるものに非ず。

七

公立學校は將來の市民を調和し啓發する主要作因たる所以は感化し易き兒童をして新しき國語及び新しき思想を速かに了解せしめ得ればなり。且つ多種多樣の人種より成る數千てふ兒童の精神、身體に及び心裡をて、生來の人種を忘れず又恥ぢずして、米國市民たるを誇るが如き男女に養成せん爲め努力しつゝありて、其成績又優秀なり。

布哇の公立學校は一九二一年―一九二二年度の開校期に於て四二、五〇〇人の登校生徒を有せるが此生徒數は今日每年三千人を增加し、高等學校生徒は每年二千人を增加し居れり。昨年の公立學校教員數一二九九人、本年一四四一人なり。

普通教育說は熱心なる基督教宣教師が布哇に齎したるものにして其後著しく擴張伸展せり。今日公立學校の補助は布哇歲入の最も大なる負擔なるが同校の存續問題は從來絕えず島民に提出されたるものなり。

布哇に於て組織ある教育は、今より滿百年前即ち一八二〇年宣教師の實施したるものにて、大平洋上此寂莫たる諸島の住民に基督教のみならず教育に對しての熱心を齎したり。彼等宣教師は一八五〇年及六〇年頃の兒童はロッキー山の西にある最古の學校たるオアフ大學にて修學せん爲め帆船にてカリフォルニヤより送られたるものなりてふ感念を以て極めて熱心に教育を發達せしめたり。

布哇は一八四〇年以降强制就學法を實施せり。就學年齡は六歲より十五歲までにて、就學兒童數に於て布哇は每年平均九割二分を示し合衆國の各州よりも多し。

布哇の公立學校制度は最近二十年間に於て著しく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進展したるが今其經過を示せば左の如し

	學校數	教員數	生徒數
一九〇〇	一四〇	三五二	一一、五〇一
一九一〇	一五三	五〇二	二〇、二九〇
一九二〇	一七四	一、三三七	四一、三五〇
一九二一	一七四	一、五九二	四一、二三二

右表に見るが如く二十年間にて生徒數は殆んど四倍加せるに反し、校數僅かに百四十より百七十四に增加せるを以て公立學校制度は今や就學兒童劇增の爲め其制度の破裂せんこと明なりと云ふべし、刻下校舍問題は教育局の痛心しつゝある一大難件なり。

八

レオナード、ピーアイヤ博士の權威ある研究になれる『州立學校制度に對する指數』(ラッセルセージ財團發行)中に、布哇は第二十三番に位し、布哇の公立學校制度はインノイ、カンサス、ウイスコンシン、ニユーハムシヤイヤ、バージニヤ、テンネッセミスリ、バーモント其他の州の夫れを卓越すと記せる。同氏報告は登校生徒數學課の量、學校の遂げたる進步、校舍及び備品經費、教師俸給の如きを主要なる要素とし更に是らの要素を簡單なる指數計に表し以て同制度は一般情勢又は能率を示せり。

其他の點に於て、布哇の學校制度は布哇の正に誇るべきものゝ一なり。同氏報告は曰く「教育の機會は合衆國各州よりも公平に布哇全島に配布せられ首都と僻阪の村落との教育の差異は合衆國の各州よりも少し、此點に於て布哇合衆國の各州よりも民衆的なり」と。更に布哇は其生徒數に於て最高を示し居る事少し、布哇各校の授業日數は合衆國各州も同様百九十日なり。教師と校長は一年中十二箇月間俸給を月割にて之を受け、男女教師間俸給其他の點に何ら逕庭なし。合衆國内何れの公立學校も布哇の夫れ以上に顯著にして有力なる米國化養成所たるをものなしと述べ居れり。

今日普通教育は著しく進展しつゝあり。布哇の民衆的學校制度の目的は各生徒に對し基本教育に於てのみならず又夫々身體上の天性及性癖を利用し生徒の發達を促進する高等教育に於て亦修學に對する機會を與へんとするにあり。各兒童に人種的區別なく教育を施し。又此教育に依り兒童の天性を假りて實際に活用する機會を與ふることは公立及私立學校の共に一致する理想とす。(未完)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界經濟と獨逸の復舊

後藤改平譯

本編は獨逸經濟會議長エドレル、フチン、ブラウン氏が、昨年十一月發行の獨逸周刊雜誌デイ、ナオツヘ誌上に「歐州銀行の破產」と題して、揭載せるものであるが其の內容は世界の經濟と獨逸の復舊とが、如何なる關係を有するかを、極めて剴切に評論したものである、故に玆に改めて其の標題を「世界經濟と獨逸の復舊」と題して譯出することとした、若夫れそれに依りて、世界經濟上に於ける獨逸の地位が如何であるか、乃至之れに關して獨逸人が如何なる自信を有するかを、推知するの資料ともなるべきを思ひ玆に譯出したのである(譯者誌)

一　フエルセール條約と歐洲の運命

最近ソエート政府の衞生委員は「落雷」てふ標題の下に、露國の飢饉災厄に就て、一大警報を發したが今や歐羅巴に於ても、亦「落雷」てふ警報が傳はつたのである、乃ち之に關しては彼の狂氣的なフエルセールの書取(ディクタート)以來吾人が非常に說明を務めたところであるが、現下歐洲全土を襲ふて運命の銅音は、實に幾多無情なる人々の心の奧底にも響き渡つたのである

一千九百十九年の春歐洲の運命をば、其の希望のまゝに決すべく、フエルセールに於て開會したる五國會議は、全歐洲に對して、一個の罪過を行ふたが其の影響は寧ろ世界戰爭の破裂よりも一層悲慘なる運命を齎らしたのである、而して其の罪過の第一に行はれたのは獨逸である、卽ち獨逸は平和の確保と云ふ美名の下に、ウヰルソンの原則に據りて、全く無防備にされた、而かも彼等は其の前言を破つて、獨り獨逸の軍備計りでなく、其の經濟をも全然破壞せんかために、極めて無恥的に之れを遂行した、併しながら斯く運命を弄ぶべく企てた所の賢明なる政治家達も、憫れや左の如き結果を想像することが出來なかつた、乃ち天は彼等政治家をして、妄りに世界の運命を翫弄せしむるものでなく、且つ彼等の考を裏切りて、反つて反對の結果を生ぜしめ、以て其の輕侮に對し、復讐すると云ふことを覺らなかつたのである、加之彼等政治家達は更に下の如き事實を看過した、乃ち現時の狀勢は前世紀の初頭に於けるか如く、各國が經濟上特殊の生活を營み得るものでな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く、却つて萬國交通の現世紀に於ては各文明國の經濟的利益は、互に密接して分離することが出來ぬのみならず、或一國の苦痛は又他國の苦痛と爲りて我獨逸國の經濟的分裂も、遂には全歐洲の災害と爲ることを覺らなつたのである。

二　敵國側の覺醒

然るに今や敵國側に於ても、獨逸に對する復讐は又歐羅巴に對しても、復讐さるゝと云ふことを、稍々覺つたやうである、之は唯だ政治界方面の人々計りでなく、彼の有名なる「平和條約の經濟的效果」の著者英國のワルター、ケーネ氏の如きも即ちさうである又英國のロイドジョルジ氏及チャーチル氏の如き或は伊太利のニッチ氏の如き、孰れも憂慮の餘り之れに關しては、毫も隱蔽せぬのである、殊にニッチ氏が其の著書「歐羅巴の無平和」中に公々然としてフエルセール條約の即時改訂を要求し、且つ一千九百十九年三月のロイド、ジョルジ氏の備忘錄中に述べてあつた所の「條約は增惡に基いて出來たので、平和は成立せぬ」と云ふ文句を指摘したのは最も注目すべき價値がある、併しながら最早此等の事實を綴回へすも、六菖十菊である、事は旣に重荷を積まれ、何人も撑へることは出來ぬのだ。

三　華盛頓會議

余は二箇月前に於て、「何が歐羅巴から出來るか」と云ふ一の飛檄を發して、獨逸國や其他の歐羅巴諸國を脅威しつゝある災厄に就いて、警告さるところがあつた、而して或は此の災厄を救濟し得るであらう所の道をも指示した、其は即ち華盛頓會議である此の會議に於ては、彼の軍備縮小問題や、太平洋問題や、支那門戶開放問題等に就いては、立派なる論理的演說が行はるゝであらう、が併し最主要な問題……如何にして歐羅巴を救ふべきかと云ふ主要なる問題に付ては、或は躊躇するのではあるまいか。

余は獨逸の財政、竝に經濟狀態が如何であるかを多くの材料及演說に由りて說明したが、之は我國庫を嘲弄する爲めでもなく、又勿論政府を苦しむる爲めでもなく、却つて今正さに不運なる不平等の地位に在る我獨逸國民を扶け起さんが爲めであつた。

四　獨逸の財政狀態

余は今こゝに獨逸の財政狀態に付て、其の概要を述べやう、獨逸は今や每月七十億つゝ增加する所の國債三千四百六十億を有するのである、加ふるに獨逸は損害賠償の義務を有する、而かも國家所屬の財

産は、讓渡せる殖民地や敵國内に於て押收せられた財産中にあるのである、而して其の賠償額は來た確定せざるも、從來の報告に由れば、少くとも三千億である、左れど最破壞的なるは壓制的の債務負擔である、之は倫敦の最後通牒に依り已むなく敵國に對して獨逸の承認したるものであるが、其の額は一千三百二十億金貨麻克で、結局利子と共に二千億麻克になるであらう、此の事實は果して何を意味するか現在の取引相場に從へば獨逸國は十三萬億麻克（紙幣）の負債證書を排列する底のものである、換言せば吾々獨逸人は誕生と同時に毎一人が二十一萬麻克の負債を負はされた次第だ、然るに樂觀論者は左記のようなことを言つて居る。曰く、此の計算は不當である、吾々は此の負債を拂はずして濟むであらう蓋し敵國側でも、吾々が此の負債を支拂ふ以前は先づ經濟的檢査を行ふに相違ない、之れと同時に獨逸の支拂義務に對して、適當なる整理を爲すであらう斯ういふことを云つて居る、併し吾々は斯かる慰安的言辭を有しながらも、平和成立以來益々不幸の淵に沈みつゝあるのである、設令へ吾々は斯くの如き立場にあらうとも、是れを以て何等の得るところもない、否吾々は既に堪へ難き重荷を負はされたのである、若しも吾々が本年内に例の最後通牒を實行せねばならぬときには、獨逸の支出は三千百二十億麻克（紙幣）を要する、而して此の内二千五百七十億は新稅を課せねばならぬのである、更に換言せば各獨逸人の一年の收入は平均四千五百麻克なるに拘はらず、五百麻克の新稅を課せらるゝこと、爲るので、吾々は今最後通牒に對して、到底之を實行することは不可能である、古き俚言に「皇帝も無い袖は振れぬ」とあるが、是は獨逸の現狀に最該當するのである

五　貿易の停止と無職業者

今や如何ともすることのできぬ價格の差違に依りて、貿易は停止され、萬國交通も殆んど不可能となつた、獨逸、墺斯太利、波蘭、露西亜等の約二億の住民は、戰爭前までは、世界市場と密接の關係を有して、全世界貿易の約五分を占めて居つたが、今や此等の住民は、世界貿易より絶縁せられ、商人として何等の價値をも持たぬのである、而して此の一種の新封鎖に依りて、總らゆる工業國は目下次第〳〵に無職業者を出たしつゝありて、少からぬ脅威を受けつゝある、現時亜米利加合衆國に於ても無職業者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の數は五百七十五萬と註せられぬ、又英國に於ても約三百萬の無職業者を出だした、其の他丁抹、瑞典に於ても總勞働者の三分の一は無職業者で、他の三分の一は時間短縮に依りて僅かに勞働を續けて居る又四百萬の住民を有する瑞西では、無職業者の數が二十萬人で總住民の百分の五に當るので、全獨逸よりは約二萬人多いのである、之と類似の事實は和蘭に於ても見ることを得る、同國では昨半年間に於ける取引價格の損失は三十億グルデンに上ぼるのである、又伊太利に於ても其の豫算は六十億ソラの缺損を示し、無職業者の脅威も漸次加はりつゝあるのである。

六　歐羅巴の文化と獨逸の復讐

歐羅巴は獨り政治上の境界に依りて、各種の國家に區別せられて居る計りでなく、若しも其の心臟を破らるゝときは、共に與に結合的破滅を來さねばならぬ所の、一致したる經濟的國土である、それにも拘はらず、世界は吾々獨逸人に對して、或はハンス(匈奴)と稱し、或はボーヘス(猶太の法律家)などと云ひて、嘲弄することを得るであらうか、惟ふに歐羅巴の經濟及文明は獨逸を無視して成立することはできぬ、又戰爭に由りて破壞された經濟生活を再興せんとするならば、獨逸の科學、發明、活力、及其の勞働力は到底之を缺くことは出來ぬのである、併しながら斯かる能力は獨り自由に依りてのみ發達する世界は早晩フエルセール條約に由りて出來た不名譽なる奴隸的鐵鎖を解放して、再び獨逸にして萬國民中に同等の權利を得せしむるの必要を覺ゆるであらう。

○

兀として天そゝり立つ草嶺の
千ひろの裾に白浪の舞ふ

○

水牛はこゝにかしこに打ちむれゐぬ
相思樹の蔭水ぬるむところ

非常な雄辯家で研究心の强かつた樺山伯

可行子

世人は樺山伯とさへ云へば直ちに膽斗の如き英雄豪傑のやうに想像する。伯は實際さういふタイプの人に相違なかつた。併し伯は決して武骨一遍の人では無く、其の半面には世人の想像し得ざるやうな、非常な雄辯と非常な研究心とを包藏して居られたのである。

僕が個人として伯の其の雄辯に接したことは前後二回ある。一度は東京府立第一中學に在學の折、伯は文部大臣として卒業式に臨場し、一場の訓示を與へられたのであるが、自分は小供乍ら初めて大將の謦咳に接して、其の熱のある意力的な訓辭に、伯が非常の雄辯家たることを感じたのである。曾て伯が議會に於て、海軍問題に關し大雄辯を振はれたが爲に、彼の日清戰爭に大勝を得た所の海軍を築き上げたことを想へば、伯は單に武勳の人たるのみでなく、又た偉大なるオレーターであつたと言ひ得るのである。

今一度、僕が伯の雄辯を感じたのは、例の臺灣共進會に來賓として渡臺せられた際、鐵道ホテルの官民大歡迎會に於て謝辭を述れた伯の演説が、是亦た御老體に拘はらず非常の出來であつたので、伯の雄辯が彌が上に益々圓熟洗練されたのを知つた譯であつた。

其の雄辯と共に自分が感じたのは、伯が非常に研究心の强いことである。其の一例は右の共進會の折、伯を初め比志島大人其他多數の人々が各所を觀て歩行いたことがあつたが其際案内役たりし市來半次郎氏の話を後で聞くと一行が第二會場に充てられた植物園を參觀して貴賓室で休憩するや、皆な疲れて仕舞つて「もう草臥れたから今日の參觀は之れで止めやう」と言ひ出した。所が最も年の寄つた伯は、「お前達は休め、俺はもう少し熱帶植物を研究して來る」と言はれて、更に技手を案内にして園内の各植物を一本〳〵、名前から其の原産地及利用等に至る迄熱心に研究して一々ノートに控へ、最後に其の説明者に對して「今日は非常に好い學問を仕た」とて厚く禮を言はれたといふことである。

武骨一遍で而かも高齢の伯が、外の若い連中が草臥れて止めやうといふのに、熱心に植物を研究されて好い學問を仕たと言はれたことは、以て如何に伯の研究心の旺盛なりしかを語るもので、伯の如きは蓋し死ぬ迄も研究するといふ人であらう。然るに世間では今日大學教授が其の老朽からして六十歳停年説を聞くのであるが、一體大學の教授が六十になつて既に老朽するといふことであれば學問の進歩は何うして期せられやう、六十で既に古垂れるのに老朽でなくて若朽である。僕が伯林留學中に觀た所では、ワグナー教授などは七十五歳、シュモラー教授も七十二三歳で、夫れで盛んに人氣を集めて大講筵を開いて居た其處に獨逸人の強い所が見られる。ソレを六十になつたから停年にすることは、する人もされる人も惡るい。日本人に死ぬ迄研究する心が出ない以上は、迚も歐米と一緒に進歩は出來ない。此點に於て伯の如きは眞に尊い人であつたと思ふのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島情

金融概況

―大正十年十二月中―

財務局金融課

二年餘に亘る財界の不況は容易に回復を見ず今尙暗夜を彷徨せるもの丶如く黎明の曙光を仰ぐは前途尙遙かなるの觀あり島内重要物產の如き何れも取引頗る鈍狀を呈し久しく不活潑裡に沈淪し居たりしが當月は恰かも二期米出盛期さて相場不昧なるに拘らず相當取引ありたるさ新糖の賣出開始さに依りて幾分活況を呈し糖米貸金の需要も著しく增加を見たり各銀行米糖放資額を見るに米に對しては千七百八十六萬二千二百七十四圓にして前月に比し三百三十五萬四千四百八十圓の增加を來し砂糖に對しては三千三百九十二萬三千六百二十六圓にして前月より千六百二十六萬千五百圓の激增を來せり

更に茶樟腦其他に對する放資總額は六千百九十五萬三千五百圓にして前月より千八百五十七萬九千百圓餘の增加を示せり一般歳末商取引は例年になき不況を極め糖價の不振さ米價の崩落さは地方農民の購買力を著しく減殺せるもの丶如く一般事業界亦甚た沈滯して官民を通じ整理縮少に追はれ各地市況爲めに甚しく活氣を失ひ歳末大賣出高の如き例年に比し約二三割減んして、官廳側歳末贈答廢止の宣傳は市況に影響せし蹤跡なからざるか如し從て臺北手形交換高の如きも前年に比し頗る不活潑にして當月は三萬三千八百枚千四百八十二萬七千餘圓にして前月に比し五千八百枚二百九十二萬二千圓の增加を示すさ雖も前年同期に比較するさきは二千枚四百五十二萬餘圓の減少さなり金融例年に比し概して閑散なり次に島内各銀行預金貸出金の殘高を見るに預金に於ては七千五百八十八萬七千七百餘圓にして前月に比し百六十三萬八千圓前年同月に比し八百十八萬五千圓の激減を示せり

貸出金に於ては年末決濟資金救濟資金等の貸出に依り前月に比し七百五萬一千圓を增加して月末殘高二億九百七十一萬三千圓なり之を前年十二月に比較するさきは三百二十二萬二千圓の減少に當る下旬臺灣銀行は年末決濟資金及糖米資金の需要に應ずる爲め二十萬圓を限度さして兌換券の限外發行を爲し現下逼迫せり金融の緩和を計れり

二十九日に於ける限外發行高年内に於ける最高額を示し四百一萬四百四十五圓なり

金利は大體に於て保合なるも近時平準を失したる内地のコール高に影響され、中旬各銀行共貸出金利に於て一二厘方の引上を爲せり近年異狀の發達を見たる本島信用組合は現在各州を通し其數二百二十六金融機關さして特殊の職能を盡し殊に地方金融に貢獻する處鮮なからず月末貯金殘高六百七十三萬八千圓にして貸付金の殘高は二千二百十九萬圓なり

臺北物價は當月平均指數二〇〇、四一を示し前月に比し一、六九の下落率なり一般物價は前月末多少强調を呈したれど購買力の減退甚しく殊に米糖價の下落は一般に影響せしもの丶如く、久しきに至る騰貴の趨勢を破りたり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

手形交換月表

所在場所	年月次	枚數	交換高	交換尻
臺北	一〇、一二	三一、八七四	一四、八二七、四二三	四、五七三、五〇七
	一〇、一一	二七、九八八	一一、九〇四、五五〇	四、六〇三、〇一七
	九、一二	三五、八八三	一九、三四七、一四五	七、二一七、三七四
臺南	一〇、一二	一九、一〇〇	五、六三二、九二二	一、四五八、〇〇六
	一〇、一一	一六、六八五	四、八〇八、〇五四	一、二七九、七三三
	九、一二	一九、〇五〇	六、四二八、五一九	二、〇〇九、五一八

大正十年十二月末預金貸出金殘高及金銀在高表

銀行名	預金	貸出金	金銀在高
	円	円	円
臺灣銀行	三一、四八一、〇五四	一四一、二五三、八七[illegible]	三、七三〇、八八三
華南銀行	二、四四四、六七〇	一四、二五四、〇八一	一三、五三八
新高銀行	七、〇二五、四二一	一一、七七五、三〇八	二九七、一四六
彰化銀行	八、二六五、一三七	一三、一九五、七九二	二二三、四二二
臺灣商工銀行	一三、七八二、八三六	一四、五八三、三〇九	三一六、四八四
嘉義銀行	四、五二二、二八三	六、九五五、三八七	一五九、五三〇
三十四銀行支店	八、三四三、三八五	八、七一八、五五六	三〇八、三九八
合計	七五、八八七、七五六	二〇九、七一三、三〇八	五、〇六七、五〇〇
前年同月	八四、〇七二、九九九	二二三、九三六、一一〇	五、一二九、〇一四

大正十年十二月中重要物產ニ對スル各銀行放資額

銀行名	區分	米	砂糖	茶	樟腦	金塊	酒精	石炭	計
		円	円	円	円	円	円	円	円
臺灣銀行	放資額	一三、九一一、九四〇	三〇、五三五、二〇五	四六八、五〇六	一、六五八、三〇六	三〇八、三七八	三〇九、八〇六	二、六二八、〇九九	四九、八二〇、二四〇
	月末殘高	一八、三〇八、三一一	三五、四八一、五九七	一、〇八〇、七九六	一、三六七、六二一	三五五、六九九	八三七、九四三	三、三〇二、一五四	六〇、七三四、一二一
華南銀行	放資額	二、六六七、五八八	一、〇八九、二〇五	九〇五、四六八	六〇〇、〇〇〇	—	—	一、〇〇四、七四〇	六、二六三、〇六一
	月末殘高	一、六六一、六三三	一、一三五、二六五	八二四、〇七五	六〇〇、〇〇〇	—	—	九六五、四四〇	五、一八六、四〇三
新高銀行	放資額	五、一九八、七三三	四四一、七九五	三四六、九九八	二三、八六〇	四五、六八七	三四、二二三	二三八、二六〇	一、六四九、七四五
	月末殘高	一、二三三、二八五	五九七、一九七	一、〇八四、七九一	四六、五八〇	二六、一三八	三八、七三七	二八九、七一[illegible]	三、三一七、三九九
彰化銀行	放資額	六三六、七七八	一六四、三一二	—	—	—	—	—	八〇一、〇九〇
	月末殘高	一、一五一、九七九	四一八、六五二	—	—	—	—	—	一、五七〇、六三一
臺灣商工銀行	放資額	二九四、六〇一	一、〇四三、九六〇	三一、〇〇〇	—	—	—	五二八、八〇六	一、八九七、三六七
	月末殘高	三七八、二四〇	一、一〇五、七八〇	三七、八五〇	—	—	—	五九八、七九〇	二、一二〇、六六〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嘉義銀行	放資額	一五八、七六六	一七三、二八五	—	—	—	—	三三一、〇五一
	月末殘高	一、九八〇、九二二	二五七、九五一	—	—	—	—	四九六、〇四五
三十四銀行支店	放資額	六九二、七二八	四八一、八〇四	三八、五〇〇	—	—	—	一、二三一、〇三三
	月末殘高	一、一二三、〇四六	一、一五一、一三〇	三五、六八五	—	—	—	二、三三〇、九六一
合計	放資額	一、七八六、二七四	三三、九二三、六二六	一、七九〇、四七二	二、二八一、一六六	三五九、〇六六	三四四、〇七八	九、三九九、九〇五	六一、九八六、五八六
	月末殘高	二一、九五五、五七五	四〇、二四七、五五二	三、〇八三、二九七	二、〇一四、一九一	三八三、八三七	八七六、六八〇	七、一五六、〇〇七	七九、六九五、一六七
前年同月	放資額	一、六四二、八〇七	三五、三九八、二三三	一、八四六、七〇四	三、四八七、九四〇	四二六、〇三三	三五三、四五五	九、一九九、五五〇	六七、一三四、二一〇
	月末殘高	二三、一一七、二九四	四四、六八八、九八四	二、九六三、九一一	三、五二〇、四〇〇	二八五、〇〇〇	六〇七、九〇四	九、九二〇、八八二	八三、七〇四、四九五
累計	本年放資額	二五、九九八、〇三六	三三三、六二九、二四七	二四、二六〇、九五二	二一、九七一、〇三三	一、八一五、七九六	三五二、三八四	九六、一五三、六〇三	六五六、九五六、七七八
累計	前年放資額	二四、九六四、〇六九	三三五、一〇三、九五三	二四、三一七、一六四	二三、七七七、七九六	一、八八八、七五三	三五三、一三〇	九九、九四九、二四七	六六〇、一三三、二〇〇

臺灣銀行劵發行高及流通高表

年月次	銀行劵發行高	國庫在高	市場流通高	準備並保證 準備	準備並保證 保證	制限外發行高
十年十二月	四〇、八六五、七四〇	二、五六七、五〇七	三八、二九八、二三三	一七、〇五六、五〇一	二三、八〇九、二三九	五、八〇六、七二七
十年十一月	三五、一〇五、四七六	二、七六三、四九六	三二、三四一、九八〇	一六、九八七、三八九	一八、一一七、〇八七	—
九年十二月	四〇、三四九、三二九	一、四四〇、九六一	三八、九〇八、三六八	二三、九八八、一七四	一六、三六一、〇五五	—

臺北物價指數表　大正十年十二月末

品目	本月	前月	前年同月	品目	本月	前月	前年同月
白米	(一)二五五・八二	二五八・七二	二四四・一九	綿布	一二六・九八	一二六・五八	一四四・五八
玄米	(一)一九一・二五	一九六・六二	一四二・二二	洋紙	(一)二六〇・八七	二七八・二六	三二一・七四
清酒	二五〇・七九	二五〇・七九	一九六・八三	日本紙	二五〇・〇〇	二五〇・〇〇	二六六・六七
参酒	一八一・六〇	一八一・六〇	二〇四・〇〇	杉板	三五一・一二	三五一・一二	三五四・八一
紅酒	一八〇・九六	一八〇・九六	一九二・七八	杉材	三二九・〇三	三二九・〇三	三二九・〇三
澤庵漬	(一)三三三・三三	二九五・九六	二八八・八九	洋鐵	二〇九・二一	二〇九・二一	二八四・二一
少参粉	一六二・二六	一六二・二六	一六五・八一	鉛	(一)一〇九・三八	一〇九・三八	一五六・二五
砂糖	(一)一四〇・六六	一四二・八六	二一九・七八	銅	一一七・三七	一一八・三七	一一三・四八
鰹節	(一)三〇九・〇九	三一八・一八	二四五・四五	煉瓦	二六〇・八七	二六〇・八七	二九九・六五
味噌	一五三・八五	一五三・八五	一五三・八五	日本瓦	一七〇・〇〇	一七〇・〇〇	一九〇・〇〇
醬油	二一一・二六	二一一・二六	二〇六・八三	板硝子	二八六・二五	二九六・二五	三八一・二五
鴨卵	(一)一九四・二三	二〇〇・〇〇	二一七・一四	セメント	一七六・四七	一七六・四七	二九四・一二
火油	(一)一三三・三三	一三八・四六	一五三・八五	燐寸	(一)二七一・六〇	二七六・五四	三二一・一一
鹽	一四〇・九一	一四〇・九一	一二五・〇〇	石油	一九二・〇五	一九二・〇五	二三〇・六八
煙草	一五〇・〇〇	一五〇・〇〇	一五〇・〇〇	石炭	一五〇・〇〇	一五〇・〇〇	二二三・五〇
烏龍茶	九一・〇八	九一・〇八	—	木炭	一八六・六七	一八六・六七	二六六・六七
包種茶	一一〇・三四	一一〇・三四	—	薪	二〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	二九七・一四
白木綿	(十)二〇六・三五	一九〇・四八	二三三・三三	平均	二〇〇・四一	二〇一・一〇	二二七・五〇

備考　本表は戰前即大正三年七月の物價を一〇〇として計算

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

したるものなり

同表中（十）印は騰貴（一）印は下落を示す

平均指數五箇年對照表

月次	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年	大正六年
一月	二一五・五四	二七三・五三	二〇九・三八	一六六・三八	一三五・一〇
二月	二一一・四三	二八六・〇八	二〇八・七七	一八二・五七	一三七・五九
三月	二〇五・二五	二八六・九九	二〇三・六八	一八七・四七	一四二・二三
四月	一九八・五〇	二八一・五〇	二〇一・八九	一八二・一六	一三九・六八
五月	一八九・八三	二七二・五四	二〇〇・七五	一八三・九六	一三九・五九
六月	一九一・〇三	二五六・〇四	二〇八・一一	一八七・六八	一四二・三七
七月	一九二・四六	二五三・六八	二二一・二七	一九五・四九	一五四・六九
八月	一九二・六六	二四八・二〇	二二九・七〇	二〇五・五六	一六七・八九
九月	一九七・三三	二四四・七七	二三五・三七	二〇九・〇二	一六四・九二
十月	二〇〇・七六	二三四・二六	二四二・六六	二二五・一九	一六四・一六
十一月	二〇三・一〇	二三五・八六	二四八・〇二	二一一・六五	一六六・四〇
十二月	二〇〇・四二	二三七・六〇	二六四・四九	二一五・六一	一七二・七三

各年月ヲ一〇〇トセル本月平均指數

基礎年月	本月平均
十年十一月	九九・一六
九年十二月	八八・〇九
八年十二月	七五・七七
七年十二月	九二・九五
六年十二月	一一六・〇三

信用組合業務狀況調　大正十年十二月末現在

州廳名	組合數 總數	組合數 調査組合數	組合員數	出資口數	出資金 拂込額	出資金 未拂込額	貸付金	貯金	各種積立金	餘裕金	剩餘金
臺北州	四二	四二	一六、九二六	一〇二、一八五	円 二、〇六〇、七六八	円 五七二、四四三	円 四、三五六、七八二	円 一、八四四、四〇二	円 二七三、三八一	円 六〇五、四六七	円 三三、六八〇
新竹州	四六	四四	一七、二一三	七八、一八四	一、六〇五、二六六	一一七、四八四	三、六九六、九五五	五七八、七八六	五七八、八八六	一八四、[illegible]	二三一、三六二
臺中州	五〇	五〇	三九、〇八九	九九、三七九	三、〇七六、八二四	二三三、一六一	六、五〇八、二八三	二、九八九、八九六	九八一、六六〇	一、三九一、八六七	五一六、〇〇四
臺南州	五三	五三	二三、八〇一	九二、四七三	二、三九六、八五九	三四一、九六六	四、九四二、六八二	七一八、三六四	七〇九、七七一	二三七、八二六	四四六、〇五三
高雄州	三二	三二	一一、九六六	五八、五三二	一、〇五一、五九九	二九六、三三二	二、四四二、五六六	五七六、九一八	三三七、三五一	一三四、八九七	一九二、〇二八
臺東廳	一	一	一一〇	五〇二	二五、一〇〇	—	六〇、九八一	七、五[illegible]	一四、五六七	六、五〇八	八、〇三七
花蓮港廳	四	四	四八〇	八、七〇一	一四九、四九六	二四、七六四	二八五、六五八	二六、四〇四	二〇、七〇六	九五二	二七、七〇七
合計	二二八	二二六	一〇九、五八五	四三九、九五六	一〇、三四五、八九二	一、四一八、四四九	二三、一九〇、九〇七	六、七三八、三二六	二、〇一〇、一七三	二、五六一、八五五	一、七四五、三六〇

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣商況

―昨年十二月中―

殖産局商工課

米　內地米相場左の如し

	定期米 十二月限 東京	定期米 十二月限 大阪	正米標準相場（中米） 東京	正米標準相場（中米） 大阪	內地米本島相場（石） 肥前米	內地米本島相場（石） 豐前米
一日	円 四四・一八	円 四四・六四	円 四〇・三〇	円 三八・七〇	円 四八・〇〇（十日）	円 五一・七〇
九日	四一・八九	四一・六〇	三九・六〇	三八・三〇	四七・九〇	五一・〇〇
二十日	—	三七・六〇	三六・九〇	三六・三〇	四七・三〇（廿一日）	五〇・七〇
二十六日	—	—	三六・三〇	三六・四〇	四六・七〇	五〇・〇〇

前月末に於て一先浮動米一掃せられ當月は較會早々當限四圓臺てふ活氣振を示したるも間もなく關西筋の鈍狀に支配せられたるやに仄見えたり乍去何分にも當月は受渡期日か二十日なるに渡米不足を告け大割高にて最も緊張せし初旬末に於て勃然彼政府の買換發表せられて玆に局面がらりさ一轉し是を動機に相場は軟落歩調を辿るに至れり蓋し政府買換の發表さは曩に米穀法に依り買上たる三十六萬石の中東京方面五萬石大阪五萬石神戶二萬石の割合にて計十二萬石を買換するものにして夫か時節柄なりし丈けに偶々賣方の猛然たる追擊材料の一因さなりて買方主力筋を沈默せしめ遂に四十圓臺の大關門を割るの慘狀を呈し商狀愈々不穩さ惡化し買方持主に對し大解合さへ見るに至れり引續き期近もの及先物共に古米の壓迫を蒙り益々慘落を告け結局當限三十五圓二錢てふ減法安相場に終了し又二十六日愈々期米は大不勢裡に納會し只管新甫上鞘を待顧なりき

內地期米の狀況夫れ豈斯くの如し島內に於ける內地移入白米亦之れか餘響を蒙りて氣重く相場稍々軟落を告け又本島粳米も兎角神戶市場にありて地方筋か手持ある爲めにや殆んさ見送的態度に出て殊に期米の面白からざるを眺めては氣勢の昂らさるここ夥しく從て本島商內無味にて相場は漸落し月末十九圓七十八錢さ落込みたり需米にありては既報の如く滅切硬化したるも二十日過きては新年手當用さして內地への積出一段を告けたるを以て相場激落し曩日の三十七圓二十六錢も一期の夢に過きすして二十日相場三十二圓二十錢さ五圓餘の低落を示せり

島內に於ける食用米さしての外米は手持薄の爲め商狀閑散を告けたるか關税撤廢を見さりし關係上輸入商は殆んさ成行を觀望し唯米粉酒造及菓子用さして碎米は相當取引行はれたり本島米又外米相場左の如し

本島北部	玄米	白米一升	長糯	丸糯
一日	円 二〇・九六	銭 〇・二五	円 二八・五二	円 三六・一二
十日	二〇・七〇	〇・二四	二七・一四	三七・六六
二十日	二〇・〇一	〇・二四	二九・三〇	三二・三〇
三十日	一九・七八	〇・二四	二四・八四	三二・八九

外米月末相場（一袋百五十斤）

安南	碌米	一〇・六〇	碎米	九・八〇
暹羅	碌米	一一・五〇	碎米	一〇・八〇

砂糖　前月受渡の紛糾も坂神糖商組合の臨時總會に依り圓滿解決を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

告けたるも爪哇糖の不勢に新糖賣出不味を氣挫へ市場依然として取引出來す不牙への倦鈍狀持續し分蜜糖現物保税十五圓四十錢三四月限十四圓二十五錢と先物安に一般賣人氣を加へ商狀軟弱氣味を辿りたるも中旬爪哇の寂かりを移せるより市況稍や堅調となり賣物殆を唱へ氣配幾分良好を辿り月末現物十六圓ドメ三四月十四圓六十錢と硬調裡に越月せり精糖亦た各社の協定に無商裡なから市況落付模樣にして最終二十六圓五十錢の唱へなりき

麥粉　一般取引閑散なると原料高にて會社採算難に中休氣味なりしも米國小麥の割安に各社亦原料仕入を之れに仰き外粉との調節を採りつゝありて軟調なから保合の商狀最終氣配標準物基隆沖本船渡值段四圓五錢見當なりき

綿布　綿糸相場は左二十手二百六十圓內外綿布は細布四圓十一圓內外國金巾駱駝六百番十五圓內外斯んと釘付けの相場にて何等特筆すへき材料もなく年末三品定期休會後は幾分春高の見込みを以て越年せり

本島の市況は二期米收穫後米價の漸落せると糖業不振の爲め農家の購買力より氣候は温暖に過き殆んと冬着の必要を感せす各布商の店頭は年末と雖も至って閑散にして本月は意外の不況に了れり

	円
駱駝六百番	一五・〇〇
同　五百番	一一・五〇
象兒細布	一〇・六〇
戸一白木綿(三八〇目付)	二・六〇
同　(二六〇目付)	一・七〇
大尺布(五八〇目付)	三・八五
黒無地朱子目	〇・六六
同　ポプリン	〇・八五

	円
五福祥斑布	九・七〇
龍C粗布	九・七〇
三輪C天竺	五・八〇
紋ポプリン	〇・九五
黒光輝付シンス	一四・〇〇
紺小倉	一八・〇〇
縞小倉	一八・〇〇

鐵材　大體に於て前月同樣鐵材市場は不振を告け極めて平凡裡に推移し一般に下押相場を示せり釘の如きも過般來の市價强硬に伴ひ製釘者は安値賣を躊躇し居りたるか其後米國より安原料の入荷ありし爲め阪神地方に沸りて一齊に製釘に從事するものを見たるか啻に材料のみならす製品として輸入あり內地品に比して一圓方の安値なる關係より米國物の買付盛に行はれ前月迄は上値〱と昂進せし釘も玆に腰折れの反動安を齎來したり亞鉛引板及線の如きものも米國物獨逸ものゝ輸入ありしに加へ殊に年末に際し一同商內薄にて氣勢著しく挫けたりと

	円
丸鐵四分(貫)	〇・五九
同　五分(同)	〇・五五
同　六分(同)	〇・五七
釘類　六分(百斤)	二三・〇〇
同　一吋半(同)	一九・〇〇
同　二吋(同)	一八・〇〇
亞鉛引平板鐵二十八番(一枚)	一七・五〇
同　三十番(同)	一五・五〇
亞鉛引浪鐵板三十番(六尺)	一四・五〇

	円
亞鉛引浪鐵板三十番(七尺)	一六・五〇
同　(八尺)	一八・〇〇
亞鉛引鐵線八番(一百斤)	一三・五〇
同　十六番(同)	一六・五〇
瓦斯管內經一吋(一尺)	〇・一四
同　二吋(同)	〇・三〇
鑄鐵管四吋水道用(一封度)	〇・八五
レール十二封度(哩)	三五〇〇円

石炭　玆數ヶ月以來逐月盛況裡に進展しつゝある本島炭界は依然輸移出旺盛を極め且つ島內も歲末需要期節迚一層氣配强硬なるものあり而して內地炭界の狀況を聞くに好調なるは中等炭以下の雜炭のみにして塊炭の上等ものは相不變需要少く案外相場に伸力乏敷所より觀れは現今の炭價强調か果して採炭制限の徹底を行はしむる迄に到るか甚た疑はしと本島炭にありても屢々報導したる如く對岸仕向の

好況は内地三等炭投物一掃せられたる結果銀相場高と相俟つて漸く生氣を帶ひ來りしものにして主として粉炭の活動舞臺と申すへく相場は前月値を強保合の儘越月せり試に當月中對岸其他に輸出せられたる高を見るに香港二一、〇六三噸上海三、四六一噸厦門二〇〇噸汕頭一、七三〇噸馬尼剌四、一五二噸廣東六、三二〇噸福州一、八四九噸其他六八二噸計三九、四五七噸なり因に本年は春期大不振に遭遇し斯業者は痛く前途を悲觀したるか幸に下半期より順調を辿るに至りしを以て意料外の好況を見るを得たり卽ち出炭量積出高及貯炭高本年と比較せんに左の如し

	出炭量	移出高	十二月末貯炭高
大正十年	九九四、一二五噸	一、〇二四、八七五噸	二八〇、四四噸
大正九年	一、〇九八、六五三	一、二二七、五九一	一九八、二四七

工業藥品

當月の工業界は實に靜穩にて買氣更になく又賣手側も自然の成行に任せ敢て焦り氣も起さす先行を樂觀して賣控の態度なるより自然氣配落付き相場は殆んと變動を見す商狀頗る閑散なりき

六十六度硫酸二〇〇磅壹箱	一四・九〇円		月印曹達灰壹袋	九・五〇円
六十五度硫酸同　同	一三・九〇		洗曹　達壹樽	一三・〇〇
二十度鹽酸一二〇磅壹館	一三・八〇		月印重曹同	一〇・二〇
四十度白硝酸一四〇酸同	二五・五〇		硫酸曹達百斤入壹袋	四・八〇
苛性曹達　壹箱	一四・〇〇		純氷醋酸壹百lb	三四・〇〇
硫化曹達　壹箱	八・九〇		苛性曹達大噸同	一一・八〇
晒粉(かるき)　百lb	一四・〇〇		硫化曹達大罐同	七・五〇

セメント

内地洋灰界は年末關係にて需要引立たさるに海外注文も一時殺到時代に比するときは著しく減少せるを以て兩内無活氣にて市況閑散なりと傳へられつゝあるか島内實としては相當需要あるも兎角相場に伸力乏しく淺野セメントは極力海外輸出に努力し當月は大阪三、五〇〇樽上海四、〇〇〇袋(九十七封度入)廣東三、四五〇袋(二五〇封度入)厦門三五〇樽汕頭二〇〇樽を見たり因に頃來内地にありては容器樽の代用としてガンニー袋を使用するに至りしか本島に於ても當月より淺野セメントは之れを實行し既に前述の如く上海廣東方面行に使用せり

海產物

當月も相不變平凡裡に經過せん模樣ありし海產物界は乾物に對し下旬地方筋よりの買注文の續到に遭遇したるも市場存外品薄なりし爲め稍々狼狽氣味にて可なり繁忙を來し相場は滅切硬化して干海老、鮑の如きは各五分方の上進を示せり又鹽物にありては例の米國鰊か此月々日頃より出廻り初め値段は十四圓見當と硬なりしも漸次下落して十一圓五十錢所に落付きたるより安値は大に歡迎せらるゝ所なるを以て間もなく實行活勢を極め遂に鮮をして顏色なからしむるに至れり月末に於ける一般相場左の如し

鯣(排)	五四円		干海老(機械)	九〇円
干貝(角)	九二		五島鮑	四三
干[illegible]	六八		鹽鯖	八・六〇
鰊	一二・五〇			

芭蕉實

其後内地方面は時節柄到底高望みは得られさるも去り迚敢て悲觀の要もなきものゝ如く押目は相當買模樣あることゝて當月のみにても移出高三百三十萬斤を超えたり當地相場臺中物一等六圓臺員林もの臺北もの各五圓所と前月値を保合へり

[illegible]麻

依然對岸輸出の好調と島内需要の增大にて人氣を刺戟せるに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一面在荷の拂底より問屋筋の賣惜さなり一段高値を吹きつゝあるも値のみにて事實取引閑散の狀態にある而して向後新甞の出廻には倉餘日の存するを以て氣配益々氣丈さなりさ云ふ宜蘭產出盛三十六圓五十錢苗栗產上物三十圓五十錢因に本品は近年內地移出漸增し本年中にて三十五萬斤餘を積出せるは注目に値すへし

木炭　旣報の如く木炭は愈々季節的需要期に入りたるより當月は商戰目醒しきものあらんかに期待せられしに僅かに月末に於て正月用さして少許の取引を見たるに過ぎさるの外は殆んご此の期待も裏切られたるの感あり之れ當月も亦一向寒氣向上し來らさるに揭て地體山元か珍しくも今年は生產增なりし爲め續々商資料を積出したる結果にも因べけん月末相場左の如し

相思炭　三圓二十錢	雜木炭　二圓

野菜（臺北）　前月來各種蔬菜類の出廻豐富にして市場は歲末に迫りては相殷賑を極め就中午旁人參葱等の賣行良好なりしさ云ふ月初月末相場（百斤建）左の如し

	月初	月末
大根	円六・〇〇—四・〇〇円	円五・〇〇—三・五〇円
長茄子	三・五〇—七・〇〇	四・〇〇
里芋	七・〇〇—六・〇〇	一〇・〇〇
葱	三・〇〇—三・〇〇	三・〇〇—四・〇〇
玉菜	五・〇〇—四・〇〇	三・〇〇—四・〇〇
蓮菜	七・五〇—八・〇〇	六・〇〇—九・〇〇
新菊	二・〇〇—二・五〇	三・〇〇—三・二〇
芹菜	二・六〇—一・八〇	一・六〇—二・〇〇
モヤシ	三・五〇—六・〇〇	六・〇〇—四・〇〇
長玉菜	六・〇〇—七・〇〇	八・五〇—七・〇〇
人參	五・〇〇—八・〇〇	七・〇〇—八・五〇
豌豆	一一・〇〇—一三・〇〇	一一・〇〇—一三・〇〇
午旁	一七・〇〇—一八・〇〇	一八・〇〇—二〇・〇〇
インゲ豆	四・五〇—三・五〇	二・〇〇
ホレンソ	三・〇〇—二・〇〇	二・五〇—三・〇〇

口支那勞働者の去來　（大正十年）

來臺者總數　一一、九五五人

內、男　一一、〇八七人　女　八六八人

職業別は雜役、大工、車夫、製茶工、農作夫、裁縫工、料理工、金銀細工等の順。原產地別は福州、泉州、廣東、漳州等の順

支那へ歸還者　七、八五七人

大正九年
- 來臺者　六、二三三人
- 退去者　四、〇一一

ポスター展覽會を觀る

西洋には廣告術を研究する機關の一つとして「廣告展覽會」Advertising Exhibition なるものが催され、廣告技術家は勿論のこと、大學の心理學の先生も、經濟學者も法律家も、乃至文學美術の先生達も皆な其の機會を利用して各自專門の研究の參考に資するといふことである。

それとは目的が違うが、此の間總督府內で催ほされたポスター展覽會は、中々面白くもあり有益でもあつて、若し觀者の方に右と同一の研究心があつたとすれば、多少其の機會を與へ得たものであつたらう。殊に南光社連りの先生には確かに其の機會を與へたに違ひない。

それは兎に角、總督府內でポスター展覽會を開いた趣旨は東洋協會に從つて平和博に出陳する前に「折角これ丈け出來たものだ、奇麗な所を一つ見せてやらう」といふ位の所であつたに違ひない。そして批評を求むる爲に觀者一人に一票づゝ、氣に入つたポスターを十點だけ投票させたのも好い思ひ付であつた

開會の二月十九日は例の雨で誠にいやな天氣であつたが、それでも來觀者は中々に多く、大入の盛況で一日の總人員は三千以上には達したらうと思ふ。中には妻君携帶もあり若い男女の學生も可なり多く見かけた。何となく帝展でも見るやうな氣分もした。

場所も好かつた。何にせよ總督府のアノ重々しい壯麗な建築物の、二階の內廊下をぐるつと一週してポスターを掛け聯ねたので、同時に展覽會の見物も出來た譯である。總てが此の如く大成功であつた。が肝腎のポスター其のものはドーか。

拙者は油繪や水彩畫に就ては生憎、批評眼は持たない。故に畫の巧拙に就ては一寸と議論は出來ないが、然しポスターとして「直覺的に其の概念を得しめる」ことに就ての巧拙の批評ならば言へないことは無いそれならドレが一番氣に入つたかドレが氣に入らぬかと言はれると少々困る。

見渡した所、孰れも相當に骨を折つてあるらしい。此上ドウ斯うと難きに責むるのは稍や酷なやうな氣がする。我輩の氣に入つたのを舉げると、先づ懸賞の一、二、三等を外にして。

南國氣分を味へ
吾等は斯く働きつゝあり
あなたも私も日本の子供……
蕃の地―共同
纏足より天足へ
水利事業は臺灣の生命
南方親善
臺灣の誇り―建築と道路
私は臺灣に參ります
臺北市街―古き臺灣は如斯改造されたり
さま〴〵の民を國語で結びつけ
市街家屋―斯の如く整頓せり
彰化女子高等普通學校
完備せる船車聯絡
昔の蕃童と今の蕃童
年中果物が潤澤な
臺灣の養魚
偉大なる臺灣の森林

人樣々の好き〴〵があるが、我輩の好いと思つたのはマア斯ういふ種類のもので、他の人の觀た所とは少々違うかも知れない。

兎に角アノ展覽會を見て何人も惡い氣分の仕なかつた事丈けは事實だらうと思ふ。中には表のやうな一寸見た丈けでは分らぬものもあつたが、それは初めの註文が「圖案圖表」とあるのだから仕方があるまい。

マアあれ丈けポスターを出したら。多少は臺灣宣傳になるだらう。（ケー）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜俎

マニラ所見

娯樂的監獄と殘忍な鬪鷄

總督府囑託 田澤震五

■入場料を取つて見せる模範監獄

昔時、西班牙領時代には、夫が監獄に投せられると、其の妻は直ちに他の男子と結婚しても可いと言はれて居たのに見ても、麻尼剌の監獄は當時其れ程恐ろしい所で、一度其所へ這入つたら多くは牢死して仕舞つたものらしい、其の後米領となつてからは夫れが全然改良せられた、然るに囚人の妻は依然舊慣に基いて他人と結婚した、所で刑期が滿ちて前きの夫が出獄した場合、米國の裁判官は、重婚問題で屢々腦まされたと聞いて居たが、今や麻尼剌の北方にあるビリビット監獄は、世界屈指の模範監獄とせられて居るのである、或る日愈々其所を見物しやうと午後の四時半頃から出掛けて行つた、未だ時間が早いと言うので暫く陳列館で囚徒の製作に成る家具類の賣品を見て居ると、案内人が來て表門の方へ案内する、見ると其所には西洋人も五六人居たが、麻尼剌人の男女老若凡そ四五十名も竝んで居る、予等の如き遠來の客は態々でも見物に行くが、麻尼剌人が此樣に澤山監獄見物に出かけるとは不思議の至りで之は多分親族知己の入監者に面會に來たのであらうと考へたが、然うではなかつた、矢張り見物人である、而して更に異樣に感じたのは、此所の監獄は上等十仙、下等五仙と言ふ入場料を取つて見物させる事であつた、扨て銘々が切符を買つて仕舞ひ、軈て入場の時刻になると、入口の鐵扉が自然に開かれるのであつた、それは扉が二重になつて居て、扉と扉との間約十五坪許りの空地の上方に、一つの小室があり、其の中に一人の看守が居て、ハンドルを廻すと扉が開いたり閉ぢたりするのである、見物人一同が其の空地の中へ這入り終ると、初めの扉が閉つて第二扉が開くのである、第二の扉をくゞると其所には螺旋狀をなした階段があり、其れを昇り切ると監獄内を區劃した煉瓦塀の上に出る、此の塀の上が中央に導く通路になつて居て、其の中央には八角堂式

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の建物がある、其の堂の周圍上部が上等席で下部が下等席になつて居る、堂内には看守が常に見張つて居て、其所には精巧なる連發銃が常に裝塡せられたるまゝ脱走囚を警戒する爲め備へられてある、獄内の各監房及び作業所は此の八角堂を中心として八方に向つて建てられてあり、周圍の塀上所々には少さな監視室があつて、同じく銃を手にした看守が見張つて居るのである、而して此の煉瓦塀は高さ一丈程もあつたであらうか。

■音樂入りの囚人の體操

暫くすると、此の八角堂の中に居る米國の役人がガランガランと鈴を鳴らすと、其れに連れて監房と監房との間の空地に向つて、二十人許りの淺黃色の服を著た囚人の一隊が手ん手に普通の樂隊のと同樣な樂器を持つて、ブカ／＼ドン／＼と吹奏しながら足並揃へて出て來る、すると又他の監房から種々の色をした一隊宛の囚人團が各房の空地へ一隊宛出て來るのである、斯くして一同が出揃うと、又役人の振鈴で整列した囚徒は勿論、見物人迄一整に脱帽して氣を附けの姿勢をとらされる、と彼の囚人樂隊は米國々歌の吹奏を始める、それが終ると今度は又振鈴の合圖で、囚人團の各隊は一齊に異樣な體操を遣り出すのであるが、それは恰度小學校の運動會で多數の體操教練を見るやうなものであつた、尤も體操の方法は各房各隊に依つて、各々違つた手振りをやるのである、此等の中には女囚も澤山居たが、之れは又女囚丈け一團となつて、矢張り此の體操を演ずるのであつた。

此の體操を、各自が約二十分間も遣つて居たが、其れが終ると、囚人一同は食事の分配を受けて各房へ退いた。中に白人の囚徒も十數名居たが、彼等は只並列して居た丈けで體操は遣らなかつた、而して食事の際彼等のみは何か辨當やうな物を貰つて、監房へ歸つて行つたが、土人囚徒は大鍋から大きな椀に一杯宛飯を掬つて貰ひ、其の上に副食物の一片を添へて貰つて居たやうに見受けた、其の食事分配が未だ濟まないうちに、今度は裏手の廣場に米國々旗を持つた旗手を先頭に立てゝ、木銃を擔いだ囚人が約百名許りも出て來る、最前に體操を演じた囚人等は皆滿壽笠を冠つて居た、而して此等の各隊の端には分隊長然たる長劍を腰にした者が一人宛居た、分隊長は兵士に對する士官の樣に、右手で刀を拔いて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

肩に當て、居た、以上の隊が樂隊の音樂に合して又教練を初める、其の教練が仲々面白いのである。

以上は單に監獄見たまゝの記であるが、麻尼剌の老若男女が毎日々々四五十人も、我々が芝居か活動寫眞でも見物に行くやうに、五仙の料金を支拂つて見物に行くのも珍なら、切符を賣つて斯うした囚人の演技を見せる監獄も妙なものだと感じた事である、

■比島人の鬪鷄趣味

由來比島人は鬪鷄と言ふことに先天的趣味を有つて居る、彼等は幼少より此の鷄を愛育し、漸く成長すると之を鬪鷄場に出して輸贏を爭うのを以て無上の快樂として居る、彼等が若し火事にでも遭ふ場合には、何よりも先きに此の鷄を持ち出すと言ふ話である、此の鬪鷄に就いて無益の時間が空費せらるゝのみならず、其の鷄を愛育する爲めにも少なからぬ時間が徒費せられ、之が爲に比島産業開發上に大なる不利を來たすと言ふので、米國政府は一時之を禁止したことがあつたさうではあるが、比島人の此の習慣は、到底一朝一夕で打破することが出來ず、却つて弊害が百出するので、今日では日曜日丈け之を許可して居ると言ふ、麻尼剌市内には勿論數箇所に此の鬪鷄場があるが、又如何なる寒村僻地でも其の存在せぬ所は無いと言ふ、其れからもう一つ、後で委しく述べるが、舞踏場と言ふものが比島には又到る所に存在して居るのである、其所で、或る軍人が比島視察の際に、若し事あつて一朝比島に軍を遣る場合、此の鬪鷄場と舞踏場さへ徴發すれば、到る所兵士の宿舍に困るやうなことは無いと言つたとの話成程餅は餅屋で、軍人としては面白い觀察だと感心した。

■掏摸の多い鬪鷄場

扨て此の鬪鷄場見物に就いて一つの注意を受けたそれは外でも無い、麻尼剌には掏摸が非常に澤山に居て、而も其の遣り方が非常に圖々しく又巧みである爲め大抵は遣られる、それ故雜沓する場所に行くには、必要以外の金錢は勿論、時計其の他の貴重品は一切持參せざることゝ言ふのであつた、其の實例として、曾て觀光客の一人某氏及某氏等は充分なる注意を與へられたにも拘はらず、何、其の氣で注意すれば大丈夫だよ、僕は取られるやうなことは無いと言つて、四百圓餘り入つた蝦蟇口を懷にして鬪鷄を見に行つたが、ペロリ仕て遣られた爲め、結局日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本に歸る旅費が無いとて非常に困つたといふ話を聞かされた、そこで、予等は時計其の他一切を倶樂部に殘し、只入場料丈けを持參して見に行つた、然るに僅か三十分許り闘鷄を見て居る中に、予の右腰の邊にチョイ〳〵と誰かの手が障るのである、振り返つて見ると、雜沓の中だから誰だか分らぬ、金入も何も持たぬのだから安心して於保君に、僕には掏模が附いてゐるよ等と話して居ると、又障はる、餘り鬪々しい遣り方故、予は其の度に、蚊か蠅でも逐ふやうに右手で其の邊を掃つて見たが、其の都度何等の反應もなかつた、恰度身軀に蚊が止まつた時に、平手でぴつしやり遣ると、ぶんと飛んで仕舞ふのと同じである、此所の掏機は五月蠅い奴だ等と呟きながら、三番許りの勝負を見たが、何時迄見てゐても同じだから、もう歸らうと言ふので場を出た、翌日必要を生じて、上衣の左上の隱しから名刺入を出さうとしたら無い、名刺入れ位とツイ油斷をしたのが過失、奇麗に掏られてゐたのであつた、香港以來、人から貰つた名刺や、自分の名刺全部を取られた譯で其の後甚だ困つた次第であつた、麻尼刺に行く旅客は、呉れ〴〵も此の掏模に注意せらるべきである。

■殘忍な闘鷄の仕合ひ

扨て闘鷄場といふのは、ニツパ椰子葺きの平屋で二千人位の觀客を收容し得る程の廣さである、端の方には土人の飲食店が種々と店を出して居り、中央には鐵柵を廻らした、所謂土表場がある、其の周圍が普通の見物席で、入場料は二十仙、中央闘戯場の周圍上部は一等席で、其所へ行くには更に一ペソを徵集されるのである。

二人の飼主が各一羽宛鷄を抱いて中央に現はれると、見物人は破れる許りの歡聲をあげて、左の鷄に五ペソとか、右の鷄に三ペソと言つた風で、見物人同志で盛に賭勝負が始まる、それから登場の飼主は始め交互に自分の鷄の咽喉部を敵手の鷄に突つかして、互に其の敵愾心を挑撥せしめる、先祖代々からの習慣で、相戰ふことが殆ど其の本能のやうになつて居る小さな闘士は、是れで一層敵愾心を奮起して眼光迄變化して、きら〳〵と光つて來る、左足の距には幅二分長さ二吋程な細い鋭利な小刀が、双方共確然と結付けられ、それに鞘が箝めてあるのが、愈、鞘を拂つて、恰度角力取りが仕切る時のやうに、双方の飼主は各自の鷄を靜かに地上に置くのである

するど、直ぐに蹴合を始める時もあるが、又見合つてゐて容易に始めない時もある、此の場合各飼主は又靜かに自己の鷄を抱き上げて、前述のやうに再び咽喉部を突つかして更に其の敵愾心を唆るのであるが其の勿體振つた樣子は、恰度我が國の角力の「待つた」と同樣で、仲々埒があかないのである、そして愈々戰となると只の一蹴りで敵を斃す場合もあるが、又互に惡戰苦鬪、流血淋漓として其の狀慘の又慘、氣の弱い者には到底見るに忍びない程殘忍な場面もある、併し何れかと言へば、勝負は概して早い方で例せば、敵の一蹴で首の動脈を切斷され、直ぐよぼ〳〵として倒れて仕舞ふあつけない勝負があるかと見れば、四五合戰つて腹部を切られて、臓腑を露出してよた〳〵と隅の方へ逃げ出すのもある、要するに比島の鬪鷄は、鷄の間に多少の鬪技の巧拙と、力量の相違とはあるかも知れぬが、一番に運不運と言ふことが勝負の主なる點である、彼の我國に於ける軍鷄の執拗に鬪ふ時の如く、眞に其の技術と力量との爭の如き堂々たるものとは全然異り、日本人が見ては何だかあつけなく、而も殘忍のやうで餘り面白いものとは思はれなかつた。

長江感慨 ぽつり〳〵

GS生

筆者最近、一年有餘、長江を上下し、其の感得せるもの卽ち此の一篇なり、自ら篇末に附言して曰く「是等諸多の缺點は世人既に知り盡されたらむ、知り盡されたる事實にして尙且我が印象に殘る程等閑に附せられたるが故に茲に一言なきを得ず」と、其の國家的の熱情、洵に喜ぶべし、編者亦た同一の希望を以て世人の注意を乞はざるを得ず(編者)

一 長崎縣の上海市

上海は市街の宏壯、商業の殷盛なること東洋に冠たり、彼地に住む日本人は同市を指して長崎縣上海市などと稱して居る、以て如何に長崎縣人の多いかを知ることが出來る、長崎から汽船で行けば時間から言つても賃金から見ても東京と殆んど同樣であり又入國が自由であることゝ、日本よりも比較的呑氣な生活が出來る爲め、何か失敗でもすると故郷に住み難い事情でも出來ると知人親戚の誰彼を賴つて上海に渡る手合が澤山あると云ふ、隨つて上海在住邦人には隨分粒の惡いのが多い、邇來同市日本人は近

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年非常な速度を以て增加し、現在二萬五千人と註せらる、隨つて日本人の發展振りは實に目覺しいもので、今次歐洲大戰に際し我銀行業運送業は勿論、大小輸出入商雜貨商等の利權擴張、向上發展は大いに人意を强うせしめる次第である、抑々上海は太平洋上亞細亞側に於ける中心位置を有し、亞細亞對歐米海運通商の焦點となつて居り、内には二十五萬浬の流域ありと稱せらるゝ楊子江あり、農産鑛産等の天産物に富み、その沿岸に住する一億八千萬の民が消費する外國品の偉大なる需要と共に、上海を經由して輸出入されて居る、尙將來是等内地人の文明進み産業勃興し、交通機關發達するに從つて、上海港は益々隆盛に赴き、軈ては世界有數の大都會と成るべき運命を持つて居る、近來上海港は現在の設備では不完全であるとの說を生ずるに至り、實に二億の巨資を投じて一大築港を建設せんとの計畫さへある、かゝる有樣であるから我國でも上海に就ては充分研究を重ね、遠大の計を建てねばならぬ、楊子江流域で大いに事業を爲すには先づ上海に充分の足留りを作る必要がある、此と同時に彼我の貿易を隆盛に向はしめねばならぬ、その爲めには我海運業の大發展を計らねばならぬ、頃日日本郵船で計畫中との噂があつた日支間一晝夜連絡等は是非實現を見たいものである、又上海市に日本人經營の船渠並に艦船修理工場を設置する事務も目下急務の一つと云へる、同地にある日本海軍用地は優良なる位置を占めながら、荒廢の遊地として放置してある、勝海舟の先見は當時僅かの値で購ひたるもの、今や數十萬金の地價となつた、船渠と此の海軍用地、何等かの應はしき關係がありさうである、我等は長崎縣上海市てふ空名に實が伴ふことを希ふて止まぬ。

二　九省の會は軈て十八省の會

上海に次いで吾人の重要視する所は漢口である、楊子江沿岸地方を研究するには漢口を土臺とせねばならぬ、上海は對外的の意味に於て極めて重大な市であるが、漢口は支那人呼んで九省の會と云ふ如く中支那の臟腑である、四川、雲南、貴州地方に著眼するものは漢口の狀勢を充分に究めて、此處を前進根據地とせねばならぬ、今より六十年前迄は一小村落に過ぎなかつたものが、西歷一八六一年に開港場となつて以來、俄かに發展して今や人口八十餘萬と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なり、活氣ある一大商港となつて居る、此所にも日本人の勢力は相當に及んで居つて、敢て歐米列强に後れず堂々たる活動を見られるが、之も歐洲戰爭の影響で漁夫利的の形たるは免れない、日本人の粒から言へば上海に比して遙かに上等の部であるが、猶歐米人に比し遜色あるは勿論である、第一租借地の面目からして日本租界は一番貧弱だが、之は西洋人と違つて日本人は大會社大銀行と共に數多の小商人が附隨するのであるから止むを得ないことであらうイヤ此の玉石混淆の移住は邦人の缺點を發露する不利を伴ふと同時に、西洋人に比較して多數の人間が職業を求め得る利益があるのである、兎に角漢口は前途尙遼々たる將來を有して居る、況や懸案中の粤漢鐵道及川漢鐵道が完成すれば九省の會は軈て支那十八省の會と成るであらう。

三　日清汽船より得る便益

海外に旅行するものが自國の國旗を揭げて居る汽船に乘り得ると云ふ事は、非常な愉快であると同時に多大の便利を得るものである、支那に於て楊子江を溯る一千浬の地、宜昌迄も日本語を使つて旅行が出來ると云ふのは、邦人發展上偉大なる功績のある事と思ふ、加之、各地邦商が內地との間に貨物の取引をするに當り、其の日清汽船會社より得つゝある有形無形の利益は蓋し漠大なものであらう。

左に日清汽船會社の現況を述べて見やう。

本店	東京
支店	上海　漢口　大阪
出張所	鎭江　蕪湖　九江　長沙　宜昌　重慶
代理店	南京　安慶　南昌　岳州　湘潭　常德　沙市
資本金	一六、二〇〇、〇〇〇圓
所有船	大型汽船　十四艘　總噸數　三一、五八七噸一二
	小型汽船　九艘　總噸數　二九〇噸六一

航路

□上海漢口線（每週五回以上）　航程六〇〇浬

上海を發し黃浦江を下り吳淞に出で楊子江を溯り鎭江、南京、蕪湖、九江を經て漢口に至る、此等寄港地には各所共躉船（ハルク）と稱する棧橋代用汽船を設置す、又右寄港地の外往復共通州、張黃港、江陰、儀徵、大通、安慶、湖口、武穴、蘄州、黃石港、黃州に停船す。

使用船			
鳳陽丸	三、九七七噸	南陽丸	三、三一〇噸
襄陽丸	三、三〇二噸	岳陽丸	三、一九八噸
大福丸	二、五五五噸	大貞丸	二、四二一噸
大利丸	二、〇〇五噸		

外に豫備船大吉丸（一、八九一噸）あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

□漢口宜昌線(毎月六回) 航程四〇〇浬

漢口を發し楊子江を溯り沙市を經て宜昌に至る。沙市には躉船を設置す、又往復共新堤、岳州に停船す。

使用船 大亨丸 一、六四三噸 大元丸 一、五六七噸

□漢口湘潭線(毎週二回) 航程二四〇浬

漢口を發し楊子江を溯り岳州より洞庭湖に入り湘水を溯り長沙を經て湘潭に至る、長沙に躉船あり。右寄港地の外往復共寶塔州、新堤、城陵磯、岳州府、芦林潭、湘陰、陵吉港、靖港に停船す。

使用船 武陵丸 一、四五八噸 沅江丸 八七五噸

□漢口常德線(毎週一回但し冬期減水期間休航す) 航程二六〇浬

漢口岳州間は漢口湘潭線と同一航路にして岳州より洞庭湖を横斷し龍陽を經て常德に至る。

使用船 湘江丸 八八三噸

□鄱陽湖線(毎月六回) 航程一〇六浬

上海漢口間の寄港地なる九江より下江し鄱陽湖に入り吳城を經て南昌に至る。

使用船 小蒸汽船江安丸 四六噸

是等使用船は最新式の河用汽船であつて其の設備、裝飾等美麗を極め電燈電扇暖房裝置等の設備があり船室食堂共に清潔廣寬眞に心地の良い船である。

楊子江一に長江とも云ふ、其の源を遠く西藏の東北に發し、巴蜀三峽の險を過ぎて洞庭、漢水、鄱陽其他の湖澤河川の諸水を受け、延長約三千浬、灌域無慮七十五萬平方哩に及ぶ、江口の幅最廣約七十浬で宛然內海の觀がある、之をアマゾン、ミッシピーに比すると、延長は少し遜色あるが舟楫の便は寧ろ彼等を凌いで居る、江口の吳淞から上流宜昌に至る約一千浬は數千噸の巨船も航行自由で、支流にも尚千餘噸の汽船航行に適するものがある、殊に上海から漢口に至る約六百浬間は夏季增水期中は能く一萬五千噸の大船を浮べるに足る、現下本流域の航行に從事して居るものに我日清汽船會社の外、英國の太古及怡和の二社、支那の招商局等がある。

四 機を逸した水先業者

最近に日清汽船會社及大阪商船會社は大阪漢口直行便船航路を開始した、三井や三菱が石炭運搬等の爲めに航洋船を盛んに漢口へ入港せしめる、其の外臨時船の溯江するもの次第に增加しつゝある、殊に大冶や桃沖採石磯等の礦石を運出する我海洋船の、楊子江を上下して居る數は隨分夥しいものである、歐洲戰亂中は外國船の溯江は殆ど見なかつたが、もう今年あたりは早々から外國船も押し掛けて來て居

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る、今に各國から捲土殺到するに至るだらう、扨て此等航洋船が溯江するには、必ず楊子江水先人を傭つて行かなければならぬ、その水先業に從事する水先人には、日本人水先協會に八人、外人協會に十二人のものが居る、その他三菱には同社専用の水先を持つて居る、然しながら僅々二十人內外の人員では所詮需要に應じきれない現狀であつて、近き將來に於て水先人の爭奪戰が始まるは明かな所で、今から大いに研究すべき問題であらうと思ふ、戰爭中歐米船の來なかつた間は西洋人協會の水先人は全く仕事が無くて困つて居た、唯々日本船が澤山あつて、而も日本人水先が僅か八名しかない爲め、そのお餘りを頂戴して居つた、若し此の時、日本人の協會を擴張し、日本船には總て日本人水先を乘せ得る樣にしたならば、西洋人水先は職を失ひ、遂に彼等を全く楊子江から驅逐し得て、我協會を隆盛ならしめたであらうが、遺憾乍ら上海日本人水先協會は徒らに此の好機を逸したのみならず、只私利の永遠に確實ならん事を欲する短見に囚はれて一向會員擴張をやらない、今少し國家的の觀念を以てしたらと甚だ殘念に堪へない、中には二三十萬圓を水先業の爲めに稼ぎ上げた敬服すべきものもあるが、要するにそれは一個の爲に金を作つた人に過ぎない。

五　邦人發展の準備事業は何

楊子江沿岸が總ての方面から見て有利な事業に富んで居ることは今更多言を要せぬ、要は將來に於ける日本人の發展を計り、他列強と競爭して落伍者とならぬ樣充分の準備をなすにある、之が爲めには一面國家的事業として充分保護奬勵せねばならぬ、譬へば日清汽船會社をして新航路を開かしめるとか、投資會社に低利資金を貸與するとか、統一せる調査機關を設ける等、事業は色々ある、一體現今邦人の活動狀況を見るに、各會社は互に自己の小利に而已齷齪として他を排擠する事を是れ勉め、其の結果自他共に相害することになり、無用の金を徒費し乍ら大した利益を舉げて居ないといふ有樣で、實に馬鹿々々しい次第、邦人發展上看過すべからざることゝ思ふ、今茲に一つの鑛山ありとせんか、それが有望と見るや、各會社は各々多數の技師を派して同じ事を幾組もで調査し、互に情報を隱し合つて居る、又對手に交渉が始まるや、互に暗中飛躍を試み、今度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は讓步の競爭をして自分の方へ權利を取らんとし、其の結果は少利に甘んせねばならぬ破目に陷り、その上支那人をして日本人は金を出し度くて困つて居る樣に思はれたり、又は何か他に野心でもあるかの如く疑はれることになる、實際今行はれて居る支那事情調査は、官署としては領事館でもやり、陸軍でもやり、海軍でもやる、個人としては各會社商店で調べる、而して此等が總て何等の聯絡も無く勝手に重複した調査をやり、情報の交換等は決してやらない、之では大局から見て非常な不利である、何とか統一的の方法は無いものであらうか、滿鐵の組織は實に此の方面から見て理想的に出來て居る樣に思はれる。

又過般臺灣總督府奬勵補助の下に計畫せられた南洋發展計畫の樣なものを長江方面にも一日も早く實施する必要がある、同計畫は臺灣銀行が中心となり三井、臺銀、郵船、商船其他の有志に依り博愛會なる一の慈善團を組織し、その目的とする所は南支南洋各地に於ける日支人並に土人の施療敎育に當らんとするにあると傳へられて居る、總總府は本年度より補助金六十萬圓支出の件を可決した、右は勿論單に南洋方面に於ける慈善博愛的設備の完成に止まらず同時に各方面に關する產業調査、學校、新聞政策等に利用せられ、邦人南洋發展に資する所蓋し偉大なるものがあるであらう。

邦人の發展上一面に於て國家の援助を必要とすると同時に、他の一面に於て投資家又は在留邦人各自の大いに覺醒せねばならぬ事柄が澤山にある、

六　徹底的日支親善

近來日本內地では日支親善なる語が一つの流行語の如く隨分各方面で稱へられて居るにも拘らず、支那內地の各所では排日親英米なる語が流行し、現に去る五月七日の國恥紀念日を期し、排日排日貨を勃發した等は極めて皮肉な對照と云はねばならぬ、現在の日支親善は要するに有名無實で、口先で呼號して居る計りで一向その實を擧げない、多數の人間が支那へ出掛けて利益を壟斷する樣な事のみやつて居る現狀では親善は覺束ない、一體支那人は正義人道で相手になれる人間では無いのであつて、彼等を懷柔し愛撫し、それに利を食はす方法を講じて行けば、正義に少し位離れて居ても彼等は非常な好意を以て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

迎へる、官憲とか外交官あたりが俄かに親善に導く事は容易な業でない、勿論帝國の對支方針を確立して邦人を保護指導し、發展策を調査研究して列國に對峙して行く事の必要は前述の通りであるが、それは間接の援助であつて、第一線に立つて親善の實を擧げるものは、支那に關係を有する一般邦人である、試に各地在留邦人がその地の支那官憲乃至地方有力者等と親交と迄行かずとも、交際をして居る者果して幾程ありやを見よ、日本人はこんな點を等閑視して居て一向相手にならうとしない、けれども將を射ん爲めには先づ馬を射ることを忘れてはならない、異郷で大いに發展せんとするに、地方有力者の好感が預つて偉大なる好果あるは明かな事で、是は内地でも新しく事業を起すとか、初めての土地で商店でも開く時には、披露式をやるとか有力者を招待して開業式をやるとか、隨分人氣を得る事に努めるのである、然るに支那で此の點に意を拂はないのは支那人を輕く見る因習の然らしむる所であらう、邦人が萬事に此の調子なるに引き換へ、英米人は如才なく支那人間に立ち入つて密接なる關係を結び、巧妙なる手段で官憲有力者等を懷き込み、恩を賣り威を示し、彼我の融合和親と言ふ事に非常に頭を用ひて居る、加ふるに耶蘇教會又は青年會等を巧みに利用して愚民を操り、傳導の美名の下に親歐米排日を鼓吹し、或は稅關長以下多數の自國官吏を介して排日貨を企圖し、自國商權の進展に努力する等、隨分不正義不道德な事をやつて居る、否支那では敢てこれを不人道呼ばはりすることは出來ない、何となれば支那と親善の實を擧げる方法は他に發見し難いからである。

■支那南方産糖の重要地

支那重要産糖地は廣東・福建・四川・江西・浙江・河南等なるが中にも廣東の潮惠廣三州・福建の漳泉興三州及四川の資陽内江簡陽の三縣を最とす。從來廣東、福建二省産は實に全國消費高百分の九十を供給し四川産は本省の消費以外、同時に陝西甘肅南貴州湖北湖南の諸省に大移出を爲す。然るに外國通商以來外糖各地に輸入し内地の製糖業振はざるに至れり。今民國元年より九年までの輸入を考ふるに輸出十四萬擔より三十五萬擔、輸入三百八十五萬擔より八百七十餘萬擔に至り毎年輸入超過三百五十萬擔より八百五十萬擔の多きに至る。此れに由りて支那製糖業の衰退を推想し得べく、而して其の衰退の原因は糖質の不潔と生産費の過重に在りと。（二月二日新聞報）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

南支南洋其他
海外重要記事
官房調査課

1921, P. 315.)

科學の進歩と土壤化學
The Progress of Science, Chemistry of Soil. (T. d. Nov. 8, 1921, No. 42872, P. 10.)

時間と勞銀
Hours & Wages. (T. T. E. Nov. 1921, P. 311.)

肥料の選擇
Farmers' Choice of Manures. (T. d. Dec. 27, 1921. No. 42913, P. 14.)

將來の糖價昂騰豫想
Higher Sugar Prices may be expected to come. (M. T. Jan. 11, 1922, P. 2.)

炭礦と截炭機
Coal Cutters in Mines. (T. T. E. Dec. 17, 1921. P. 326.)

金屬の硬度
Hardness of Metals. (T. T. E Dec. 17. 1921, P. 328.)

機關車の發明
Invention of the Locomotive. (T. T. E. Dec. 17, 1921, P. 325.)

都市瓦斯の淸淨法
Purification of Towns' Gas. (T. T. E. Dec. 17, 1921, P. 326.)

貨物取扱上の機械力
Mechanical Handling of Cargo. (T. T. E. Dec. 17, 1921, P. 341.)

人造コルク
Artificial Cork, by Isman Ginsberg. (S. A. Feb. 1932, P. 91.)

礦油原料としての頁岩に對する各國の探査

■ 新聞雜誌略號一覽表 ■

C. P.	China Press.
D. E. I. A.	Dutch East India Archipelago
E.	Economist.
D. E	Das Echo.
E. E.	L'Eveil Economique.
J. C.	Journal of Commerce de L'Indo-chine.
M. T.	Manila Times.
N. M. R.	National Municipal Review.
N. S.	New Statesman.
Ol.	Outlook.
R. F. E.	Review of Far East.
R. I.	Le Revue Indochinoise.
S.	Statist.
S. A.	Scientific American, Monthly.
Stm.	Statesman.
T. d.	Times, London, daily.
T. E. S.	Times, Educational Supplement.
T. T. E.	Times, Trade Supplement, Engineering Section.
T. T. S.	Times Trade Supplement.
W. W.	world Work.

■ 世界一般 ■

產業

石炭瓦斯の經濟的製造法
Economics of Gas Making. (T. T. E. Nov. 1921, P. 301.)

航空推進機の設計
Airscrew Design. (T. T. E. Nov. 1921, P. 303.)

電力供給業の將來
Future of Electric Supply Industry. (T. T. E. Nov. 1921, P. 307.)

浚渫機の電化
Electrically Operated Dredger. (T. T. E Nov,

Jan. 13, 1922, P. 4.)

聯合國側の對米負債

Allied Debts to the U. S. (T. T. S. Dec. 31, 1921, Vol. IX, No. 182, P. 302.)

其　　　他

世界平和の危機

World Peace at Stake. (T. d. Nov. 8, 1921, No. 42872, P. 12.)

人力の節約

Saving Human Energy. (T. T. E. Dec. 17, 1921, P. 321.)

北米合衆國インド、カナダ、アルゼンチン、オーストラリア、ニユージーランドの人口增加と小麥の產出

Growth of Population & Wheat Prodution; U. S. A., India, Canada, Argentine, Australia, New Zealand. (S. Vol. XCVIII No. 2. 287, Dec. 24, 1921, P. 1116.)

華府會議及太平洋問題

華府會議

The Washington Conference. (R. F. E. Jan. 21, 1922. Vol XIX, No. 8, P. 327.)

華府會議

The Washington Conference. (R. F. E. Jan. 28, 1922, Vol. XIX, No. 9, P. 372.)

華府會議

The Washington Conference. (R. F. E Feb. 4, 1922, Vol. XIX, No. 10, P. 413.)

米國の軍備制限提案細目

Limitation of Navies Full Text of U. S. Proposals. (T. D. Nov. 18, 1921, No. 42881. P. 9.)

平和の捷利(華府會議)

Triumph of Peace. (T. d. Dec. 12, 1921, No. 42901, P. 10.)

華府會議の結果たる經濟會議

Washington & its Sequel; Question of Economic Conference. (T. T. S. Dec. 17, 1921, Oil Shale Resources; Review of Worldwide Activity. (T. T. S. Dec. 31, 1921, Vol. IX, No. 181, P. 311.)

交　　　通

海上の安全

Safety of Sea. (T. T. E. Nov. 1921, P. 317.)

船舶と汽機に關する新案

New Ideas in Ships & Engines. (T. T. E. Dec. 17, P. 335.)

世界の海運

World Shipping. (T. d. Nov. 24, 1921, No. 42886, P. 12.)

カナダ經由歐洲行急航船

Fast Survice to Europe via Canada. (M. T Jan. 12, 1922, P. 5.)

長距離無線電話

Long-distance Wireless, Transmission. (T. T E. Dec. 17, 1921, P. 331.)

主力艦と飛行機

Capital Ships & Aircraft. (Ol. Jan. 11, 1922 P. 61.)

金　融　及　財　政

爲替問題と歐米

Europe Seeks Advice of U. S. on Exchange. (J. C. Nov. 30, 1921, Vol. 113, No. 8641, P. 1.)

外國通貨

Foreign Moneys. Financial Department. (Ol. Dec. 28, 1921, P. 708.)

通貨の膨脹と公債

Currency inflation & Public Debt. (C. P. Jan. 19, 1922, P. 1.)

財界通信一束

Financial Dep't; The Financial Mail Bag. (01, Jan. 11, 1922, P. 74.)

萬國銀行(社說)

The Bank of Nations. (Editorial.) (M. T.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

An Obsolete Treaty, our Alliance with Japan, Reasons for its Abrogation. (T. d. Nov. 21. 1921. No. 42883, P. 11.)

日本と世界の平和
Japan and World Peace. (T. d. Dec. 21, 1921, No. 42909, P. 14.)

太平洋協約と日英同盟
The Pacific Pact and the Anglo-Japanese Treaty. (F. Dec. 17, 1921, Vol. XCIII, No. 4086, P. 1056)

日米間の了解策
Building a Bridge of Understanding across The Pacific, by M. Sullivan. (W. W. Jan. 1922, Vol. XLIII, No. 3, P. 268.)

商議に於ける合衆國のシベリアに對する政策發表
Conference will show U. S. Policy toward Siberia. (C. P. Jan. 22, 1922, P. 9.)

華府會議に於ける支那全權の宣明
China's Plea for Freedom. (Speech by Mr. Sze.) (T. d. Nov. 19, 1921, No. 42880, P. 9.)

支那の保證(華府會議)
An Insurance of China. (Stm. Dec. 13, 1921, P. 7.)

支那と太平洋盟約
China and Pacific Pact. (S. Dec. 17, 1921, Vol. XCVIII, No. 2286, P. 1071.)

ヒューズ氏の支那に關する特種特權協商の攻擊
Hughes opens Fight on Special Privilege Agreements in China. (C. P. Jan. 21, 1922, P. 1.)

支那は山東に關して妥協す可く信ぜらる
Chia Will accept the Compromise on Shantung. is belief. (C. P. Feb. 2, 1922, P. 1.)

Vol. IX. No. 180. P. 267.)

平時の軍略
The Strategy of Peace, Editorial Correspondence. (Ol. Dec. 28, 1921, P. 678.)

華府會議に於ける好個の新聞種
The Red Herring at Washington; by E. H. Abbott. (Ol. Jan. 4, 1922, P. 14.)

英國の宣傳と佛國の帝國主義
British "Propaganda" and French "Imperialism" Editorial Correspondence by E. H. Abbott. (Ol. Jan. 11, 1922, P. 51.)

四國協約の再考
A Few Second Thoughts on the Four Power Pact, by John Dewey. (R. F. E. Feb. 4, 1922, Vol. XIX, No. 10, P. 402.)

會議と米國の威名(一)
The Conference and American Prestige, by Francis Zia. (R. F. E. Jan. 21, 1922, Vol XIX, No. P. 320.)

會議と米國の威名(二)
The Conference and American Prestige, by Francis Zia. (R. F. E. Feb. 4, 1922, Vol. XIX , No. 10, P. 407.)

太平洋問題(日米關係)
Problems of the Pacific, The U. S. and Japan. (T. d. Nov. 9, 1921, No. 42873, P. 13.)

太平洋問題(日米關係)
Problems of the Pacific, Expansion of Japan. (T. d. Nov. 10, 1921, No. 42874, P. 11.)

華府會議に於ける極東
Far East at the Conference, Northcliffe. (T. d. Nov. 14, 1921, No. 42877. P. 10)

華府會議に於ける極東
The Conference and the Far East. (T. d. Nov. 21, 1921, No. 42883, P. 11.)

日英同盟の陳腐其癈棄理由

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Japan told to get out of Siberia within on Year. (C. P. Feb. 1. 1921. P. 3.)

中東に於ける商戰さ日本の活動
Struggle for Trade in Middle East; Japanese Activity. (T. T. S. Dec. 31, 1921, Vol. IX; No. 182. P. 305.)

支那及香港

支那問題の探究
Probing China's Problems. Lord Northcliffe's Interview. (T. d. Nov. 19. 1921, No. 42882, P. 7.)

支那の危急
The Peril of China. (T. d. Nov. 19, 1921, No. 4288, 2, P. 7.)

呉佩孚の對北京政府意嚮
Wu Pei-Fu not likely to invade Peking now. (C. P. Jan. 18. 1921, P. 1.)

支那礦物取扱者必要
Mineral Transporters growing need in China. (C. P. Jan. 18, 1922, P. 2.)

奉天對直隸爭議
Fengtien vs Chihli, T. Newcomb Tsung. (R. F. E. Jan. 21, 1922. Vol. XIX. No. 8, P. 319,)

支那を救濟する交通さ敎育
Communications and Education to Save China. D. Pr Paul Monsoe. R. F. E. Jan. 21, 1922, Vol. XIX. No. 8. P. 321.)

一九二一年十二月の財政經濟
Economic and Financial Conditions during Dec. 1921. (R. F. E. Jan. 21, 1922, Vol, XIX, No. 8, P. 323.)

財政署長鍾世銘
Dr. Chung Shih-ming, Vice-minister of Finance. (R. F. E. Jan. 21, 1922, Vol. XIX, No. 8, P. 340.)

國款山鐵贖回
Redemption of the Shantung Railway with

■アジア■

一般

遠東問題
Probleme des Fernen Ostens. (D. E. Dec. 1 1921. Nr. 2003 (36) P. 3832.)

メソポタミヤの秘事(一)
Mesopotamian Mystery I. (T. d. Dec. 27 1921, No. 4, 2913, P. 3.)

メソポタミヤの秘事(二)
Mesopotamian Mystery II. (T. d. Dec. 28 1921, No. 42914. P. 3.)

メソポタミヤの秘事(三)
Mesopotamian Mystery III. T. d. Dec. 29. 1921, No. 42915.)

滿洲問題
The Question of Manchuria. (J. C. Dec. 28 1921. Vol. 113, No. 8664, P. 6)

近東に於ける平和
Peace in the Near East. by P. D. Lanux. (01. Jan. 11. 1922, P. 64.)

日本

日本經濟界近況
Recent Economic Condition in Japan. (S Dec. 10, 1921. Vol. XCVIII. No. 2285 P. 869.)

顯著なる日本機織工業の躍進
Japanese Textile Industry; Remarkable Expansion, (T. T. S. Dec. 31. 1921. Vol. Ix. No. 182, P. 307.)

日本の輸出貿易獎勵策
Japanese Plans to Aid Exports; Financing Foreign Trade. (T. T. S. Dec. 17. 1921. Vol. IX. No. 180, P. 267.)

日本の新輸入稅
Japan's New Import Tariff; Protection for Local Industries. (T. T. S. Dec. 24. 1921 Vol. IX. No. 181, P. 287.)

シベリア駐在日本兵の撤兵豫想

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Par les Sentiers Laotiens. (Suite) Dr. Guillemet. (B. I. Sept-Oct, 1921, XXIV, Nos. 9-10, P. 191.)

古代及古近代に於ける安南民族の史的研究(終)
Le People l'Annamdans l'Antiquite et le Haut Moyen-age (fin) Patrie, Charles. (R. I. Sept-Oct, 1921, XXIV, Nos. 9-10, P. 231.)

安南に於ける漢字教育
L'Enseignement des Caracteres Chinois. (fin) Le Thuoc. (R. I. Sept-Oct 1921, XXIV, Nos. 9-10 P. 275.)

河内物理學校
L' Ecole d' Education Physique de Hanoi. (E. E. Dec. 25, 1921, No. 237, P. 11.)

河内物理學校沿革
Historique de l' Ecole d' Education Phisique de Hanoi. (E. E. Dec. 25, 1921, No. 237. P. 14.)

太原線に就て
La Ligue de Thai-Nguyen. (E. E. Dec. 25, 1921, No. 237, P. 5.)

印度支那に於けるラッソ樹脂
La Gumme-Laque. (E. E. Dec. 25, 1921, No. 237, P. 3.)

海防の米輸出高(十一月三十日現在)
Exportations de Riz du Port de Haiphong. (E. E. Dec. 25, 1921, No. 237, P. 19.)

東京炭業組合の石炭積出高(一九二一年自一月至十月計算
Societe Francaise des Charbannages du Tonkin. (E. E. Dec. 25, 1921, No. 239, P. 17.)

マレイ半島に於ける水道、電燈、橋梁工事
Engineering Works in Malaya: Water, Electric Light & Bridges (T. T. S. Dec. 17, 1921, Vol. IX, No. 180, P. 265.)

インド及ビルマ

インドの國勢調査(流感の禍害)
The Census; The Influenza Scourge. (T. d.

Chinese Money, Y. S. Yu. (R. F. E. Jan. 28, 1922, Vol. XIX, No. 9, P. 364.)

一九二一年中の銀の位置
Silver in 1921. (R. F. E. Jan. 28, 1922, Vol. XIX, No. 9, P. 366.)

高凌霨總長略傳
Kao Ling-wei, Minister of the Interior. (R. F. E. Jan. 28, 1922, Vol, XIX, No. 9, P. 376.)

支那に於ける羊毛貿易
Method of Trading in China Wool, by H. B. Elliston. (R. F. E. Feb. 4, 1922, Vol XIX, No. 10, P. 409.)

支那產業の速成運動
Rapid Movement of Industry in China. (R. F. E. Feb. 4, 1922, Vol. XIX, No. 10 P. 424.)

支那に於ける機械器具の需要
Machine Tools in China; Handicap of British Price. (T. T. S. Dec. 31, 1921, Vol. IX, No. 182, P. 308.)

芝罘濰縣間新自動車道の開通工事
Work being pushed on New Motor road which is to like Chefoo and Weihsien. (C. P. Feb. 5, 1922, P. 24.)

ホンコン

ホンコン領の不滿
A Hongkong Grievance. (T. d. Nov. 26, 1921, No. 4, 2888, P. 9.)

ホンコン政廳の對海員組合態度
Seamen's Union Outlawed by Hongkong Gov't. (C. P. Feb. 3, 1922, P. 1.)

佛領印度支那及マレイ

安南事情
En Annam, Ch. Guibier. (R. I. Sept-Oct, 1921, XXIV, Nos. 9-10, P. 159.)

佛領老撾の山地研究(續)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

イ ン ド極端主義首領株に對する政府の措置
Actions against Leaders of Extremist. (Stm. Dec. 11, 1921, P. 11.)

イ ン ドの爲めの平和會議(寄書)
A Peace Conference for India. (Stm. Dec. 11, 1921, P. 13.)

イ ン ド民のガンヂー觀
India's View of Mr. Gandih. (Stm. Dec. 11, 1921, P. 27.)

エドワード一世陛下さイ ン ド非協同運動
King Edward I, and Non-co-operation. (Stm. Dec. 13, 1921, P. 6.)

イ ン ド極端主義者に對するベンガル政廳の唯一方針
Bengal Governments One Aim. (Stm. Dec. 13, 1921, P. 7.)

イ ン ド總督の時局論(極端主義者擁護問題)
Viceroy Reviews Situation (Stm. Dec. 15, 1921, P. 7.)

イ ン ドの勞働諸問題(セネヴァ會議に於ける)
Labour Qestions in India, The Geneva Conference. (Stm. Dec. 15, 1921, P. 7.)

セイロン勞働條令
Ceylon Labour Ordinance. (T. T. S. Dec. 31, 1921, Vol. IX, No. 182, P. 305.)

非協同運動に對する中央州長官
Governor of C. P. on Non-co-operation (Stm. Dec. 18, 1921, P. 11.)

過激主義者のイ ン ド脅威
Bolshevist Menace to India; Leninism in Asia. (Stm. Dec. 18, 1921, P. 27.)

ベンガル事件の前途に關する州長官の觀察
Governor on Outlook in Bengal. (Stm. Dec. 20, 1921, P. 9.)

歐洲人さ「スワラヂ」
Europians and "Swaraj" (Stm. Dec. 18, 1921, P. 17.)

Nov. 17, 1921, P. IX.)

イ ン ドの現勢
India's Status. (T. d. Nov. 17, 1921, P.VI.)

變勢のイ ン ド
Changing India. (T. d. Nov. 19, 1921, P. V.)

在印英人の生活
Anglo-Indian Life. (T. d. Nov. 17, 1921. P. VII.)

イ ン ドの自然界
Indian Wild Life. (T. d. Nov. 17, 1921. P. X.)

イ ン ドの歴代總督
Proconsuls of India. (T. d. Nov. 17, 1921, P. XIII.)

イ ン ド諸侯
Leading Indian Princes. (T. d. Nov. 17, 1921, P. V. 111.)

イ ン ドの勞働
Labour. (T. d. Nov. 17, 1921, P. XI.)

イ ン ドさ英皇太子
Indian and The Prince. (T. d. Nov. 17, 1921, P. V.)

英皇太子の使命
The Prince, Our Imperial Ambassador Outstanding Problems. (T. d. Nov. 17, 1921, P. VI.)

ジョージ五世さイ ン ド
George V. The King Emperor, Wide knowledge of India. (T. d. Nov. 17, 1921, P V.)

エドワード七世さイ ン ド
King Edward VII. His Indian Tour; The Coronation Durbar of 1903. (T. d. Nov. 17. 1921, P. VI.)

ビクトリア女皇さイ ン ド
Queen Victoria, Her Love of India Foresight Native Affairs. (T. d. Nov. 17, 1921, P. VI.)

インドの農業
Agriculture. (T. d. Nov. 17, 1921, P. IX.)

インドの棉花とジュート(麻)
Cotton & Jute. (T.d Nov. 17, 1921, P. XII,)

インドの灌漑
Irrigation. (T. d. Nov. 17, 1921, P. X.)

全インド手織物博覽會
All India Hand-weaving Exhibition. (Stm. Dec. 11, 1921, P. 23.)

インドの製糖業
Sugar Manufacture in India: (Stm. Dec. 18, 1921, P. 27.)

ベンガル州產業部事業經過
Developing Bengal Industries. Department's Progress. (Stm. Dec. 21, 1921, P. 6.)

インド併合州の產業
Industries in the U. P. (Stm. Dec. 22, 1921, P. 21.)

インドの林業
Forestry. (T. d. Nov. 17, 1921, P. X.)

ベンガル州水產部年內事業報告
Bengal Fisheries Dep't: The Year's Work. (Stm. Dec. 22, 1921, P. 21.)

セイロンの護謨工業
Ceylon Rubber Industry; Scientific Progress. (T. T. S. Dec. 24, 1921, No. 181, P. 289.)

インド水力資源調査報告
India's Water-power Resources Survy Report. (Stm. Dec. 13, 1921, P. 8.)

インドの教育
Education. (T. d. Nov. 17, 1921, P. IX.)

インドの國語
Languages of India. (T. d. Nov. 17, 1921. P. XIII.)

歐洲人と「スワラヂ」(續)
Europians and "Swaraj" (Stm. Dec. 20, 1921, P. 13.)

インド大觀(カルカッタに於ける總督演說)
The Indian Outlook: Viceroy's Speech at Calcutta. (Stm. Dec. 21, 1921, P. 33.)

時局協商會議に就てのガンヂー氏所見
The Proposed Confernce: Mr. Gandih's View. (Stm. Dec. 21, 1921, P. 7.)

ベンガル協商會議提案却下
Viceroy Rejects Confernce Proposal, Governor's Duty to the People. (Stm. Dec. 22, 1921, P. 7.)

カルカッタの發展(英皇儲の演說)
Development of Calcutta: The Prince's Speech. (Stm. Dec. 25, 1921, P. 9.)

インドの財政
Finance. (T. d. Nov. 17, 1921, P. XI.)

インド經濟界及び政界大觀
Economic & Political Outlook in India. (S. Dec. 10, 1921, Vol. XCVIII, No. 2285. P. 863.)

インド財政力の證佐
Evidence of Financial Strength (Indian Trade & Review.) (T. T. S. Dec. 17, 1921, Vol. IX, No. 180, P. 264.)

一九二一年十一月中インド海外貿易
India's Overseas Trade; November Figures. (Stm. Dec. 21, 1921, P. 10.)

インドに對する貿易獎勵法
Trade Facilities Act for India. (Stm. Dec. 27, 1921, P. 10.)

ドイツ對印貿易狀況
German Trade with India. (T. T. S. Dec. 31, Vol. IX, No. 182, P. 301.)

インドの產業
Industry. (T. d. Nov. 17, 1921, P. XII.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

A Problem we must face. (Editorial.) (M. T. Jan. 9, 1922, P. 4.)

一九二〇年と一九二一年比島通貨對照表
1921 Circulation falls off as Compared with that of year 1920. (M. T. Jan. 9, 1922, P. 9.)

輸出向ヘンプ產額低下
Baled Hemp Production shows Drop. (M. T. Jan. 10, 1922, P. 2.)

マニラ商況一覽(一九二一年十二月中)
Manila Market Quotations for the Month of Dec. 1921. Prepared by the Bureau of Commerce & Industry. (M. T. Jan. 11, 1922, P. 9.)

總督の比島對米爲替問題に關する建策
Governor General Makes other Recommendations to stabilise Exchange. (M. T. Jan. 12, 1922, P. 1.)

比島内の收税額著減
Internal Revenue Collections for the First 9-months of 1921 showed Big Drop (M. T. Jan. 24, 1922, P. 5.)

比島島內貿易の將來(社說)
Philippine Domestic Trade. (Editorial.) (M. T. Jan. 15, 1922, P. 4.)

商工局對比島商業會議所交涉
Philippine Chamber for Commerce Bureau. (M. T. Jan. 15, 1922, P. 5.)

醫務局のフイリッピン人調査
Philippines to be surveyed by Medical Board. (C. P. Jan. 18, 1922, P. 2.)

(以 下 次 號)

インドの宗教—階級—民族
Religion, Caste & Race. (T. d. Nov. 17, 1921, P. IX.)

アッサム州の教育事業
Education Work in Assam. (Stm. Dec. 20 1921, P. 13.)

總督とインド近世美術
Viceroy and Modern Art in India. (Stm. Dec. 22, 1921, P. 9.)

インド鐵道の將來
Future of Indian Railways. (T. d. Nov. 14 1921, No. 42877, P. 6.)

インドの運輸
Transportation. (T. d. Nov. 17, 1921, P. VIII.)

インドの鐵道ゲージ
Railway Gauges in India. (T. T. E. Nov. 1921, P. 316.

東印度鐵道のストライキ
Strikes of The East Indian Railway. (Stm Jan. 1, 1922, P. 10.)

ビルマの國民性
Burma, Mentality of the People Versality and Charm. (T. d. Nov. 17, 1921, P. XII.)

■南 洋 諸 島■

フ イ リ ッ ピ ン

ウッド將軍の比島報告
Wood Reports on P. I. (J. C. Nov 30, 1921, Vol. 113, No. 3641, P. 6.)

比島の損害對照表
The Balance-sheet of the Philippine. (O1. Jan. 4, 1922, P. 18.)

好況の比島金融界狀勢
Money Situation is improving Now in the P. I. (M. T. Jan. 6, 1922, P. 1.)

比島將來の問題

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

詞苑

臺灣航路口吟　田讓山

黑潮蕩々注南州。更向星旗國岸流。
唯我獨尊這裡在。太平洋上一孤舟。

古意　齋藤柳外

千里關山未返家。今年又見去年花。
窓前此夕踏歌起。不是鄉音轉自嗟。

美人十詠錄五　王效良

美人妝

春睡初醒報海棠。小窓重與理新妝。
雲鬟巧掠三盤髻。粉頰輕勻百合香。
層點猩紅櫻顆小。眉描螺黛柳痕長。
含情悄向花間立。直訝嫦娥降下方。

美人游

妝成何處散春愁。女伴相携陌上游。
穩曳花裾拖百褶。輕移蓮步蹙雙鈎。
面流汗粉渾妄暑。眼溜波光壓送秋。
鬪草歸來天已晚。手扶小婢上朱樓。

美人醉

游罷闌珊含叵羅。小鬟低唱惱儂歌。
青分竹葉杯初綻。紅暈桃緋臉半酡。
倦態倘能支獨底。春心先已到衾窠。
酩酊扶向牙床去。爲問楊妃恙若何。

美人睡

迷奚雙眼酒初醺。解脫輕羅蛺蝶裙。
香篆碧簾魂一縷。枕痕紅透肉三分。
鴛鴦夢好呼難覺。鸚鵡情多語不聞。
微笑未知緣底事。梨渦巧綻口邊雲。

美人浴

睡餘脂粉膩殘妝。溫暖新儲荳蔻湯。
持櫛未曾呼小婢。閉門先與賺檀郎。
白浮軟玉肌眞滑。紅濕凝酥汗亦香。
別有閑情說不得。背人斜倚合歡牀。

送柳田先生辭官敬和原韻二首　北斗　林夢梅

退却官場絕點塵。花朝月夕寄閑身。
願君此去無多路。策蹇常來訪故人。

人情冷暖不須嗟。到底交深有幾家。
宦海風波催夢醒。浪仙原是欵冬花。

阿里山神木

老皮張展化龍初。嘯雨吟風葉未疎。
歲月不知經幾許。尙留蒼翠萬年餘。

漫遊紀錄　鵠仙　王寶藏

遊西子灣經過貴賓館有作

一路叉榕迎客頻。時聞鳥語話天眞。
遊心惟覺山中樂。那管人間有貴賓。

旗山晚眺

海門一望碧無涯。四處歸帆片々偕。
心欲五湖尋范蠡。難除俗慮與塵懷。
煙波萬頃接天涯。四顧暮雲幻景佳。
把筆未[illegible]興廢恨。晚風吹面動愁懷。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

登屏半山有感

時々空自鬱蹉跎。只覓奇山一嘯歌。
探險但憑吟脚健。尋詩不憚細心磨。
登高始悟人情薄。越嶺方知世路多。
自笑生平多傲骨。貪官汚吏欲如何。

蓮池潭即景

蓮花如火水如油。十里寒潭一望收。
柳裏時聞鳴翡翠。沙邊猶有睡鳧鷗。
風來花木皆爭迎。魚至仙童未鬱鈎。
吩咐村夫山處避。待他佳麗好消愁。

半月池觀魚

半簾春水靜無波。遙指遊魚結隊過。
吩咐漁娃休罟捉。恐他大小盡遭羅。

借銘新兄過延平郡王祠有感

回思故國淚頻傾。說到蔓殊劍欲鳴。
一自澎湖歸敗局。至今無復紀延平。

（未完）

喜雪

林傳成

瑤臺飛下碧玲瓏。無限陽春寄此中。
色相渾如飛絮起。精神常藉早梅通。
瓊妝掩映來青女。玉戲盤旋美碧翁。
佇看溶々符六出。應教民慶隔年豐。

又

誰把銀河碎剪工。粧成世界碧玲瓏。
双清跡向今朝印。六出首徵來歲豐。
恍似瓊花晴照日。渾如玉樹皎臨風。
悠々東望瑤臺上。願藉詩歌意一通。

又

莫惜青山變老翁。今朝相對正玲瓏。
梅爭應遜三分碧。絮起常竝一樣融。
每共玉妃時展笑。應欣青女歲徵功。
從茲瑞應六花出。佇看豐年處々豐。

秋夜二首

佳里　王大俊

閑情自愛詠涼天。斜月松間夜不眠。
寂寞中宵無落葉。但聞蟲語泣綿々。
沈々秋籟寂無喧。涼夜微吟月在天。
誰識此時清味好。空山松子落寒泉。

示某友人

佳里　寓客

老來自笑懶如仙。萬事讓人知獨先。
吟倦草堂宜下臥。醉餘村酒喜高眠。
寄將身迹紅塵外。淨洗心機白石邊。
却異風流貴公子。章臺走馬看花妍。

客懷

世味嘗來我已深。增加馬齒滅雄心。
勞人筆墨終非計。何處湖山好笑吟。
孤坐渾如僧入定。多愁欲藉酒開襟。
客中今夜淒涼甚。無限悲歌托古琴。

贈人

鷹取岳陽

洋島漫然只看過。文明漸進物華多。
一帆試向臺灣去。真是人間安樂窩。

雜報

臺灣宣傳ポスターの數々

東洋協會の事業たる平和博に於ける「東亞事情紹介」を援助する爲め總督府に於て「臺灣宣傳ポスター」を募集し及び其の展覽會を開かれた事は本誌前號並本號に記す通りで其の結果に就ては世評とり〴〵であるが、右の内二月二十八日の便船で、東京へ向け發送せられた分は、總計百八十七枚で、其内譯を示ば左の通である。

□官廳側では

督府官房調査課	四
同內務局	三一
同財務局	七
同遞信局	四
同殖産局	二七
同土木局	一〇
同博物館	二
同警務局	一〇
同法務部	二
同鐵道部	九
同專賣局	九
同稅關	一
同警官司獄官練習所	二
同中央究所	五
臺北州	三
臺中州	五
臺南州	二
高雄州	五
臺東廳	三
外に	
臺灣時報發行所	一
南洋協會支部	一
計	一四三

□民間側では

臺灣製腦會社	一
臺灣電力會社	三
臺灣日々新報社	三
田中鑛山株式會社	二
臺灣鐵工所	一
臺灣銀行	二
基隆船渠會社	一
計	一三

□懸賞募集の分は計　三一

其内譯は

□一等

畫題	應募者
蕃人聖代を杵に唄ふ	(林　博)

□二等

臺灣は米が二度穫れる	(高木義章)
四月一日の朝	(宮本萬輔)

□三等

來れ南へ天惠の地	(林　博)
融和のみのりを	(鈴木千代吉)
一度は來れ	(川合春路)
豐富と平和の島へ	(同　人)
文化の種播き	(錦田照三)

□等外佳作

海に山に財寶無限	(茅野正名)
今の臺灣を御存じですか	(高木義章)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

電化　（武田丕積）
平和に滿てる南國　（池田信一）
あなたも私も日本の子供
さもに御國の忠義の民に　（江間常吉）
南國氣分を味へ　（同　臺灣人）
斯く吾等は働きつゝあり　（末松[illegible]勇）
希望の光は我南國に輝けり　（池田信一）
二大富源泉　（武田丕積）
南冥寶庫の鍵鑰　（茅野正名）
暗黑より光明へ　（林　博）
總てを捨てゝ臺灣へ　（池田信一）
憧憬の鄕　（山西　茂）
臺灣は南冥の開拓者　（茅野正名）

□秀逸の分

臺灣の共學制　（野田正明）
纒足より天足へ　（窪田照三）
吾等は斯く融和し協力しつゝあり　（同　人）
平和を歡喜する蕃人　（同　〃　人）
臺灣宣傳　（廣松眞臣）
協力一致　（武田丕積）
來れ平和ある南國の天地へ　（高橋正臣）
敎育の普及　（茅野正名）
惠の地　（末松いそ子）

以上總計　百八十七枚

尙ほ右は東京の總督府出張所にて選擇の上東洋協會へ交附する筈であるが此外にも幾分後便にて送付すべきものありさのこさ

伯林ブランデンブルゲル紀念門（澁谷技師寄）

賀來長官上京

賀來總務長官は一月三十一日午後二時十分臺北驛發御用上京の途に就かれたり停車場には督府各部局課長及民間の重なる人々多數の見送りあり新元部長、高田知事、末松局長、相賀局長、下村文書課長は基隆まで見送りを爲せり

編輯雜記

▼東鄕委員宛、伯林からの澁谷技師の繪葉書に

アナタの好きな獨逸に參りました、戰前を知らぬ私には戰後を語る資格はありませぬが國民の血さ骨さを榨けても榮勝の果を收むるこさ能はず、君は追はれ國は割かれたる獨逸の表面に現はれたる樣子は何も夫れ等の戰敗を語るものがありませぬ、人には何さなく粗野な點があり、街には落ち着きあつて、伯林は好い所ださ思ひます、此鄕で新年を迎へ正月ロンドンに還ります。

さある、戰後の恢復に汲々たる獨逸の現狀察すべしてである。

▼前田委員去月末歸臺せらる

臺灣日誌

一月

▲十五日

□ジョッフル元師臺灣海峽通過　佛國答禮使同元師は本日正午臺灣海峽通過北上す

▲十七日

□大隈侯追弔式　早稲田大學校友會及肥前協會支部主催午後四時三十分より臺北陸軍偕行社に於て執行す

▲三十日

□獻穀田地鎭祭　本島最初の新嘗祭獻穀田に選定されたる臺北州七星郡士林庄員山仔脚の水田に於て本日地鎭祭を執行す

二月

▲一日

□芝山巖祭典　臺灣教育會は本島教育界に殉職せる百六十九氏竝に既往一年間殉職の二十氏合祀の爲め芝山巖に於て壯嚴なる祭典を執行す

▲六日

□臺灣教育令　勅令第二十號を以て新令を公布す

▲九日

□山縣公遙弔式　本日午前十時より臺北陸軍偕行社に於て山縣公遙弔式を執行し田總督、福田軍司令官を初め在臺北官民及外國領事等參拜す

人事消息

自一月十一日至二月十日

▲三浦碌郎氏（衛生課長）、本誌編纂委員）十四日歸臺

▲飯田馬港要塞司令官　十七日歸臺

▲永田隼之助氏　十七日内地へ赴く

▲平山寅次郎氏　同上

▲北村吉之助氏　二十日内地へ赴き二月七日歸臺

▲赤石定藏氏　同上

▲倉岡彦助氏　醫學博士の學位を受く

▲鈴木重臣氏　二十五日歸臺

▲明石前總督母堂　三十日朝逝去せらる

▲末松内務局長　三十一日歸府

▲田賀奈良吉氏（土木局技師）二月七日着任

▲野呂寧氏　七日上京

▲[illegible]參事官　同上

▲平山午介氏　七日歸臺

任命

一月中

▲十二月二十七日

休職臺灣總督府事務官兼參事官　菊池武芳

任鐵道省事務官

▲一月四日

師範學校教授　鹽谷伴造

臺北師學校長太田秀穂不在中代理を命す

▲一月九日

埼玉縣技師　田賀奈良吉

任總督府技師、土木局勤務ヲ命ス

州警視　森島庄太郎

東京、和歌山、大分及鹿兒島の一府三縣下へ出張ヲ命ス

▲一月十日

法院判官　望月恒造

法院判官　山田示元

法院判官　宇野庄吉

法院判官　後藤和佐二

（各通）

法院判官懲戒委員ヲ命ス

法院判官　伴野喜四郎

法院判官　中上友三郎

法院判官　畑田眞[illegible]

（各通）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法院判官懲戒委員ヲ命ス

▲一月十一日

上京ヲ命ス

中央研究所技師　山口謹爾
事務官　生駒高常
事務官　佐藤正俊
編修官　古山榮三郎
視學官　田中友二郎
視學官　小野正雄
圖書館長　竝河直廣
師範學校教授　平塚佐吉
師範學校教授　河瀨半四郎

（各通）

第一回視學講習會講師ヲ命ス

▲一月十三日

總督府技師　倉岡彥助

歸府ノ途次上京ヲ命ス

▲一月十七日

專賣局事務官　杉本良

上京ヲ命ス

總督府事務官　佐々木國重

東京、大阪、兵庫、山口及福岡ノ二府三縣下ヘ出張ヲ命ス

▲一月十六日

實業學校教諭　瀧波惣之進

臺北第一工業學校長吉田佐次郎不在中代理ヲ命ス

公立實業學校教諭　西田辰海

臺北第二工業學校長吉田佐次郎不在中代理ヲ命ス

▲一月二十日

事務官　梅谷光貞

歸府ノ途次上京ヲ命ス

商業專門學校教授　川田長兵衛

總督府商業專門學校生徒監ヲ免ス

▲一月二十一日

新竹州屬　岡本亮太郎

兼任州警視、新竹州警務部勤務ヲ命ス

醫院醫官補　古市虎熊

任醫院醫官臺中醫院勤務ヲ命ス

醫院醫官補　本村鐵藏

任醫院醫官、屛東醫院勤務ヲ命ス

▲一月二十三日

警察官及司獄官練習所教官　小野賢次

東京、京都、大阪、宮城、福島、栃木、靜岡、愛知、新潟、富山、石川、福井、兵庫、岡山、廣島、山口、福岡、佐賀、熊本、鹿兒島及宮崎ノ三府十八縣下ヘ出張ヲ命ス

新竹州屬　兒玉三次郎

任郡守、新竹州中壢郡守ヲ命ス

▲一月二十四日

商業專門學校長　加藤正生

東京府外一府二縣下ヘ出張ヲ命ス

新竹街長　藏田壽吉

奏任官ヲ以テ待遇セラル

典獄　本多理三郎

岡山、京都、靜岡及東京所在ノ各監獄ヘ出張ヲ命ス

▲一月二十六日

郡守　細井龍三郎

任州警視、臺中警察署長ヲ命ス

州警視　秋永長吉

任總督府郡守、兼州警視、臺中州能高郡守ヲ命ス

▲一月二十七日

臺中州警部　岡山藤二郎

兼任防疫事務官、警務局衞生課勤務ヲ命ス

▲一月二十八日

總督府技師　池田季苗

歸府ノ途次上京ヲ命ス

總督府技師　田賀奈良吉

市區計畫委員ヲ命ス

法院判官　渡邊里樹

補臺北地方法院判官

總督府技師　小澤寬治

內務局地理課兼財務局稅務課勤務ヲ命ス

中央研究所技師　素木得一

林業部長金平亮三不在中代理ヲ命ス

中央研究所技師　大山尙也

工業部長ヲ免ス、林業部長代理ヲ免ス

▲一月三十日

總務長官　賀來佐賀太郎

上京ヲ命ス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄贈書目

書名		發行所
東亞經濟研究	同	其社
實業之臺灣	同	其社
臺法月報	同	其社
糖業	同	臺灣糖業研究會
臺灣教育	同	其社
極東公論	同	其社
大鵬	同	拓殖新報社
臺灣貿易表	同	臺灣總督府稅務課
朝鮮	同	朝鮮總督府
支那	同	東亞同文會
臺灣鐵道	同	其社
青島商報	同	其社
臺灣農事報	同	臺灣農友會
稅務月報	同	稅務職員共慰會
博愛	同	臺灣博愛社
貿易	同	日本貿易協會
臺灣鑛業會報	同	其社
臺灣警察協會雜誌	同	其社
南洋協會雜誌	同	其社
海事新報	同	帝國海事協會
週報（上海貿易）	同	上海日本商業會議所
東洋	同	東洋協會
南洋經濟新報	同	新嘉坡商品陳列館
偕行社記事	同	陸軍偕行社
海友	同	大連海務協會
大陸	同	大陸社
地方行政	同	帝國地方行政學會
內外情報	同	外事課調查課
臺灣パック	同	臺灣パック社
高砂パック	同	高砂パック社
統計學雜誌	同	統計學社
遞信協會雜誌	同	遞信協會
滿蒙實業彙報	同	大連商業會議所
會計	同	明治大學出版部
統計集誌	同	東京統計協會
一味	同	本願寺臺灣開教々務所
極東	同	極東社
對岸時報	同	福井縣對岸實業協會
國際經濟	同	國際經濟協會
產業事報	同	日本產業協會
臺灣醫學會雜誌	同	醫學專門學校
臺灣金融事項參考書	同	臺灣銀行
臺灣會社摘要	同	同行
煙草通信	同	專賣局煙草課
日印協會々報	同	日印協會
臺政新報	同	臺政新報社
大亞	同	大亞義會
まこと	同	臺灣三成協會
大陸	同	大陸社
月報	同	小樽商業會議所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

漢文欄

林野整理事業之一班

內務局地理課長　野呂寧

一　林野整理事業之趣旨

關于臺灣土地之權利。因土地調查與林野調查二大事業之完竣。而爲確定。今就民地而言則經過精查測量之後。按土地各筆之境界面積復行完全測量。以定各人之權利。登載于土地臺帳及地面。另照登記法。登記于法院之臺帳。方得權利之保證者也。至於官地則。除田園。房屋地基。魚塭。等外。即如山林原野。祇不過一部分登錄。其大部分原野。尙未實測完了。然此等官地則。因土地調查及林野調查之查定。已經決定官地者也。在此地內因多年之習慣。其附近人民。並無何等苦情。安居樂業。而往々有使用或收益者之緣由但以認定業主之憑據不足。即致查定官地也。然內中亦有不能拋却其緣故之林野存焉。此等地則。當林野調查之際。特爲保管林。准其管業。徵少許保管金。仍令使用收益矣。又不告擅爲墾地者。例所法禁。故其約束亦爲實行。然自林野調查々定以前。仍舊永爲開墾耕種及造林。使用收益者亦有之。若將此等緣故關係者。一概置而不顧則。即於林野行政上。不惟有種々礙難之處。且於管束上。煩雜不少。又於開發產業上。妨礙完全之利益。徒起掠奪的農業林之弊。竟不能期土地改良發達。失愛地之念。徒爭目前之利耳。況當利用此等之地。遇有興起官業。或經營大事業之時。必釀成各種紛議。從來屢所經驗也。速行實地之整理。所有各種緣故。一掃而盡則。可以期官地之完全。並令人民由不確實之緣故。移於確實之業主權。永安於確實之財產。以保護土地。以完全利用。即於增

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

殖土地之產。兼保存國土之計。最爲緊要。依此趣旨。者爲計畫。乃爲林野整理焉。

林野整理之主意。爲官有林野之整理。而在乎希圖產業之振興。完全林野之利用。依其愛撫而。所以永遠增進土地之利益也。若乃因其目前之利益。而縮土地之壽命。所不取也。防杜胡爲亂用。務要國土之保護。故仍舊永爲使用收益之林野。俾與其緣由之民。以爲己業。令其重用。一而安定伊等之財產。並鞏固生活之基礎。欲由此而招徠國產之振興也矣。隨便開墾山野。希謀一時之利。以急傾斜地。作園栽培芭蕉甘蔗。非其所宜。獎勵造林。以圖國土之保安。與水災之預防。惟限於開墾適宜之地。爲園爲田。勸其耕種者也。儻放棄於現狀不顧。則。林野遂致荒涼廢頹。俾荒廢國土。流亡砂土。埋沒田園。激成水害。多投鉅費。而隄防河川整理事業一旦有破壞之虞。須臾不可附于忽諸重要事業矣。

二　區分調查

學官有之林野。悉賣與緣故者。不惟有危險。阻害國家之事業。故先就全般之林野。即宜爲官應保管者。與當移民有者之分別。林野整理之第一著手。先宜區別爲官有當存者與否。乃要存置林野與不要存置林野分別。此謂之區分調查。

所謂區分調查者。分林野。係爲官應保存者。與可移民有者之區別事業也。乃行實地履勘。概從左開標準。區別。

爲存置林野仍舊留存官地不准賣下林野如左。

第一、關于國防其他軍事上重要之地。

第二。因涵養水源遮住土砂趣旨。照依森林令已經編入保安林籍土地並從來認爲編入保安林籍有必要之地。

第三、國爲經營林產有必要之地。乃如殖產局或專賣局造林地域之類。

第四、爲模樣林或保護林。學術上特爲必要存置之森林。乃爲原山林之林形者。或有各種珍奇樹木等類。

第五、沿于各溪岸。且傾斜地而。護岸上須要之林野或來往不便之山岳。關于其地形地位。不適民營之林野。

第六。道路。鐵路。公共埤圳。其他應保護營造物必要之林野。

第七。供用共同墳地或埋屍獸之地而不可歸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

于一私人之有土地。

第八、關于整理河川。或架設鐵路等。官視爲留存必要之林野。其餘之官有林野。卽爲不要存置林野。此內如有現爲保管林者。仍令保管者管業。又自林野調查々定發表以前起。竝無障礙平安無事。繼續于今仍行使用收益之土地。賣與其使用收益者。

當區別調查之時。卽於要存置林野。與不要林野境界每各要處將頭部塗紅。寫明區分標字樣木捧打樁以爲標示。

三　處分調查

區分調查既完。則其次尙行處分調查。其調查員就于不要存置林野。自保管林之保管者或自林野調查發表以前起。恒久竝無障礙。有使用收益緣故者。過有遞呈賣給之時。查明其境界及緣故。製作概況之圖。丈量員按此圖說。尙行淸查測量。而製完全地圖。算定面積。作成賣下文書。其土地臺帳登錄地每各人名分割其他異動未登錄地登記于土地臺帳及地圖之內。蓋爲處分調查也。在乎調查保管林及其緣故。殊屬煩難。先釐正境界。其承繼關係等。嚴密審查稟請者資格。以期向完全關係人賣給。杜絕後日之紛議。故稍有緣故不明可疑混跡。一概不賣。

查林野整理一事。乃爲國土之保全。產業之振興及與安定個人財產起見。尊重己權。發揮利益。務要立永遠之計俾其土地利用於安全有益。因地造林。或行開墾。視賣價低廉。遂行伐木。尤不可不誡。官賣價値之查定。酌於地土良否。交通便否。置重于土地實價。又如樹木。稟請人雖加意培養。究置于預算外。惟以現樹爲率。至于伐木。有干保管林條件。飭令取銷保管權有。盜伐官林處罰之虞。又急行開墾。假冒緣故。亦爲誤謬之極。一旦水落石出則因。不告開墾之罪。定被處罰。賣。下價格尊重關係。以愛民爲宗故較于普通預約開墾之賣下價格。實屬低廉。由普通賣買實價。扣除關于開墾造林所需諸費約以剩額二分之一左右。爲準。故價格低廉。眞可謂格外恩典矣。

五　林野整理事業之現況

林野整理事業。卽如前述。其所辦事業。自大正四年度起。實施。現經臺中嘉義。新竹桃園四處。及臺東花蓮港兩廳告竣。區分調查臺北州下及舊南投廳全行完畢。現在臺南州下之舊臺南廳管內

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

著手。定將本年六月間全完。繼自七月。移于高雄州下。俟至十二年中間預定完竣。處分調查。臺北州下大半已經完成目下舊南投廳下正在調查。定將本年三月完畢。自四月起。臺北州未調查之基隆郡內舊頂双溪支廳管內及宜蘭廳管內著手。到十一年內完了。至翌十二年度臺南州下殘部之舊臺南廳管內。擬調查進行。轉及高雄州即於十三年度初。係預定全部實地調查畢完也其實下處分因要實地調查內部整理之時日。大概處分調查之實地調查完了後總在一年之內終結。林野整理全部事業。以大正十三年度豫定終了。

(正誤)二月號漢文欄內第一頁下二行誌是認。同八行億字意。同五過字過。同十諸字請。同十過字過之誤刷各行訂正。

漢詩及**漢文**

の稿寄を募る

大正十一年三月

臺灣時報發行所